

聖徒の道

1978年10月20日発行（毎月1回20日発行）第22巻第10号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可

全巻1入り字入エト封筒付未

詰り一冊時書

雑誌選集

聖徒の道 10 1978

もくじ

大管長会

- スペンサー・W・キンボール
- N・エルドン・タナー
- マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

- エズラ・タフト・ベンソン
- マーク・E・ピーターセン
- デルバート・L・ステイプラー
- リグランド・リチャーズ
- ハワード・W・ハンター
- ゴードン・B・ヒンクレー
- トーマス・S・モンソン
- ボイド・K・バックカー
- マービン・J・アシュトン
- ブルース・R・マッコンキー
- L・トム・ペリー
- デビッド・B・ヘイト

顧問

- マリオン・D・ハンクス
- ロバート・D・ヘイルズ
- ディーン・L・ラーセン
- リチャード・G・スコット

教会誌編集主幹

- ディーン・L・ラーセン

国際機関誌

- ラリー・ヒラー (編集主幹)
- キャロル・ラーセン (編集副主幹)
- ロジャー・ギリング (デザイナー)

「聖徒の道」

- 八木沼 修一 (翻訳部長)

生命と救いに至るまことの道	スペンサー・W・キンボール	2
論争している暇はない	マービン・J・アシュトン	8
神に代う女性	ニール・A・マックスウェル	12
「夜あけだ。朝あけだ」	ブルース・R・マッコンキー	15
真理を知ってあろう	N・エルドン・タナー	18
1977年度統計報告	フランシス・M・ギボンズ	23
教会財務委員会報告	ウィルフォード・G・エドリング	24
教会役員の方針	N・エルドン・タナー	25
信仰の祈り	トーマス・S・モンソン	27
初等協会は子供たちの人生を豊かにする	デビッド・B・ヘイト	31
聖霊を悲しませてはいけない	ジェームズ・A・カリモア	35
世の汚れに染まらないように	ジョージ・P・リー	38
決断	エルドレッド・G・スミス	42
自分ひとりの力では到達できません	ロナルド・E・ポールマン	45
神の王国を出て行かせたまえ	エズラ・タフト・ベンソン	46
くつをはきなさい	ハワード・W・ハンター	50
「わたしの思っている、みこころかなるように」	ロバート・L・シンプソン	53
啓示	ヘンリー・D・テイラー	57
神権者の責任	マリオン・G・ロムニー	60
適切な推薦を受けるにふさわしく	N・エルドン・タナー	64
教会の基盤である家族を強める	スペンサー・W・キンボール	69
祈りと啓示	マリオン・G・ロムニー	75
主を信頼して	L・トム・ペリー	79
真理とは何か	ジョン・H・バンデンバーク	84
結婚生活を実りあるものとする	O・レスリー・ストーン	89
信じない者にならないで	ゴードン・B・ヒンクレー	93
まだ見ていない事実を承認すること	マーク・E・ピーターセン	97
自分の霊の指導者に求めなさい	ジーン・R・クック	102
成功の詩	スターリング・W・シル	105
努めて善き業に従い	ジョセフ・アンダーソン	109
救い主は何をするように望んでおられるだろうか	デリック・A・カスバート	112
私の心に刻み込まれている貴いもの	ロバート・L・バックマン	114
召しに応える	レックス・C・リーブ	116
キリストの再臨	リグランド・リチャーズ	117
予言者の声を聴け	スペンサー・W・キンボール	121
心の清い者となる	スペンサー・W・キンボール	126
倉庫資源制度	J・リチャード・クラーク	131
年老いるときに	バーバラ・B・スミス	135
福祉活動はあなたから	A・セオドア・タトル	138
愛の入江	ピクター・L・ブラウン	141
主の方法によって情緒面の問題を解決する	ボイド・K・バックカー	144
私たちは主の管理人	N・エルドン・タナー	149
愛の尊い律法	マリオン・G・ロムニー	151
表紙の説明：グレート・ソルトレークの日没。ジェド・A・クラーク撮影		

聖徒の道 10月号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布5-10-30

印刷所 株式会社 精興社

配送 東京ディストリビューション・センター
東京都世田谷区上用賀4-9-19

定価 年間子約1,700円 1部300円

海外子約1,700円

INTERNATIONAL MAGAZINE PBMA 0507JA

Printed in Japan

郵便振替口座番号 東京0-41512

口座名 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京ディストリビューション・センター

末日聖徒イエス・キリスト教会

第148回年次総大会報告

1978年4月1日、2日の両日に、ユタ州ソルトレーク・シティー、
テンプルスクエア、タバナクルにおいて催された大会の説教

「聴け、汝らわが教会の人々よ。……遙かなる所より耳を傾けよ。海の島々にある者よ、共に聴け。」(教義と聖約1:1)

総大会の靈感あふれるメッセージには、教義と聖約のこの冒頭の言葉がぴったりである。本年4月の総大会、すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会第148回年次総大会は、このような霊的な雰囲気の下に催された。

大会はスペンサー・W・キンボール大管長の管理の下に開かれ、土曜日午前の最初の一般大会で、新たに4人の教会幹部の名前が提示され、七十人第一定員会会員として支持された。また、キンボール大管長から、系図に関する「ふたつの大切なプログラム」の発表があった。ひとつは、「個人の歴史を書き、家族の組織化を図る」こと、および「4代家族の記録プログラム」、もうひとつは、「系図記録から人名を抄出するプログラム」である。可能であれば4代以上さかのぼって系図を調べて家族の記録を作成するよう大管長から勧めがあった。またこのようにして、4代家族の記録プログラムと並行して、人名抄出プログラムが実施されることになった。(p.2参照)

この大会には、合衆国外に住む11名の地域担当教会幹部をはじめ、183名の地区代表、900名のステーク部長、そのほか世界各地から大勢の指導者が出席した。

大会は4月1日(土)、2日(日)の両日催され、総勢66名の教会幹部の内、32名が説教を行なった。七十人第一定員会は、4人の会

員が加わって47名となった。新たに会員となったのは、以下の4人である。カリフォルニア州のロナルド・E・ポールマン長老、英国のデリック・A・カスバート、ソルトレーク・シティーのロバート・L・バックマン長老、同じくレックス・C・リープ長老。(略歴に関してはp.164を参照)

大会はテンプルスクエアのタバナクルで開かれたが、アセンブリーホールと近くのソルトバレスにも会場が設けられた。大会の時間は、4月1日(土)午前7時(福祉部会)、午前10時、午後2時、午後7時(神権部会)、4月2日(日)午前10時、午後2時である。

大会の様子は、合衆国とカナダのテレビ局215局と125の有線テレビ放送、合衆国のラジオ局51局、中南米75局、オーストラリア44局、ヨーロッパ、アフリカ、中南米向けの短波放送局1局、FM放送局7局から放送された。また、合衆国とヨーロッパの331ヵ所では有線放送が行なわれた。そのほか、世界の1,360ヵ所で、神権部会の様子が放送された。

さらに、3月31日には、教会本部ビルで地区代表セミナーが催され、キンボール大管長からステーク部大会を年に2回とすること、また1979年に合衆国内の数ヵ所で地域大会が開かれることが発表された。そのほか、政治に関する事柄、大会、簡易化、系図、伝道等について、キンボール大管長から重要な指示が幾つか与えられた。(詳細については、p.153を参照)

生命と救いに至る まことの道

大管長
スペンサー・W・キンボール



私たちが今日この世に告げる最も大切なメッセージは、イエス・キリストが生きておられ、私たちに生命の道を示して下さいということである

兄 姉妹の皆さん、信教の自由の下にこうして再びきょう皆さんにお会いすることができ、感謝の気持ちで一杯である。また、教会の忠実な聖徒たちの献身にも感謝したいと思う。私はこれまで機会あるごとに「歩みを速める」よう皆さんに呼び掛けてきたが、これからも引き続きそのように勧めてゆきたい。と同時に、現在皆さんがその勧告に応じて下さっていることに対して感謝を申し上げたい。多くの人々が勧告に従い、自分の家や庭を美しくし、可能な限り菜園を造っている。そして土に親しむことを忘れず、幾らかでも自分たちで食料と物資を確保するように努力している。

できるだけ自分の敷地内で食物を栽培するようにしていただきたい。木いちごやぶどうなど、果樹が最も望ましい。気候に適していれば、これを植えるようにしていただきたい。また、野菜を栽培し、自分の菜園から収穫し

たものを食べるようにしていただきたい。アパートや共同住宅に住んでいる人も、植木鉢やプランターを使えば少しは栽培することができるはずである。

以前にも申し上げたように、教会員の大半が伝道活動に大きな関心を寄せている。また、すべての人々に回復の良きおとずれを携えて行く宣教師を備え、福音を宣べ伝えようとの決意を新たにするよう、私たちは多くの国々で訴えてきた。その訴えにも、多くの教会員が心を向けている。さらに私は、生者への伝道と同様に、死者のための神殿活動も急ぐ必要があると感じている。なぜならば、このふたつは基本的に同じだからである。私は先日も教会幹部の兄弟たちに話したが、死者のためのこの業のことがいつも私の心を離れない。

大管長会と十二使徒評議員会は先頃、この非常に大切な業を早急に推し進めるためにはどのようにすればよいかについていろいろと検討を加えた。そして、ふたつの大切なプログラムを強調することになった。

第1に、教会員はすべて個人の歴史を書き、家族の組織化を図るようにする。また私たちは4代家族の記録プログラムの重要性をここで再び強調し、このプログラムに関する責任を個人と家族の双肩に直接課したいと思う。さらに可能であれば、4代以上さかのぼって調べ、家族の記録を作成するようにするとよい。

第2に、系図記録から人名を抄出するプログラムを実施する。教会員は2マイル行く精神をもって、この抄出プログラムに従事し、奉仕するようにしていただきたい。このプログラムは地元の神権指導者が管理し、運営する。従って詳細については地元の神権指導者に尋ねていただきたい。

私の書斎の本棚には、33冊の分厚い日記帳が並んでいる。毎年1冊ずつ毎日の出来事を記してきた日記帳である。その中には、訪問した世界各国のこと、そこで開いた集会、出会った人々、自分が執行した結婚式、そのほ

か自分の家族にとって興味のありそうなことが記録されている。それらがいつか教会のためにも役立てばと願っている。

私はこの教会の全会員に、自分の家族の歴史に深く関心を寄せるように、また両親や祖父母に彼らの日記を書くことを勧めるように切にお願いしたい。いかなる家族も、子供や孫、曾孫のために自分の記憶にある事柄を書き残さずに永遠の世界に行くことのないようにしていただきたい。これは義務であり、責任である。したがって、子供たちに個人の歴史や日記を書かせるようにしていただきたい。

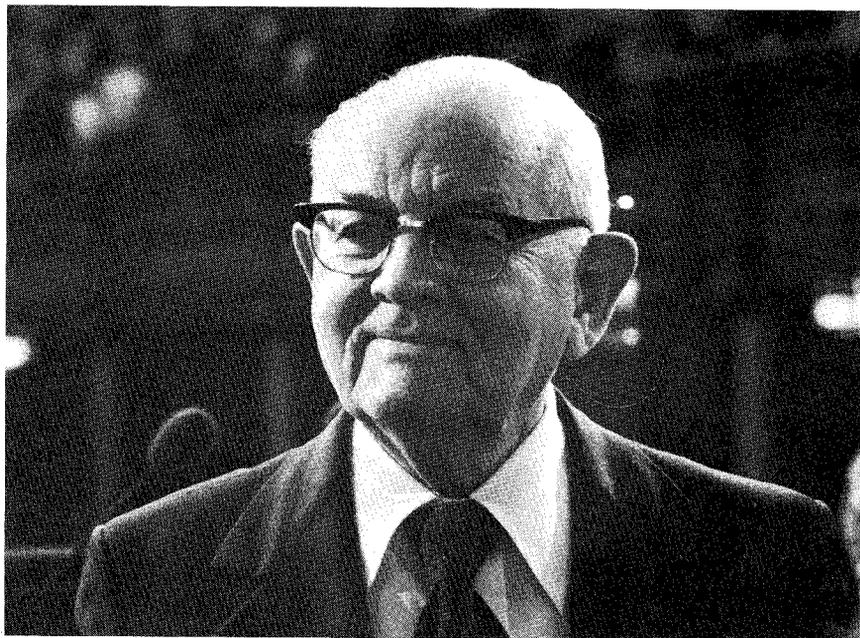
先頃、教会本部を訪れてきたある政府の高官が次のように述べた。

「家族ほど重要なものはありません。家族は私たちの文明の力の基です。そうでありながら、現実にはそのことが忘れられているようです。家族はとても大切です。家族は道徳的な力の源であり、心身の健康をもたらす主要な源であり、災いから身を守る避け所です。

また、私たちを堅固にする原則や概念をいつまでも存続させる環境を与えてくれる唯一の場でもあります。

議会小委員会で家族の大切なことについて述べた人のことを、私は今でも覚えています。彼はこう言っていました。『皆さんは家族をなおざりにする前に、有史以来人類社会は子供を養育し、訓練することに終始してきたことを認識しなければなりません。家族を忘れる前に、歴史上のすべての文明が、なぜ家族に固執してきたかを理解する必要があります』と。あなたの教会で家族の大切さが強調されていることは本当に素晴らしいことだと思います。」

福音は家族に結び付いたものである。霊的な家庭の夕べを定期的に開こうと決意し、そのプログラムの内容をよく計画することによって、私たちは子供たちに永久に忘れることのない教えを施すことができるのである。このようにして私たちが子供たちに自分の時間



スペンサー・W・キンボール大管長

を捧げる時、親子の対話という何物にも代え難い贈り物を与えることになるのである。

家庭の夕べのテキストには、数多くの良い提案が載っている。しかし、家族に特に満たす必要のある事柄がある場合、両親はこのテキストにとらわれず、自分たちの受けた靈感に従うようにする。私たちが家庭にある福音の畑から取れるもので家族を養おうとする時に、教会の集会から得られるものはその栄養を十分に補うことだろう。しかし、教会の集会は決して彼らの主食とはなり得ないのである。

家庭は聖徒たちの苗床である。しかしまだ望ましい状態にない家庭が多く見受けられる。暴力の絶えない家庭、愛のない家庭、真理を教えていない家庭、このような家庭であっても、子供たちの帰る所は家庭しかないのである。

私たちは、新聞でよく報じられているように、幼児の虐待が多いことを非常に憂慮している。子供に危害を加える親がひとりでもいることは重大な問題である。主は幼な子を愛して、こう言われた。

「幼な子らをそのままにしておきなさい。わたしのところに来るのをとめてはならない。天国はこのような者の国である。」(マタイ19:14)

末日聖徒の親は、幼児の虐待という最も極悪非道な罪を犯すことのないようにしていたきたい。

最近の合衆国政府の統計によると、離婚という流行病は全国に蔓延し、離婚率は増加の一途をたどっている。1975年の離婚および婚姻の無効宣告は100万件以上に上っており、この数字は今までの最高である。

昨年は、結婚2組につき、離婚が1組となっている。その数は1966年の2倍、1950年の約3倍に達する。しかもこのような家庭の崩壊の犠牲となった18歳未満の子供たちは100万人を上回ると言われている。また、そのために被った精神的な苦痛は、おとなとは比較に

ならないほど深刻である。

このような大切な事柄に対して無関心と無頓着を装う人もかなり多い。しかしこのことを重要視し、よく心に思い計る人は、家庭の崩壊が国家の滅亡を招くことを痛感するに違いない。このことに関して疑問の余地はないであろう。これは、世の歴史家や歴史的な考察を行なっているすべての人が打ち出している結論でもある。

私たちは、いろいろなプログラムの主唱者たちが家庭と家族の神聖さにほとんど関心を払おうとしないことに何とも理解し難いものを感じている。

私たちが最も関心を抱いているのは、子供から青少年期を経ておとなに至るまでの家族全員の霊的、道徳的、情緒的健康を図ることである。

1974年に合衆国内で墮胎によって生命を絶たれた胎児は100万人を上回ったと言われている。しかもこの数年間、その数は爆発的な増加を示している。私たちはここで再び、特殊な場合を除いて、墮胎には全面的に反対であることを確認しておきたい。

次に、教会の素晴らしい女性たちに感謝したい。私たちは教会の女性たちを心から愛している。その愛は、自分の妻や母、祖母や妹、あるいは友人に対するものと同じくらいに深い。いつかこれまでの神権時代の出来事がすべて明らかにされる時には、教会の女性たちの知恵と勇氣と献身の物語が沢山紹介されることだろう。主イエス・キリストの復活後、最初にキリストの墓を訪れたのが女性であったように、教会の義しい女性たちはいつも永遠の行く末に敏感だからである。ある識者が賢明にも述べているように、母親の言葉は私たちに不変の影響をもたらす。しかし、私たちの心を永遠に、しかも大きく揺り動かすものに母親の愛があることを忘れてはならない。

ところが、現在の世の傾向はこれとは逆で母親の愛が次第に失われつつある。私たちはこのことを憂慮している。神は女性に、子供

を幼ない時代から導く責任を託しておられる。一方男性や教会には、初期の教育で足りなかった所を補う役割が課せられているのである。それに引き換え、人生の後半に訪れる喜びの多くは、子供がまだ幼い時に母親が家庭で与えた影響に負うところが大きいのである。

ゲーテはこう語っている。「女性の高貴な特質は私たちを駆り立てずにはおかない。」(ゲーテ「ファウスト」)

また聖典には、「女は、また男の光栄である」(Iコリント11:7)と記されている。

末日の聖典はこう戒めている。「妻たる者は夫の死に至るまで夫に扶養を要求する権利あり。」(教義と聖約83:2)また妻には夫に尊敬と忠節と思いやりを求める権利がある。その微妙で、かつ麗しい関係の中に、神権者との絆があるからである。

私たちは、教会の姉妹たちが才能を伸ばし、表現力を増していることを驚くと同時に、それを喜ばしく感じている。確かに教会の教育制度は女性のために多大の貢献をしてきた。

他のいかなる団体よりも、私たちは女性の才能と技術の習得に熱心である。それは、教会の教育プログラムが単にこの世にとどまらず、永遠にわたる教育であると信じているからである。

末日聖徒イエス・キリスト教会は、設立当初から女性の進歩成長を図ってきた。女性の理想像について最初に語ったのは、予言者ジョセフ・スミスであった。ジョセフ・スミスは、最も純粋な言葉で女性を擁護し、女性が母親として、病人の看護人として、あるいは地域社会の高まいた理想の推進者、道徳の守り手として存分に自己を表現する自由を女性に与えたのである。

これ以上に何を女性は望むだろうか。また夫が妻に求めるものでこれ以上のものがあるだろうか。男性にとっても、この標準にかなう生活をしたいと願うこと以上に大きな望みがあるだろうか。

予言者ジョセフ・スミスは、末日聖徒の女

性がこの崇高な目標を達成できるようにと扶助協会を組織した。今日この組織は、女性の進歩成長を図るために世界各地に会員を擁する大きな組織となっている。

讚美歌の中に「高きに榮えて」(140番)という教義的でしかも慈愛にあふれた歌がある。この讚美歌を歌うたびに、私たちは最も高貴な母親の気品と、天に住みたもう御母の女王としての優しさを感じずにはおられない。そして、この世の母が私たちにどれほど大きな感化を与えているかを知り、私たちが天の御母のみもとに帰れるような生活をするならば、この世の母がもたらす影響を過小評価することもないであろう。

愛する兄弟姉妹の皆さん、私は神が生きておられることを証する。イエス・キリストも生きておられる。キリストは生命と救いに至るまことの道を定められたお方である。

これが末日聖徒イエス・キリスト教会の伝える、今日この世における最も大切なメッセージである。イエス・キリストは神の御子であり、御父からこの世の救い主として選ばれたお方である。キリストの来臨は誕生の何世紀も前に予言されていた。その示現は、アダムを初め、モーセ、イザヤ、エレミヤ、エゼキエル、リーハイ、ニーファイ、ベンジャミン王、アルマ、サムエルなど、多くの予言者たちと、そのほか永遠の母であるマリヤも見ている。

近代の予言者、故ジェームズ・E・タルメージ長老は、イエスについて次のように宣言している。

「今、生きていると死んでいるとにかかわらず、無数の人々の厳粛な証が、このイエスこそ神であり、生ける神の御子であることを、また人類の贖い主、救い主であって、人間の身も霊も裁く永遠の裁き主であり、父なる神が選んで油注ぎたもうた御方、すなわち『キリスト』であると異口同音に宣言している。……

まことにイエス・キリストは過去において

も現在においても、エホバであり、アダムの神、ノアの神であり、アブラハム、イサク、ヤコブの神であり、またイスラエルの神である。また様々の時代の予言者の語った神であり、万国の民の神であり、またやがて『王の王』『主の主』として地上に君臨したもう神である。」「(「基督イエス」 pp. 2, 4)

それではこの世におけるキリストの使命は何であろうか。

「神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された。」(創世記1:27)

人は神のかたちに創造され、前世と来世の中間に位置するこの死すべき世の生活を経験するためにこの地上に置かれた。

しかし、私たちの父祖アダムとイヴは神のみ言葉に従わずに禁じられた木の実を食べ、死すべき体となった。その結果、アダムとイヴ、それに彼らのすべての子孫は肉体の死と霊の死を受けるようになった。(肉体の死とは霊と体が分離することであり、霊の死とは霊が神のみ前から断ち切られること、すなわち霊に関わる事柄の死を意味する)

そこでアダムが再び元の状態(神のみ前)に立ち返るためには、この不従順の結果から贖われる必要があった。そのために神の崇高な計画の下に、死の縄目を解く贖い主が備えられ、主の復活によってこの地上に住むすべての人々の霊と体が再び結合することが可能になったのである。

このみ業を推し進め、肉体の死を征服するためにこの世に来るよう創世の以前に選ばれたお方こそ、ナザレのイエスである。イエスの自発的な行為によって、アダムとイヴの咎は贖われ、人の霊は再び体に返って霊と体がひとつとなることになったのである。

イエス・キリストはこの世のだれよりも人類に大きな影響を及ぼしたお方である。天父とこの世の母との間の子供として生まれ、33年間の生涯を送られた。しかしその内の30年間は、この世における使命を果たす準備に費

やされた。それからヨルダン川に出掛けて行き、いとこであるバプテスマのヨハネから水に沈められるバプテスマを受けられた。イエス・キリストはこの象徴的な儀式を自ら受けることによって、バプテスマこそ教会に入る門であることを万人に示されたのであった。この時に、御父はこの重大な出来事を、次のようなみ言葉をもって承認したもうた。「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。」(マタイ3:17)

その後3年間、救い主は人類のために働いたもうた。病める者を癒し、盲人の目を開け、悪霊を追い出し、死者をよみがえらせたもうた。また悩める者に慰めを与え、愛の福音の良きおとずれを人々に宣べ伝え、御父について証を述べ、永遠の救いの計画を教え、人に救いをもたらすために設けられた組織すなわちキリストの教会の基を据えられたのである。この教会はバプテスマのヨハネの教会でもなければ、ペテロ、パウロ、あるいはそのほかだれの教会でもない。キリスト御自身の教会であり、キリストがこの教会の頭なのである。

キリストが教会を組織されたことは、新約聖書に詳しく記録されている。エペソ書に、イエス・キリストの教会は、「使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である」(エペソ2:20)と述べられている。また救い主はペテロにこう告げておられる。「わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつなぐがれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう。」(マタイ16:19)

キリストはこの御自身の教会に十二使徒と七十人を選び、御自分が御父から承認されたことを宣べ伝える権威を彼らに授けられた。アメリカ大陸でも、神殿の周囲に集まった人々に、御父はイエス・キリストを紹介して次のように言われた。

「わが喜ぶ愛子を見よ。われはこれに由りてすでにわが名の栄光を示しぬ。わが愛子に

聞け。」(Ⅲニーフアイ11：7)

また、この世での務めを終えるに先立ち、主は愛する使徒ペテロ、ヤコブ、ヨハネの3人を伴って変貌の山に行かれた。その時の模様が聖典にこう記されている。

「六日ののち、イエスはペテロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。

ところが、彼らの目の前でイエスの姿が変り、その顔は日のように輝き、その衣は光のように白くなった。

すると、見よ、モーセとエリヤが彼らに現れて、イエスと語り合っていた。

ペテロはイエスにむかって言った、『主よ、

わたしたちがここにいるのは、素晴らしいことです。もし、おさしつかえなければ、わたしはここに小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、一つはエリヤのために』。

彼がまだ話し終えないうちに、たちまち、輝く雲が彼らをおおい、そして雲の中から声がした、『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。これに聞け』。

弟子たちはこれを聞いて非常に恐れ、顔を地に伏せた。

イエスは近づいてきて、手を彼らにおいて言われた、『起きなさい、恐れることはない』。

彼らが目をあげると、イエスのほかには、だれも見えなかった。」(マタイ17：1-8)

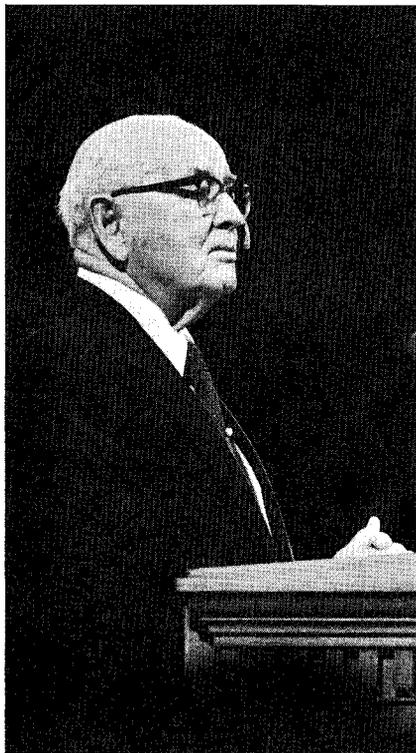
この神権時代にも、栄えある出来事が予言者ジョセフ・スミスに起こった。ジョセフ・スミスはその時の模様をこう証している。

「私は筆紙に尽し難い輝きと栄光とを有したもう二人の御方が私の真上の空中に立ちたもうのを見た。そしてその中のお一人が私に言葉をかけて私の名を呼びたまい、他のお一人を指して『こはわが愛子なり、彼に聞け』と仰せられた。」(ジョセフ・スミス2：17)

これは救い主イエス・キリストが実在のお方であることのもうひとつの証である。

私は何度も繰り返し皆さんに証する。イエス・キリストは神の御子である。主は確かに予言者ジョセフ・スミスに現われ、またニーフアイ人にも現われたもうた。

これは神のみ業であり、この教会はまことの教会である。この教会で行なわれるすべての儀式は神が定められたものであり、すべての人々は日の光栄の律法に従って生活する必要のあることを証する。これらのことを主イエス・キリストのみ名によって証申し上げる。アーメン。



論争している暇はない

十二使徒評議員会会員
マービン・J・アシュトン



現代の諸悪に対してしっかり自分の立場を守ろうとするに当たって、議論をせずに自分の信条を表明できないものだろうか

数 カ月前、はるかな南太平洋の島々にいる宣教師たちを2、3日間の予定で訪問することになり、そのことを彼らに知らせておいた。すると、宣教師たちは私が到着するや否や、待ちかねたように、当地に出回っている反モルモンのパンフレットを持ってきた。宣教師たちは非難と中傷に心を乱し、反論の策を講じようとしていた。

身を乗り出すようにしていきなり腰かけている宣教師たちを前にして、私はある牧師が書いた中傷と偽りの文書に目を通した。この牧師が私たちの宣教師の訪れと伝道の成功に脅威を感じていたことは明らかであった。私はこの悪意に満ちた的外れの文書を読んで思わず苦笑してしまった。そばで私の様子を見ていた宣教師たちは、いささか驚いたようで、こう尋ねてきた。「これからいかがいたしましたでしょうか。この偽りの証言に対してどのように反論すればよろしいでしょうか。」

そこで私は答えた。「私たちは何もする必要はありません。論争をしている暇はないのです。私たちにあるのは、ただ御父の仕事をする時間だけです。冷静に確信を持って紳士らしく振る舞って下さい。そうすれば必ず良い成果が得られます。」

宣教師や私たち全員が従うべき原則がモルモン経のヒラマン書5章30節に記されている。「人々がこの声を聞くと、それは雷の音でもなくまた大きな騒しい音でもなくて、全くやさしくささやくような静かな声であったが、人々の心の底まで貫いた。」

私たちが末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として現在ほどその立場を明確にし、確信を貫いて様々な情況に賢明に対処することが求められている時代はない。私たちは、今日の論争の引き金を巧みに引く人々に操られ、怒りをかき立てられるようなことがあってはならないのである。

神の律法に反するような問題が起これば、教会はその立場を明らかにするはずである。過去に教会の基本原則が非難された時はそのようにしてきたし、今後もそうするはずである。世の中には経済的な利益や名声を求めて、品行や不道德な事業を奨励している人々がいる。たとえ人々が私たちの立場を理解してくれなくても、議論や論争は避け、報復をしてはならない。私たちの時間と労力を賢明に使えば、争いを起こさずに正しい関係を維持していけるはずである。

福音を宣べ伝える時、また自分たちの信条を表明する時に、相手と摩擦を起こさないように努めることは私たちの責任である。相手の行動を変えさせることができなければ、自分自身を正しく治めるよう努める必要がある。そのことを絶えず心に留めるべきである。

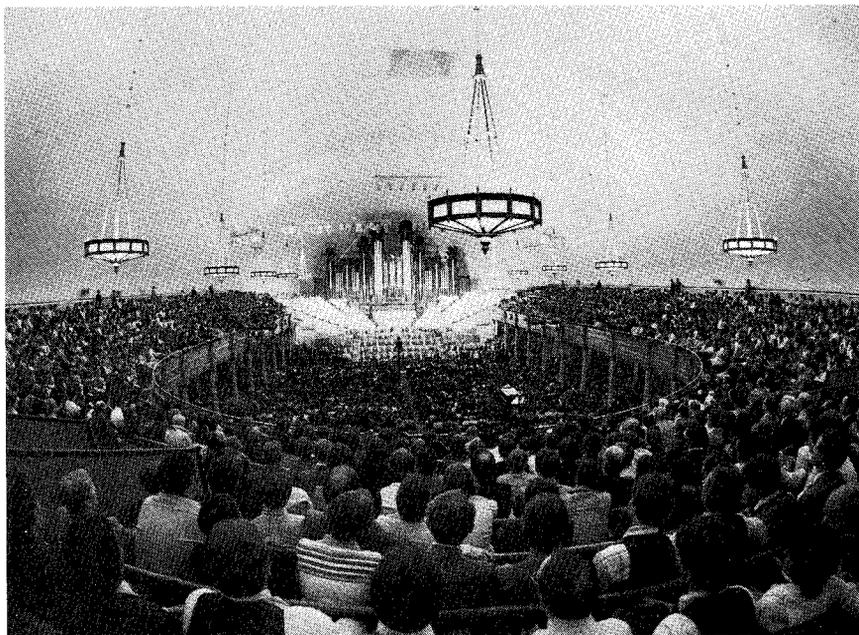
私たちを中傷し、当てこすりを言い、不当な差別をして論争に引き込もうとする人や団体がある。しかし今日の社会で、私たちの立場やプログラムを曲解する人々のために私たちが怒ったり、不快な感情を抱いたりするこ

とは賢明ではない。私たちの従う原則や標準は、論議を呼ぶ言葉によって変わるものではない。私たちは、論理的に、しかも親しみのある態度で、正しい事実に基づいた説得を行なって立場を明らかにする責任がある。私たちは現代の道德の問題や永遠の福音の原則に対して揺るぎない立場を堅持しなければならない。しかしながら、いかなる人や団体とも論争してはならないのである。論争は壁を造り、障害を生むだけである。他方愛には門戸を開く力がある。私たちの責任は、彼らに耳を傾けさせ、教えることである。ただ論争を避けるだけでなく、論争心を除去するように努めなければならない。

「まことに、まことに汝らに告ぐ、争いを好む心ある者はわれに属く者にあらずして悪魔に属くものなり、悪魔は争いを生む親にして、人々の心を煽動して互いに怒り争わしむる者なり。

見よ、人々の心を煽動して互いに怒り争わしむるときはわが教義にあらず。わが教義はかくの如き怒りと争いとを止めよと言うものなり。」(III ニーフアイ 11 : 29—30)

争いには、闘争、対決、戦争、口論、紛争と様々ある。争いによってよい結果が生まれたことはこれまでになかったし、また今後進歩と組することはないであろう。私たちが論争したからと言って、決してそれが忠実であることの証明とはならないのである。ある人々は、論争の限界や危険性を誤解している。また、私たちの多くは、よく次のように言う。「だれですって、私が？私は論争が嫌いです。でも自我を通そうとする人とは断固戦います。」私たちの中には、論争に負けるくらいなら友達を失なった方がましだと考えている人々がいる。相手と仲たがいをせず、反対意見を述べるにはどのようにすればよいかを知ることが、非常に大切である。私たちは皆、事実



大会の光景

に基づいた話し合いや意義ある研究に参加するように努めなければならない。しかし決して後味の悪い議論や論争をしてはならない。

論争に加わる家庭や人はかならず傷つく。したがって論争の絶えない家庭で育てられる子供はかわいそうである。また、論争を不文律のようにしている組織も気の毒である。一般に、論争のない家庭で育った人々は、争いを日常茶飯事とする人々から拒絶される傾向にある。

現在、教育の場としての家庭はあらゆる方面から攻撃を受けている。そして、家庭内の不和は致命的であり、しばしば大きな損害を被っている。論争は家庭の安定と平安、強さと和合一致に著しい緊張を招く。確かに堅固な家庭を築くのに論争している暇などないはずである。

家族の間に議論やあつれきが生じたら、積極的に相手の話を聞き、一緒になってその理由を究明することが大切である。私は、あるファイヤサイドで15歳の少女から次のような質問を受けたことがある。「家族の仲を良くするために、私は何をしたらよいでしょうか。私は今15歳ですが、家に帰りたくないのです。家族のみんなから、言葉じりをとらえられては、ばかにされるように感じられるのです。」

また17歳になる女の子は、なぜ両親の下を離れて姉と一緒に暮らしているのかと尋ねられた時、次のように答えていた。「とにかく口論の絶え間がないのです。できる限り我慢しました。でも、いつもけんかばかりで、けんかしない日は一日だってありません。家の者は皆、特に父と母はいつも口汚くののりり合っていました。」家族の中で人の心を傷つけ、論争に導くせりふに次のようなものがある。

「君は何も知らないから、そんなことが言えるんだよ。」「どうしてそんなばかなことをしたのだ。」「自分の部屋くらい少しきれいにしたらどうかね。」「どうして私の言うことがきけないんだ。」

今から5世紀ほど前、イタリアにレオナルド・ダ・ビンチという天才がいた。今日、「モ

ナ・リザ」の絵を描いた人として彼の名を知らない人はほとんどと言ってよいほどいない。しかし彼はまた、討論家、弁士としても一流であり、創造力に富んだ物語作家でもあった。ここで、彼の寓話の中から「オオカミ」という話を紹介したい。

「ある晩、オオカミは羊の群れの臭いに誘われて、こっそり森を抜け出しました。そして、そおと羊の囲いに忍び寄りました。眠っている犬を起こさないように、かすかな物音さえもたてまいと、オオカミは用心しました。

ところが、ちょっとした不注意からオオカミは一枚の板を踏み付けてしまったのです。とたんに板がバリッと割れ、犬が目を覚ましてしまいました。結局、オオカミはえさにありつけず、おなかをすかしたままで一目散に逃げ帰りました。こうしてほんの一步の不注意のために、オオカミはその目的を達せられませんでした。」(「レオナルド・ダ・ビンチのメモ」より)

ある人にとっては取るに足らない話のように思われるかもしれないが、末日聖徒の靈性を低下させている何かがこのに描写されているように私には思われる。先程のふたりの若い女性の境遇はどうであろうか。オオカミの不用意な一步のように、口では言い表わせない苦しみをもたらし、靈的成長と家族の一致を奪い去ってはいないだろうか。私が今ここで申し上げたいのは、怒りや憤りにまかせて不用意な、心ない言葉の発せられることがあるということである。家族が争いの言葉によって家を出るとしたら、何と悲しいことだろうか。

論争によって引き起こされる憎しみと苦い経験の例は枚挙にいとまがない。ひどい口論の末に、転居を強いられた家族もある。このような論争をなくす唯一の方法は、2マイル行き、誇りを捨て、謙虚になることである。

私たちは、家庭や社会、学校の教室、指導者間、そのいずれの場でも論争がどこから来るか、救い主の言葉を通してよく知っている。「まことに、まことに汝らに告ぐ、争いを好

む心ある者はわれに属^つく者にあらずして悪魔に属^つくものなり。悪魔は争いを生む親にして、人々の心を煽動して互いに怒り争わしむる者なり。」(Ⅲニーファイ11:29)つまり、サタンは私たちが心を許す時に、その力をもって私たちを支配するのである。私たちは自由意志が与えられており、行動を自分で選ぶことができる。予言者ジョセフ・スミスはある時次のように語った。「悪魔は私たちがそれを許さない限り、私たちを支配することができない。私たちが神よりもたらされるものにそむいた瞬間、悪魔は力を得るのである。」(*Teachings of the Prophet Joseph Smith*「予言者ジョセフ・スミスの教え」p. 181)

論争のために悪感情や不快感を覚えたら、「なぜ論争するのだろうか」と自問してみることである。もしも自分自身に正直であるならば、次のような答えが返って来るであろう。「討論や論争をしていれば、自分自身を変える必要はないし、相手に仕返しをすることもできるから。」「自分が今幸せでないのだから、ほかの人にも幸せになってもらいたくないから。」「私は独善的な人間だし、論争によって我を通せるから。」「自分に多くの知識があることを知ってもらいたいから。」

理由が何であれ、大切なのは自分の行動は自分で選びとるものだと言うことである。この問題の根源には昔から語り継がれてきた高慢がある。「高ぶりはただ争いを生じる」だけである。(箴言13:10)

サタンにとっては、議論や口論、論争の習慣を生むのに成功すれば、次に私たちの永遠の生命への希望を打ち砕くような重い罪のかせにつなぐことなどたやすいことである。論争は生活のあらゆる面に影響を及ぼす。乱雑に書かれた怒りの手紙は、時には数年間も傷跡を残すことがある。また憎しみにまかせて発した不用意な言葉のために、結婚生活や個人の友情にひびが入ること、また社会の進歩を阻害することも起こっている。

墮胎や同性愛、不道徳、アルコールや麻薬

中毒、不正直、短気など、現代の諸悪に対してしっかり自分の立場を守ろうとするにあたって、こぶしを握りしめ、声を張り上げ、議論を促すことなく、自分の信条を表明できないものだろうか。私たちは、知恵の言葉や安息日の遵守、清さを保つこと、そのほか聖典に述べられている数多くの真理を含む有益な福音の原則を、聴き手がその心を閉ざすことのないような方法で話すことができないものだろうか。これは容易ではない。しかし可能である。自分自身のあぜを作り、種をまき、手入れをし、収穫をするのは私たちの責任である。これを行なう最良の道具は剣ではなく、鍬である。論争ではなく、決意である。皆さんに論争を和らげる方法を幾つか提案したい。

1. 心に神の愛を持てるように祈る。ときどきこのことで悩むことがあるが、主のみたまはかたくなな者の心を和らげ、冷淡な心を変えて下さる。

2. 舌を制することを学ぶ。「語る前に2度考え、行動する前に3度考えよ」という古いことわざがある。

3. 感情に支配されずに、一緒に論理を追って考える。

4. 旧来の議論や対決の轍を踏まないようにする。

5. おだやかな声で話すように心掛ける。平安な生活は、「大きな騒しい音」ではなく、救い主の模範に従い、「全くやさしくささやくような静な声」で語る人にもたらされるものである。(ヒラマン5:30)

論争をしている暇はない。私たちは毎日、論争を避けるよう心掛け、自己を訓練していかなければならない。この恐ろしい敵を征服しようとする時に、かならず神の大いなる助けが与えられることを私は知っている。「汝ら互いに争論するを止めよ。また他人の悪口を言うを止めよ。」(教義と聖約136:23) 私たちにあるのは、ただ御父の仕事をする時間だけである。これらのことが真実であることを、イエス・キリストのみ名によって証申し上げる。アーメン。

神に従う女性

七十人第一定員会会長

ニール・A・マックスウェル



あらゆる時代に神に従う素晴らしい女性たちがいて、神権者と並んで正義の感化を人々に及ぼしている

兄 弟姉妹、私たちは男性と女性の役割、ならびに母親と神権者の役割がそれぞれ分担されている理由をあまり理解することなく過ごしている。これらの役割は前世において神によって定められたものである。私たちは、男性が神権を持ち、指導に当たっていることから、神に従順な男性ばかりに目を向ける傾向がある。しかし、現代を含めあらゆる時代、あらゆる神権時代に、神に従う素晴らしい女性たちがいて、神権者と並んで正義の感化を人々に及ぼしているという事実を忘れてはならない。人の偉大さは、新聞や聖典に記されたその人についての記事の多少によってははかれるものではない。神に従う女性たちの物語は、ドラマの中の語られぬドラマである。

私たち男性は、妻と母、姉妹、娘、同僚、友人が神に従う女性であることを知っている。神に従う女性は私たち男性に従順にし、教え、励ましてくれる。私たち男性は女性の皆さん

に愛と尊敬の気持ちを抱いている。それは、善が役割でどうこうされるものではなく、善が性別でとやかく言われるものではないからである。王国のみ業を果たすのに男女はお互いになくなくてはならない存在であり、またお互いをうらやむことをしない。役割が逆になったり、役割を放棄したりしては、男性も女性も荒廃を招くだけである。

世界の基が据えられる以前に予任された男性がいたように、ある務めを果たすよう定められた女性もいる。それは偶然ではなく、神のご計画によるのである。イエスの母になるよう定められたマリヤがその好例である。少年子言者ジョセフ・スミスは偉大な父親だけでなく、この神権時代全体に影響を残すルーシー・マックという立派な母親に恵まれた。

また、愛情あふれた誠実な人間関係を語る時、ダビデとヨナタンよりも、ルツとナオミの関係が話題に上るのではないだろうか。神が女性にこの上ない関心を寄せておられることを考えると、未亡人に対する私たちの責任が強調されるのも何ら不思議ではない。

やもめの2レプタの話は、私たちに百分の一の精神を教えてくれる。腹をすかせた息子を持つ飢えた貧しい未亡人がエライジャに油と粉を与えた話は、人に分け与える方法について教訓を与えてくれる。また、エジプト女性の天与の母性愛は、モーセをあしの中から救い出した。この出来事は、歴史の一部をなすと共に、その赤子が重荷ではなく祝福となるさまを見せてくれたのである。

エリサベツの胎に宿った子供はマリヤを認めて喜びおどったが、この出来事以上にふたりの母親に明るい希望を与えたものがほかにあったであろうか。(ルカ 1 : 41 参照)

「遠くの方から見ている女たちも多くいた」(マタイ 27 : 55) とカルバリの十字架の光景が記されているが、この光景は女性固有の英知をよく物語ってはいないだろうか。彼女たちの立ち尽くす姿は祈りであり、いつまでもとどまる姿は願いである。

また、キリストの復活後、墓を最初に訪れたのはだれであったか。ふたりの女性である。

復活された救い主に最初にまみえた人はだれであったか。マグダラのマリヤである。神に従うこの女性たちは、多くの人々があきらめた後でも、女性特有の霊的な感受性をもって長く希望を抱き続けたのであった。

善良な女性の純粋な愛は、人の歎心を買うような仰々しいものではない。善良な女性たちは人が誤まるのを喜ばず、また座る暇もないほど忙しく奉仕に明け暮れる。彼女たちは、マリヤのように他の人ならばつまずくような苦難に遭っても、信頼をもってその出来事を思い巡らす。神は女性を深く信頼しておられるので、御自分の霊の子たちの養育を女性に任せられるのである。

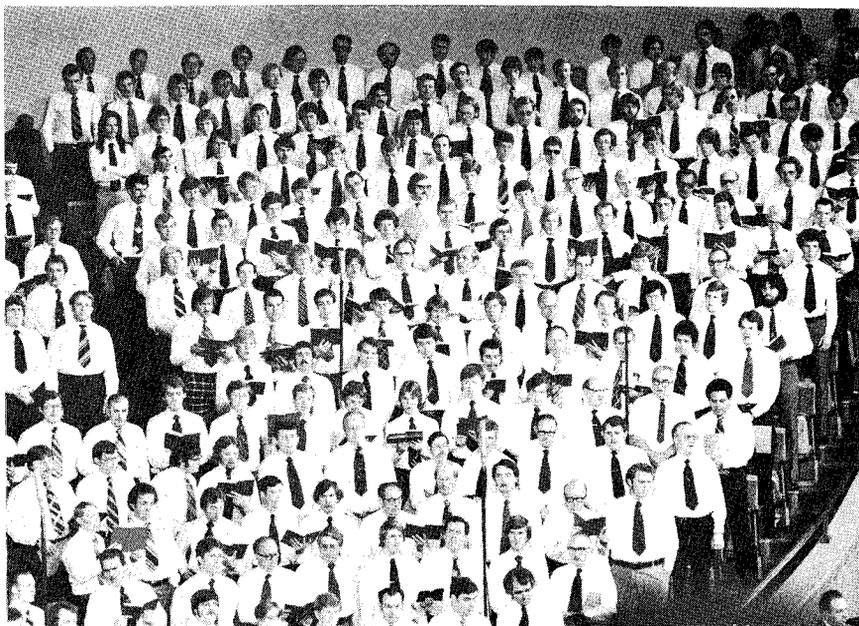
現代の神の王国で、扶助協会を通じ、女性たちに愛の奉仕がゆだねられているのも偶然ではない。男性の奉仕がかなり意識的であるのに比べて、女性の奉仕は天性のものである

ように思われる場合が多い。敵対者がシオンの娘たちを放っておかないのは、彼女たちがただならぬ存在であるからにはかならない。

姉妹たち、私たちは皆さんを尊敬している。皆さんが赤ちゃんの初めての笑みを見て喜ぶ時、入学して最初の日の様子を一心に聞く時、そこに無私の姿があり、皆さんはそこに幸福を見いだすことができるのである。女性は、「達成」という言葉の前にかむしゅらに「自分の」という言葉を付けることの危険を男性よりも早く悟る。皆さんは、きょうの世界が過ぎ去るのに動揺もせず、すすり泣く子供を優しくなだめる。両腕に未来をしっかりと抱きしめていることを知っているからである。

姉妹たちは自分に差し迫った問題がある時にも、人々を慰め励ます。それは十字架上のイエスが示された寛大さに似ている。苦悩の中の思いやりはまさに神性の一部である。

私は神の独り子がカルバリで、「私の体は私のものだ」と主張なさらなかったことを天父



聖歌隊のコーラス

に感謝する。また、神聖な胎を墓場に変えることを拒否して墮胎に反対する、現代の女性たちを私は賞賛する。

人類の真実の歴史がすべて明らかにされる時、脚光を浴びるのは砲火の響きであろうか、それとも子守歌の調べであろうか。軍人の停戦条約であろうか、それとも家庭や地域社会で女性たちが作り出す平和であろうか。議会の出来事よりも、ゆりかごや台所の出来事に一層の抑止力があることを知るであろう。

時の流れが大ピラミッドを砂と化す時にも、永遠の家族はなお存在し続ける。それは、星の光栄の時間を越えて形成された日の光栄の制度だからである。神に従う女性はそれを知っている。

神に従う男性が姉妹の皆さんの有する特別な役割を支持するのは当然である。なぜなら、社会運動のために家族を見捨てる行為は、洪水の予防を考えずに、泳ぎを教えようとするのに似ているからである。

私たち男性は、無分別には思いやりをもって、わがままには無欲をもって接する皆さんを愛している。私たちは皆さんの立派な模範に胸を打たれる。私たちが最上の状態にない時に、さながら神のように、私たちの現在の状態のみならず将来の姿を見詰めて愛し、忍耐してくれる皆さんに心から感謝している。

また、神の最も高貴な娘たちを交えた、目立たないが、しかし汚れない独身女性たちを特に賞賛したい。これらの姉妹たちは自分が神から愛されていることを知っている。たとえ今は最良の務めに就けなくても、自分の歩む道を賢明に選ぶ。また、第二の位で第一の望みをかなえられなくても、彼女たちは依然として世に打ち勝っている。またこれらの姉妹たちは、今結婚生活の祝福に浴さなくても、社会の別の制度で貢献することができる。ある祝福が今は与えられないからといって、他の祝福を拒んだりしない。彼女たちが神に寄せる信頼は、子供のない妻たちのそれと似ている。何も自分の選びによってそのような状

態にあるのではない。したがって、やがていつの日か神の正義のうちに、特別な祝福を受けるであろう。

私は神権者の兄弟たちと共に、自分の永遠の伴侶に対して尽きることのない感謝を捧げたい。私たちは伴侶なしでは目指す場所に行けず、また目的を達成できないことを知っている。祈る時、私たちは一緒にひざまずき、聖なる神殿の聖壇でも共にぬかずく。イエス自ら門番となられる最後の門に近づく時、私たちは忠実であるならば、ふたりでそこを通るであろう。

きょう、予言者は、夫婦の一致について話された。使徒の召しの重さに耐えきれなくなり、自分はふさわしくないのではないかという思いにとらわれ苦しむ彼を見て、キンボール姉妹が髪を優しくなでながら、「あなたにはできますわ。あなたにはできますとも」と励ましたと予言者は語られた。予言者はその務めを立派に果たしたが、その陰に姉妹の力があつたのである。

兄弟の皆さん、すべての予言者たちが妻にどのように接し、女性をどのように敬ったかをよく知って、私たちも同じようにしようではないか。

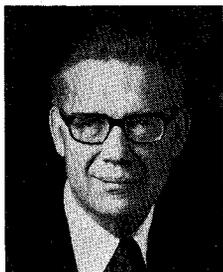
最後に忘れないでいただきたい。私たちが天の家庭にもどる時期については、「高き世」で統治しておられる御二方の一致した承認があるということ。その天の家庭で、私たちは肉体の「目がまだ見」たことのない美しいものを目にし、肉体の「耳がまだ聞」いたことのないこよなき調べを耳にすることだろう。そのようなこの上ない名誉の帰宅が、天の御母の同意なしに果たして、可能であろうか。

また、その天の家に帰るのに道はふたつはない。ただひとつ真っすぐな狭い道だけである。そして、涙ながらに歩むその道の終点では、その涙は一瞬のうちに「喜びの涙」と変わるであろう。このことをイエス・キリストのみ名により証する。アーメン。

「夜あけだ、 朝あけだ」

十二使徒評議員会会員

ブルース・R・マッコンキー



「シオンの旗かかげよ。明るい夜あけだ。
巖かにあまねく朝日は昇りゆく」

「夜あけだ、朝あけだ、シオンの旗かかげよ。……巖かにあまねく朝日は昇りゆく。」（讚美歌189番）

太陽が沈み、夕やみが深まり、夜の闇が辺りを支配する。夜の間、至る所闇に包まれ、すべてがおぼろげで、遠くの光景は見えない。天には無数に星が輝き、借りものの光を照り返す月が夜空を治める。しかし、それらの光も闇を貫くことなく、依然として夜の暗さが続く。

深い陰に、野や森の獣はその身を隠す。山猫は音もなく獲物に忍び寄り、空腹にたけり立つ狼の群れはその遠ばえで近くのえじきを恐怖に陥れる。コヨーテは遠くでほえ、ライオンのうなり声がどこからか聞こえてくる。深い闇の中にジャッカルが潜んで殺りくの機をうかがう。夜の恐怖が辺りを支配する。

やがて空がかすかに白み始める。明けの星がひとときわ輝き、光の筋が雲の残る東の空に

射し始める。それほど遠くない山のかなたの自然の中で、新しい一日が産ぶ声をあげた。地球がゆっくりと定められた進路をたどり、夜明けを迎える。そして、朝日が照り、闇は去る。星は光を失い、月は面を隠し、照り返すわずかな光にもはや夜の暗闇を貫き通す力はない。やがて太陽が昇り、天のまばゆい光が地上を覆う。

夜が明け、太陽が照ると、夜の陰気な生き物は退却を始める。ライオンはねぐらに帰り、狐は穴に戻り、コヨーテや狼の遠ばえは静まる。闇の中に待ち伏せた無法者たちは、岩山や洞窟に身を潜める。

新しい夜明けと共に、野の花、森の木々は新しい生命をみなぎらせる。畜舎の牛や羊は眠りから覚め、空の鳥は第一日の創造主なるサバオツの主をほめ歌う。生命と光の恵みがそこかしこに満ちる。新しい日、幸せと喜びと光の日である。

ほぼ2,000年の昔、福音の太陽が沈んだ。神権は取り去られ、かつて光を知っていた民にも寂しい夕暮れが訪れ、天から射す光と真理が失われて、地上の民は使徒と予言者の教えや導きを得られなくなった。そして霊の暗闇が支配した。暗闇は地を覆い、深い闇が民の心を覆った。（イザヤ60：2参照）

こうして暗黒時代が始まり、天の光は主を拝していると公言する人々の心を照らさなくなった。また、すべての示現は封じられた書物の言葉のようになった。（イザヤ29：11参照）予言者と聖見者は沈黙し、聖典は一般大衆の手の届かないものとなり、完成への道を知る者はなく、だれひとり永遠の神のみもとに帰る道を知らなかった。そして、流浪の民は禁じられたわき道を行き、夜の闇に迷った。

しかし、天には数知れぬ星が輝いていた。自分の持つ光と真理と善を人々のために輝かす多くの賢人、善人がいた。やがて年を経て新たな月が昇り、心の命をゆるのまま、理性の告げるまま天の真理を民に放った。聖オーガスチン、マイモニデス、ジャンヌダルク、トー

マス・モア、ミケランジェロ、ガリレオ、その他大勢の人々がそれぞれ月として借りものの光を自分自身の光のごとくに放った。しかし永遠の生命に至る狭い道を照らす天の光はそこになかった。

辺りには、地獄の獣が身を隠す深い闇があった。ルシフェルは目を覚ましていた。ニケアにおいて、また後にはアタナシウス(293—373年)のペンを借り、ルシフェルは天のまことの神々を卑しめ、神々を全宇宙に満ちる不可解な霊の実体と断定する信条を作成させた。ルシフェルは、コンスタンチン大帝(280—337年)に勅命を出させ、人々が大教会と呼んだ教会に異教の帝国の教えを取り入れさせた。また、コルテス(メキシコのスペイン人征服者、1485—1547年)の剣により、異教徒の手に十字架を握らせ、彼らにキリスト教徒と自称させた。さらに、テツツェル(ドイツ人修道僧、1465—1519年)の甘言により、罪を金で贖う免罪符を売らせた。

スペインで、メキシコで、ペルーで、ルシフェルは宗教裁判の悪を繁茂させ、何千何万の住人を異端者として殺害した。既成の組織から外れたユグノーやその他の反対者たちは大勢謀殺された。当時の支配宗教は、恐怖と無知と迷信の宗教であり、人の自由意志を無視した剣による強制の宗教であった。

長く暗い夜であった。物陰にはジャッカルが、森には狼が、そこかしこにコヨーテがいて、ライオンがほえていた。蛇の毒牙にかかる者も多かった。ペストがヨーロッパをなめつくし、戦争が各地に起こった。また、道徳と礼節の支持者は数少なかった。そして、夜の恐怖は底知れず、夜は長い。実に暗い闇であった。

やがて空がかすかに白み始めた。カルビンやツ빙グリー、ルター、ウエスレーが来て、賢人、善人が出た。ひときわ輝く明けの星たちがそこかしこの国に生まれた。夜の罪と悪にへきえきした勇氣ある人々、識見ある人々である。これらの偉大な人々が大衆を縛る鎖

をたたき切った。彼らは善を行ない、同胞を助けることを願った。ひたすら自分の持つ最善の光と知識に従って。

ドイツ、フランス、イギリス、スイス、その他各地で、過去幾世紀もの間支配を続けた宗教からの離脱が始まった。ほのかな光が東の空の闇を貫いて射し始めた。

良心の命じるままに神を礼拝できるように、多くの人々が自由を求めてアメリカに移住した。そして時が来て、御父の力によりひとつの国ができた。「自由へのとり、万人みな平等に造られしを旨とした」(アブラハム・リンカーン、ゲティスバーグ宣言より)国家であった。こうしてアメリカ合衆国が誕生した。それほど遠くない山のかなたの大自然の中で、新しい日が産ぶ声をあげていた。

地球がゆっくりと着実に定められた進路をたどり、夜明けを迎えた。そして空はますます明るくなった。合衆国憲法が信教の自由を保証し、心を静められた人々が公平な目をもって互いを見るようになった。そして、聖書が出版されて多くの民衆に読まれるようになると、闇は消え去って光が増し、福音の太陽の昇る時刻が間近に迫った。

ついに定められた時が来て、約束された万物の回復の日が訪れた。無限の知恵と慈悲と善をもって、天の主は栄光のみ座から、時満ちたる神権時代を開く務めを予任された永遠の霊を遣わして下さった。ジョセフ・スミスがその人である。1805年12月23日のことである。その時、太陽は山の頂にさしかかっていた。

1820年春の栄えある日、言い伝えによれば4月6日、その太陽が姿を見せた。大いなる神が右手に主イエスを伴い、天からニューヨーク州西部の森に降りて来られた。そして、少年ジョセフを名指して呼び、すべての教会は誤っているのでどの教会にも加わってはならないと命じられた。彼らの信条はことごとく神の目より見て憎むべきものである。信仰を口にすると人々はみな腐敗して、口では主に

近づくが心は遠く離れて、人の教えを戒めとして教え、神を敬うふりをしながら、神の力を否定していると教えられた。(ジョセフ・スミス2：19参照)

その瞬間から、星は光を失い、月は面を隠し、照り返すわずかな光に夜の暗闇を貫き通す力はなかった。時満ちたる神権時代が、天上の神から地上の人間にまさに手渡されようとしていた。

それから間もなくして、天使たちが神のみ前から降りて来て、教えを述べ、神権の権能と権威を授け、聖なる使徒職に属ける王国のもろもろの鍵を回復した。こうして、この世の人間に、この地上で結ぶことが天でも永遠に結ばれる結び固めの力が与えられたのである。(教義と聖約132：46参照)

それから10年を経ないうちに、モルモン経が世に出され、神の王国である教会が再興されて、啓示と予言が時代の秩序を保つ手段となった。そしてみたまの賜、古代のしるしと不思議と奇跡が、信仰あつい人々に注がれた。示現と異言と予言が再び人々を益するように

なり、病人が癒され、足の不自由な人が歩き、盲人の目が開き、死人が生き返った。いにしへの聖徒が経験したと同じ経験を末日聖徒もするようになったのである。

順次、古代の真理が回復され、次々に古代の儀式が明らかにされた。やがて福音が、完全なる永遠の福音が、まさしく人を救い、昇栄させる神の力が、栄光と美と完全さをもって輝き出た。暗闇が地を覆った日に姿を隠した福音の太陽が、新たな回復の日に再び輝き昇ったのである。

福音の光が射し、真理が全地に広がるにつれて、夜の恐怖が消え去った。そして、恐怖と無知と迷信の支配した場所を、今や愛と光と純粋な宗教が治めた。恐れは勇気となり、無知は知恵と代わり、迷信と伝説は天の光と真理にとって代わった。

多くの時を待たずに、邪悪な狼は遠ぼえをやめ、罪のジャッカルは発展する王国をねらったうなり声を静めて、大いなる福千年の時代が私たちに訪れるであろう。

これぞ、汝の代、おお、シオンよ！「起きよ、光を放て。あなたの光が臨み、主の栄光があなたの上にのぼったから。……

……主の栄光があなたの上にあらわれる。

もろもろの国は、あなたの光に来、もろもろの王は、のぼるあなたの輝きに来る。

暴虐は、もはやあなたの地に聞かれず、荒廃と滅亡は、もはやあなたの境のうちに聞かれず、あなたはその城壁を『救』ととなえ、その門を『誉』ととなえる。

……主はとこしえにあなたの光となり、あなたの神はあなたの栄えとなられる。」(イザヤ60：1-3, 18-19)

「夜あけだ、朝あけだ、シオンの旗かかげよ。明るい夜あけだ。巖かにあまねく。朝日は昇りゆく。」(讚美歌189番)

イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

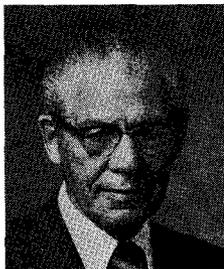


説教中のマッコンキー長老

「真理を 知るであろう」

第一副管長

N・エルドン・タナー



「而して、人もし彼の誠命を守らずんば
功きを受くることなし。彼の誠命を守る
人は真理と光とを受け、ついに真理によ
りて栄光を得て、すべての事物を知る。」
(教義と聖約93：27-28)

今朝、私たちは美しい音楽を聴き、多くの
真理を学んだ。イエスは御自分を信じた
ユダヤ人たちに次のように言われた。「もしわ
たしの言葉のうちにとどまっておるなら、あ
なたがたは、ほんとうにわたしの弟子なので
ある。また真理を知るであろう。そして真理
は、あなたがたに自由を得させるであろう。」
(ヨハネ8：31-32)

また、主の予言者スベンサー・W・キンボ
ール大管長のメッセージを聴けたことも大き
な祝福である。キンボール大管長が語る真理
の言葉を、私たちはみな心に留める必要があ
る。

私たちの救い主は、裏切り、死、復活と続
く一連の出来事の起こる少し前に、非常に神
聖で厳肅な一時を使徒たちと過ごし、彼らを
慰め、その後起こる出来事の幾つかを明ら
かにされた。しかし、使徒たちはみ言葉の意

味を充分には理解できなかった。主は使徒た
ちがやがて取り残されること、つまり主と別
れることをほのめかしてから、世の艱難につ
いて語られた。同時に、元気を出しなさい、
私はすでに世に勝っていると諭された。それ
から、天を仰いでこう言われた。「父よ、時が
来ました。あなたの子があなたの栄光をあら
わすように、子の栄光をあらわして下さい。
あなたは、子に賜わったすべての者に、永遠
の命を授けさせるため、万民を支配する権威
を子にお与えになったのですから。

永遠の命とは、唯一の、まことの神でいま
すあなたと、また、あなたがつかわされたイ
エス・キリストとを知ることであります。

わたしは、わたしにさせるためにお授けに
なったわざをなし遂げて、地上であなたの栄
光をあらわしました。

父よ、世が造られる前に、わたしがみそば
で持っていた栄光で、今み前にわたしを輝か
せて下さい。

わたしは、あなたが世から選んでわたしに
賜わった人々に、み名をあらわしました。彼
らはあなたのものでありましたが、わたしに
下さいました。そして、彼らはあなたの言葉
を守りました。……

なぜなら、わたしはあなたからいただいた
言葉を彼らに与え、そして彼らはそれを受け、
わたしがあなたから出たものであることをほ
んとうに知り、また、あなたがわたしをつか
わされたことを信じるに至ったからです。……

聖なる父よ、わたしに賜わった御名によっ
て彼らを守って下さい。それはわたしたちが
一つであるように、彼らも一つになるため
であります。」(ヨハネ17：1-6, 8, 11)

この言葉の中に、人類に祝福をもたらす最
も大なる真理が幾つかある。世界が創造さ
れる前にイエスが御父と共におられたこと、
イエスが御父から特別な使命を与えられてこ
の地上へ遣わされたこと、十字架上の死と
復活に関連して起こるはずの出来事がイエス
にすでに示されていたこと、主のみ業を手伝

う使徒たちが神より召されたこと、彼らは御子を通して御父から下されたみ言葉を受け入れ、信じたこと、そして使徒たちにこうあるようにと祈られた通り、御父と御子が別個の御方でありながら、目的においてはひとつであることが、実に明瞭に分かる。

イエスは御父に対するこの嘆願の中で、永遠の生命とは何かを定義された。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」(ヨハネ17:3) また別の時に、こうも言っておられる。「見よ、これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり。」(モ一セ1:39)

これらの真理を理解し、受け入れることが大切なのはなぜであろうか。

これなしでは、昇栄すなわち永遠の生命にあずかることができないからである。すなわち、私たちは生活の霊的な面を優先しなければならないのである。

イエスは信仰を保ち、御父に栄光を帰し、求められることをすべて果たされた。これが、私は世に勝っていると言われたイエスのみ言葉の意味するところである。こうしてイエスは死の縄目を解き、御父と共に不死不滅と永遠の生命にあずかる用意をされたのである。

これは万人に対する約束である。ヨハネによる福音書には次のように記されている。

「イエスは自分を信じたユダヤ人たちに言われた、『もしわたしの言葉のうちにとどまっておるなら、あなたがたは、ほんとうにわたしの弟子なのである。』」

また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう。』(ヨハネ8:31-32)

自由は真理を基盤としている。信念が幾分かでも誤っていたら、そこに完全な自由はない。誤った鎖が心を縛るからである。そのようなわけで、あらゆる源からできる限り多くの真理を学ぶことが非常に大切になってくる。

とりわけ私たちは聖典を研究する必要がある。なぜなら、その中に、私たちが受け入れ、従いさえすれば、永遠の生命を得ることのできる言葉があるからである。

聖典は神と御子イエス・キリストがそれぞれ別個の实在の御方であることを証明している。神を信じるためには、神の属性を理解することが必要である。そして、神を信ずる信仰は、まことの原則に立脚していなければならない。誤った前提の上にある信仰は、私たちにとって何ら益とはならないのである。その一例を挙げると、アメリカの初期の移住者たちの中には、これをまけば火薬の実がなると言ってインディアンに火薬を渡した者たちがいた。インディアンは素直にそれを信じて火薬をまいたが、当然その苦労は実を結ばなかった。その信仰が偽りを基にしていたからである。

私たちは学び、祈り、知恵を求め、互いに教え合うように勧められている。教義と聖約には、次のように書かれている。

「またわれ汝らに一つの誠命を与う。すなわち汝ら互いにこの王国の教義を教ゆべし。」

汝ら熱心に教えよ、さらばわが恩恵は、汝らに伴い、かくして汝らの理解する必要がある理論と原理と、教義と福音の律法と、神の王国に就けるすべての事は更に完全に教えらる。……

これ、汝らがわが汝らを召したる天職と、わが汝らに委任したる使命とを全力を尽して遂行するために、われ再び汝らを遣わす時に汝らすべての事に用意あらんためなり。

見よ、われは民に証し民を警めんため汝らを遣わせり。されば、その警めを受けしことあるすべての人はその隣人を警むる責任あり。

故に人々言逃れあることなし。罪は人々自らの頭の上にある。

われを求むること早き者は、われを見出し棄てらるることなからん。……

汝らの束縛を解きたる自由を守り、罪に陥ることなくして主の来るまでその手を清浄に

なし置くべし。」(教義と聖約88：77—78, 80—83, 86)

私たちは従順になるために教えを理解しなければならず、また自由を得るために従順にならなければならない。これは神の律法についても国の法律についても言える。私たちは自由というものを、外部からの抑制や強制がなく、他人の意志に従属せず、自分や他人に招く結果などおおかまいなしに好き勝手なことができる選択権のある状態と考えがちである。

しかしブリガム・ヤングは次のように述べている。

「私たちの中に、神が厳しく従順を要求しておられるということを認めない人はいない。しかしそのように従順であることによって、私たちは奴隷となるのであろうか。否。これこそ、私たちが自由を得るためのこの世でただひとつの道である。もしも他の道を取るならば、私たちは自分の欲情、よこしまな欲情の奴隷となって……悪魔の手下となるであろう。」(*Journal of Discourses* 「説教集」18：246)

私たちを導き、祝福するために与えられたイエス・キリストの教えの中に、十戒、山上の垂訓、八福の教えがある。そして実に興味深いことであるが、国法のほとんどはこの倫理規範から成っている。神の律法は真理にのっとって不変であり、人が手を加える余地はない。そして、私たちは従順の度合に応じて祝福や罰を受けるのである。

自然界には、逆らえば病気や不慮の死を招く不変の法則がある。また私たちは、法則として認められる真理を応用して、省力を図る設備や高速化された快適な交通手段、インスタント食品、繊維や建材等の合成物質を利用できるようになった。また、時間や労働力が節減されるようになった。そこで私たちは、神の恵みに対する感謝の表現として、こうして得た余暇や余力を神のみ業のために用いるようにすべきである。

聖典は、あらゆる真理がキリストの光を通

して明らかにされると教えている。「この光は、神の前よりさし出でて広大な宇宙に満ち充てり。

すなわち、この光はすべてのものの中に在る光なり。こはすべてのものに生命を与え、而もすべてのものを支配する律法にして……」

(教義と聖約88：12—13)

このように、アイザック・ニュートン卿やトーマス・エジソン、アルバート・アインシュタインという人々の発見した真理は、事実キリストの光を通して彼らに明らかにされたのである。その明らかにされた真理は、人類を無知の奴隷の境遇から解放するのに貢献し、宇宙に対する理解の眼を開かせてくれた。これと同様に、人と神との関係や、イエス・キリストの使命に関する真理が、聖霊の力によって明らかにされている。

父なる神が感情、感覚、体を持ちたもう御方であり、イエス・キリストが肉における神の独り子であって、人間の特性を具えて民の間で生活されたということは、人生に目的を与えると共に、信じる人々を人類誕生にまつわる謎から解放する真理である。

救い主の贖罪と復活についての真理を理解する人々は、人間の究極の行く末についての疑念を解消することができる。また、真理に従う時に、永遠の進歩を続け、永遠の生命という栄えある祝福にあずかることができるということを知るのである。

私たちの教会の会員であり、著名な科学者のひとりであるヘンリー・アイリング博士は、次のように語っている。

「私はこの世界の神秘の解明に努めれば努めるほど、世を治めておられる唯一の御方の実在、すなわち神の実在をますます身近に感じるようになってきた。私たちは祈りと聖霊の証によって、またこの宇宙の調和と驚異をほかにどう説明することもできないため、あるいは昔救い主が言われたように試してみれば分かるという実際の体験によって、このことを理解することができるのである。

私は『アイリング博士、あなたは科学者として啓示によって導かれると言う宗教をどのように受け入れていますか』とよく尋ねられる。その答えは簡単である。福音は私たちに真理のみを追求させるからである。科学に用いる試験法が宗教にも当てはまる。それが有益かどうか試してみるとよい。宇宙を治め、その運行にも関与なさる神がおられるという概念は、神が世界最大の驚異である人間に関心を抱いておられるとの推論なしには、私にはとても理解できないことである。神が人類に関心を持っておられるとすれば、人間の進歩と幸福のために計画を与えて下さるのは自然である。その計画がイエス・キリストの福音である。……

科学者にとって重要なことは、真理があるがゆえにその真理を追求するということである。科学ではある事実が存在する。そしてその存在は人の意思に左右されないのである。もしも追求方法が誤っていれば、何をもってしても成功せず、また、正しければ必ず成功するのである。

それは、福音にしても同じである。」(ヘンリー・アイリング *The Faith of a Scientist* 「科学者の信仰」 pp.103, 105)

永遠の父なる神はあらゆる真理に通じておられ、真理にかなって働かれるということから、神がきのうも、きょうも、永遠に同じであるという説明がつく。神の行なわれることはすべて、宇宙の不変の真理に調和している。また、同じ属性が、「めぐみとまこととに満ち」(ヨハネ1:14)た神の御子イエス・キリストにも見られる。

神と人間の大きな相違のひとつは、真理の知識の深さにある。神はその知識が深いがゆえに、御自身の意のままにもろもろの世界を創造し、宇宙を治めることがおできになるのである。

私たちは、「人が現在あるがごとくに神もかつてあり、神が現在あるがごとくに人もなり得るのである」(ロレンゾ・スノー、*Latter-day Prophets Speak* 「末日の予言者は語る」

ダニエル・H・ラドロウ編 p.72) という言葉を信じている。そのためにも、人は生涯自分の英知を増し、できる限り多くの真理を学ぶように努める必要がある。イエス・キリストの福音は、それがどこで見いだされようと、すべての真理を包含している。したがって、知識と真理を得た人は、それを隣人に教えることが大切である。

特に、親には、子供を教える責任がある。子供に善悪の違いを教えなさい。子供を好き勝手にさせておけば、悪いことだけを学ぶかもしれない。子供には、自分の選択の結果について、すなわちあるものには祝福、あるものには罰が伴う理由を教え、導きを与える必要がある。

自分が自分の将来の設計者であることを忘れないようにしよう。私たちの行動の結果に対する責任は神にはない。神は、私たちに真理の御言葉と、従うべき規範と、学び、行ない、進歩する機会を与えて下さる。私はこのことについて故デビッド・O・マッケイ大管長の語った言葉が好きである。

「私は神が愛であることを信じている。神は私たちの御父であり、子供たちが幸福と永遠の生命を得るようにと願っておられることを信じている。……神は人を地上に置き……

『自ら自由意志を使うこと』を許された。(教義と聖約29:35参照)人は正義を選ぶことも、悪を選ぶこともできる。暗闇を歩くことも、光の中を歩くこともできる。しかし、覚えておいていただきたいのは、神は子供たちを光のないうまに放ってはおられないということである。神は、各神権時代の民に、つまりかずに歩むことのできる福音、平和と幸福が得られる福音の光を、慈愛に富んだ御父として恵んで下さった。とはいえ、主は人々から自由意志を取り上げてはおられない。

神は……放蕩な子供たちが自らの愚行や罪咎によって招いた結果を現在悲しんでおられる。しかし、『息子よ、ここに2本の道がある。右へ行く道と左へ行く道だ。左の道を取れば

悲慘と不幸に至り、恐らくは死が待っている。右の道を取れば成功と幸福が得られる。しかしどちらを選ぶかはお前の自由だ。選んでよろしい。私はどちらとも強制はしない。』このように言う父親を責められないのと同じように、私たちは決して御父を責めることはできない。

若者は歩き始める。そして、左へ行く道の魅力に誘われて、それが幸福への近道だと考え、左の道へ行こうと決めた。父親は息子がどうなるかを知っている。花の咲き乱れる場所から遠くない所にぬかるみがあって、息子がそこに足を踏み込むだろうということ。また、悪戦苦闘してそこからはい出ても、また別のどろ沼にはまるだろうということも分かっている。……父親は息子がそうなるずっと前からそれを知っていたので、警告できたのである。父親はなお変わらずに息子を愛し、警告を続け、正しい道へ戻るように呼びかける。

その父親と同じように、神も過去の予言者たちを通じて、御自分の民の多くが個人としても国民としても、悲慘と死に至る道を選ぶであろうということ世の人々に明らかにし、予言された。しかし責任は神ではなく、神のみ言葉に耳を傾けようとしなかった人々にあるのである。(レウェリン・マッケイ *True to the Faith* 「信仰に忠実に」 pp. 86—87)

しかし、限りない愛と慈悲に富んでおられる神は、正しい選択をせず真理の道からはずれている人々のために、悔い改めという栄えある原則によって救う準備をしておられる。悔い改めとは、過ちを認め、後悔し、その過ちを克服しようと決心することである。主は次のように言われた。

「人罪を悔い改めしや否やは、見よ、彼は自らこれを告白しその罪を捨つべければ、その悔い改めたことはこれによりて知るを得べし。」(教義と聖約58：43)

時の初めから、神は子供たちに愛と関心を抱いておられるがゆえに、真理と光の敵、すなわち手下を率いて人類を滅ぼし、子供たち

を救う神の計画を転覆させようと凶るサタンの誘惑に対して警告を発してこられた。モルモン経の予言者が主のみたまに促されて民に告げた次の言葉は、現代にもよく当てはまる。「まことにこの民は禍である。なぜならば今あなたたちは昔の人のように予言者たちを追い出し、これを嘲り笑い、これに石をうちつけ、これを殺し、またこれにあらゆる悪い事をしてしている。

罪深いよこしまな時代の人々よ。強情でかたくなな民よ。主がいつまで赦しておきたもうと思っているのか。あなたたちはいつまで甘んじて愚な盲目の案内者に導かれているのか。あなたたちはいつまで光よりも暗やみの方を好んで選ぶのか。」(ヒラマン13：24, 29)

しかし一方で、次のような約束もある。

「しかし、あなたたちが悔い改めて自分の神である主に立ち帰るならば、主はわが怒りを解こうと仰せになっている。また主は仰せになる『悔い改めてわれに立ち帰る者はさいわいなり。されど悔い改めざる者は禍なり。』」(ヒラマン13：11)

私たち全員が知恵と真理を追い求め、神の王国を受け継いで、約束された祝福を享受することができるように願う次第である。主は次のように言っておられる。

「真理の『みたま』神より出ず。われは真理の『みたま』なり。ヨハネわれに就き記録を為して言えり。彼は完き真理を受けたり。すなわち、完全にあらゆる真理を受けたり。

而して、人もし彼の誠命を守らずんば完きを受くることなし。

彼の誠命を守る人は真理と光を受け、ついに真理によりて栄光を得て、すべての事物を知る。」(教義と聖約93：26—28)

私たち全員が神を自分の御父として、また御子イエス・キリストを救い主として受け入れ、主の戒めを守って、私たちを自由にし永遠の生命に導く真理を常に求め続けるように、イエス・キリストのみ名によりへりくだって祈るものである。アーメン。

1977年度統計報告

大管長会書記

フランシス・M・ギボンズ

大 管長会は、1977年12月31日現在の教会員に関する統計記録を以下のように発表しました。

教会ユニット

ステーキ部数	885
伝道部数	157
ワード部数	5,917
ステーキ部内の独立支部数	1,549
伝道部内の支部数	1,694
1977年度内に、541のワード部と支部が増加したことになる。	
ワード部または支部のある国	54カ国

教会員数

教会員総数	3,966,000
昨年度の増加率を考えると、現時点では、400万人を超えていると思われる。	

1977年度内の会員数の増加

幼児の祝福数	95,000
子供のバプテスマ数	62,000
改宗者のバプテスマ数	167,939

一般統計

出生率(1,000人当たり)	31.66
結婚率(1,000人当たり)	13.25
死亡率(1,000人当たり)	4.14

神権者

執事	142,000
教師	112,000
祭司	201,000
長老	338,000
七十人	28,000

大祭司	129,000
1977年度内に、45,000人の神権者が増えたことになる。	
専任宣教師	25,300

福祉活動

現金または日用品の援助を受けた人	99,600
末日聖徒社会福祉機関の援助を受けた人	15,000
有給の職業に就いた人	16,000
労働奉仕日数累計	427,000
倉庫からの支給日用品(キログラム)	8,051,000

系図

神殿儀式のために処理した名前の数	3,374,000
年度内に36カ国において、マイクロフィルムに収録した系図記録は、100フィートのロールで949,000巻にのぼる。これは300ページの本で4,517,000冊分に相当する。	

神殿

年度内に執行されたエンゲウメント数：	
生者	47,037
死者	3,555,118
儀式を行なっている神殿	14
建築中、または計画中の神殿	6
改築工事中の神殿	2
儀式を行なっている神殿は昨年度よりも2つ少ないが、エンゲウメント数は、180,362増加している。	

教会の学校

1976—77年、在籍者数：	
セミナー、インスティテュート	
(特別プログラムを含む)	288,000

教会の学校、大学……………74,000

死亡者

七十人第一定員会会員アルマ・ソニ長老、十二使徒評議員会会員リグランド・リチャーズ長老夫人アイナ・J・アシュトン・リチャーズ姉妹、大祝福師エルドレッド・G・スミス長老夫人ジャン・N・スミス姉妹、テキサス・エルパソステーク部ジョン・ハロルド・

マリン部長、サモア・アピアステーク部オリバー・リチャード・クリチトン部長、著述家・教育家シドニー・B・スペリー博士、ロサンゼルス、ロンドン、スイス、ニュージーランド神殿設計者エドワード・オリバー・アンダーソン、元連邦準備会議議長マリナー・S・エックルス氏、作曲家・教育家・教会シンギング・マザー活動ディレクターのフローレンス・J・マドセン博士。

末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会への 教会財務委員会報告

委員長

ウイルフォード・G・エドリング

私たちは、1977年12月31日現在の教会の年次財政報告書、ならびに年間の業務状況を検査致しました。当委員会は、教会の中央基金およびその他関連組織の基金、教会財務部の保持する報告書等、すべての財政報告書と運用状況を検査致しました。また、予算編成、会計、監査の諸手続き、ならびに基金の受領方法と支払いの処理方法についても調べました。その結果、教会の中央基金の支出が大管長会の承認の下に、予算手続きを踏んで行なわれていると判断致します。予算編成は、大管長会ならびに十二使徒評議員会、管理監督会より構成された什分の一配分評議会にて承認されています。そして、支出承認委員会が毎週開かれる会合において、その予算の下で基金の支出を管理運営しています。

現在、教会の急速な発展に立ち遅れることのないよう、財務部やその他の部門に最新の会計技術と設備を導入して、資料の処理を的確に行なっています。また財務部と法務部は、連邦政府ならびに州政府、諸外国の政府による課税問題を共同で適切に処理しています。

監査部は、他のあらゆる部門から独立しており、教会の全部門およびその他関連組織の運営と財政の監査、ならびに財務部の保持す

る報告書の監査を定期的実施しています。またこれには、伝道部、財務センター、諸外国における各部門の活動の監査も含まれています。さらに監査部は、教会が利用しているコンピューターシステムの監査も実施しています。教会の発展と活動の拡大に伴って、教会の資産を保護する運営規模も大きくなっています。ワード部とステーク部の基金の監査は、ステーク部監査員に割り当てられています。また、教会が所有あるいは管理している法人組織の事業については、財務部はその報告書を保管しないので、公認の会計検査員が監査を行なっています。

当委員会は、年次財政報告書、その他の会計資料、ならびに財政業務の管理の基となる会計および監査方法を検討し、さらに財務部、監査部、法務部の職員と会合を持って調べました。その結果、1977年度の教会中央基金の収支は適切に会計処理されていました。

教会財務委員会

ウイルフォード・G・エドリング

ハロルド・H・ベネット

ウェストン・E・ハミルトン

デビッド・M・ケネディー

ウォーレン・E・ピュー

教会役員の支持

第一副管長

N・エルドン・タナー

前回の大会で、教会役員の支持に反対の挙手をした方がひとりいらっしゃいました。

そのことに関連して誤解があったようです。ある方から、その時の私の彼に対する態度が非常に素っ気無かったと言われました。したがって、役員の支持に反対の挙手があった場合、どのようにするかについて説明したいと思ひます。私たちはその方々に、ひとりの教会幹部のところへ行つて、どうして支持できないのか、その理由を説明していただきます。そして、必要であれば手続きを取ります。

私たちは予言者、聖見者、啓示を受ける者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてスペンサー・W・キンボールを支持して下さるよう提議致します。この提議に賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

大管長会第一副管長としてナサン・エルドン・タナーを、第二副管長としてマリオン・G・ロムニーを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

私たちは十二使徒評議員会会長としてエズラ・タフト・ベンソンを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

私たちは十二使徒評議員会会員として、エズラ・タフト・ベンソン、マーク・E・ピーターセン、デルバート・L・ステイプラー、リグランド・リチャーズ、ハワード・W・ハンター、ゴードン・B・ヒンクレイ、トーマス・S・モンソン、ボイド・K・バックナー、マービン・J・アシュトン、ブルース・R・

マッコンキー、L・トム・ベリー、デビッド・B・ヘイトを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

教会の大祝福師としてエルドレッド・G・スミスを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方があれば、その意を表わして下さい。

大管長会副管長、十二使徒、大祝福師を予言者、聖見者、啓示を受ける者として支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

七十人第一定員会会長会ならびに七十人第一定員会会員として、フランクリン・D・リチャーズ、ジェームズ・E・ファウスト、J・トーマス・ファイアーズ、A・セオドア・タトル、ニール・A・マックスウェル、マリオン・D・ハンクス、ポール・H・ダンを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

その他の七十人第一定員会会員として以下の人々を支持して下さるよう提議致します。スターリング・W・シル、ヘンリー・D・テイラー、セオドア・M・バートン、バーナード・P・ブロックバンク、ジェームズ・A・カリモア、ジョセフ・アンダーソン、ウィリアム・H・ベネット、ジョン・H・バンデンバーク、ロバート・L・シンプソン、O・レスリー・ストーン、ウィリアム・グラント・バンガーター、ロバート・D・ヘイルズ、アドニー・Y・小松、ジョセフ・B・ワースリン、S・デルワース・ヤング、ハートマン・

レクター・ジュニア、ローレン・C・ダン、レックス・D・ピネガー、ジーン・R・クック、チャールズ・A・ディディエ、ウィリアム・R・ブラッドフォード、ジョージ・P・リー、カーロス・E・エイシー、M・ラッセル・バラード・ジュニア、ジョン・H・グローバーク、ジェイコブ・ディエガー、ボーン・J・フェザーストーン、ディーン・L・ラーセン、ロイデン・G・デリック、ロバート・E・ウエルズ、G・ホーマー・グラム、ジェームズ・M・パラモア、リチャード・G・スコット、ヒュー・W・ピノック、F・エンツィオ・ブッシュェ、菊地良彦、ロナルド・E・ポールマン、デリック・A・カスバート、ロバート・L・バックマン、レックス・C・リープ。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

管理監督会の管理監督としてビクター・L・ブラウンを、第一副監督としてH・パーク・ピーターソンを、第二副監督としてJ・リチャード・クラークを支持して下さい。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

地区代表として、全地区代表を現状のまま支持して下さい。

扶助協会、会長としてバーバラ・ブラッドショー・スミスを、第一副会長としてジャンナス・ラッセル・キャノンを、第二副会長としてマリアン・リチャード・ポイヤーを、その他管理会員を現状のまま支持して下さい。

日曜学校、会長としてラッセル・M・ネルソンを、第一副会長としてジョー・J・クリステンセンを、第二副会長としてウィリアム・D・オズワルドを、その他管理会員を現状のまま支持して下さい。

若い男性、会長としてニール・D・シェイラーを、第一副会長としてグラハム・W・ドクシーを、第二副会長としてクイン・G・マッケイを、その他管理会員を現状のまま支

持して下さい。

若い女性、会長としてルース・ハーディー・ファンクを、第一副会長としてホーテンス・H・チャイルドを、第二副会長としてアーデス・G・カップを、その他管理会員を現状のまま支持して下さい。

初等協会、会長としてナオミ・マックスフィールド・シャムウェイを、第一副会長としてコーリン・ブッシュマン・レモンを、第二副会長としてドロシア・ルー・クリスチャンセン・マードックを、その他管理会員を現状のまま支持して下さい。

教会教育委員会、委員としてスペンサー・W・キンボール、N・エルドン・タナー、マリオン・G・ロムニー、エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレイ、トーマス・S・モンソン、ボイド・K・パッカー、マービン・J・アシュトン、ニール・A・マックスウェル、マリオン・D・ハンクス、ビクター・L・ブラウン、バーバラ・B・スミスを支持して下さい。

以上の提議に賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

教会財務委員会、委員としてウィルフォード・G・エドリング、ハロルド・H・ベネット、ウェストン・E・ハミルトン、デビッド・M・ケネディー、ウォーレン・E・ピューを支持して下さい。

タバナクル合唱団、団長としてオークレイ・S・エバンズを、指揮者としてジェラルド・D・オタリーを、准指揮者としてドナルド・H・リアプリングーを、タバナクルオルガニストとしてロバート・カンディック、ロイ・M・ダグリー、ジョン・ロングハーストを支持して下さい。

以上の提議に賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

キンボール大管長、以上の役員および教会幹部に対して全会一致の支持が得られたようです。

信仰の祈り

十二使徒評議員会会員

トーマス・S・モンソン



絶えざる祈りは、不信者を改宗させ、危険に直面している人を守り、ためらう人を変える

かわいい初等協会の少年少女たちの美しい歌は実に感動的である。きょうこの美しい歌を聴かせてくれた子供たちはみな、週に一回同年代の子供たちと共に初等協会に参加している。しかしこの子供たちと同じように、かわいく、貴い子供でありながら、恵まれない子供たちもいる。

何年か前にオーストラリア伝道部を訪問した時のことである。私はダーウィン市に初めて教会の礼拝堂を建てるための鉄入れ式に出席することになり、伝道部長に同行した。途中、飛行機は燃料補給のため、小鉱山都市のマウントアイザに立ち寄った。そこの空港で、私はひとりの母親と初等協会の年齢のふたりの子供に会った。彼女はジュディス・ルーデンですと自己紹介し、この町の教会員は自分たち3人だけですと語った。夫のリチャード氏は教会員ではなかった。私たちは短い集会を開き、そこで私は毎週家庭初等協会を開く

ことが大切であることを話した。そして、教会本部から家庭初等協会の資料を送ることを約束した。それに対してルーデン姉妹は、必ず祈り、家庭初等協会を開き、信仰を保ちますと約束してくれた。

ソルトレーク・シティーに帰ってから、私は当時のラバーン・パームリー会長に手伝っていただき、家庭初等協会の資料を送り、「チルドレンズ・フレンド」誌を予約した。

それから数年後、私はオーストラリア・ブリスベーンステークス部のステークス部大会に出席した折、たまたま神権会でその忠実な女性と子供たちのことを話した。そして、「いつか、あの家庭初等協会が続いているかどうかを知りたいと思います。また、あの素晴らしい御家族の教会員でない御主人にお会いしたいものです」と話した。するとひとりの兄弟が立ち上がってこう言った。「モンソン兄弟、私がリチャード・ルーデンです。今お話になった女性の夫で、そのかわいい子供たちの父親です。祈りと初等協会が、私を教会に導いてくれました。」

また昨年冬の出来事からも、私は祈りの力について学んだ。責任を受けて、アルゼンチンの美しい都市ブエノスアイレスを訪れた時のことである。この町の大通りを彩る歴史的なパレルモ公園で車を止めた。というのは、1925年のクリスマスの日に、主の使徒であるメルビン・J・バラード長老が南米諸国を福音伝道のために奉献したのがその場所だったからである。現在、その地の教会の発展は予想をはるかに上回っており、靈感に満ちた祈りが現実となっていることは明白である。

そのパレルモ公園には、合衆国の建国の父であり、初代大統領であるジョージ・ワシントンの大きな像が立っている。それを見ていた時、私の胸に、祈りが大きな役割を演じたもうひとつの重要な場所が思い浮かんだ。バレー・フォージである。ジョージ・ワシントン率いる軍隊が、ひどい痛みを受け、食物は少なく、装備にも事欠いていたある冬のさ中

に、彼が導いたのがこの谷であった。

現在、バレー・フォージの静かな森にワシントンをとたえる記念像がある。そこに刻まれたワシントンは、馬上の人でも栄光の戦場を見わたす人でもない。謙遜にひざまずいて天の神に助けを願う祈りの姿である。その像をじっと見ていると、よく耳にする次の言葉が胸に響いてくる。「ひざまずく時に、人は最も大きく見える」と。

誠実な人、気高い人格者、志のある人はいつも自分より大きな力の存在することを認め、その力に対して導きを祈り求める。それは過去にそうであり、また将来もそうである。

初めに、父祖アダムは、「今よりいつまでも御子の御名によりて神を呼ぶべし」（モーセ5：8）と命じられた。アダムは祈り、アブラハムも祈り、イサクもモーセも祈り、すべての予言者が力の源である神に祈った。砂時計の砂が落ちるように、大勢の人間が生まれ、生き、そして死んで行った。こうしてついに、予言者たちが祈り、詩篇作者が歌い、殉教者たちが命を捧げ、全人類が願ったあの栄えある出来事が起こったのである。

ベツレヘムのみどり児の誕生は美しく、たぐいなく意義深い出来事であった。ナザレのイエスは予言を成就されたのである。らい病人を清め、盲人の目を開き、聾者の耳を開き、死者を蘇生させ、真理を教え、万人を救った。主イエスはそのようにして御父をあがめ、私たちに見習うべき模範を示されたのである。

イエスはほかのどの予言者や指導者にも勝って、祈りの方法をよく教えておられる。だれもゲッセマネの園における苦悩とあの熱烈な祈りを決して忘れないことだろう。「わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままにはなく、みこころのままになさって下さい。」（マタイ26：39）そして主は次のように私たちに命じられた。「誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。」（マタイ26：41）

イエスの勧告が思い出される。「祈る時には、偽善者たちのようにするな。彼らは人に見せようとして、会堂や大通りのつじに立って祈ることを好む。……

あなたは祈る時、……隠れた所においてになるあなたの父に祈りなさい。すると、隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いてくださるであろう。」（マタイ6：5—6）

私たちへの指針であるこの教えは、悩む心に求めてやまぬ平安を与えてくれる。

残念なことに、繁栄や富裕、名誉、名声は時に、尊大な自信に裏打ちされた偽りの安心感と、祈りの心の放棄を招くことがある。逆に、試練や苦難、病氣、死は人の高慢を打ち砕き、謙虚な気持ちで天の力を求めさせる。

私は、大勢の死傷者を出した第二次世界大戦こそ、人類史上最も多くの人間が祈った時ではないかと思う。徴兵されて戦場に向かう息子や夫や父のために全能の神の加護を祈った母、妻、子供の胸の内をだれか知り得ようか。祈りは聞かれる。祈りは答えられる。

ここで、感動的なひとつの実話を御紹介したい。艦船に乗り組んで太平洋の戦場に向かった子息の無事を祈り続けたあるアメリカ人女性の話である。彼女は毎朝祈りを終えると、兵士たちの救命索を製造する工場へボランティアとして働きに出掛けた。はたしてその母親の手掛けた仕事が直接に愛する息子の命を救ったであろうか。彼女とその家族を知っている人々は、水兵としてガダルカナル島に出征したエルジン・ステイブルズの経験談をなつかしく思い出す。ステイブルズは艇から投げ出された時に、救命索のお陰で命拾いをした。ところが、後で分かったことであるが、それはオハイオ州オクロン市に住む自分の母親が検査し、包装し、スタンプを押したものであった。

どんな方法によるのか、

わたしは知らない。

しかし確かに分かる、

神は祈りに答えてくださると。

祈りをいつも聞いている、
早晚祈りに答えようと、
み言葉を私に下さる。
だからわたしは祈り、
心穏やかにその日を待つ。

(エライザ・M・ヒコック “Prayer” Best
Loved Religious Poems 『祈り』「宗教詩選集」
ジェームズ・ギルクリスト・ローソン編、
p. 160)

若い世代の人々は、「でも現在はどうだろう。今も祈りを聞いて下さるだろうか。まだ答えて下さるだろうか」と尋ねるかもしれない。それにはこう答えよう。「祈りなさいという主の命令には期限がついていない。私たちが主を覚えている限り、主も私たちを覚えていて下さる」と。

祈りが答えられる時に、旗が掲げられたり、楽隊の演奏があったりということはまずないといってよい。主の奇跡は秘かに自然に行なわれることが多いからである。

私は何年前か、コロラド州グランドジャンクションステーク部の大会に出席した時に、ステーク部長から、ある夫婦に会ってほしいと言われた。彼らは伝道地に着いたばかりの息子から、帰りたいという手紙をもらって困り果てていたのである。そこで私は、大会を終えた後、その夫婦に会い、ステーク部長を交えて4人で静かにひざまずいた。私が祈り始めると、悲しむ母親と落胆した父親のすすり泣きが聞こえてきた。

祈り終えて立ち上がった時に、父親が言った。「モンソン兄弟、天父は伝道半ばで帰国するという息子の決心を変えて下さると本当に思いますか。私は正しいことをしようと一生懸命に努めていますが、祈りが聞かれないのです。なぜでしょうか。」

私は、「御息息はどちらで伝道をしておいでですか」と尋ねた。

「ドイツのデュッセルドルフです」という

返事であった。

私はその夫婦の肩に手を置いて言った。「おふたりの祈りはすでに聞かれ、答えられています。きょう教会幹部が出席して行なわれたステーク部大会は28あり、私があなたのステーク部に割り当てられました。そして今週の木曜日に、私はドイツ・デュッセルドルフ伝道部の宣教師と面接することになっています。」

その夫婦の願いは主に受け入れられたのであった。私は彼らの子息に会うことができた。その結果、彼は両親の願いに応じて、最後まで立派に伝道を続けたのである。

それから何年か後に、コロラド州グランドジャンクションステーク部を再び訪問した折にもあの夫婦にお会いした。その時には、兄弟に資格がなくて、大勢の子供たちと共に永遠の家族となる神聖な結び固めの儀式を受けられない状態であった。そこで私は、家族が熱心に祈るならばその資格が得られるはずですと話した。そして、いつか神殿で神聖な結び固めの儀式を是非とも自分に司式させてほしいとお願いした。

母親が請い、父親も努力し、子供たちも懇願し、全員で祈った。その結果はどうであっただろうか。幼い息子のトッドが、父の日の朝に父親の枕の下に置いた貴重な一通の手紙を読んでみたいと思う。

「パパへ、

ぼくはパパがだいすきです。でもすきでないこともあります。どうしてタバコがやめられないのですか。たくさんの方がやめているのに……どうしてパパはできないのですか。からだにも、はいにも、しんぞうにもわるいでしょう。パパはちえのことばをまもれなければ、ぼくやスキップやブラッドやマークやジェフやジニーやパムといっしょに、天ごくへ行けません。ぼくたちはちえのことばをまもっています。どうしてパパはまもれないのですか。パパはつよいし、おとななのに。パパ、ぼくは天ごくでパパとあいたいのです。みんなもあいたいのです。天ごくで、みんないっ

しょのかぞくになりたいです。……はなればなればいいです。

パパ、パパとママはふるいじてんしゃを2
だいかって、まいばんこうえんでのってくだ
さい。パパとママはわらうかもしれないけれ
ど、ぼくはしんけんです。としをとった人た
ちがこうえんでマラソンをしたり、じてんし
ゃにのったり、さんぽをしたりするのをみて
わらうけれど、その人たちのほうがパパやマ
マよりながいきをするとおもいます。その人
たちは、はいや、しんぞうや、きんにくをう
んどうさせているからです。その人たちはあ
とになってよかったとおもうとおもいます。

パパ、おねがいです。よい人になってくだ
さい。タバコをすわないで、おさけをのまな
いで、かみさまのおしえとちがうことはやめ
てください。パパにはぼくたちのそつぎよう
しきにでてほしいのです。タバコをやめてぼ
くたちのようにすれば、パパとママでモンソ
ンきょうだいのところへ行行って、しんでん
でむすびかためをうけ、ぼくたちとのむすびか
ためもできます。

ねえ、パパ、ママとぼくたちはまっています
す。パパとえいえんにいっしょにいたいので
す。ぼくたちはパパをあいています。すば
らしいパパへ。
トッドより

おにいさんやおねえさんがかいても、ぼ
くとおなじことをかくとおもいます。

ニュートンさんはタバコをやめました。
だから、パパもやめられます。だってパパ
はニュートンさんより、かみさまのおしえ
をよくまもっているからです。」

この願い、この信仰の祈りは聞き届けられ
た。そして私は今、このテンプルスクエアに
そびえ立つ美しい神殿の聖なる部屋に家族全
員が集まったあの晩の思い出を貴重な宝とし
てこの胸にしまっている。父親と母親と子供
たちが全員ひとつの部屋に集まって、永遠の
意義を持つ儀式が執行されたのである。そし

て謙遜な感謝の祈りで、待ちに待ったこの夜
は閉じたのであった。

祈りはたましいの 見えぬ望み、
述べても述べずも 胸に燃ゆる

神 生命、真理へ誘いたもう
主よ祈りの道 教えたまえ

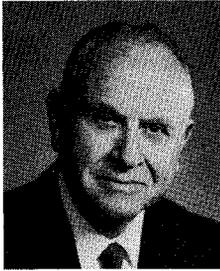
(讃美歌176番)

主は私たちに祈りの方法を教えて下さった。
私はすべての人がその教えを知ってそれに従
うことを、切に願い、心より祈る次第である。
イエス・キリストのみ名により申し上げる。
アーメン。



初等協会は 子供たちの人生を 豊かにする

十二使徒評議員会会員
デビッド・B・ヘイト



片田舎で始まった集いが、今日大勢の
子供たちに祝福をもたらしている

救い主は、あらゆる機会をとらえて弟子たちを教えられた。そのようなある日、救い主は、穏やかでない質問を受けた。弟子たちが自分の地位を知りたいと思ったのである。そのひとりが、「いったい、天国ではだれがいちばん偉いのですか」(マタイ18:1)と尋ねた。主は多分、御自分を取り囲んだ群衆の中の幼児に手を差し伸べ、その子を抱きよせられたに違いない。主は次のように言われた。「心をいれかえて幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう。

この幼な子のように自分を低くする者が、天国でいちばん偉いのである。」(マタイ18:3-4)
救い主はこの出来事によって、私たちおとなに、再び子供時代を思い出して弱さや悪を捨てるように教えようとされたのではないだろうか。私たちおとなは最も素晴らしい幼な子のような信仰を取り戻す必要がある。

「また、だれでも、このようなひとりの幼な子を、わたしの名のゆえに受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。」(マタイ18:5)

多分まだ幼な子を脇に抱いていたのであろう。主はさらにこう言われた。「しかし、わたしを信ずるこれらの小さい者のひとりをつまずかせる者は、大きなひきうすを首にかけて海の深みに沈められる方が、その人の益になる。」(マタイ18:6) 幼な子の純粋さには非常に価値がある。幼な子には真理と愛を知る権利があり、その権利は、その後の生活がどうであれ、決して委譲できないものである。

昨年の10月、ユタ州バウンテフルステーク部の初等協会は、子供たちに自分のお金、すなわち自分で働いて得たお金でモルモン経を買うことを勧めた。

子供たちはそれぞれ、見開きのページに自分の写真を張り、証を書いた。そのようにして準備した写真と証入りの620冊のモルモン経が伝道部に送られた。

数日前、その初等協会のサラ・リチャーズちゃんのもとへ、アリゾナ州タクソンのアール・モック夫人から次のような手紙が届いた。

「しんあいなるサラちゃん、あなたのしゃしんがはられたモルモンけいをほんとうにありがとうございます。かわいらしくてすてきなおじょうさんですね。わたしはこの本とあなたのしゃしんとあかしをいつもたいせつにします。

たったいま、本をぜんぶよみおわったところですが、わたしもこの本にかかっていることをしんじます。これをよんでとてもよかったです。これからなんどもよむつもりです。

もういちど、おれいをいいます。ありがとうございます。かみさまのしゅくふくをおいのりしています。」

初等協会、この組織はどのようにして誕生したのであろうか。主はカートランドの聖徒たちに、忠実に忍耐すればすべてのことが祝福となり、福音の理解に応じて、規則に規則

が加えられ、戒めに戒めが加えられると約束されなかっただろうか。(教義と聖約98:2, 3, 12参照)

子供たちのための靈感は、今から100年前、ユタ州ファーミントンに住むオーレリア・ロジャーズ姉妹に与えられた。子供たちに、礼儀や身だしなみと共に、子供の言葉で福音の原則を教える必要があったのである。

1878年のユタ州ファーミントンは、1,200人を超す人口で、美しい石造りの教会堂を持つ文化社会であった。扶助協会と青年男子文芸協会と青年女子相互発達協会があり、プラスバンドもあった。

このように靈的、文化的な色彩の濃いファーミントンにも、他の社会と同じような子供の問題があった。少年たちが夜遅くまで外に出ていて、暗闇や害悪におびやかされていたのである。

そこでモルモン大隊に従軍した経験を持つジョン・W・ヘス監督は、両親の集まりを開き、子供の面倒をよく見るように忠告した。そのような状態をオーレリア・ロジャーズ姉妹も憂慮し、考え、祈った。

1878年3月に、エライザ・R・スノー姉妹とほかに数名の姉妹たちがファーミントンで開かれた扶助協会大会に出席した。その日のことをオーレリア・ロジャーズ姉妹は次のように記録している。

「集会の後、……姉妹たちは停車場へ行く途中……私の家に立ち寄った。……子供たちと青少年の無頓着で乱暴な態度のことに話題が移り……私はこのように尋ねた。『このような状態が続いても、立派な人になれるのでしょうか。……少年たちのために何かの組織を作って、立派なおとなになるしつけができないもののでしょうか。』」(オーレリア・S・ロジャーズ *Life Sketches* 「人生のスケッチ pp.207-8)

エライザ・R・スノー姉妹はこの質問に強い印象を受けたようで、教会幹部に話してみると言った。それは、ブリガム・ヤング大管長が死亡した数ヵ月後のことで、当時、ジョ

ン・テイラー長老を会長とする十二使徒会が教会を管理していた。

それから間もなく、ヘス監督あてに子供のために新しい組織を設立してよいとの承認が届いた。そこでヘス監督はオーレリア・ロジャーズ姉妹にそのような組織の管理を依頼し、ロジャーズ姉妹はそれを快諾した。

彼女は少年たちの組織を設けることが可能かどうかじっくりと考えた。すると「胸の中が熱く燃えるように感じた。……少年たちが正しい事柄と行儀作法を教わる組織ができないものかしらという考えが、その時浮かんだ。」(同上 p. 207)

その時まで少女たちのことについては何も言われていなかった。しかし、オーレリアは少女を除外しては完全なクラスが構成できないと感じた。また、「初期の」とか「最初の」という意味で初等協会という名称が提案された。

1878年8月11日、オーレリア・スペンサー・ロジャーズ姉妹はヘス監督により最初の初等協会の管理者に任命された。オーレリア・ロジャーズ姉妹とふたりの副会長ルーザ・ヘイト、ヘレン・ミラー両姉妹は、監督の提言に従い、子供の名簿を作成し、初等協会への参加に対する両親の意向を聞くためにすべての家庭を訪問した。その周到な準備を終えて、1878年8月25日、115人の少年と100人の少女が石造りの教会堂に集まって、初めての集会が開かれた。その記念すべき日に集会所の前を通りかかった市民は、子供たちの歌声に耳を傾けた。

「神の聖徒の会うデゼレトに
子供ら あまた集まる
勇気を持てる 貴き霊は
福音に 聞き従え
聴け 子らの歌を
聖き 歌声
天使のごとく 汚れもなくて
うれしげに集う時に」

(「子供の歌」B-24)

今日、教会は忠実で卓越した開拓者の女性

をほめたたえる。オーレリア・スペンサー・ロジャーズ姉妹、彼女は逆境と試練、決断、愛に育まれた人、難事に難事を重ねて信仰を築いた人である。彼女の生い立ちはどうであったのだろうか。

オルソン・スペンサー兄弟と母を失った6人の子供たちは、ミズーリ河を渡し船で渡り、ウィンタークォーターズの未完成の丸木小屋へ急いだ。母親は一家がノーヴーを出てから間もなく死亡した。一方、オルソン・スペンサー兄弟はブリガム・ヤング十二使徒会長からイギリスで教会の新聞を発行するようにとの要請を受けていたので、出発する前に、子供たちの落ち着き先を決めておかなければならなかった。

オルソンはわずか14歳のエレンと12歳のオーレリアに4人の子供の親代わりになるよう教えた。また、ミルクがたっぷりとれて、売るのにも不自由ないように乳牛を8頭買入れた。そのほか、必要な時に、必需品の購入に当てることのできる馬も1頭いた。

その冬は長く、寒さが厳しかった。そして、ウィンタークォーターズで大勢の人々が死んだ。オーレリアは日記にこう書いている。「冬の前半はかなりよかった。……馬と牛は1頭を残してみんな死んでしまった。そのため、ミルクもバターもなく、食べ物はほとんど底をついていた。……食べる物には本当に苦勞した。ひき割とうもろこししかなく、それを水で伸ばして焼いたこともある。おなかがすけばおいしくない食べ物でも食べられるだろうと、夕ごはんを食べないで床に入ったことが幾晩もあった。」(同上 pp. 48, 50—51)

ある日、ブリガム・ヤング十二使徒会長がスペンサー家の小屋を訪れた。ところが小屋は片付いており、子供たちの身なりは清潔であった。父親が出かけてすでに1年経っていた時のことである。聖徒たちは西部へ旅立つ支度を始めていた。

子供たちはヤング十二使徒会長に、父親から着るものや髪のとかし方、病気の手当ての

仕方、お互いに対する態度についてよく手紙で教えられますと話した。ヤング会長は父親からの最近の手紙に目を通した後で、非常に大切なことだからよく考えるようにと前置きして、こう尋ねた。「もしお父さんがもう1年イギリスにいることになったら、どうかね。私たちはお父さんにぜひそうしてほしいと思っているのだが。」

子供たちは互いに顔を見合わせてから、年長のエレンの言葉を待った。エレンは静かにこう言った。「もしそれが一番良いことでしたら、そうして下さい。私たちは一番良いことをしたいですから。」(同上 p. 87)

ほかの子供たちもみな賛成した。以前に父親が書いてきた次のような言葉を思い出したからであった。「たとえ主が私たちの命を取るとしても、私たちは主を信頼しなければならぬ。そうすれば、きっとすべてがよくなる。」(同上 p. 62)

子供たちは父親と、父の助言と、天の御父を信じた。1848年の春、スペンサー家の子供たちは感謝の心をもって聖徒たちと共に西へ向かった。

父親のいない2年間に、6人の子供たちは様々な困難に遭った。平原を越えてソルトレーク盆地に着き、オールドフォートに入り、ひと部屋だけのアドービレンが造りの家に住んだ。親戚や友人が面倒を見てくれたが、責任は年上のエレンとオーレリアの肩にかかっていた。

やがてオルソン・スペンサー兄弟は、勇敢な子供たちの歓呼とキスと抱擁に迎えられて帰宅した。そしてニューイングランド・バプテスト教会の元教師であった彼は、新設されたデゼレト大学の学長に任じられた。娘のオーレリアも短期間その大学で学んだが、やがて平原を横断中に知り合った若き指導者トーマス・ロジャーズと愛し合うようになった。そしてふたりは結婚し、ファーミントンの丸木小屋で新生活を始めた。その後、グレートソルトレークを望むワサッチ山脈の山すそ

で、オーレリア・スペンサー・ロジャーズ姉妹は余生を送ったのである。彼女はここで12人の子供を産んだが、その内の5人は幼くして世を去った。そして、子供たちが成長するにつれ、彼女は子供の週日の健全な活動が欠けていることが気にかかるようになった。それが初等協会の起りである。

オーレリア・ロジャーズ姉妹は、錬金術師の娘であった。「自分の子供らを飢えさせたりはだかのまま置いたりはしない……神の律法に背き……ことを許さず、……真の道を行なうことと……互いに愛し互いに助けねばならぬ事とを教えるであろう」(モーサヤ4:15)というモーサヤの勧告は、彼女の生涯そのままであった。

こうして、片田舎に始まった子供の組織は、やがて全世界に広まったのである。初等協会のプログラムはどの一面を取っても、キリストの教えにかなっている。初等協会が初めの1世紀を閉じようとしている現在、健全さと徳と文化と奉仕と愛は、さらにこの初等協会に力と意義とを増し加えるのである。

初等協会が始まった当初は、レッスンのテキストも手引きもなかった。子供たちは従順、神を信じる信仰、祈り、時間を守ること、礼儀作法、知恵の言葉を教わった。オーレリアは次の主のみ言葉から励ましを得たことであろう。「この故に善を為すにうむことなかれ。これ汝ら今偉大なる一事業の基礎を置きつつあればなり。それ、小なる事より偉大なる事起る。」(教義と聖約64:33)

初等協会はこれからも、子供たちの人生を豊かにするという目標を満ち続けるであろう。子供たち自身のみならず、家族や友人にも祝福をもたらすことだろう。すべての子供たちに、自分を愛して下さる天父がおられることを理解させ、イエス・キリストを信じる信仰をはぐくませ、現代社会の圧力や問題に屈しないように福音に従って生きようとする望みを抱かせることが必要である。オーレリアは次のように書いている。「子供の霊的福利を図

るという、親に課せられた最も神聖な務めに優先するものが何かあるだろうか。この疑問がいつも私の心を離れなかった。」(同上 p. 206)

初等協会の責任は大切である。しかし、親としての務めはもっと大切である。有害なテレビ番組のほかに、薬物乱用や幼児の虐待、暴力行為の容認、子供のポルノ、今日様々な悪事がある。調査では、アメリカの子供たちは起きている時間の半分以上をテレビに費やしているという。12歳までに18,000回殺人場面を見ていることになり、この年齢までに10,720時間をテレビの前で過ごすという。ところが、初等協会に休まず出席してもその時間はたかだか352時間に過ぎない。

私たちはオーレリア・ロジャーズ姉妹のみならず、過去1世紀にわたり私たちを教えて下さった初等協会の指導者と教師をもここでたたえたい。

子供たちは私たちの宝物。

どんな犠牲を払っても価値がある。

天使たちがいつまでも守って下さるように、ひとりの子も失われることのないように。

(同上 p. 3)

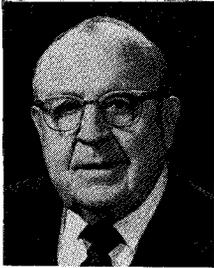
私たちが親として、また霊の指導者として、主の次のみ言葉の意味を理解できるように願う次第である。「心をいれかえて幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう。」(マタイ18:3) イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

☆

☆

聖靈を 悲しませてはいけない

七十人第一定員会会員
ジェームズ・A・カリモア



私たちの内には、間違っただけをして自らの手で追い出してしまわない限り、友がいる。その友とは聖きみたまである

兄 弟姉妹の皆さん、まず皆さんに、英国と南アフリカの聖徒たちからのごあいさつをお伝えしたい。実に喜ばしいことに、これらの地域でも主のみ業は著しい進展を見ている。現在、英国には27、南アフリカにはひとつのステーク部が組織されている。指導者も立派で、み業は進展し、人々は祝福にあずかっている。

さてこの度、この地域からひとりの教会幹部が召された。聖徒たちは、このニュースに必ずや大喜びすることだろう。カスバート兄弟、故国の人々はきっとあなたを心から祝福し、喜んでおられることと思う。本当におめでとう。

英国と南アフリカにおける仕事は実に楽しい。毎週末に私はステーク部を訪問するが、その時ステーク部長に、あなたのステーク部の一番の問題は何ですかとよく尋ねる。すると、次のような答えがしばしば返ってくる。

「会員一人一人の決意が乏しいことです。主のみ業を優先しようという決意に欠けるのです。」そのような時に思い出されるのはニーフアイの言葉である。

「私はまた天の御父が『わが愛子の言うことは真実にして確なり。終りまで忍ぶ者は救われん』と仰せになる声を聞いた。……

さて私の愛する兄弟たちよ、私は尋ねたい、あなたたちはこの真直ぐで狭い道に入ったら、それで万事終りであるか。ごらんそうではない。あなたたちかたがもしもキリストの言葉によってキリストを確く信仰し、人を救う大きな能力のあるキリストの功德に全く頼らなかつたなら、あなたたちはここまで進んでくることさえできなかったのである。

それであるから、あなたたちはこれからもキリストを確く信じて疑わず、完全な希望の光を抱き、神とすべての人とを愛して強く進まなければならない。それであるから、この後もたえずキリストの言葉をよく味わいながら強く進み、終りまで耐え忍ぶならば『永遠の生命を受ける』、かくの如く天の御父が言いたもうた。」(IIニーフアイ31:15, 19—20)

私たちに行くべき道を示して下さる聖靈の光を受けることは、きわめて大切である。神権を通して働く聖靈は、私たちの生活を大いに高めて下さる。

「而して今輝きて汝らを照らすその光は、汝らの眼を明るくする彼によりて来り。而もまた汝らの理解を生かす光と同じ光なり。

而してこの光は、神の前よりさし出でて巨大なる宇宙に満ち充てり。」(教義と聖約88:11—12)

主はフレデリック・G・ウイリヤムスに、次のように語っておられる。

「これを以て汝忠実なれ。而してわれに命ぜられたる職務に服し、弱きを助け、垂れたる腕を挙げ、かよわきひびぎを強うすべし。

而して汝終りまで忠実ならば、汝はわが父の家にわが備えたる住居にありて、不死不滅の冠と永遠の生命とを与えられん。」(教義と

神は、神のすべての子供が戒めを守り、人生の目的を達成することができるように、一人一人にみたまを与えて下さっている。次の聖句に記されている通りである。

『目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた』のである。

そして、それを神は、^{みたま}御霊によってわたしたちに啓示して下さったのである。御霊はすべてのものをきわめ、神の深みまでもきわめるのだからである。……

ところが、わたしたちが受けたのは、この世の霊ではなく、神からの霊である。それによって、神から賜わった恵みを悟るためである。

この賜物について語るにも、わたしたちは人間の知恵が教える言葉を用いなくて、御霊の教える言葉を用い……。」(Iコリント2：9—10, 12—13)

ロレンゾ・スノー大管長は、みたまを求めることの大切さについて次のように語っている。

「人が神と人の前に明らかな良心を持ち続けるためには、それなりの方法がある。それは自らの内に神のみたまを持ち続けることであり、そのみたまとは、すべての男女に与えられる啓示のみたまである。このみたまは、些細な事柄についても、その人が何をなすべきかを提案として示してくれる。私たちはこのみたまの本質を理解することができるように努めなければならない。それが理解できれば、常に正しいことを行なうことができるようになるからである。これは広く末日聖徒全員に与えられている特権である。私たちは、毎日の生活においてみたまの導きを受ける特権が私たちに与えられていることを知っている。……このみたまは、全くの暗闇を歩くことがないようにすべての男女に与えられている。従って大管長や十二使徒、それにイスラエルの長老たちのもとに勧告を求めてやって来ることは、必ずしも必要なことではないの

である。教会の会員には何をなすべきかが分かる。自らの内に、自分が受けるはずの勧告を一字一句違えずに知っている友がいるのである。福音を受け入れ、バプテスマの水に下り立ち、聖霊の賜を受けるために頭に手を按かれて以来、私たちの内には、間違ったことをして自らの手で追い出してしまう限り、友がいる。その友とは聖きみたまであり、神につける事柄を察知しては私たちに示して下さいなされる聖霊なのである。これこそ私たちが光を知ることができ、続けて暗黒の世界にとどまることのないように、主がお与え下さった偉大な手段なのである。」(ロレンゾ・スノー *Conference Report* 「大会報告」1899年4月, p.52)

使徒パウロは、私たちが聖きみたまを悲しませ、みたまを失うことのないように、勧告を与えている。

「神の聖霊を悲しませてはいけない。あなたがたは、あがないの日のために、聖霊の証印を受けたのである。

すべての無慈悲、憤り、怒り、騒ぎ、そして、また、いっさいの悪意を捨て去りなさい。

互に情深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように、あなたがたも互にゆるし合いなさい。」(エペソ4：30—32)

ハロルド・B・リー長老は、次のように語っている。

「私はみたまから教えを得たことがある。その結果、今私は、この世界で安全な場所はどこにもないこと、私たちの住んでいる場所とても例外ではないということを知っている。最も大切なのは、私たちがどのように生きるかということである。戒めを守って初めて、イスラエルは安全を得るのである。つまり、主の聖きみたまを伴侶とし、その導きと慰めを受けられるよう戒めに従って生活し、また神の代弁者としてこの世における管理を任されたこれらの人々の言葉に進んで耳を傾け、教会の勧告に従う時、イスラエルは安全を保てるのである。」(「大会報告」1943年4月, p.129)



大会の説教に聞き入る聖徒たち

教会を支える活力源は、聖なる神権を通して働く聖霊である。教会はすべてのプログラムを啓示によって運営している。主はオリヴァ・カウドリに、次のように告げられた。

「誠にまことにわれ汝に告ぐ。……汝ある知識を受くべしと信じて信仰をもて真心より求むる如何なる事の知識をも、これを得んことは汝の神にして汝の贖い主なる主の今生きて在るが如く正に確なり。

然り、見よ、われ今汝に來りて汝の心の中に留るべき聖霊によりて汝の智と情に告げんとす。

そもそも、見よ、これは啓示の『みたま』なり。』(教義と聖約8：1—3)

教会の大管長に指示が下されるのもこの方法である。ステーク部長、ワード部監督、教会員一人一人に指示が下されるのも、この同じみたまによる。

私は次の歌詞が好きである。

みたまは魂を目覚めさせ、
心は喜びにあふれる。
われらは神聖な目標を眺め見て、
主を身近に感じる。
シナイ山でのような柴はなくとも、
主よ、今少しみ姿を近くに現わしたまえ。
われらの心は燃えなかったか。
みたまはここに火と燃ゆる。
みたまは奉仕の望みを駆り立て、
義務の道を明らかにする。
主よ、日ごとわれらに示したまえ、
すべての行ない、すべての言葉に。

(讚美歌204番〔英文〕)

私は、この大なるみ業が真実であるという私の証を兄弟姉妹の皆さんの心に残したいと思う。この証は、今述べたと同じ方法で、つまり聖霊を通して、得たものである。以上のことを、イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

世の汚れに 染まらないように

七十人第一委員会会員
ジョージ・P・リー



人は神とサタンの両方と同時に手をつなぐことはできない。いずれか一方に限られる

愛する兄弟姉妹、きょう私は、教会の若人の皆さんにお話したいと思う。私は教会の若人を愛している。今日の若人は、有史以来最も立派な人々であると、私は心から信じている。このように申し上げる理由のひとつは、私が管理しているアリゾナ州ホルブルック伝道部で働く献身的で立派な宣教師たちの中に、その証拠を見ることができからである。今日の宣教師はかつてなく準備をよく整え、成長し、高い靈性を備えて伝道に従事している。

皆さんは前世において、最も勇敢で、最も気高い霊たちの内に数えられていた人々である。したがって神は、ある神聖な目的をもって、この苦難に満ちた末の時代まで皆さんをとどめ置かれたのである。今日地上に生を受けている選ばれた霊たちは、前世ですでに選びを受けていた。天で従順であり、勇敢であり、義しく生活していたために選ばれたので

ある。その時、皆さんにはものを見る目があった。すなわち霊の目をもって神と、長子であるイエス・キリストを見た。また、サタンをも見たのである。

天上で戦いを起こしたサタンが皆さんを自分に従わせようとした時、皆さんは主の側について戦った。皆さんは誠実であり、忠実であった。皆さんは義しい生活をし、主に望まれることをすべて行なった。

そして今、この苦難に満ちた末の時代に、天父はみ業を遂行するため再び皆さんを必要としておられるのである。天上において試しに遭った時、誠実かつ忠実に対処し、その試しに合格した皆さんを、主は今必要としておられる。主はまた、皆さん方若人に、地上のあらゆる悪に立ち向かい、前世におけると同じように現世でも誠実かつ忠実であるよう望んでおられる。さらに、長子であり、贖い主であり、救い主である神の生みたまう独り子イエス・キリストの再臨に備えて、主のみ業を遂行するよう望んでおられるのである。

ここで、皆さんが主の僕として働く備えをするに当たって、世の汚れに染まらないよう、次の事柄を提案申し上げる。

1. 神は、若人の皆さんが徳高くあるように望んでおられる。皆さんは、神の選りすぐりの息子、娘である。従って、徳高く生活できるはずである。主は、「おぼい絶えず徳を以て汝の想を飾るべし」(教義と聖約121:45)とっておられる。

若人の皆さんが持っているあらゆるものの中で最も大切なものは徳である。徳は高価な真珠である。人は、富と名声を得るために、生涯額に汗をあくせくと働く。しかし、皆さんの最も大いなる富と名声は、徳高い生活を送ることによってこそ得られるのである。そして、徳高い生活から得られる富と名声とは、自分自身と隣人に、また神よりもたらされる平安であり、それに義しい生活のもたらす喜びと幸福である。また、誠実かつ忠実で、主を愛する者として天父の生命の書にその名

前を記録されることは、世の誉れや栄光を得るよりも、はるかに価値のあることである。

徳と純潔を盾とし、よろいとして身にまわっていただきたい。そうすれば決して打ち負かされることはないであろう。値踏みのできない尊い徳を公然と身にまわっていただきたい。王冠の宝石のように箱の中にしまいこまないように。

パウロは述べている。「もし人が、神の宮を破壊するなら、神はその人を滅ぼすであろう。なぜなら、神の宮は聖なるものであり、そして、あなたがたはその宮なのだからである。」(1コリント3:17)

若人の皆さんに申し上げる。神を侮ってはならない。徳は神の律法である。

2. 神は、皆さんが常に祈るように望んでおられる。私は子供の頃、ナバホ族の保留地にある粗末な狭い小屋の中で、ひざまずいてよく祈ったものである。私は多くの試練を受け、その度に誘惑に立ち向かうに必要な信仰と力と勇気を天父に願い求めたのである。私がひざまずいて祈っていると、私の兄弟たちは小屋のすき間から笑ったり、叫んだりしてよく私をひやかしたものである。しかし私はそのようなことを一向に気に留めなかった。

幼い頃から誘惑に立ち向かう信仰と勇気をひざまずいて神に願い求める若人は、誘惑に遭っても、それが色あせて非常に魅力のないものであることを発見するであろう。この満ち足りた俗世に浸ってはい、神が生きておられ、この教会が真実であるという証を強くすることはできない。たとえわずかでも第一歩を踏み出し、絶えず成長に努めることである。

皆さんは祈りによって信仰を養い育てる必要がある。信仰という名の筋肉を、自分自身を支えるほどに強くなるまで鍛練していただきたい。愛する若人の皆さん、ひざまずいて祈るようにしていただきたい。主は皆さん一人一人に見合った証を備えて下さっている。しかし、願い求めなければその証を得ること

はできないのである。

すべての若い男女は、デートに出かける前に祈るようにすべきである。非常に質素で貧しい環境の下に生まれたナバホ族の少年が洗練された神の器になれたのは、ひざまずいて祈ったことによる。若い時に祈る者は大人になっても祈る。そして、さらに祈り続けるならばやがて神となるのである。

3. 神は、皆さんが主イエス・キリストと教会、および主の義に従って立つように望んでおられる。ヨシュアは自分の歩む道を決め、次のように宣言している。「あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい、ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。」(ヨシュア24:15)

皆さんもヨシュアに倣う必要がある。ヨシュアと同じ決心をすべきである。新たな誘惑に遭っても、皆さんは何を決意し、どのように対処すればよいかすでに知っているはずである。すなわち、主に仕えなければならないということである。皆さんの求めるべきものは神の誉れであって、人の誉れではない。

私は家族の中でただひとりの末日聖徒として保留地で少年時代を過ごした。その間私は、価値観を異にする友達から何度も誘惑を受けた。実の兄弟や姉妹まで私を試みた。

私の兄弟たちは、私にも自分たちと同じような生活をさせようと相談し、ある日私に襲いかかって私の手足を縛りあげようとした。そして、身動きのできなくなったところで、私の口におどろ酒とビールを流し込もうとしたのである。しかしその企ては成功しなかった。私があらん限りの力と勇気をふりしぼって抵抗したからである。私は必死にその場から逃げた。しかしそれでも私は彼らを愛し、彼らを赦して下さるよう天父に願い求めた。

皆さんもそのようであってほしい。皆さんの肉親の兄弟姉妹、愛する人々、友人と真向うから対立するような事態に陥ろうとも、主の側に立つようにすべきである。

4. 神は、皆さんが自分なりに作り上げた

神の姿を追い求めるのではなく、真実の神のみに仕えるよう望んでおられる。主は言われた。「彼らは主の義を打建てんために主を求めずして、あらゆる者おのが心のままに振舞いおのれの神の姿を求むれども、その姿は人の世の像にしてその本質は一個の偶像なり。」(教義と聖約1:16)

皆さんは、神とサタンの両方と同時に手をつなぐことはできない。いずれか一方に限られる。霊的な事柄よりもハードロックミュージックやその他この世のものを重要視する時、その人はサタンと手を結び、暗闇の中を歩んでいると言えよう。そうするうちに、その人は霊的な事柄に無感覚となり、やがて教会や伝道に対する興味と気力を失うであろう。そして、その心は恐れと疑惑に包まれる。また、自分なりの道を歩み始め、「その姿は人の世の像にしてその本質は一個の偶像なり」と言われる自分で作り上げた神の姿を追い求めるようになる。スポーツの花形選手や映画スター、

ロックミュージックのスター、お金、スポーツカーといったものは、「人の世の像にしてその本質は一個の偶像」にすぎないのである。したがって、それらのものをあがめないようにしていただきたい。

5. 神は、皆さんが従順であるよう望んでおられる。両親、神権指導者、および主に従順になれるよう自らを鍛練していただきたい。従順は人に成功と幸福をもたらし、不従順は人を反抗と霊性の衰退に導く。両親から16歳になるまでデートをしてはならないと言われたら、その言葉に聞き従いなさい。また、神権指導者から純潔を守るようにと勧告されたら、その通りにしていただきたい。さらに、主からすべての若い男性は伝道に出るようにと勧告されたら、そのみ言葉に耳を傾け、従っていただきたい。「汝らわが言うところを行わば、主なるわれこれに対して責任あり。されど、汝らわが言うところを行わずば汝ら何ら約束を受けず。」(教義と聖約82:10) 主は



こう告げておられる。

6. 神は、皆さんが一生懸命に聖典を探求するよう望んでおられる。若い頃から聖典を愛読するようにしていただきたい。また、自分の標準聖典を持つようにお勧めする。聖典は心を啓発し、力と勇気と平安と落ち着きをもたらす。それに引き換え、不健全な世の文学は、人の心を暗くする。

聖典は若い男性に伝道の備えをさせ、また彼らが実り多い伝道を行なえるように助ける。一方、若い女性には母親となる備えをさせ、シオンにおける麗しく優しく愛情に富んだ母親となる助けを与える。また何よりも、聖典は、皆さんが世に打ち勝てるように助け、日の光栄の世界において神々となり、王となり、女王となることを可能にしてくれる。主は次のように言っておられる。

「主、われ言いたることは、われ言いたるなり。われ言い逃れせず。天地は過ぎ行くとも、わが言は過ぎ行くことなくして成就すべし。わが声にて言われるも、僕らの声にて言われるもみな一つなり。」(教義と聖約1:38)

若人の皆さんにお願いします。どのような誘惑に遭おうとも、主の側に立つ決意をし、主に従っていただきたい。皆さんは主のみ前から断ち切られるにはあまりにも麗しく、清く、純粹である。誘惑を自分の身に招かないようにしていただきたい。誘惑の中で最もよくないのは、自分で計画し、おぜん立てをする誘惑である。もし世の人々が皆さんを嫌い、時代遅れだと言ったら、次の主のみ言葉を思い起こしていただきたい。「もしこの世があなたがたを憎むならば、あなたがたよりも先にわたしを憎んだことを、知っておくがよい。

もしあなたがたがこの世から出たものであったなら、この世は、あなたがたを自分のものとして愛したであろう。しかし、あなたがたはこの世のものではない。かえって、わたしがあなたがたをこの世から選び出したのである。だから、この世はあなたがたを憎むのである。」(ヨハネ15:18—19)

若人の皆さん、世の人々に倣ってはならない。世の人々と異なりなさい。世の人々とは異なる、特異な存在となることは、楽しいものである。皆さんは、この世を克服し、罪を克服し、憎しみを克服し、偏見を克服し、失望を克服し、肉欲を克服して、前世におけると同じように誠実かつ忠実な者となる使命を帯びている。前世で皆さんは試しに合格したのである。勇敢であり、従順であった。主はその皆さんに、この世においても同様に従順で、勇敢であるよう望んでおられるのである。

「人はひと跳びで地獄に行くわけではない」と言った人がいる。私は皆さんが誘惑に抗する十分な力を備え、悪の兆しが見えたならば慎重にそれに対処してその誘惑を避けるよう祈っている。きょうの皆さんは、美しく、麗しく、清い。しかし、あすの皆さんは皆さんの選びにかかっている。皆さんの将来は明るく、祝福に満ちている。若さは力である。教会が有する最も大いなる将来の力は若人である。国家についても同様である。

神は皆さんを愛しておられる。私も皆さんを愛している。皆さんのような若人がいることを、日々神に感謝している。また、神が永遠にわたって常に皆さんを見守りたもうように祈っている。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



タバナクル合唱団指揮者ジェラルド・D・オタリー

決 断

大祝福師

エルドレッド・G・スミス



決断を下す際に、主の導きを求め、神から与えられた自由意志の権利を行使していただきたい

私もモンソン長老と同じように、若人についてお話ししたいと思うが、通訳の方々のことや、割り当てられた時間について考えると、そうすることをあきらめざるを得ない。

きょう私が申し上げたいことを一言でまとめると、「決断」ということである。決断するとは、神より与えられた自由意志の権利を行使することである。

ある人は、自分で決断したことを他の人に押し付けようとする。

また、中には、自分で決断することを嫌う人もいる。

即座に正しい決断を下す賜をいただいている人もいる。他のあらゆる賜と同様、決断力を強くするには訓練が必要である。そして、訓練すればするほど、決断は容易に下せるようになるのである。

農場に働きに来た町の少年もそのような経験をした。じゃがいもを選別していた時に、

ある人から農場で働くことが好きかと尋ねられ、彼はこう答えた。「仕事はとても好きです。でも、選別って大変なんですね。」

余暇をどのように過ごすかによってその人の人格が計られるとは、よく言われる言葉である。すなわち、自分ひとりで下す決断によって人格は計られるのである。

人がこの世で生活する主な目的のひとつは、決断の下し方を学ぶことである。会社や教会、家庭における良い指導者とは、適切な決断を下すことのできる人である。そのことに関連して、監督やステークス部長が下す決断について考えてみていただきたい。

主は言っておられる。「これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり」(モーセ1:39)と。

ロレンゾ・スノーは福音の計画を説明するに当たって、その計画の全貌を次のような短い言葉で見事に表現した。「人が現在あるがごとくに神もかつてあり、神が現在あるがごとくに人もなり得るのである。」(ロレンゾ・スノー、1892年1月11日)

人が現在の神の段階に至るためには、自ら重大な決断を下せるようにならなければならない。

多くの人々は、祈れば、あるいは神権者から祝福を受ければ、すべての問題に対して主から答えをいただけるものと考えている。また、若人の中には、自分の選ぶべき学科、学校、職業、および会社を明らかにして下さるよう主に願う人もいる。確かに私たちは祈りや祝福を通して多くの助けを得ることができる。しかし、最終的な決断を下すのは皆さん自身である。

私たちが正直に生活している限り、主は私たちの学科や職種をそれほど気にしてはおられないのではないかと、私は考えるようになった。主が心に掛けておられるのは、私たちが不死不滅と永遠の生命、すなわち昇栄を得ることができるかどうかということである。

人はみな固有の才能を持っている。糸図を

調べて、皆さんの好きなこと、得意なことの中で先祖から受け継いでいる才能を見いだしていただきたい。そして、その分野のスペシャリストになっていただきたい。皆さんが学業や日々の務めに励む時に、主はその努力に対して祝福を与えて下さるであろう。

主はオリヴァ・カウドリに、啓示を受けるための鍵を与えられた。

「見よ、われ汝に告ぐ、汝心の中によく思い計り、その後願うこともし正しからば汝願わざるべからず。願うこと正しからば、その時われ汝の心を内に燃やさん。これによりて汝にその正しきを感じしむ。されどもし願うところ正しからずば、かかる感なくして汝の心は次第に鈍くなり、そはついに悪の悪たるを忘れしむるに至らん。」(教義と聖約9:8—9)

これは、私たちが重要な決断を下す際に常に指針とすべきことである。言葉に出すか否かを問わず、私たちは日々絶えず決断を下している。これが自由意志、すなわち選択をする権利である。

今日の教会の成長ぶりから見る時に、1831年ミズーリ州ジャクソン郡において与えられた次の啓示がいかに素晴らしいものであるかがよく分かる。

「見よ、われ汝らにすべての事を悉く命ずるは至当ならず。そは、すべての事^{ことごとく}已むを得ざれば為さざる者は怠惰なり、賢き僕にあらざればなり。これを以て彼は良き報いを受くことなし。

われ誠に汝らに告ぐ、人は努めて善き業に従い、多くの事をその自由意志によりて為し、多くの正しき事を為し遂げよ。

そは人自らの中に自由の意志ありて己れの事を自ら為す者なればなり。従って人善を為さば決してその報いを失わざらん。」(教義と聖約58:26—28)

シナイ山を下りて来たモーセは、次のように言った。「すべて主につく者はわたしのもとにきなさい。」(出エジプト32:26) またヨシ

ユアは叫んでいる。「それゆえ、いま、あなたがたは主を恐れ、まことと、まごころと、真実とをもって、主に仕え……なさい。……あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。」(ヨシュア24:14—15)

不正直を避けて正直を選び、同胞に奉仕し、神の王国を建設するために、神から与えられた自由意志を賢明に用いていただきたい。

また、早い時期に伝道に出る決意をしていただきたい。現在、伝道に出るべき多くの若人が伝道に出ていない。これは、早い時期にその決意をしなかったために、十分な計画を立てられなかったからである。その結果、ほかの活動の方が大切に思われるようになったのである。

皆さんが福音を宣べ伝える期間は2年間だけではなく。生涯福音を宣べ伝えようと決意すべきである。伝道の2年間は、福音の教え方を学ぶ時期であるに過ぎない。その経験を生かして、私たちは残りの生涯を福音の伝道に費やすのである。

皆さん自身の行ないによって福音を宣べ伝えていただきたい。徳高く清い生活を送っていただきたい。不道徳に走らず、ポルノにおぼれることなく、清い生活を送る決意をしていただきたい。そうする時に、皆さんは、主の宮居でこの世においても永遠にわたっても有効な結婚をするにふさわしい者となるのである。また、ふさわしい者になろうとするだけでなく、主の宮居で結婚しようと決意していただきたい。

日の光栄の結婚の律法に従って生活するようお勧めする。結婚式では、「ふえよ、地に満ちよ」と命じられる、主は、教義と聖約中の、日の光栄の結婚に伴う祝福について述べた箇所、「わが誓約を守り罪無き者の血を流す殺人を犯さずんば」(教義と聖約132:19)と述べておられる。皆さんはこの言葉をどう理解しておられるだろうか。主はここで墮胎について触れておられる、と考えることはできないだろうか。よく考えていただきたい。まだ

この世に生を受けていない子供以上に罪のない者がいるだろうか。主はなぜ結婚に関する事柄の中で、殺人を取り上げておられるのだろうか。受胎は神と人との契約である。すなわち、人が肉体を創造し、神がその肉体に霊を送り込んで下さるのである。人が罪を犯さない限り、主は決してこの契約を破棄されない。

聖典を学んでいただきたい。福音の計画について学び、その一端を担う者となっていた

だきたい。

また、主の戒めを守り、神の王国の一員として、再臨に備えなければならない。

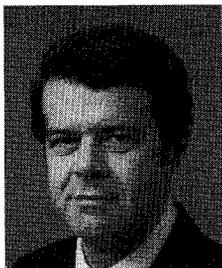
決断を下す際に、主の導きを求め、神から与えられた自由意志の権利を行使していただきたい。そうする時に、皆さんは私と同じように、この教会がイエス・キリストの教会であることを知るであろう。このことをイエス・キリストのみ名により証申し上げる。アーメン。



ゴードン・B・ヒンクレー十二使徒評議員会会員（左）とスペンサー・W・キンボール大管長

自分ひとりの力では 到達できません

七十人第一定員会会員
ロナルド・E・ポールマン



新しく召された教会幹部の言葉

私 たちすべての者の救い主である主は、私たち一人一人を、「誠に真にへりくだりたる心と悔いる精神」（教義と聖約59：8）を持ってみもとに来るようにと招いておられます。私は今ほどそのような主の招きと要請の重大さを感じたことはありません。それと同時に私は、すべてが一新され、大いなる力が湧き上がるのを感じて、心から感謝しています。

私はこの召しを信仰と希望を持ってお受けしたいと思います。小さなカメが門柱の頂きにいる自分を見だして驚くように、私も自分ひとりの力では到底この場所に到達することはできなかったことをよく知っています。

愛する家族、友人、恩師、指導者、その他交流のあった方々に、私は言葉では表現できない感謝の気持ちを抱いています。振り返ってみると、私の人生は自分が考えていたよりもはるかに困難であり、それでいて満たされたものであったように思います。私はただ、

これまでに経験してきたいろいろな事柄が、今後の私の人生に何らかの形で役立つよう祈っています。それというのも、救い主のみ業に携わるよう神の予言者によって召されたからです。しかし同時に、自分の至らなさを痛感している次第です。その至らなさを思うに付け、この召しに対する自分の備えはたった今始まったばかりであることを認めざるを得ません。

支持の拳手をして下さった、キンボール大管長を初めとする教会幹部の皆さん、およびこの場にお集まりの皆さん方一人一人に心から感謝しています。私はここで皆さんに、自分に与えられる責任を全力を尽くして遂行することをお約束申し上げます。

私は今から30年ほど前に、熱心に学び、心から祈って、聖きみたまにより、ナザレのイエスが神の御子であり、私たち一人一人の救い主、贖い主であるという確信を得ました。またこの確信を得た後、同じみたまの導きにより、主の福音が永遠に真実であり、実際にこの世に回復されたことを知ることができました。さらに、私の大好きなモルモン経を含む四大標準聖典は神より与えられた記録であること、ジョセフ・スミスからスペンサー・W・キンボールに至る大管長はすべて神の予言者であること、そして天父は私たち一人一人を愛しておられることをも知ることができたのです。私はこれらの事柄を知ることができて感謝しています。それと同時に、これらの事柄が真実であることを、愛する救い主イエス・キリストのみ名により皆さんに証します。アーメン。

☆

☆

「神の王国を 出て行かせたまえ」

十二使徒評議員会会長
エズラ・タフト・ベンソン



全世界のキリスト教徒たちは、神のみ国が来るようにと何世紀にもわたって祈り続けてきた。今がまさにその時である

先日、ヨーロッパ大陸とスカンジナビア半島を訪れた時に、私は何度か新聞記者の会見を受けた。記者たちは、改宗者の増加から教会が著しい発展を遂げていることを知って、とても驚いた様子であった。私は彼らに言った。「私たちはこのように教会員が急速に増えていることを感謝しています。しかしもっとうれしいことは、教会員の信仰と霊性が高まっていることです。」次いでその言葉を裏付けるために幾つかの統計を引用した。私が1943年に初めて十二使徒評議員会に入った当時、聖餐会の平均出席率、つまり日曜日の礼拝行事の出席率は20パーセントであった。それが、今日全世界の出席率は約41パーセントである。しかも若人の出席率は46パーセントである。また、子供たちが出席する初等協会の出席率は67パーセントにも達する。教会員の成長、進歩、霊性の高揚は、決して偶然の所産ではない。それはまぎれもなく永遠の真

理に基づいた素晴らしいプログラムがあるからである。

イエスは最初の十二使徒に、これが時のしるしであることを述べられた。

「そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。」(マタイ24：14)

今日、末日聖徒イエス・キリスト教会は、入国を許可してくれるすべての国々で回復された福音のメッセージを宣べ伝えている。これは、「末日に神の王国が建てられ、決して滅びることも他の民の手に渡されることもないことを予見し、予言した」(ジョセフ・F・スミス「死者の贖いに関する示現」44節) 予言者ダニエルの受けた示現と啓示の成就である。彼は王国の始まりを、人手によらずに山から切り出される石にたとえている。示現ではその転がり落ちた石はやがて大きな山となって全地に満ちた。(ダニエル2：34—35, 44—45参照)

この夢の解き明かしは、近代の啓示の中で主が予言者ジョセフ・スミスに与えておられる。

「神の王国の鍵はこの世の人の手に委任され、福音はここより転じ行きて世の果にまでも達せん。あたかも人手によらず山より切り出されたる石の転がり出でて、ついに全世界に充ち満つるが如し。」(教義と聖約65：2)

これが、神が定められたこの教会、この王国の行く末である。

しかしこの末日のみ業に神のみ手のあることを認めない人もいる。イエスはニコデモに言われた。「だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない。」(ヨハネ3：3) 聖霊の導きと靈感を受けない人は、教会の発展を単に社会的な出来事としか見ないことだろう。

私たちは、聖徒たちが義しい生活を送り、神の王国の発展が続くようにと望んでいる。しかしそれに反対するものが必ず存在すると

いうことは言うまでもない。十二使徒評議員会は1845年に次のような声明を出している。「このみ業は発展を続け、政治的、宗教的な集団の反発がもっと強まるであろう。その時に、中立を守る王、統治者、従者、団体、個人はいなくなるであろう。すべてのものは二分される。すなわち、神の王国に味方するか、さもなければ敵対する。」(ジェームズ・R・クラーク編、*Messages of the First Presidency of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints* 「末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会メッセージ」1：257)

主は次のように宣言を下された。「すなわちシオンはその美と聖とを増し、その境域は拡がりそのステーキ部は堅うせられざるべからず。」(教義と聖約82：14)正義が増せばそれにつれて悪も増す。私たちの周囲にはこれを立証する出来事が数々あり、ときどき教会員を絶望に追いやることがある。しかし私たちは、主が御自分のよしとされる時に、みこころにかなう方法でそれを解決して下さるという保証を与えられている。

「主、われは悪しき人々に対して怒り、……われ怒りて誓をなし地の面に戦いあれと命じたれば、悪しき者悪しき者を殺し、あらゆる人々恐怖におそわれん。

而して聖徒らもまたほとんど逃るること能わざらん。さりながら主われは聖徒らに与^はし、御父の前より天下り来り、消えざる火を以て悪しき人々を焼き尽さん。」(教義と聖約63：32—34)

過去に、スペンサー・W・キンボール大管長の祖父にあたるヒーバー・C・キンボール副管長は次のように予言した。

「聖徒たちはやがて誠実さを試される試練に遭うであろう。その圧力は次第に大きくなり、彼らの中の義人たちは救いが与えられるまで日夜主に助けを求めるようになるであろう。」(“*Prophecy of Heber C. Kimball*” *Deseret News* 『ヒーバー・C・キンボールの予言』「デゼレト・ニューズ」1931年5月23日, p. 3)

しかし主は近代の啓示の中で、「もし汝らに備えあらば怖ることなからん」(教義と聖約38：30)と言っておられる。果たして今私たちには備えができているだろうか。私たちがそのように努めるならば、神は必ず私たちに将来の試しに耐える備えができるように助けて下さる。

私たちに与えられたこれらの警告と、増加しつつある悪の現象を見て、教会員たちは次のように問う。「教会はどうして社会の悪をもっと明らかにしないのでしょうか。」「大きな陰謀をめぐらす者がいるのでしょうか。」「学校や一般社会にはびこっている偽りの教えと戦うために、私に何ができるでしょうか。」「不安定な政治経済情勢の中で、息子や娘たちに大学や将来の職業のためにどのような備えをさせればよいのでしょうか。」「教会には私たちを取り巻く問題に対して用意された答えがありますか。それとも、ほかに答えを得るために何かしなければなりませんか。」

私たちは偽りの社会のただ中から抜け出せない自分を見るとすぐに絶望してしまう。しかし私たちは、主が「世の光として、また人人を救う者として」(教義と聖約103：9)この世の聖徒たちを遣わされたことを忘れてはならない。今はまさに「シオンは起ちてその美しき衣を着けざるべからず」(教義と聖約82：14)と言われたその時である。将来教会とこの世との違いはますます大きくなるであろう。しかし、その違いのゆえに、私たち神の子供たちのために定められた神の計画に従って生きたいと願う人々にとって、教会がもっと魅力的なものとなるよう望んでいる。

教会は将来、正直、高德、真実、ほむべきことの象徴となるであろう。そしてこのような義の立場をとることによって、あらゆる罪悪、あらゆる偽りの教えを否定することだろう。大管長会と十二使徒会は偽りの教えや罪悪に注意を払い、主が指示される通りに世の人々と聖徒たちに絶えず警告を与え続けるであろう。

確かに悪の陰謀はある。それらすべてはサタンとその軍勢からくるものである。サタンは主の^声に「聴き従わぬすべての者を欲するままに虜となす」(モーセ4:4)大きな力を持っている。彼は、政府を通して、また偽りの教育、政治、経済、宗教、社会哲学、あるいは秘密結社を通して、そのほか様々な方法をとって、人々にその邪悪な影響を及ぼす。彼の力と影響力は非常に大きく、できれば選民をも惑わそうとする(マタイ24:24参照)。主の再臨が近づくとつれて、サタンはいろいろ巧妙な方法を用いて人々を惑わし、その活動の範囲を広げることだろう。したがって聖徒たちはほむべきすべての事柄をしっかりと堅持しなくてはならない。家族の長は、国家、学校、家庭、地域、商店、映画館等、人々とのすべての交流の場において子供たちが健全な影響を他の人々に及ぼせるようにする責任がある。また両親は、子供たちのために自由を守ること、また、借金や浪費をして次の世代を苦しめることのないようにすることの大切さを知る必要がある。神の王国の福音は自由の中においてのみ繁栄をもたらす。したがって、すべての成人は政府の指導者を選ぶ際、主のみ言葉に従う責任がある。「われ、主なる神は汝らを自由ならしむ。故に、汝らは誠に自由なり。……

さりながら、悪人たち世を治むる時は国民悲しむ。

この故に、汝ら正直なる人々と賢き人々を熱心に探し求めよ。」(教義と聖約98:8-10)

各地方、各国の公務に携わる人を選ぶ時は、賢明で徳高い人を選ぶようにすることが是非とも必要である。

教会の指導者から特別な指示を受けていないからと言って、自分の住む地域社会の事柄に関心を示さない家長があまりにも多過ぎる。主は次のように述べておられる。

「われ汝らにすべての事を悉く命ずるは至当ならず。そはすべての事已むを得ざれば為さざる者は怠惰なり、賢き僕にあらざればな

り。……

……人は努めて善き業に従い、多くの事をその自由意志によりて為し、多くの正しき事を為し遂げよ。

そは人自らの中に自由の意志ありて……。従って人善を為さば決してその報いを失わざらん。」(教義と聖約58:26-28)

この神権時代の予言者ジョセフ・スミスは次のように語っている。「健全で良い感化を世に及ぼし、不健全なものをなくすように一生懸命努力する義務が私たちにある。」(*History of the Church*「教会歴史」5:286)

私たちは次のように自問してみなければならぬ。私たちは積極的に良い感化を及ぼし、全人類を押し流してしまおうとする悪の洪水を食い止めるよう最善を尽くし、自由の擁護に努めているだろうか、と。

家長の主要な責任は、若人を将来に備えさせることである。福音の原則は、効果的な家庭の夕べを通して教えることができ、その教えを学んだ若人は将来に対して何の恐れも抱かないほどに強められるであろう。このような教育は、信仰と証を持って、楽しい雰囲気の下に行なわなければならない。

当教会の使命は、積極的に世のすべての人々に王国の福音を宣べ伝え、親族の死者を救い、教会の聖徒たちを完成させることである。これまでの歴史を通じて、教会は時間、計画、資金の無駄なくこの使命の達成に努めてきた。つまるところ、このような努力はこの世の問題を解決するためのものに過ぎないのである。

ローマの総督ピラトは、自分の前に引いて来られたイエスに、あなたは王なのかと尋ねた。それは政治的な質問であった。しかし救い主は答えられた。「わたしの国はこの世のものではない」(ヨハネ18:36)と。主のこの答えは今日にも適用する。主の王国のみ業は非常に気高いものである。世界の国々が直面している経済、政治、社会問題は、神の助けなくしては解決されないのである。

将来必ずや聖徒たちの信仰が試される時が

来るであろう。しかし私たちは、現代の啓示に述べられている主のみ言葉に頼り、それを力とすることができる。

「神はその能力で必ず義人たちを守りたもう。故に義人はおそれるに及ばない、……『たとえ火の力を以てするに至るともかれらは救われるべし』とあるからである。」(I ニーフアイ22:17)

「われは汝らのために戦わん。」(教義と聖約105:14)

「汝に反抗せんとして造る武器は一つも役に立たず。……こはすなわち主の僕らの受くる祝福なり。」(III ニーフアイ22:17)

「また大いなる艱難人の子らの中にあらんも、われはわが民を護るべし。」(モーセ7:61)

神の王国は衰退しないし、滅びない。そして「この世の国は、われらの主とそのキリストとの国」(黙示11:15)となるまで存続するであろう。

予言者ジョセフ・スミスは次のように予言している。

「いかなる汚れた者の手も、このみ業の発展を止めることはできません。迫害は威を振り、暴徒は連合し、軍隊は集合し、中傷の風が吹き荒れるかもしれません。しかし神の真理は大胆かつ気高く、悠然と出で立ち、あらゆる大陸を貫き、あらゆる地方に至り、あらゆる国に広まり、あらゆる者の耳に達し、神の目的は成し遂げられるでしょう。かくして大いなるエホバは、み業は成ったと告げられることでしょう。」(*History of the Church*「教会歴史」4:540)

全世界のキリスト教徒たちは、神のみ国が来るようにと何世紀にもわたって祈り続けてきた。そして、今がまさにその時であると、私たちは心から宣言する。

全世界の末日聖徒に申し上げたい。心を騒がせず、神の戒めを守るように。私見を加えることなく、生ける予言者の勧告に従っていただきたい。主のみ前を正しく歩むよう子供

たちを教えていただきたい。家庭で朝夕祈り、自分と意見が合わなくても行政に携わる人々のために祈り、全世界の国々の門戸が開かれて福音が宣べ伝えられるように、すでに与えられている勧告に従って祈っていただきたい。国の法律に従っていただきたい。行政機関に逆らってはならない。公民としての義務を果たそう。「悪に屈してはならない。常に善をもって悪に抗しなさい。」(バージル)

神の王国で忠実な生活を営んでいるすべての方々に申し上げたい。「まず神の国と神の義とを求めなさい。」(マタイ6:33)「汝ら立ちて己が光を輝かせ。これ汝らの光よろずの国民のはたじるしとならんため、シオンの土地とまたシオンのステーキ部とに集合すること、一つは防禦のためとなり、また暴風雨の避所となり、憤りのありのままに全地に注がる時に一つの避所ともならんためなり。」(教義と聖約115:5-6)

「主の御名を呼びてこの世に神の王国を来らせ、世に住める人々をしてこれを受け、来るべき時代の備えを為さしめよ。その時、人の子は地上に建てらるべき神の王国にかなうため、彼の栄光に輝く衣を召されて天の中より降りたもうべし。

これを以て、願わくは天の王国の来らんため、まず神の王国を出で行かせたまえ。」(教義と聖約65:5-6)

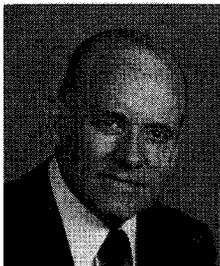
私はへりくだり、末日聖徒イエス・キリスト教会が今日地上に回復された神の王国であることを証する。教会の教えと祝福は、御父のすべての子供たちのために備えられたものである。このことが真実であることをイエス・キリストの聖なるみ名により証申し上げる。アーメン。

☆

☆

くつをはきなさい

十二使徒評議員会会員
ハワード・W・ハンター



準備を始め、信じ、万全の備えをしておきなさい。神の王国における奉仕の機会を失うようなことを言ったり、したりしてはならない

今宵、世界各地で大勢の若人が、ソルトレイク・シティのモルモン・タバナクルで行なわれているこの神権部会の話に耳を傾けている。したがって私はこれから、その若人を対象としてお話したい。しかし、若人の父や祖父である方々も、できれば聞いていただきたいと思う。

数年前の教会の『インブルーズメント・エラ』誌に、「くつをはきなさい」という若人向けの記事があった。それは、田舎のある小さな高校のフットボールチームに籍を置く、名もない選手の物語であった。この青年はチームに入ることは入ったが、一流の選手になれる見込みはまるでなかった。実際、正選手が全員負傷でもしない限り、その可能性はなく、補欠のそのまた補欠という有様だった。

フットボール・シーズンが終わりを迎える頃、彼は試合に出る機会を与えられなかっただけでなく、すでに出たいという望みさえな

くしていた。そしてその年の最後の試合の時のことである。彼は靴を脱ぎ、毛布にくるまり、ベンチに座って仲間の試合を眺めていた。

ところが、その試合の半ばを過ぎた頃、コーチが彼の名前を大声で呼んだ。彼は一瞬驚いて、何かの間違いだろうと思った。するとまたコーチが彼を呼んだ。「お前だ。ぐずぐずするな、攻撃につけ」というコーチの声である。

どうしたらよいのだろうか。彼が最初に考えたのは、摔倒でもしてしまうことであった。次に考えたのは、聞こえないふりをすること、そして最後に考えたことが、「ちょっと待って下さい。今、靴のひもを結びますから」と言うことであった。そこで彼は男らしくベンチを飛び出すと、ヘルメットのひもを結びながらチームの方へ一目散に駆けて行った。しかし、まだ靴は履いていなかった。白のソックスだけで駆けて行く彼に、両チームの選手はもとより、観衆やコーチも目を見張った。恐らくコーチは、摔倒せんばかりの思いだったに違いない。

彼は試合再開の合図をしたが、初めて試合に出た興奮でまごついているのがはた目にも明らかだった。ボールを取っても、どちらの方向へ走ればよいか分からない有様であった。味方チームが右側へ動くのとは逆に彼は左へ動き、ついには、相手チームの突進にひとりで立ち向かって、猛進する敵前衛のうねりの中のみ込まれてしまった。

彼は後日、次のように語った。「だれも私に得点をあげることを期待しませんでした。見当はずれの方向に走って行ったことも理解してくれました。でも、靴を履かずに飛び出して行ったことに弁解の余地はありません」と。

今宵、この話に耳を傾けている若人に申し上げたいことは、常に福音の靴を履き、将来様々な機会のあることを信じて行動して欲しいということである。私は今、アブラハム・リンカーンの言葉を思い出している。彼は長い間、日の当たらない生活を送っていた。選挙のたびに落選した。しかし、公職に就いて

人々のために働きたいと願い続けた。次の言葉は、彼がそのような状態の中で語った言葉である。

「準備をしておこう。そうすればいつか機会が巡ってくるだろう。」それからしばらくして、リンカーンは、機会は備えのある生活に味方するということを体験から学んだのである。

私は、皆さん方若人が現に必要とされているということ、そしていつか将来、王国を助けるために召される日が来るということ、確かに知っている。実際私たちはすでに皆さんを召している。皆さんの交わりと友情と奉仕と標準が必要なのである。皆さんが受けている責任の中には、小さく感じられるものがあるかもしれない。しかし、そのような責任もきわめて大切であって、将来のもっと大きな奉仕への準備なのである。

オリヴァ・カウドリも、しばらくの間であるが、試合続行中に靴を脱いだひとりであった。そして、そのために、教会歴史の中で大きな失望を引き起こすことになったのである。彼は、予言者ジョセフ・スミスがモルモン経を翻訳している間、その書記として働いていた。そして、主から翻訳の場を与えると告げられた。(教義と聖約6：25参照)

しかし、オリヴァは、十分な準備をしていなかった。自分の能力に対する信頼も、この偉大な末日のみ業に対する信仰も、以前に比べて少し弱まっていたのである。「準備ができるまで少し待って下さい」と彼は叫んだ。しかしやがて彼は、永遠のみ業は長くは待ってくれないということが分かるのである。主はオリヴァにこう言われた。「われ……この特権を取り去りしは、汝が嘗て……始めたる如くに……つづけざりしによる。……汝怖れしにより時去りて今は必要ならず。」(教義と聖約9：5，11) こうして彼は人生の好機を捕え損じて、好機は永遠のかなたに去ってしまったのである。

キンボール大管長からお許しがいただけたら、大管長がいかによく備えをしておられる

か、個人的な事柄についてお話したいと思う。故ハロルド・B・リー大管長の葬儀の席上、キンボール大管長は、愛と思いを込めて次のように語った。「リー大管長は逝ってしまいました。このようなことになろうとは夢にも思いませんでした。このようなことが決して起こらないようにと、私は心から願っていました。妻のカミラと私は、だれにも負けないくらい、リー大管長の長寿と幸福を一心に、また絶えず祈ってきました。私はリー大管長が先に逝くとは思ってもみませんでした。私はリー兄弟より4歳も年上です。ですから私は、自分がリー兄弟より先に逝くと思っていました。私の心は、リー兄弟のことを考えると張り裂けんばかりです。私たちは、どれ程深く彼を愛していたことでしょう。」(Ensign「エンサイン」1974年2月号 p.86)

もちろん、キンボール大管長は、自分が大管長になるだろうなどとは考えてもいなかった。しかし、召しを与えられた以上、それがいかに予期せぬものであったにせよ、それを受けなければならない。そして、キンボール大管長にはその召しを受ける備えができていたのである。私たちは、長年にわたってキンボール大管長と懇意にしているが、大管長はいつも備えができていた。試合続行中に靴を脱ぐなどということは決してなかった。一度としてそのようなことはなかった。だから、「準備ができるまで少し待って下さい」と言う必要もなかった。今の召しを受けようなどとは夢にも思っていなかったかもしれないが、大管長は、その生涯のすべてを、現在受けている責任の準備のために費やしてきたのである。

そのような準備がすでに何年も前から始められていたということ、例を挙げて御紹介したいと思う。キンボール大管長が、今宵私の声に耳を傾けている皆さんの年代の頃の話である。大管長が14歳の時、教会のある指導者が当時大管長のお父さんの管理しておられたステーキ部を訪問して、会衆に聖典を続むよう勧告した。

キンボール大管長は、当時の経験を思い出して次のように言っている。「私はそれまで一度も聖書を読んだことがなかったのを認めた。そしてその晩その説教を聞いたあと、1ブロックほど離れた家に戻り、狭い屋根裏部屋へ通じる階段を昇り、小さな机の上にある小さな灯油ランプに火を付けた。それから、創世記の初めの数章を読んだ。1年後に聖書を閉じた時には、その大きな素晴らしい本を隅から隅まで読み通していた。……私の手に負えそうもなかった。しかし、他人にできることなら、自分にもできることを私は知っていた。」

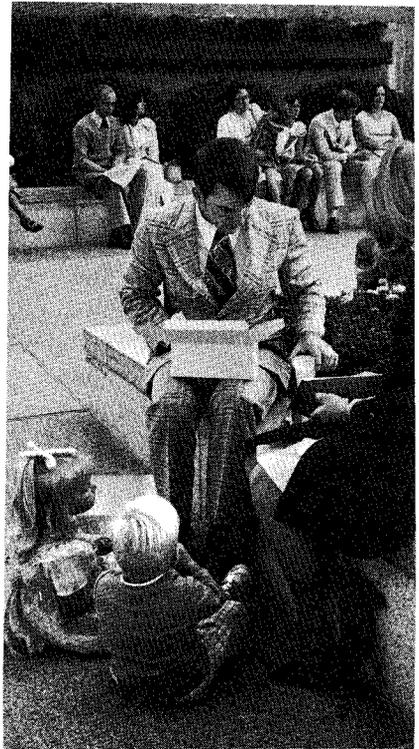
キンボール大管長はさらに次のように言っている。「14歳の子供には理解しにくい箇所が数々あることも分かった。しかし、66の書を、1,189章（英文で）1,519頁にわたって読み終えた時、私はひとつの目標を定めてそれを達成できたという、言い知れない満足感を味わったのであった。」

キンボール大管長はこの話を次のように結んでいる。「さて私は自慢するためにこの話をしているのではない。私が灯油の明りでそれができたのだから、皆さんは電気の明りでそれができる、ということをお願いがために例としてこの話を使ったに過ぎない。私は1頁も残さずに聖書を読み通したことを今でも喜んでいる」（『豊かで満ち足りた人生を計画する』『聖徒の道』1974年9月号、p.416）このようにして、また他の数々の過程を経て、若きスペンサー・ウーリー・キンボール兄弟は、将来何が待ち構えているかも知らず、黙黙と、かつ着実に準備を重ねていたのである。

ここでもう一度、教会の若人たちに申し上げたい。準備を始め、信じ、万全の備えをなし、信仰を持ちなさい。神の王国における奉仕の機会を失い、自分を王国にふさわしからぬ者とするようなことを言ったり、したりしてはならない。将来の召しに備えなさい。間違いなく召しは来るのだから。福音の靴を常に履いていなさい。パウロはエペソ人に、「立

って……平和の福音の備えを足にはき」（エペソ6：14—15）なさいと書き送っている。主が今宵この場におられたら、はるか昔に天使がシモン・ペテロに向かって言った言葉を繰り返されることだろう。「起きあがりなさい。……くつをはきなさい。……ついてきなさい」（使徒12：7—8）

神権を持つという特権に恵まれていることは、なんと栄えあることであろうか。神は確かに生きておられる。イエス・キリストは神の御子であり、私たちの主なる救い主である。現在、この世に神の予言者がいることを証申し上げる。今宵、私たちは、この大いなる会で、その予言者と席を共にする特権に浴している。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



わたしの思いではなく、 みこころが成るように

七十人第一定員会会員
ロバート・L・シンプソン



40億の人々が、私たちが現在持っているものを必要としている。それを分かち合う準備をしていただきたい

愛する神権者の皆さん、教会の全神権者の集うこの偉大な集會に半年ごとに集い、私はそのたびに心を満たされてきた。この地上のいかなる力も、共通の大義として神の神権を持ってこの場に集っている多くの神権者の力に恐らく比肩し得ないであろう。

私たちは、トランジスターや同軸ケーブル、人工衛星といった現代の奇跡のお陰で、互いに遠く隔たった地に住んでいながら、共にこの集會に参加することができる。ソルトレーク・シティから地球を約半周したオーストラリアのパースのインド洋に面した海岸で、宣教師たちと共にこの神権會に参加しているブルース・オピー伝道部長の姿が私には目に見えるようである。その地ではすでに明日の朝である。

アルゼンチンにはカルロス青年がいる。そこは今、真夜中である。しかし、生ける予言者から教えを受ける特権に浴することを考え

ると、睡眠時間が2,3時間少なくなることなど大した問題ではない。カルロス青年は、宣教師として、生涯の2年間を主のみ業に投資しようと準備を進めている。

投資について一言申し上げる。先日、大通りを歩いていると、人々を投資に誘う看板が多いのに驚いてしまった。どの銀行でも、投資の条件に応じて、投資額の6パーセントから8パーセントの配当を約束している。

丁度4カ月前、ひとりの宣教師が、オーストラリア・ニュージールランド地区の伝道部での伝道を終えた。次の手紙は、主のみ業に2年間を投資したら、主がどれ程、利息や配当金を支払って下さるかを証明するものである。その宣教師は次のように書いている。

「まず第一に、しかも一番重要なことは、祈りの重要性と力とを知ったことです。主と交わりを持てるようになり、どうすれば主の答えを知ることができるかも分かるようになりました。主は『そうではない』と言われる時もそれが分かるようになりました。主に對して絶対的な信仰と信頼を寄せることができるようになったのです。このようなことは以前はなかったことです。聖霊のささやきに注意深く耳を傾けることができるようになりました。また、識別の賜もよく使えるようになりました。この賜は以前からある程度は持っていたのですが、伝道中に、その賜を適切に使う方法を知りました。しかし、何にも増して大切なことは、自分自身について、私には本当に何ができるのかを知ったことです。」

さらに続けて次のように書いている。「自分にも他の人々と心を通わせる能力があることを知りました。これは、私の生涯の中でも、最も画期的な出来事です。伝道を終えてからは、大学構内でもちゃんと顔を上げて、人をまともに見て歩けるようになりました。今では人といっても気持ちが高ぶったりしません。どんな状況にも敢然と立ち向かえますし、自分の考えを述べることに恐れはありません。しかも当を得た意見を述べることでできま

す。物の考え方が以前よりはるかに理路整然とし、落ち着きも出てきました。母は私がこのように変わったことが信じられないようです。また、私はこれまでになく物事に真剣に取り組み、多くの成果をあげられるようになりました。私はこれまでも人々に関心を払っていましたが、今では、その関心をどのように示したらよいか分かるようになりました。昔ほどあっさりとし、あきらめなくなりました。ですから私が伝道のおかげで大きく変わったことに疑いの余地はありません。

私は、解任を待っている時に、主が私の働きを喜んで下さっているという証を得ました。伝道部長の面接を受けた時は、とても感激しました。特に伝道部長が私の目を見詰めて、『私はあなたのことを誇りに思っています』と言ってくれた時は、本当に感激でした。私はその言葉で十分報われました。振り返ってみると、最善を尽くして主に仕えたという思いが込みあげ、感慨無量です。伝道は他では決して得ることのできない満足感と平安を与えてくれます。』

ほかにも素晴らしい部分がある。「私は、帰還後聖餐会で何を話そうかとあれこれ考えました。その聖餐会にふさわしい話をしたかったのです。後日、ブリガム・ヤング大学にいる私のところへ監督から手紙がきました。私の話を聴いて、ワード部の青少年が3人、伝道に出る計画を立て始めたというのです。

私はこれまで、伝道に出るよという召しに応えたことを、一度も後悔したことはありません。伝道はこれまで最もやりがいのあることでした。ですから、一生懸命働いた2年間に感謝さえています。伝道は私の性格を強めてくれましたし、少なくとも、天父が望まれるような人間になる第一歩を踏み出させてくれたのですから。家には学べないことを沢山学びました。教会は疑いなく真実です。私はその会員であることを本当に感謝しています。また、救い主との間に築き上げている関係に心から感謝しています。それ

そが私の伝道の成果であって、それ以外の何のものでもないからです。』

実に素晴らしい手紙である。主こそ世界で最高の利息を支払って下さる御方であると、何のためらいもなく申し上げることができる。6パーセントや8パーセントでなく、1,000パーセントもの利息を支払って下さるからである。しかも、その利息は一時的なものではなく、永遠に続くのである。何と驚くべき配当ではないだろうか。

しかし、自分の進歩だけを目的として伝道に出ることは、間違った動機で正しいことをするのと同じである。主のみ業のために赴くという召しに応える人はだれでも、他の人々の生活に祝福をもたらすという、全く非利己的な望みをその目的としていなければならないのである。

救い主と同じように、神の代理を務めることが、神権の権能を持ち、それに付随する義務を引き受けている私たちの仕事なのである。それは必ずしも私たちに都合の良いものではないかも知れない。しかし、最も大切なことは、主のみたまのささやくまに、みたまの指示に従うということである。伝道に召されるということは、決して容易なことではない。むしろほとんどの場合、幾多の苦闘が付き物である。また、大きな犠牲が求められ、目標達成のためには、例外なく数々の重労働と堅い信仰が必要とされる。

神権を持つ兄弟の皆さん、つい最近聖任されたばかりの執事であろうと、あるいは経験豊かな大祭司であろうと、皆さんの義務は伝道の召しに備えることである。これまでに伝道に出た経験がない人は、主のみこころに従って、伝道の備えをしていただきたい。過去に伝道の経験がある人に対しては、主はもう一度伝道に出る準備をするよう望んでおられる。世界には、私たちが現在持っているものを必要としている人々が40億人もいる。しかも、急を要するのである。

最後に、アンギアノ長老が最近経験したあ

る出来事をお話して結びとしたい。彼は、メキシコ系アメリカ人で、スペイン語で伝道する準備をしていた。ところが、予言者から召された地は、予想に反してニュージーランドのクライストチャーチであった。スペイン語を話す青年がスペイン語のめったに話されることのない国に派遣される場面を想像していたのだ。

フィリップ・ソントッグ伝道部長は、空港でこの単身赴任の宣教師の到着を待っている間、英語しか通じない伝道部に来るスペイン語の話せる青年を、どこに派遣したら良いものかと、神の助けを求めている。乗客が降り始めると、ソントッグ伝道部長はすぐに新任の長老を見つけた。外見からすぐに分かった。真新しい白のワイシャツ姿が、休暇旅行の他の乗客と比べて、目立って白いからである。長老の活気に満ちた態度は、特に印象深かった。まさに主から油注がれた長老である。彼が空港ビルに近づくと、その足取りも速くなった。伝道を始めようとする意欲に燃えていたことは明らかである。彼は伝道部長に近づくと、メキシコ流に心の込もった抱擁をしようと、両腕を差し伸べた。そのようにして育った彼は、遠く離れたニュージーランドでも、その習慣が抜けなかったのである。そして、彼の口をついて最初に出た言葉が、「伝道部長私はバプテスマを施すためにやって来ました」であった。

さて、伝道部長というものは、普通、新任の宣教師の訓練のために自分の補佐を務める長老を解任するようなことはしないものである。しかし、3度にわたってそうするようみたまの勧めを受けたソントッグ伝道部長は、はっきりとした確信をもってその勧めに従った。こうして、中国人とマオリ人を両親に持つ好青年、クング長老が、この国際的な組み合わせの同僚として召されたのである。

それから3週間とたたないうちに、ソントッグ伝道部長は、このふたりの長老が、ニュージーランド南島ではおそらくこの家族だけ

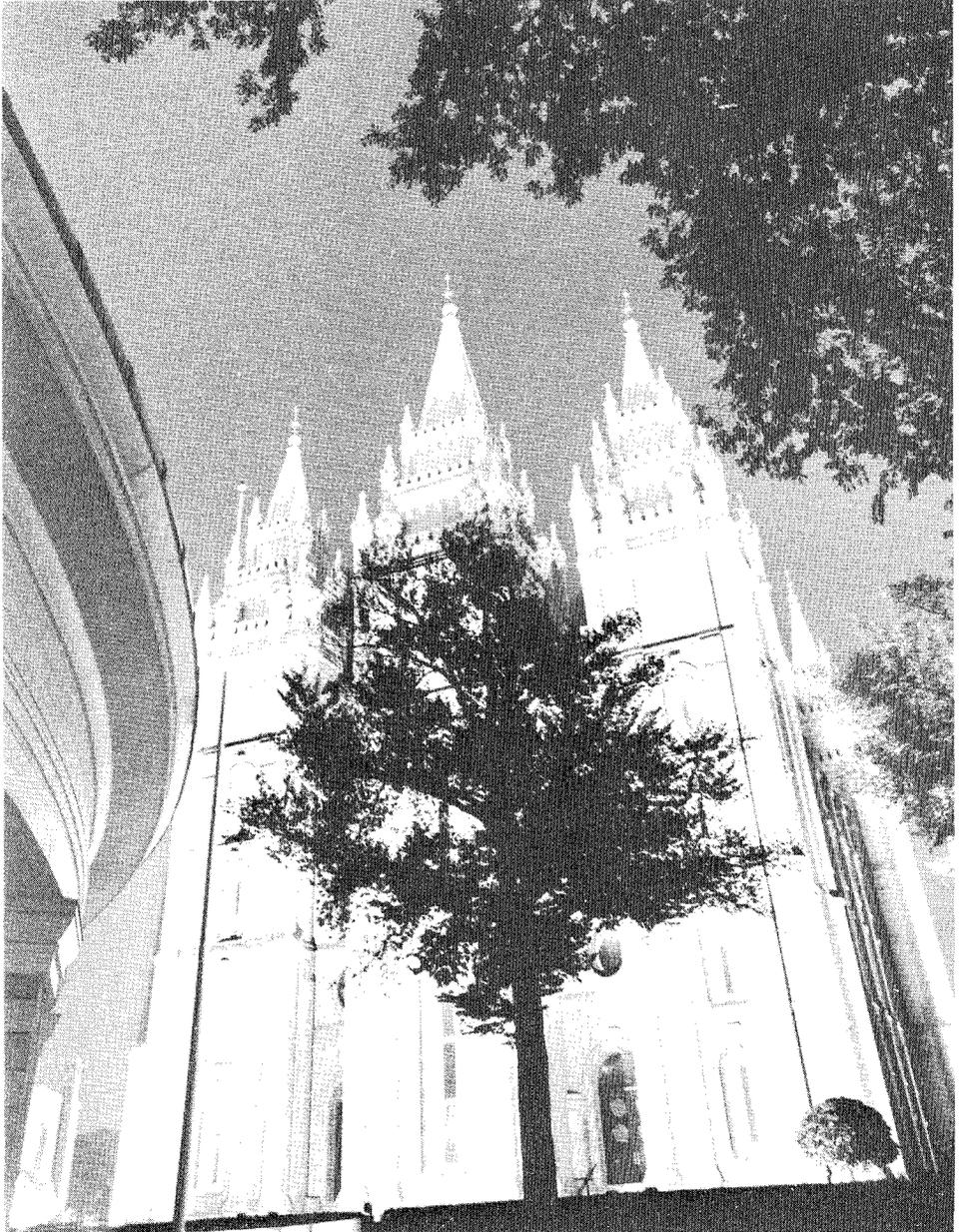
だと思われるが、スペイン語しか話せないという家族に出会ったという報告を受けた。ニュージーランドへ着いたばかりのこのチリ人の家族は教会を必要としていた。この家族には、アンギアノ長老が必要だったのである。そのため、主は生ける予言者を通じてこの必要に答えて下さったのである。それだけではなく、近くチリからニュージーランドへ移住する予定の家族が100以上あるという報告も受けた。現在アンギアノ長老は、新たにバプテスマを受けた家族と共に、フレンドシップをし、レッスンを始めようとチリからの移住者を待ち受けている。

主はこのみ業に責任を持っておられる。私たちの携わっているこのみ業は、全世界の天父の子供たちに救いをもたらす神聖な仕事である。私たちは、予言者がさらに進んだプログラムを指示できるように、今、準備をしなければならない。

宣教師としての私たちに与えられている最大のチャレンジは、人々を高め、文字通り世の道から人々を導き出すことである。今の世は、不道徳に揺らぎ、不浄な思いで弱められ、利己主義に毒され、人の高慢のために満身創痕の状態にある。絶えず徳をもって思いを飾り、自ら信ずることが神のみ業に携わることにより強くなるように祈っている。(教義と聖約121:45参照)。私たちはまず第一に、できる限り世の思いから抜けさなければならぬ。そのように、高い基盤の上に立ってこそ、手を差し伸べることも、引き上げることも、また真理を教えることもできるのである。いつ召されるかは問題ではない。どこへ派遣されるかも問題ではない。ワード部の区域内かもしれないし、地球を半周した国かもしれない。しかし、救い主はひどい苦悩の中であってこう言われた。「父よ、……わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。」(ルカ22:42)今宵、この会場に集う人々が皆、「わたしの思いではなく、みこころが成るよう」と言えるであろうか。

全員がそう言えるようになるよう、心から祈っている。今宵この偉大な神権者の集會に集う人々は皆、世の望みとなるよう予任され

ている人々だからである。以上が私の証である。イエス・キリストのみ名により、申し上げる。アーメン。



啓示

七十人第一定員会会員
ヘンリー・D・テイラー



主の召しを受けている人は皆、義しい生活をしている限り、その召しに関する啓示を受ける権利がある

聖 歌隊の兄弟たちに一言申し上げたい。今宵素晴らしい歌を歌って私たちに感動を与えて下さり、心から感謝している。

かつて大管長会から、次のような重要な声明が発表された。「この教会の起源、存続、将来に対する希望、これらはすべて絶えざる啓示の原則に依存している。」(大管長会の声明 *Church News* 「チャーチニュース」1970年1月10日、p.12)

啓示は、広義には、「神から人間への交通」と定義され、様々な方法で主から下される。

この神権時代の最初の予言者であったジョセフ・スミスは、主がそのみこころを人に伝えるために定められたほとんどすべての方法で啓示を受けた。ジョセフが受けた最初の啓示は、私たちの天父と復活された御子、救い主イエス・キリストの直接の訪れであった。

この最初の啓示はしばしば「最初の示現」と言われているが、この啓示のその後には及ば

ず影響は非常に大きかった。第1に、啓示はすでにやみ、神と人との交通はもはやないとする従来の考え方を完全に覆した。第2に、人は本当に神のかたち形どって造られたという真理を再確認した。第3には、天父と御子はそれぞれ別の御方であって、目的とみこころが一致しているという点でのみひとつであるということ、疑いの余地なく立証したことである。

予言者ジョセフ・スミスは、天の使いたちからの交通も受けた。モロナイの場合がそれである。モロナイはジョセフに、翻訳されてモルモン経として出版されることになっていた金版のある場所を明らかにした。後に、バプテスマのヨハネが訪れてアロン神権を回復し、ペテロ・ヤコブ、ヨハネが訪れて、メルケゼデク神権を回復した。さらに、通常カートランド神殿の示現と言われる示現において何人かの使いが訪れている。(教義と聖約13, 27, 110章参照)

教義と聖約を読むと、予言者ジョセフ・スミスがウリムとトミムによって受けた啓示の多いことに気付く。このウリムとトミムは、予言者がモルモン経を翻訳する際にも用いた道具である。

予言者ジョセフ・スミスは、示現を目にすることにより、神から英知を授けられた。第76章の場合がそれである。また、神の靈感が彼の心に働いて啓示を受けたこともある。実際のところ、教義と聖約に記された啓示の大半は、この方法によって与えられたものである。

聖典を研究すると、主がこの地上に住む子供たちと交通する方法は、ほかにも様々なことが分かる。ステパノは、石で打ち殺される前に聖霊に満たされ、天を見詰めていると、「イエスが神の右に立っておられる」(使徒7:55)のが見えた。サウロは、この時に石を投げつけた仲間のひとり、ステパノやその他イエスに従う人々を積極的に迫害していた。その後、ダマスコへ向かう途中、サウロは、

「天から光」がさすのを見た。

「彼は地に倒れたが、その時『サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか』と呼びかける声を聞いた。

そこで彼は『主よ、あなたは、どなたですか』と尋ねた。すると答があった、『わたしは、あなたが迫害しているイエスである。とげのあるむちをければ、傷を負うだけである。』」（使徒9：3—5 欽定訳より和訳）

こうしてサウロは心を改め、生き方を変え、やがてパウロという名で知られるようになった。その後、彼は使徒に選ばれて、救い主の教えに忠実に従い、熱心な弟子となった。

しばしば、神のみこころは、夢で伝えられる。エジプトの王パロは何度も夢を見た。王は知者やその他の人々を呼び寄せて、夢を解き明かさせようとしたが、だれひとりそれができなかった。

パロの夢はこうである。彼が川のほとりに立っていると、7頭の雌牛が川から上がって来て糞を食っていた。この7頭は美しく、また肥え太っていた。その後、別の7頭が上って来た。この7頭は、やせ細っていて栄養不良であった。そして、この7頭は肥えた雌牛に襲いかかると、これをむさぼり食ってしまった。（創世41：1—4 参照）

パロは、不当に投獄されている青年がいることを知った。この青年は、パロの給仕役の長と料理役の長の夢を解き明かすことのできた青年であった。この青年は名をヨセフと名乗った。彼はイスラエルの12人の息子のひとりであったが、兄たちのために、エジプトへ行く途中のイシマエルびとに売られたのであった。ヨセフは、獄から呼び出された。そして、パロが見た夢を聞くと、それを解き明かした。その解き明かしは豊作が7年間続き、その後7年間ききんが続くというものであった。ヨセフは、豊作の年の間に剰余の穀物を蓄えておき、続いて起こる7年間のききんの時にそれを出すよう提言した。パロはこれに深く心を動かされ、その結果、ヨセフに全幅の信頼

をおいて、彼を備蓄事業の責任者に任命した。こうしてヨセフは、大きな権力と権勢が与えられ、エジプト全土でパロに次ぐ地位に就いた。（創世41：9—40, 37：28）

主のみ声人が人の心に及んだ最も良い例のひとつは、イノスの例である。イノスは父から十分に教えを受けていたが、若さと未熟さのゆえに、やや反抗的になり、何か小さな過ちを犯していた。その後、彼は自分が誤っており、父の教えが真実であることを知った。そこで彼は、悔い改めて自分の生活を立て直し、義しい生活を送りたいと切に願った。ある日、森へ狩りに出かけた時、父の教えが彼の心に浮かんできた。彼はそれまでの過ちを赦されたいと心から願い、ひざまずいて主に赦しを求めて熱心に祈った。一日中真心から赦しを求めて祈り、夜になっても祈り続けた。すると、ひとつの音が聞こえてきた。「イノスよ、汝の罪はすでに許されたり。」さらに彼は、自分の兄弟たちのことも心配して、兄弟たちのためにも祈った。こうして一心不乱に祈っていると、主のみ声人が彼の心に聞こえて、彼に確信を与えた。（イノス1—17参照）

私たちは、権能を受けた教会の指導者たちが子言者、聖見者、啓示を受ける者として支持を受け、その召しにかかわる啓示を受けるということを知っている。ほかにも啓示を受けることのできる人はいないのだろうか。ブリガム・ヤング大管長は、人は皆それぞれ自分のために啓示を受けることができると教えた（*Discourses of Brigham Young* 「ブリガム・ヤング説教集」 p. 35参照）。両親は、子供たちの養育に関して啓示を受けることができる。

私は、すべてのワード部の監督とすべてのステーキ部長には、自分のワード部やステーキ部の会員のために最も必要なことは何か、啓示でそれを知る権利があることを確信している。同様に、主の召しを受けている人は皆、主のみたまを受けることができるように義しく生活している限り、その召しに関する啓示を受ける権利があるのである。

しかし、私たちが忘れずにはっきりと心の中に留めておかなければならない事柄がひとつある。その教えは、何年も前に、J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長が言われたものである。すなわち、主ははっきりと、「教会の予言者、聖見者、啓示を受ける者……にのみ教会のために啓示を受ける権利があり、……いかなる形であれ現行の教会の教義を変更する権利がある」と言われた（『When Are Church Leaders' Words Entitled to Claim of Scripture?』Church News 『教会の指導者の言葉はどんな時に聖典とみなされるか』「チ

ャーチニュース」1954年7月31日、p. 2）。しかし一般の会員には、そのような権利や権能はない。

現在、私たちがそのような啓示を期待できる人は、スペンサー・W・キンボール大管長である。私は、大管長が確かに、この教会を導くために主から啓示を受けておられることを証申し上げる。願わくば、私たちが大管長の助言に耳を傾け、その助言に従う知恵と分別とを持てるように。このことを主イエスキリストのみ名により申し上げる。アーメン。

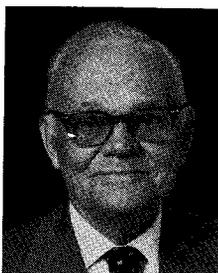


タバナクルの前で開場を待つ聖徒たち

神権者の責任

第二副管長

マリオン・G・ロムニー



父親も息子も、ヨセフヤダニエル、ニーファイ、モルモン、ジョセフ・スミスの生涯に見られる諸徳を模範にすべきである

兄 弟の皆さん、私はこれから語る事柄をみたまの導きの下に聖徒たちを高揚させる教えとして語るができるよう心から祈っている。また同時に、皆さんもそのように祈っていただきたいと思う。私はきょう神権者の責任について少しお話したいと思う。愛する兄弟の皆さん、まず最初に、子供を教え、訓練する私たち父親の責任について、次にアロン神権者の責任についてお話することしよう。

ある土曜日の夜に、私はホテルに泊まった。そして日曜日の朝、騒々しい話し声で目が覚めた。実に卑俗で、しゅう悪で、不快きわまりない言葉であった。しかもそれを語っているのが、まだほんの子供であることを知った時に、私はがくぜんとしてしまった。その時心の中に箴言の一節が浮かんできた。

「子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがな

い。」(箴言22：6)

それから、次のような啓示の言葉が思い出された。「幼き小児らは罪を犯すことを能わず。サタンは幼き小児らを……試むる能力なければなり。……その父たる者に大いなる事求めらるる故なり。」(教義と聖約29：47-48)

子供の訓練を怠る父親とその子供が将来受けるにちがいない苦しみを考えた時に、私はすっかり悲しくなってしまった。

私たち父親は決して主の訓戒を忘れてはならない。「シオン……にて子供を有する両親あらば、その子供八才の時、悔改め、生ける神の子キリストの信仰、バプテスマと按手による聖霊の賜などの教義を教えて理解せしめざれば、罪その両親の頭に留まるべし。また両親はその子供たちに祈ることと、主の前に正しく歩むこととを教えざるべからず。」(教義と聖約68：25, 28)

これらの聖句に関して、『教義と聖約注解』には次のように記されている。

「世の中には衣食住の必要を満たし、教育を受ける機会を与えさえすれば、子供に対する義務は完全であると考える人々が多い。しかし末日聖徒には、親としてもっと大切な義務がある。つまり、子供を教えるということである。……子供たちを初等協会や日曜学校、一般の学校に通わせるだけでは十分でない。両親には自ら子供たちの教師を務める義務が課せられているのである。小さな子供たちに祈ることと、主の前に正しく歩むこととを教えなければならないのである。」(Doctrines and Covenants Commentary「教義と聖約注解」 p. 414)

私たち父親は教義と聖約の93章40節から50節を繰り返し読むようにするなら、子供を教え、訓練するという神より課せられた責任をいつも心に留めておくのに大きな助けとなるであろう。

次にアロン神権者の責任について考えてみよう。主は皆さんが8歳の時から自分の行動に責任を持つように定められた。

この世に生を受けた後、皆さんはそれぞれキリストのみたまによって導かれてきた。このみたまは良心とも呼ばれ、8歳にならない子供たちにも善悪の区別を教える。そして、バプテスマと確認を受け、聖霊の賜を授かってからは、聖霊による助けと導きを得るようになった。

皆さんのほとんどは12歳でアロン神権を受け、神権の権威と権能の一部を実際に神から託された。神は皆さんに大きな信頼を寄せ、教会におけるある種の職務、救い主御自身が遂行された職務に携わる権能を授けられたのである。それらの職務を遂行する時の皆さんの行動は、イエスや使徒たちと同じように、神聖で権威あるものとなるのである。

主は教会を組織された時に、アロン神権の責任に関して次のように述べられた。

「祭司の義務は説き、教え、釈き、勧め、バプテスマを施し、聖餐式を執り行うべきこととなり。

また各会員の家庭を訪れ、彼らが声を挙げてもしも祈りをなし、またすべて家庭の務めにいそむるように勧め、……

教師の義務は常に教会員を守護し、彼らと共にありて彼らを強くすべきものとす。……

また教会員のしばしば集会することをはかり、またすべての会員にその義務をつくすようになさしむ。」(教義と聖約20:46-47, 53, 55)

執事の義務は、聖餐を配り、断食献金を集め、「警告を与え、釈き、勧め且つ教えて、キリストに来る様すべての人々を勧誘すべきなり。」(教義と聖約20:59)

割り当てられたアロン神権の義務を忠実に果たすなら、皆さんは実に素晴らしい祝福を受けることだろう。

私は皆さんが現在の召しを全力を尽くして遂行し、メルケゼデク神権を受けてからも「神の選民」のひとりに数えられるまでその召しに励もうという堅い決意と願望を持つように願っている。この「神の選民」について、神権に関する偉大な啓示の中で主は次のように

約束しておられる。

「およそ忠実にして……二つの神権を得、而してその天よりの召を全力を尽して遂行する者たちは、『みたま』により聖められてその肉体再新さる。これらの者はモーセの息子たちとなり、アロンの息子たちとなり、アブラハムの子孫となり、また教会員にして王国の民となり神の選民となる。」(教義と聖約84:33-34)

一般的に、偉大にして高貴な人物は、アロン神権の年代に偉大な者となる基礎をすでに築き、気高い少年時代を過ごしている。

これから、そのような偉大な人物の例を幾つか挙げてみるので、皆さんは彼らの具えている徳に注目し、その模範に従う決心をしていただきたい。

純潔に関して偉大な道徳の模範を示したヨセフの例を考えてみよう。彼は17歳の時に奴隷としてエジプトに連れて来られ、「パロの役人、侍衛長ポテバル」に売られた(創世37:36)。

彼の高潔さと立派な品行振る舞いに心を動かされたポテバルは、ヨセフに家をつかさどらせ、すべての持ち物の管理を任せた。ところがヨセフが非常に魅力的であったために、ポテバルの妻は何度も彼を誘惑しようとした。しかし、ヨセフはきっぱりとその申し出を断わって言った。「どうしてわたしはこの大きな悪を行なって、神に罪を犯すことができましよう。」(創世39:9)

そこで彼女はヨセフのことで偽りを言い、ヨセフは獄に捕われてしまった。

しかし、高潔なヨセフは主から恵みを受け、獄から出されて、やがてエジプト全国のかさとなった。そしてついには、イスラエルの全家を保護する人物となったのである。今晚ここに集っている私たちのほとんどは、ヨセフの子孫に数えられる者であることを誇りをもって公言することができる。

すべてのアロン神権者とメルケゼデク神権者は、ヨセフが示した純潔の標準を守らなければならない。

また、ダニエルは勇気の模範である。

彼は若い時にバビロンに連れて行かれ、ネブカデネザル王の下で教育を施された。ダニエルと3人のヘブル人の若者は、危険を覚悟の上で知恵の言葉を破ることを拒んだ。ぜいたくな食べ物やその他体によくはない食物を食べることを断わったのである（ダニエル1：5-16参照）。

後にダニエルはふたりの王に、彼らにとって不吉な夢の解き明かしを、主から明らかにされたままに伝えて、さらに勇気を示した。ダニエルは最初の王に、あなたは追われて理性を失って野の獣と共に住み、牛のように草を食べるであろうと予言し、2番目の王には、権力の絶頂から切り倒されるであろうと語った（ダニエル2：36-45；4：24-27；5：26-29）。

絶対的な権力を持つ君主へこのような忠告を与えたことは、若いダニエルに非常な勇気があったことを示している。

ダニエルが無類の勇気を示したもうひとつの例は、天父への祈りを怠るよりも、王の禁令に背いてししの穴に投げ込まれる方を選んだ時のことであろう（ダニエル6：7-23参照）。

ニーファイは若くして偉大な信仰の徳を示した人である。

「私は主が命じたもうたことを行って行く。私は、主が命じたもうたことには、人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてあり、それでなくては、主は何の命令も人に下したまわぬことを承知しているからである。」（Iニーファイ3：7）

これは、彼の父リーハイを通して主が与えられた命令、すなわち兄たちと共にエルサレムに戻り、レーバンから記録を手に入れるようにという主の命令に対するニーファイの言葉である。

兄のレーマンが記録を渡すようにレーバンを説得するのに失敗して、レミュエルと共に記録を持たずに荒野にいる父のところへ帰ろうとした時、ニーファイは次のように言った。

「主が生きていまし私が生きてるように確に、私たちは主の命じたもうたことを果すまでは荒野にいる父のところへ帰らない。」

（Iニーファイ3：15）

ニーファイは兄たちを説得して、彼らの相続した土地に残してきた金銀そのほかの貴重品を集めて、レーバンの記録と交換するように勧めた。しかし、この試みも効を奏さなかった。

ニーファイは、記録を持たずに荒野にいる父のところへ帰ろうとますます不平を言う兄たちに向かって、次のように言った。

「私たちは、エルサレムまで引き返そうではないか。そして主の命令を忠実に守ろうではないか。ごらん、それは全世界が向っても主の強さにはかなわないからである。それなら、どうして主がレーバンとその家来の五十人よりも強くないことがあろうか。いや、レーバンに何万人あっても主の強さにはかなわない。」（Iニーファイ4：1）

それからニーファイは、主のみたまに導かれてただひとりで出かけ、記録を手に入れて来た。

何と偉大な信仰であろうか。

アロン神権者である皆さんの中に、自分は若すぎて召しに伴う責任を果たせないと感じている人があれば、次にあげるモルモンの記録について考えていただきたい。

「アマロンが一切の記録を秘し隠してこれを主に託したころ（その時私は十才ぐらいで……）アマロンは私の所へやってきて……『汝が大きくなって二十四才ぐらいになったなら、この国の人々についてもう汝が心づいていることを思い起してくれ。そして、……シムと言う丘へ行け。その丘に私はこの国民のことを刻んだすべての聖い記録を埋めて隠し……ておいた。……汝は二十四才の時に……ニーファイ版〔を取り出して〕……、汝がすでにこの国の民について心づいていることをみな刻みつけて記録せよ』と言った。」（モルモン1：2-4）

これらの指示は、モルモンがわずか10歳の

時に受けたものである。

5年後に、彼は次のように記録している。

「[私が15歳になった]年にニーファイ人とレーマン人とはまた戦をしたが、その時私はまだ年が若かったが身のたけが高かったから、ニーファイの民は私をその全軍の指令長官に任じた。

そこで私は十六才の時、ニーファイ人の一軍を率い、レーマン人に向って出陣をした。」
(モルモン2：1-2)

若いということで神権の職につける義務を遂行するのをちゅうちよする傾向があるアロン神権者は、モルモンの功績から勇気を得ることだろう。

予言者ジョセフ・スミスはその少年時代に、アロン神権の年齢にあって他の偉大な人々が示したあらゆる気高い徳を身に付けていた。エジプトでヨセフの示した純潔、ダニエルの勇気、ニーファイの信仰、そしてモルモンの信頼性など、すべての徳を具えていたのである。

彼は14歳の時に、ヤコブ書の約束に基づいて行動する信仰を持っていた。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」(ヤコブ1：5)

その結果、ジョセフ・スミスは示現を受けたのである。

しかし、その示現のことをほかの人に話したところ、人々からそのことで悪口雑言を浴びせられた。ここで彼は、大きな勇気と信頼性を表わしたのであった。

「それから間もなく私がこの話を語ったことが、宗教を口にする者たちの間に私に対する大きな反感を引き起し、そしてこれがひどい迫害の原因であったことを私は悟った。そしてこの迫害はますます甚しくな^{はなはだ}って行った。私は一介の名もない少年であった。たった満14才を越えた年齢の少年でしかも生活状態から言っても何ら世間で取るに足らぬ程の者であったけれども、歴々の方々は私に反対して

世上人心を刺激し、甚しい迫害を引き起すほど私のことをわざわざ気かけられた。しかも、これはすべての教派間に共通したことであった。すなわち全部の教派が聯合して私を迫害したのである。

然しながら、これにも関わらず私が先に示現を受けたことは事実である。あの時以来私は、パウロがアグリッパ王の面前に於て弁明し、彼が先に光を見声^{こゝろ}を聞いた示現の顛末を語った際、なお彼の言を信じた者がほとんどなく、ある者はかれは偽りを語ると言い、他の者はかれは狂えりと言った、そして彼が嘲り笑われ悪口雑言を受けたその時と自分は大へん似た心境であったと思っている。しかしながらすべてこれらの反対も、パウロが示現を得たと言う現実を打ち破らなかつた。パウロは、先に示現を受けた。彼はこれを受けたと言う事実を身を以って知った。そして天下のあらゆる迫害もこれを変えることはできなかつた。人がかれを死ぬまで迫害しようとも彼は知っていた。彼は最後の息まで、彼が光を見、彼に呼びかける声を聞いたこの二つの事実を知っているであろう。事実、全世界も彼の考えを変え信ずるところを変えさせることはできなかつた。

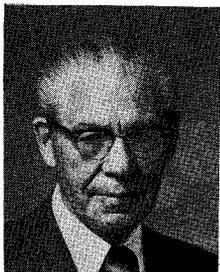
私も正にその通りであつた。私は実際に光を見た。その光の唯中に二人の御方を見た。そしてその方々は真実私にお言葉をかけたもつた。私が示現を受けたと言うために憎まれたまた迫害せられても、なおそれは真実である。そして……私はそれを打ち消すことはできなかつた。」(ジョセフ・スミス2：22, 24-25)

若いアロン神権者の兄弟たち、これらの大いなる徳は身に付ける価値のあるものである。過去の偉大な人々のように成功を収めたいと思うならば、是非ともこれを身に付ける必要がある。これまでお話した少年たちが行なつたことを実行するならば、私たちはやがて偉大な人物になることだろう。この証を、私たちの贖い主イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

適切な推薦を 受けるにふさわしく

第一副管長

N・エルドン・タナー



推薦を受けるに足る生活をするることによって、神権者として進歩し、最終的に神の王国へ入る許可を得ることが大切である

特 権とし、また責任としていただいたこの時間に、少し皆さんにお話をしたい。青少年ならびに神権者の皆さんは全員、これまでの説教や今聴いたばかりの美しい曲を十分に堪能したことと思う。

今宵ここに集う人々のお顔を拝見し、また放送に耳を傾けている大勢の人々のことを思う時、私は自分が神権指導者に、神権者に、また将来指導者の地位に就く人々に向かって話をしているのだという気持ちをさらに強く感じる。現在指導者となっている人々はすでに高潔な方々であって、立派な性格と最高度の理想と標準の持ち主である。また、指導を受ける人々の模範となるに足る人である。そこで今宵は、これまで話して下さった方々にならって、私も青少年を対象としてお話したいと思う。青少年の皆さんは、やがてアロン神権の職を昇進し、現在私たち年長の者が引

き受けている責任を受けることになるからである。いつか必ずや皆さんの中から教会幹部としてこの説教壇に立つ人が出ることだろう。いや、大管長になる人さえいるかもしれない。そして、最後まで忠実に戒めを守り通せば、確かに皆さんは、神の王国において進歩できるのである。

何と恐れ多いことであろうか。また、私たちが皆、絶えず自己改善に努め、新しい責任あるいはもっと重い責任で働くよう召される日のために備えをすることは、何と必要であり、重要なことであろうか。私たちがこの世にいる目的は、神の王国を打ち建てることと、自分が神のみ前に帰るにふさわしい者であることを証明することである。皆さんが今宵この会場にいるのは、ひとえに、この責任を感じているからであり、また主の民と呼ばれる者のひとりに数えられたいと願っているからにはかならない。

皆さんが現在まだ行なっていないことで、これから行なわなければならないことに何があるだろうか。この問題を考えるにつけ、また有能で役立つ僕となるために何が必要かを考えるにつけ、それは結局、権威ある人から適切な推薦を受けるにふさわしい者になるという問題に帰着するのではないと思われる。

大管長会を初めとする教会幹部は目下、教会員の居住する広い地域で次々と地域大会を開催する準備を進めている。この準備を進める際、訪問する国の政府から要求される事項を満たすために、旅券（パスポート）や査証（ビザ）、あるいは旅行者カードがどうしても必要である。これらの証明書類は、それぞれ関係当局の適切な承認がなければならぬし、すべての法律に従ってはじめて、自分の希望する国に入国するのに必要な書類の交付を受けることができるのである。

しばらく前のことであるが、十二使徒評議員会のデビッド・B・ヘイト長老がメキシコのあるステーキ部大会に出席する割り当てを受け

た。ところが、国境に着いた時、ヘイト長老は、メキシコに入国するのに必要な書類を忘れて来たことに気付いた。彼は自分の責任が急を要するものである旨を強く訴えたが、入国管理官には、適切な証明書を持たない長老の入国を許可する権限は与えられていなかった。そのために、長老はその大会に出席することができなかつた。

同じことが神権の昇進の場合にも言える。私たちは、権能を有する人から適切な推薦を受け、承認されてはじめて、ある職から次の職へ昇進できるのである。また、ふさわしくない場合や、必要な条件を満たしていない場合、昇進に必要な証明を受けることはできない。天の王国へ入り、すでに亡くなった人々に会って、天父なる神と共に永遠に住もうとする場合も全く同じである。

確かに、証明書を持たずに密入国する人もいる。しかし、発見されたら、その人は法律によって罰を科せられ、国外に追放される。教会の中にも、背罪を犯している者で、偽りを言って神権の昇進をし、伝道に出、神殿に入っている人がいる。しかし、主はそれを知っておられるので、そのような人々は、主の祝福を期待できない。

政界、産業界、教会においてこれまで大勢の人々から、就職や会社の設立のために推薦状を書いてほしいと依頼を受けてきた。また、政界や産業界の長が、採用予定者に関して、私の推薦を取り付けられるかどうか尋ねて来ることも何度となくあった。

私は、その人が採用される資格があり、正直で、信頼でき、学校で立派な成績を修め、人々との協調性もあり、勤勉で、ぐずぐずすることもなく、誠実で、十分信任できる、と答えられる時には、いつも喜びと満足感を味わう。そのような時、私は、何らためらわずに推薦できると書き添え、貴社の発展に貢献することでしょうと一筆加える。

反対に、残念なことではあるが、推薦できませんと答えることもある。どうも望ましく

ない性格が目について、採用側を十分に満足させないであろうと、私自身判断することがあるからである。しかし、普通は、自分はその保証人になれるような立場の間人ではないと申し上げている。あるいは、そのような依頼に応じない。それは、就職志願者が正直で、高潔でなければならないように、私自身も推薦状を書くにあたって正直であるということが重要になってくるからである。

職業を選択する人は、自分の資格を考慮しなければならない。つまり、医者になりたいければ、人として当然持っていなければならない性質、例えば道徳心、誠実さ、高潔さ、信頼性といったものに加えて、人々の幸せを思うようであればならない。また、医師という職業に携わる心構えとしても、それが非常にもうかる職業だからというのではなく、人類の健康に深い関心と興味がなければならない。医者というものは、昼夜を問わずいつも、自分自身の楽しみや都合を考えずに自分の時間を人のために喜んで捧げようとする人でなければならないのである。

パイロットになりたいと思う人は、未知の、あるいは予期せぬ事態に直面した時に、常に沈着冷静に判断し、行動できなければならない。また弁護士には、話すことと書くことの両方で自己を表現する能力が必要である。セールスマンは熱意がなければならないし、人当たりも良くなければならない。品物を買ってもらおうとする相手を説得する能力が必要である。秘書や応待係は、秘密を守ることができなければならないし、訪問客のいる部屋に明るい雰囲気と、喜んで助けを申し出る雰囲気を作り出せなければならない。

お分かりのように、どういう種類の仕事であっても、その仕事で最大限の効果を上げるためには、何らかの基本的な、また特別な資格が必要である。私たちは一生を通じて、最も適切な職業に就くことができるよう、それに必要な特質を身に付けなければならないのである。

数年前に教会では、教会の若人に一連のカードを配布したことがある。そのカードは、表には絵、裏には言葉が書いてあって、「自分に正直になろう」というテーマで作成されたものである。「次のテストに合格できますか」という見出しのカードから引用してみよう。

「今、教室では試験の真っ最中です。監督はいません。生徒の自主性に任されています。良心に責められなければ、また級友から非難されなければ、参考書をのぞき込むことも、級友の肩越しに答案を盗み見て解答することも、全く自由です。この生徒たちはどうするでしょうか。またあなたならどうしますか。

最近の青少年問題を扱う評論家の中には、高校や大学における不正行為は増加の一途をたどっていると論評している人もいます。さらに悪いことに、このような不正行為を黙認する者が、不正をしない一般の生徒や教師の中にいるそうです。教室内での不正行為について、次のように様々な言い訳が使われています。

運動部やその他の活動を続けたいため。

クラスの仲間や教師から、良い評価を得たいため。

自分の子供が他の子供と同じように賢いと信じ込んでいる両親を満足させたいため。

成績不良で退学処分を受けたくないため。

以上挙げた理由のどれひとつを取ってみても、正当な理由は見当たりません。だれひとり、時間と良心の試練に耐え得る人はいません。不正行為は、どのような形であれ、不正直な行為です。それはいつの時代でも同じです。

最初に不正を働いたのは、『偽りを生む親』サタンです。サタンは、前世において、私たちをだまして、自由意志と永遠の進歩という生得権を奪おうとしました。しかし成功しませんでした。不正を働く者は決して勝利を得ることはできないのです。

不正を働く者は、たとえそれが学校の試験に合格するための手段であっても、あるいはもっと醜悪な不正直であっても、自分自身に

対して不正を働いていることになるのです。

決してそのようなことはしないで下さい。いつでも、どんな場面でも、自分自身に対して正直であって下さい。」

この正直の訓練は、家庭から始まる。私たちにはそれぞれ個人の所有物がある。おもちゃやゲームは分かち合うことができるし、また人に対する奉仕も相手に分かちあうことができる。またそうすべきものである。しかし、私たちには、お金、宝石、衣服といった全く個人的な所有物もある。これは所有者の同意がなければ持ち出せないものである。家庭でこのような教養を学んでいる子供は、家庭外でもこの原則に従おうとする。他方、このような訓練の欠けている場合は、他人の権利や所有物を軽視する気持ちを増長させることになる。

私は、現代の若人が周囲の社会の大きな影響を受けており、仲間に受け入れられたいがために、標準に反するようなことをしてまで友人たちとうまくやっていきたいと考えていることは知っている。しかし原則に反した妥協をすると、自分の生涯に全く逆の効果をもたらすかもしれないということを、十分考慮していただきたいと思う。

子供は成長し、働いてお金を得られるようになるとそのお金が両親からもらうものであれ、近所の人からもらうものであれ、自分が手にする収入に見合う仕事を正直に行なうようになる。一般に、子供たちが最初にする仕事は新聞配達である。現在大成している実業家の中にも、この仕事から始めた人々が大半いる。こうして機敏で信頼できる人物に成長したのである。私の知っている新聞少年で、どんな天候の下でもいつも決まった時間に新聞を配達する少年がいた。彼はいつも楽しげに、また礼儀正しく、てきぱきと新聞を配っていた。そのために数多い契約者も十分に満足し、さらに多くの新しい契約者を得ることができた。そして、この少年時代の訓練は、やがて彼が実業家として大成するために大き

な助けとなったのである。

また、それとは対照的な少年も知っている。彼は時間通りに新聞を配達せず、おまけに集金もよく間違えた。そのため、新聞販売店には苦情が相次ぎ、とうとうその少年は配置替えになってしまった。私はこのような少年をほかに何人か知っている。大切なのは、何の仕事をするかではなく、どのようにするかである。

私が「カナダ横断パイプライン社」の社長をしていた頃、事務所にひとりの少年がいた。彼は頼まれたことしかしない少年であった。用事を言いつけられるまで待っており、指図があるまで決して腰をあげようとせず、率先して何か手伝おうという気はさらさらなかった。会社が大きくなるにつれて仕事量も増え、この少年の手に余るようになったため、私たちはもうひとり少年を雇った。この少年は先の少年より年下であったが、はるかに機敏で、いつも何か手伝いをしようと余分の仕事を捜していた。彼は、使い走りがひとつ終わると、いつもほかに何かすることはないと尋ねて来たものであった。それから数ヶ月後に、ある部門で彼にもっと責任のある地位が与えられた。そして2年経たないうちに3回も昇進し、給料も上がり、さらに重要な責任が与えられた。ところが、先の少年はその時もまだ使い走りであった。

私はまた、スカウト隊長として働いていた頃のことを思い出す。スカウトにも様々な少年がいた。一部の少年は、機敏で一生懸命学び、スカウトの誓いとおきてをよく守り、奉仕し、どんな状況でも自分のことは自分できれいしようと努めていた。スカウトたちが、与えられた機会を最大限に利用して受けた訓練のおかげで九死に一生を得たとか、人命救助をしたとかいう話は数知れない。一方、努力しようとせず、馬鹿げたことをどれだけ見つからずにやれるかということにばかり関心を持っている少年たちもいた。私はいつも、正直で信頼されるに足る行動をし、スカウトの

誓いとおきてを守って訓練も立派に完了しよう決心している少年たちには、十分楽しい時間を過ごさせたいと思っていた。

スカウトに関してひとつの素晴らしい話がある。イギリスのあるスカウトが、戦争中、軍隊で極秘の使命を帯びた部隊を編成する責任を与えられた。彼の話では、立派なスカウトとしての経験を持ち、三指を作って腕を垂直に挙げ、スカウトの誓いと決まりを守るというサインを表わす青年に出会った時は、非常にうれしかったと言う。戦時下でもそのような青年は信頼でき、信任に答えてくれることを知っていたので、彼は何もためらわずにその青年を推薦した。そして、一度としてそのような青年に失望させられたことはなかったと、彼は言っている。

さて、ここでひとつの例を用いて、人生で成功するためにはきちんと順序を踏むことがいかに重要か、お話ししたいと思います。子供の頃、私は農家で育ち、大きくなるまでいつも農場を眺めていた。そうしたある日、私は、道路をはさんだふたつの農家で収穫の違いがあることに気付いた。この違いは何によるのだろうか。どちらも同じ量の陽光と雨を受け、同じ種類の種をまいていた。ところが一方の農地では豊かに実り、もう一方の農地ではまるで収穫がなかった。

私は、多くの収穫をあげていた農夫の働きぶりを見ていた時に、適切な季節の適切な時に耕し、すきを入れ、種をまいていることが分かった。一方、隣人の方は、仕事をしなければならない時に、仕事を引き延ばし、狩りや釣りに出かけている始末であった。私たちは、優先順位を正しく付けるようにしなければならない。適切な時に仕事をし、適切な時に遊ぶのでなければ、決して仕事の上で成功を収めることはできないのである。

労働は、多くの問題の一大矯正法である。ある有名な神経学研究所の待合室の壁に、次のような張り紙があった。これは病人のためではなく、健康な人間のために書かれたもの

である。

「貧しかったら、働きなさい。金持ちだったら、働きなさい。不当な責任を負わされていると感じたら、働きなさい。

幸せなら、働き続けなさい。怠惰は疑惑と恐れを生み出すもとだ。悲しみに負けそうだったら、また愛する人に裏切られそうだったら、働きなさい。失望しそうなら、働きなさい。

信仰がくじけ、理性が失われそうだったら、ただただ働きなさい。夢が破れ、望みも消えたと思ったら、働きなさい。人生の危機に直面しているつもりで働きなさい。事実そうなのだから。

何に悩んでいようとも、働きなさい。誠実に働きなさい。信仰をもって働きなさい。働くことは、最高の治療法である。働けば、精神的にも肉体的にも悩みから解放される。」

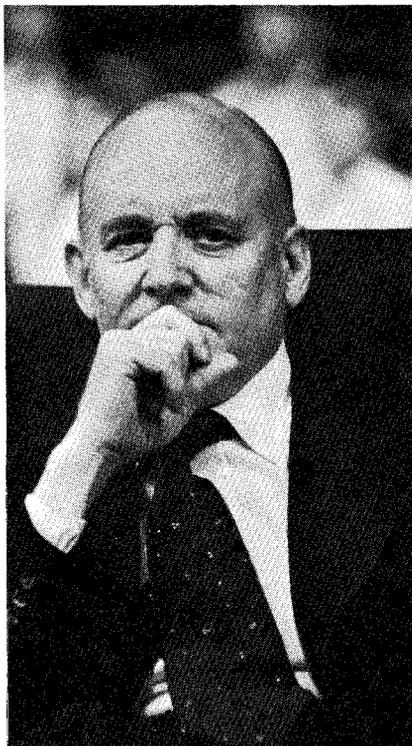
さて、若人の皆さん、あなたが就職する時に、私はあなたのためにどのような推薦状が書けるだろうか。私は、あなたがあらゆる面で完全に正直で信頼でき、また立派であると書けるだろうか。それとも、ある程度までは推薦できるが、学校では怠け者で成績も悪く、指示に従わず、問題児であったなどと書いて、あなたの採用を不利にしなければならないだろうか。

就職するために、良い推薦を受け、適当な口添えをしてもらうことがそれほど大切だとしたら、教会で権能を持つ人から、十分満足の行く推薦状を受けるにふさわしい生活をして、神権の様々な職や組織の中で進歩し、最終的に天の王国に入る許可を得ることは、どれ程大切であろうか。

神権を持つ者として、私たちは以下のことをよく知っていないといけない。神が私たちの御父にましますこと、その御子イエス・キリストが私たちの救い主であること、主の贖いの犠牲により私たちは復活でき、主の教えに従うことにより永遠の生命にあずかることができること、啓示によって末日聖徒イエ

ス・キリスト教会が設立されたこと、スペンサー・W・キンボールが神の予言者であって、イエス・キリストの教会の大管長であること、そして、私たちが現在持っている神権は、神のみ名によって行動できるよう私たちに委ねられた神の権能であること、以上である。

私たちが毎日努力して、あらゆる面でこの偉大な特権と祝福にあずかるにふさわしい生活を送ることができるよう、へりくだって主イエス・キリストのみ名により祈るものである。アーメン。



十二使徒評議員会会員
ハワード・W・ハンター長老

教会の基盤である 家族を強める

大管長

スパンサー・W・キンボール



教会の青少年は、環境からも、福音に関係した体験の思い出からも大きな影響を受ける

愛する兄弟の皆さん、この大会でお会いできて心から喜んでいる。話を始める前に、今宵私たちのために美しい歌声を聞かせて下さった大勢の兄弟たちに、心から感謝を述べたいと思う。

昨日地区代表の兄弟たちに発表したことであるが、私たちは、主を礼拝し、キリストのみ言葉にあずかり、信仰と証を強めるために、たびたび大会を開いている。そのような大会として、ワード部大会、ステーク部大会、地域大会、総大会がある。

ここ数年、私たちが催した大会で最も靈感あふれる大会として心に残っているものの中に、合衆国外で開かれた地域大会がある。したがって私たちは、1979年から合衆国内でも数ヶ所で地域大会を開くことを計画している。それによって、もっと多くの教会員が教会幹部に会い、話を聴けるようになることだろう。十二使徒評議員会から2名と、その他に何人

かの幹部がそれぞれの大会に出席する予定である。

また私たちは、教会員の時間、交通手段、費用といった負担を軽減するために、1979年から、各ステーク部で開かれるステーク部大会を年2回の開催とすることに決定した。このうち1回は教会幹部が出席し、もう1回は地区代表が出席する。これにより、ステーク部長やその他の地元の指導者は時間の余裕ができ、聖徒を完き者とする業を今以上に推し進めることができるものと思う。

さて次に、皆さんが家庭で族長としての役割をよく果たせるように、大いなる神権に伴う責任について少し申し上げたいと思う。この族長の役割は、昨今の状況からみて、ますます大切になっている。家庭の強さや神聖さを汚そうとする問題が次々に生じてきているからである。

家族は、地上における神の王国の基本単位である。教会が健全であるか否かは、教会に属する家族次第である。また、いかなる政府も、堅固な家族なくして長く安定した政権を維持することはできない。

全世界を見回してみると、今日程、家族が様々な悪影響に脅かされている時代はない。この悪影響の多くは、テレビやラジオ、雑誌や新聞、その他の出版物を通じて、家庭を直撃している。

兄弟の皆さん、家族の長として、ふさわしい守護者になっていただきたい。家族がテレビやラジオのどんな番組を視聴しているかに関心を払っていただきたい。現在、道徳的に不快で下劣で、昔のソドムとゴモラの罪もこのようであったらと思うような行為が多く見受けられる。

現在、雑誌にも、同じように老若男女の卑しい衝動を促す写真や記事が掲載されている。世界各地に、発行部数の増加をもくろんでからさまに性を売り物にしている新聞がある。また合衆国内の新聞でも、卑しい刺激的な写真入り広告を絶えず掲載して、読者をポルノ

映画に誘っているものがある。そのような広告や映画があるために、強奪、不信、そして最も嫌悪すべき性的な罪悪といったものの種がまかれるのである。

兄弟の皆さん、それが印刷物であれ電波を媒介としたものであれ、家庭の中へ入って来るものに絶えず警戒していただきたい。道徳を低下させるようなラジオやテレビの番組から家庭を守っていただきたい。善良な出版物だけが家庭に入ってくるようにしていただきたい。心を豊かにし、精神を高める雑誌だけを購読していただきたい。良い雑誌は沢山ある。教会にも定期刊行物（訳者注：日本では「聖徒の道」）がある。

ロンドン、パリ、東京、ニューヨーク、サンパウロといった世界の大都市には、日刊紙が幾種類もあって、人々は自分の読みたいものをそこから自由を選ぶことができる。皆さんは、教会の教えと標準になかった新聞を読むようにしていただきたい。

教会の本部があるこのソルトレーク・シティでも、私たちはそのことに深い関心を寄せている。この市やユタ州が高い標準に到達する上で非常に大きな力になっているのは、間違いなく、『デゼレト・ニューズ』紙である。この新聞は、飲酒、ポルノ、墮胎といった道徳的な問題について、長い間、教会の教えを擁護する立場をとっている。この市や州は、是が非でも安全で清潔でなければならない。ここは世界に伸び行く教会の中心地だからである。

『デゼレト・ニューズ』紙と『チャーチ・ニューズ』紙はこの市と州を強めているだけでなく、教会本部のあるこの地域に住む兄弟たちの個々の家庭をも強めている。

兄弟の皆さん、あなたの家庭に入ってくるものに注意を払うことにより、家族に「徳高きこと、好ましきこと、よき聞えあること、あるいは褒むべきこと」（信仰箇条第13条）を求めさせるようにしていただきたい。

私は先日、ひとりの男の子から短い手紙を

受け取った。その中にはこう書かれていた。「ぼくはとでもすばらしいひとをしていません。そのひとのなまえはかんとくです。」私たちには、いつも立派な監督がいた。そしていつも監督を心から愛していた。ザンデル監督、ムーディー監督、タイラー監督、ウイルキンス監督。私はすべての監督を愛してきた。そして今私は、若い兄弟たちがそれぞれ私と同じように、自分の監督を愛して下さるよう心から願っている。

一年の内でもきわめて重要なこの時期に、皆さん方神権者と共に大会に集えることは、本当に大きな喜びである。この時期は、私たちの救い主イエス・キリストについて、また主のみ業と模範と偉大な計画について考える時である。

主はモーセに言われた。「見よ、これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらずなり。」（モーセ1：39）

私はこの機会に、各組織の指導者とこの偉大な神権活動に携わっているすべての方々に感謝したいと思う。その献身、強さ、勢い、影響力は全世界に及び、数限りない人々の生活に多大の感化を与えている。私は自分の生涯が青少年組織からどのような影響を受けて来たか、常々考えている。その始まりはいつか思い出せないが、アリゾナ州サッチャーの古いロビンソンホールの時代まではさかのぼれるような気がする。私が歩き出して間もない頃のことである。そのホールはわが家から2ブロック程しか離れていなかったのもので、私たちは行き帰り共に徒歩で、ユニオン運河を渡ったものである。その大きなロビンソンホールはれんが造りの四角い建物で、いろいろな目的で使用された。地域のダンス、日曜学校、初等協会、教会のあらゆる行事、葬儀、祝賀行事など、およそ小さな田舎町でのあらゆる行事のために使われた。

ある晩、この大きな建物が火事になった。私はその晩のことを覚えている。赤々とした空とたち昇る煙に私たち家族は皆、驚きあわ

た。この大火は町中を揺り動かし、人々は火を消そうとしてバケツを持って急いで駆け付けて来た。その頃、町に消防署はなかった。しかし、老いも若きも、すべての男が、「火事だ」という叫びと共にはせ参じて来た。

指揮をとる人が、全員を運河から炎上中の建物まで一列に並ばせると河岸に立っている人が運河の水をバケツで汲み上げ、次から次へと火元までバケツリレーし、最後の人がその水をかけた。どれ程の水をかけたかわからないが、火勢は一向に弱まらず、結局すすで黒ずんだ壁だけを残して燃えてしまった。私たちは悲しみに打ちひしがれて家に帰った。私たちの小さな町に消防署ができたのは、それから何年もたってからである。

今申し上げたこの同じ運河で、私は後年バプテスマを受けて教会に入った。また、この運河から水を汲んで、家の周囲の木や草花に水をやったものである。私は兄弟の中でも一番年下であったため、この仕事を与えられたのである。私たちは、その水の運搬具を「とかげ」と呼んでいた。どなたか「とかげ」を御覧になったことがおありだろうか。Y字形をした木の枝で作られていた。真ん中に水おけを縛り付け、その「とかげ」を馬に結び付けた。私はそれを運河まで運んで行き、おけ一杯に水を汲むと、また1ブロック離れた家まで馬を引っ張って行き、草花に水をやったものである。私の父は、新しい家の回りをあらゆる種類の花で囲み、しかもそれを水の少ない夏の終わりまでもたせようと一生懸命だった。牛や馬を運河まで連れて行って水を飲ませるのも私の仕事であった。

時々、夏の終わり頃、大雨がダムを切ってしまう、谷や運河を干上がらせることもあった。すると、私の兄たちが、召集に応じて、馬や馬車で運河の源まで急いだものである。そこで岩や石を運び、再びダムを築いて、畑や家のために本流から取水するのである。

何年かたって、私たちはソーセージダムの作り方を学んだ。ソーセージダムというのは、

長い金網の中に石を詰めて川の中に沈め、水を運河の方へ導く方法である。

町のほとんどの少年少女が、その有名なユニオン運河でバプテスマを受けた。

ロビンソンホールから北へ2ブロック行ったメインストリートにあるオールレッドホールという建物も、やはり多目的に使われていた。私は、小さい頃日曜学校や初等学校、また聖餐会のためにそこに行ったことをよく覚えている。私が教会員として確認を受けたのもそこであった。

ロビンソンホールが焼けてしまった後、私たちはオールレッドホールに戻り、それからアカデミービルに移った。このビルは私たちの学校であって、教養協会（若い男女のための組織）の本部となっていた。また地域社会の集会や教会の集会のためにも使用された。サッチャーの町の人々は、ほとんどが教会員だったからである。

それから1902年には、サッチャーの新しいステーキ部とワード部の建物を建てるための鉄入れ式が行なわれた。私は、その建物のために貯金の2ドルを献金した。しかし大きな穴を掘った後、資金がなかなか集まらないために随分長い間建物建たなかったことを覚えている。私はこの建物の先にある郵便局や商店街へ、よく灯油を買いに行ったり、郵便物を取りに行ったり、卵を買いに行ったりした。その途中いつも、その大きな穴を駆けおり、またよじ上ったものである。しかし、草が敷地内に生い茂り始め、スカンクが現われるようになると、私はその穴を迂回するようになった。スカンクを友達にしたいと思わなかったからである。

こうして新しいステーキ部の建物が完成した。この建物は現在もあり、今なお、ステーキ部やワード部で使用されている。この建物には、長方形の広い部屋がふたつあった。ひとつは2階の集会場、もうひとつは1階のレクリエーションホールである。私は、建物内に針金を張り巡らしてカーテンでクラスの内

切りを作ったことを覚えている。私たちは、ほとんど全部のクラスの進行具合を耳にすることができ、時には光線の具合さえ良ければ、目で見ることさえできた。その数年後、ギラアカデミーの私の所属するバスケットチームがここで練習をし、また試合をしたことを覚えている。私はいつも期待以上の働きをしたつもりである。その小さな建物の中でいろいろ障害はあったが、私たちのチームは、高校チームながら、他の高校や大学のチームを数多く負かした。

幾人かの教師も私の思い出に残っている。私たちは、いつも月曜日の夜に神権会に集った。私たち執事はダルマストーブの周囲に集まり、そこで教えを受けたものである。私は、その建物で出会ったオーバル・アレン、リーロイ・C・スノーといった立派な教師たちのこともよく覚えている。その頃、私は同世代の少年たちと美しい友情を築いたことも記憶している。ソルトレーク・シティー出身のリーロイ・C・スノー兄弟は、銀行の仕事でサッチャーにいて、私が執事の時に、紅海の話、イスラエルの民が紅海を渡った話、彼が以前行ったことのあるエルサレムの話など、いろいろな話をして私たちの興味をかきたてた。

日曜学校に通ったことも覚えている。私は、日曜学校で人生の基礎固めとなった多くの靈感を受けたと思う。私たちは2階の礼拝堂で開会行事を行ない、それから1階へ降りてクラスに分かれて勉強した。

私は、絶えず献身的に私たちにみ言葉を伝えようとしていた教師がいたことを思い出す。その教師たちから学んだ数多くの事柄が基礎となって、私は教会のプログラムや教義をよく知ることができた。

私の母は非常に歌が上手で、オルガンも弾いた。母と私の一番上の姉のクレアはよく二重唱をした。私は音楽を愛する心をその母からいくらか受け継いだので、私も、歌を歌うことには常々関心を持っていた。私はいつも声を張り上げて、元気よく歌っていた。私

は「主の日にまた集う」（讚美歌6番）の歌をよく覚えている。そして私たちは、その歌詞の通りに、これまでよく集会に出席してきた。さらに私は、母がソルトレーク・シティーで亡くなった時のことを覚えている。私が11歳の時であった。その時、私たちは一年間、毎週日曜日に必ず日曜学校に出席するという目標を定めていた。母の亡くなったのは10月であったが、私は1月の最初の日曜日から一度も日曜学校を欠席したことはなかった。そのため、母の遺体が家に安置されていた日曜日に欠席したことを随分と悩んだものである。

私は当時、教師たちがどれ程一生懸命私たちに教えようとしていたか、本当の意味では理解していなかった。したがって今、私は、教会のあらゆる組織で、献身的にたゆまずシオンの子供たちを教えて下さっている偉大な教師の皆さんに心から感謝を申し上げたいと思う。

ところで、私たちは讚美歌の歌詞を時々忘れることがあるかもしれないが、皆そろって元気よく歌えば必ずや一緒に歌えることだろう。

「つどえ 祭に歌に

日曜学校を 楽しめ」（讚美歌7番）

「家庭の中に」（讚美歌39番）という歌も家庭の夕べでよく歌った。キンボール家では今世紀の初頭からずっと家庭の夕べを開いてきた。

「神の聖徒の」という歌も覚えている。これはエライザ・R・スノー姉妹が作詞したものである。スノー姉妹は数多くの讚美歌を作曲している。私は、本当に元気よくこの歌を歌ったことを思い出す。

「聞け 子らの歌を きよき歌声
天使のごとく けがれもなくて
うれしげに集うときに」

（子供の歌B-24）

私は、どれ程汚れがなかったか定かではないが、幼ない声を張り上げ、子供にはいささか高いと思われる「ミ」の音まで出して、必

死に歌ったことだけは覚えている。また次の歌詞も覚えている。

「みめうるわしく 長く生きんと」

私は長生きしたいと思っていたし、みめうるわしくありたいと願っていた。しかしいまだにその域に到達していない。

「コーヒー、たばこ、茶を遠ざけ」

私は、これらのものを遠ざけなければならないことを知った。私の田舎では、教会員でありながら、時々茶やコーヒーを飲み、時にはたばこを吸う人さえいた。歌はさらに続く。

「酒は飲まずに 少しの肉で」

(私は今でもそれほど肉は食べない。)

「強く智恵もてのびんとす」

それから歌はまた、「聞け子らの歌を……天使のごとくけがれもなく」と続く。さらに3番の歌詞は次のように続いている。

「言葉つつしみ 怒りはおさえ

心おだやかに守れ 人にやさしく

親切つくし 礼儀正しく守れや」

それからまた「聞け子らの歌を」

と続く。

「忘るな祈り 朝夕日々に

悪より守りたまえと 神を愛して

みむねを学び 正しき力をねがえ」

それからまた「聞け子らの歌を」

と続く。天使たちも私たちと同じように練習の制約があるかどうか知らないが、私たちの歌は随分上手だったと思う。

改訂版からはずされた讃美歌の中には、163番の「小鳥たちを殺すな」という曲があった。私はこの歌も、大声で歌ったことが何度かあったことを覚えている。

「小鳥たちを殺すな 木々に鳴く鳥

夏中ずっと きれいな声で。

小鳥たちを撃つな この地は神のもの

小さくとも大きくとも 神は恵みたもう。」

(Deseret Songs「デゼレト歌集」1909年、No. 163)

当時、私は石投げ器とパチンコを持っていた。どちらも自分の作ったもので、とても良

くできていた。また当時、家から2キロ程離れた牧場へ牛を連れて行くことが私の仕事であった。途中の道沿には、こやなぎの木が立ち並んでいて、「木々に鳴く」小鳥を撃ちたいという気持ちは、随分大きい誘惑だったように記憶している。それというのも、私はとても撃つのが上手で、50メートル程離れた柱を打つこともできたし、木の幹に当てることもできたからである。しかし、ほとんど毎週のように、日曜日に「小鳥たちを殺すな」の歌を歌っていたせいであろうか、私は小鳥を撃つのを思いとどまった。2番の歌詞は次のように続いている。

「小鳥たちを殺すな 空 駆け巡り

朝早くから 歌をかなでる

たとえ 食べかけのさくらんぼ 落ちても
田や畑から 実がなくなっても」

私はこの曲から大きな感化を受けた。そのために、美しい小鳥を撃ち落とすのに決して喜びを感じなかったのだと思う。

また、エバン・ステューブズが作詞した「モルモンの子」という曲があった。私たちはこの曲を会衆の前で歌う時には、いつも誇りを感じたものである。

「モルモンの子 モルモンの子

ぼくはモルモンの子だ

王様だってうらやむ

だってぼくはモルモンの子だから」

私はこの曲が好きだった。私は、「王様だってうらやむ、だってぼくはモルモンの子だから」という言葉に、常に喜びを感じている。

私は「収穫はどうだろう」という歌も好きだった。その曲は、ところどころ独唱できる部分があったからである。

愛する兄弟の皆さん、話を終えるに当たって、神権について証を申し上げたい。私は神権を持っている。皆さんも神権を持っている。この神権は、エライジャが持っていた神権であり、またペテロ、ヤコブ、ヨハネなど、予言者たちが持っていた神権である。彼らは神権を持っていた。しかし、結び固めの権能が

なければ、私たちには何もできない。私たちの行なうことが正当と認められないからである。このことが大切である。エライジャが訪れたのはそのためであった。モーセが訪れたのもそのためであった。モーセが時の絶頂の神権時代に、ペテロ、ヤコブ、ヨハネの頭にこれらの特権と権能と鍵とを授けたことで、彼らは世に出て行って主のみ業を成すことができたのである。また、彼らが予言者ジョセフ・スミスを訪れたのも、主が「主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エライジャをあなたがたにつかわす」（マラキヤ4：5 欽定訳より和訳）と言われたのも、今述べたような理由があったからである。

なぜ主はエライジャを遣わさなければならなかったのだろうか。それは、彼が神権につけるあらゆる儀式を執り行なう権能の鍵を持っていたからである。そして、その権能がな

ければ、執行された儀式は決して義しいとされないからである。

救いは、イエス・キリストの仲介なくしては、決してこの世にもたらされない。では、神はどのようにして人々を救うのであろうか。予言者エライジャを遣わしてである。ホレブでモーセに啓示された律法は、イスラエルの民の全員には明らかにされなかった。エライジャは、父の心を子に、子の心を父に結ぶための契約を明らかにしてくれる。召され、選ばれて初めて油を注がれ、結び固められるのであり、選びも確かなものとなるのである。

「私は神が生きておられることを知っている。イエス・キリストが生きておられることも知っている。私は主にまみえたからである」とは、ジョン・テイラー大管長の言葉である。私はこの証を、イエス・キリストのみ名により、皆さん方兄弟に申し上げる。アーメン。

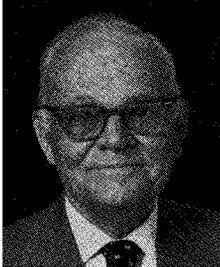


大会の説教に聞き入る聖徒たち

祈りと啓示

第二副管長

マリオン・G・ロムニー



神が最も頻繁に繰り返し人に与えておられる戒めは祈りである

愛 する兄弟姉妹、ならびに友人の皆さん、私は最も大切な神との交通手段について少しお話ししたいと思います。まず最初に、人が神に語りかける祈りについて、2番目に神が人に明らかにされる啓示についてお話ししたい。祈りという、たいいてい人は、テーブルを囲んで共に捧げる祈り、ベッドの傍らにひざまずいて捧げる祈り、あるいは教会の集会で聞く祈りを思い浮かべることだろう。

しかしこれ以外にも、人が神に語りかける方法があり、それも祈りと言って差し支えないと思う。

ニーファイは、自分の受けた偉大な啓示を紹介するのに、祈りという言葉を使っていない。ただ簡単に次のように述べている。

「私は父の見たことを知りたいと思い、主は私にもまたそれを知らせたもうことができると信じて思いに耽りながら腰をかけていたが、私は主の『みたま』にとらえられて、ま

だ見たこともないし一度も足を踏み入れたこともない非常に高い山へやってきた。」(Iニーファイ11:1)

思いにふけること、すなわち物事を熟考することが祈りの大切な要素であることは確かである。

主はエマ・スミスに言われた。「すべて心の歌は、われの悦びなり。然り、義しき者の歌はわれに対する祈りなり。」(教義と聖約25:12)

しばしば特別な祝福を求める手段として祈りを捧げることがある。しかしその中には感謝や賛美、礼拝、崇拝などの気持ちを含まなければならない。ジェームズ・モンゴメリーはこのように美しい詩で詠んでいる。

祈りはたましいの
述べても述べずも
見えぬ望み
胸に燃ゆる

祈りは^{静い}憩息
仰ぎ見る眼には
涙こぼる
神は近し

祈りは子どもも
天の主にとどく
言い得る言葉
とうとき歌

祈りは生命で
死ねば祈りにて
聖徒の歌
天にのぼる

神 生命真理へ
主よ祈りの道
誘いたもう
教えたまえ
(讚美歌176番)

神が最も頻繁に繰り返し人に与えておられる戒めが祈りであることから、祈りがいかに大切であるかがよく分かる。

神がアダムとイヴに最初に与えられた戒めは、「主なる汝らの神を礼拝すべし」であった。その後「主の天使一人アダムに現われて言いはけるは……。

……汝の為すすべてを御子の御名によりて為せ。また汝悔い改めて今よりいつまでも御

子の御名によりて神を呼ぶべし」と（モーセ 5：5—6, 8）。

主は祈りの大切さについてジェレドの兄弟に教えたもうた。ジェレドの兄弟が民と共に大海の岸に着いた時、「主はジェレドの兄弟のところへ降って……三時間ジェレドの兄弟と話して、かれが主に祈ることを怠ったのを懲しめたもうた。

それでジェレドの兄弟がその罪を悔い改めて、一緒にきた者たちのために主に祈った時、主はこれに答えて仰せになった『われは汝と、汝と共に来りし者たちの罪を赦す。されどこの後汝は再び罪を犯すべからず。わが『みたま』は必ずしも常に人をはげますものにあらざることを忘るな。故に、汝らの罪悪がその極に達するまでひきつずき罪を犯さば主の前より断ち切らる。』（イテル2：14—15）

アミュレクは不信仰なニーファイの民に次のように忠告を与えた。

「……私の兄弟らよ、ねがわくはあなたたちが悔改めを生ずる信仰を起し、神が自分たちを憐みたまうよう、神の御名によって祈り始めることを神が許したまわんことを。

神は人を救う大能を具えたもうから、神に憐みを求めよ。

へりくだってたえず神に祈れ。」

次いで彼は何について、どこで、どのように祈るかを教えた。

「牧場に居る時は、あなたたちの家畜の群について神に祈れ。

家に居る時はあなたたちの家族全体について朝も昼も晩も神に祈れ。

あなたたちの敵の力を防ぐことができるように神に祈れ。

一切の義しいことに敵対する悪魔を防ぐことができるように神に祈れ。

あなたたちの田畑の収穫が豊かであるよう、その作物について神に祈れ。

牧場にあるあなたたちの家畜がふえるように神に祈れ。

こればかりではない、あなたたちが一人で

部屋に居るときも、秘密の所に居るときも、また野に居るときも心にあることをうち明けて祈れ。

声をあげて主に祈らない時でも、自分の為また自分のまわりの人々の為を思ってたえず心の中で主に祈れ。」（アルマ34：17—27）

イエスは、復活後ニーファイ人を訪れて、彼らに主の祈りを模範として祈りの方法を教えられた。その後、ニーファイ人の弟子たちに次のように言われた。

「われ、まことにまことに汝らに告ぐ、汝らは誘惑に負けざるよう、たえず目を覚して祈らざるべからず。そはサタンが汝らを支配して麦のごとくにふるわんと欲すればなり。

されば汝らはわが名によりてたえず御父に祈らざるべからず。

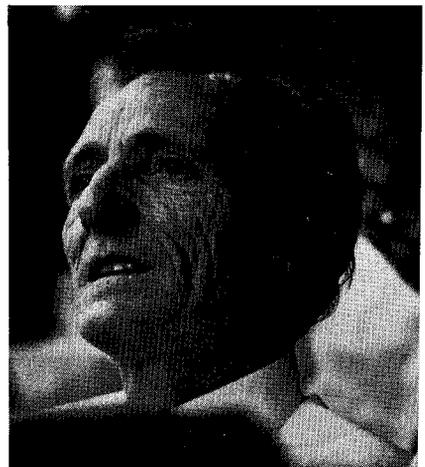
而して、汝らが必ず受くと信じて、わが名によりて御父に乞い求むるものは、その正当なるものなる限り、すべて汝らに与えらる。

汝らの妻子が祝福を受くるよう、たえずわが名によりて家族の祈りを御父に捧げよ。」

（IIIニーファイ18：18—21）

この最後の神権時代に教会が組織されるおよそ2年前に、主は予言者ジョセフ・スミスに言われた。

「勝利者たらんことを常に祈るべし。誠にサタンに打ち勝つ様に祈れ、また現にサタン



説教に聞き入る聖徒

の仕事に力を与うるサタンの僕らの手より免れんことを祈るべし。」(教義と聖約10:5)

後に主はマーテン・ハリスに言われた。

「われ汝に再び命ず。汝心の中にも祈りまた声を出しても祈るべし。然り、人々の前にも祈りまたひそかにても祈り、公にても祈りまた陰にても祈るべし。」(教義と聖約19:28)

主は教会の祭司たちに、「各会員の家庭を訪れ、彼らが声を挙げてもひそかにても祈りをなすように勧めるよう指示を与えられた。

(教義と聖約20:47。20:51参照)。

また主はジョセフ・ナイトに次のように諭された。「汝は、汝の十字架を負いて心の中にもまた声を出しても世の人々の前に祈り、家族の中にも祈り、友の中にも祈り、またすべての所に於ても祈らざるべからず。」

(教義と聖約23:6)

トマス・B・マーシュにはこのように言われた。「誘惑に陥りて汝の報いを失わざる様に常に祈れ。」(教義と聖約31:12)

そのほか主は次のようにも言っておられる。「また生くるも死ぬるも人の子の来る日に堪えんことを常に祈るべし。」(教義と聖約61:39)

「われ一人に対して言うことは、万人に向いて言うなり。汝らかの悪魔に征服せられて、今居る所より立ちのかされざる様常に祈るべし。」(教義と聖約93:49)

「両親はその子供たちに祈ることと、主の前に正しく歩むこととを教えざるべからず。」(教義と聖約68:28)

主はシオンの教会員について言われた。「およそ、祈るべき時にわが前に祈りをなすことを守らざる者は、わが民を審く者の前に覚えらるべし。」(教義と聖約68:33)

しかし、祈りの目的は執念深い神を静めることでも、優しい父親のちよう愛を得ようとすることでもない。「神の前よりさし出でて広大なる宇宙に満ち充て」(教義と聖約88:12)るみたま、すなわち光と自分自身の調和を図ることである。その光の中に私たちに必要な

すべての答えを必ず見いだせるにちがいない。

祈りはドアを開け、私たちの生活の中にキリストを招き入れる鍵である。

主は言われた。「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。」(黙示3:20)

祈りは人が主に語りかける手段である。同様に、啓示は神が人と交通する手段である。神は様々な手段を用いて啓示を与えられる。例えば、神は自ら言葉をもってアダムの祈りに答えられた。「エデンの園を指して行く途のかなたより(主の)声聞えて彼ら(アダムとイヴ)に語りたまえる。」(モーセ5:4)

そのほかに、主が直接に姿を現わされることもある。

「われアブラハム、一人の人の別の人に語る如く主と顔と顔とを合せて語りぬ。」(アブラハム3:11)

「神、モーセに語りて言いたまえり。……主の栄光モーセの上にありますれば、モーセ神の御前に立ちて神と顔を合わせて物言いたり。」(モーセ1:3, 31)

予言者ジョセフ・スミスは、御父と御子にまみえたことの証を述べている。

「私は自分の真上に太陽にも増して輝く一つの光の柱を見た。そしてその光の柱は次第に下りてきて、光はついに私の上にもふり注いだ。

……私は筆紙に尽し難い輝きと栄光とを有したもう二人の御方が私の真上の空中に立ちたもうのを見た。そしてその中のお一人が私に言葉をかけて私の名を呼びたまひ、他のお一人を指して『こはわが愛子なり、彼に聞け』と仰せられた。」(ジョセフ・スミス2:16-17)

時々主は人と交通するために代理を遣わされる。例えば、予言者ジョセフ・スミスに何回にもわたってモロナイを遣わし、指示を与えられた。(ジョセフ・スミス2:28-59参照)

この訪れについて予言者ジョセフ・スミスは、このように記している。

「私はもう寝ようと思って自分の寝室に入ってから、全能の神に対して……祈り且つ願いを求めた。

かように私が神を呼び求めている間に、私は室内に一種の光が現われるのをみつけた。その光は次第に明るさを増して、ついには室中真昼よりも明るくなった。その途端に一人のお方が空中に立って私の寝台の側に現われた。」(ジョセフ・スミス 2：29—30)

主は時々夢や示現、例えばダニエルの夢やニーファイの示現などの手段によって人と交通をもたれた。

イノスは「また主の御声が私の心に聞えて仰せになった。『汝の兄弟らがわが命令を守る熱心の多少に従い、われはこれに報いを与うべし』(イノス10)と言っている

私はこの種の啓示があることを証したい。なぜなら私はそれを経験したからである。

その一例を御紹介しよう。私がひとりの立派な末日聖徒の母親の葬儀で、話を終えて「アーメン」と言おうとした時のことである。私の心の中に、「証を述べなさい」という声が聞こえた。そこで私は証を述べた。しかしその後、そのことをすっかり忘れていた。ところが数ヵ月後に、隣のステーキ部に住んでいる妹が来て、その後起こったある出来事を話してくれた。

妹は言った。「私たちのワード部にもう何年も教会に来ていない姉妹がいたの。私たちは彼女を活発にしようとして努力したんだけどまったく効果がなかったの。ところが、最近すっかり変わってしまったのよ。什分の一を納め、聖餐会にいつも出席し、すべての教会の活動に参加するようになったの。それで、どうしてそんな気持ちになったのか尋ねると、彼女は、『母の葬儀でソルトレークに行ったんです。その時、葬儀でロムニーという人が話をしたんです。ごく普通の話を終えて、座わるんだらうと思っていたら、急に証を始めたんですよ。しかもとっても印象深い証でしたわ。それで、母がいつも私に教えてくれたそんな

生活をしたいという望みが起こってきたんですの』と答えたの。」

兄弟姉妹、ならびに友人の皆さん、私は、主の啓示がどのような方法によって下されるかよく知っているの、そのことについて証を述べたい。啓示は主御自身のみ言葉、御自らの訪れ、主の使い、夢、示現、または心に聞こえる主のみ声を通して下される。

しかし、ほとんどの場合、啓示は「静かなる細き声」で私たちに下される(教義と聖約 85：6)。

このような方法で事実啓示が下され、またこれが重要であることは、主御自身が証明し、強調しておられる通りである。

モルモン経の原本である金版に関して予言者ジョセフ・スミスが述べた証が確かであることについて、主は予言者を通してオリヴァ・カウドリに次のような啓示を下された。「見よ、汝はわれに尋ねたればわれが誠に汝の悟りを開かじめしことを知る。」また、「われ汝にそのことに就きて心安かれと告げしにあらざり」と(教義と聖約 6：15, 23)。

ジョセフ・スミスが翻訳していた金版に刻まれた記録から自分も知識を得たいと言ったオリヴァに対して、主は次のように言われた。「……見よ、われ今汝に來りて汝の心の中に留るべき聖靈によりて汝の智と情に告げんとす。」(教義と聖約 8：2)

ふさわしい生活を送り、主の導きを求める人々は、物事の決定を下す時に、主から啓示を受けることができる。そして、その啓示を受ける方法として神は次の方法を定められた。

「汝心の中によく思い計り、その後願うこともし正しければ、……その時われ汝の心を内に燃やさん。これによりて汝にその正しきを感じしむ。されどもし願うところ正しからずば、かかる感なくして汝の心は次第に鈍くなり、……」(教義と聖約 9：8—9)

祈りと啓示に関するこれらの神の教えが真実であることを、贖い主イエス・キリストのみ名により証申しあげる。アーメン。

主を信頼して

十二使徒評議員会会員

L・トム・ベリー



幸福で喜びと希望に満ちた人生を送るに
は心の中に福音の光を輝かすことである

詩 篇に次のようにある。「主に信頼して善を行え。そうすればあなたはこの国に住んで、安きを得る。

主によって喜びをなせ。主はあなたの心の願いをかなえられる。

あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ、主はそれをなしとげ、

あなたの義を光のように明らかにし、あなたの正しいことを真昼のように明らかにされる。」(詩篇37：3-6)

義しい生活は、特別な光、みたま、喜び、幸福をもたらすと数々の聖句は告げている。

もう何年も前のことになるが、私は小売業を営む会社の役員をしていた。その店のひとつで、教会に入って間もない娘さんを持つ警備員が働いていた。彼は、娘さんの生活が以前とは違って変わったことをよく話してくれた。彼女のバプテマスが、家庭の中に新しい活気をもたらしたのである。私は、この出来

事を踏み台として、彼に福音を教えようと考えた。

ある夕方、閉店後に私が店を出ようとする時、彼は遅くまで買い物をしていたお客を送り出していた。私はちょっと立ち止まって、彼に声を掛けた。すると彼は、すぐさま娘さんのことを話し始めた。「うちの娘ですが、あなたの教会に入ってから何か輝いていますよ。」

そこで私は、主を信頼し、福音の計画に従って生活すれば変わりますよ。顔の表情もね、と言った。丁度その時、何人かのお客に混じってふたりの女性がこちらに歩いて来た。ふたりはきちんとした身なりをし、その顔には特別な輝きがあった。その時私は、ひとりの女性の胸に、「義務達成賞」のバッジがついているのに気付いた。それは、私たちの誇る教会の若人が、その特別な賞を受けた後、母親に贈ったものであった。私は友人の方を振り返って言った。「こちらに向かって来るふたりの女性を見て下さいよ。ふたり共、どこか違うでしょう。彼らも教会の会員なんですよ。」

私のこの言葉に非常に興味を持った彼は、駆け寄って行ってふたりに尋ねた。「あなた方は、モルモンですか」と。そのことを確認した後、彼はもどって来ると次のように言った。「やっぱり、どこか違いますね。」私もそれに同感である。主を信頼して善を行なう者は、どこか違うのである。

歴史は、まさに時の初めからこの事実を立証している。聖典を読む時、私は読んだことを生活の中に生かすように努力している。また、そこに登場する偉大な人物と交流を図るよう努めている。

例を挙げて説明しよう。創世記の37章には、大勢の息子に恵まれたある素晴らしい家族のことが記されている。その息子のひとり、ヨセフは、兄弟の中で一番父から愛されていた。そして父はヨセフにその愛を示すため、着物を与えた。しかし「兄弟たちは父がどの兄弟よりも彼を愛するのを見て、彼を憎み、穏やかに彼に語るができなかった。」(創世37:

4)

けれどもヨセフは、そのことを大して気にしなかった。そして、夢を見てはそれを兄たちに告げた。そのことで、兄たちはますます彼を憎んだ。次のような夢を見たことを聞いたら、一体家族はどのように思うだろうか。

ヨセフは、兄たちに次のように言った。「『どうぞわたしが見た夢を聞いてください。

わたしたちが畑の中で束を結わえていたとき、わたしの束が起きて立つと、あなたがたの束がまわりにきて、わたしの束を拝みました』。

すると兄弟たちは彼に向かって、『あなたはほんとうにわたしたちの王になるのか。あなたは実際わたしたちを治めるのか』と言って、彼の夢とその言葉のゆえにますます彼を憎んだ。」(創世37：6—8)

その後、父がヨセフを家において、兄たちに羊を飼わせたことで、事態はますます悪化した。父は、時々ヨセフを兄たちのもとにやっけて、彼らの様子を見させた。ある日、ヨセフがやっけて来るのを遠くに見た兄たちは、とうとう我慢できなくなった。そして、ヨセフを殺そうとたくらんだ。彼らは、ヨセフを殺して穴に投げ入れ、父には悪い獣がヨセフを食べたと言おうと計画した。

すると、兄のひとりがエジプトに向かう隊商が遠くからやっけて来るのを見て、次のように言った。

「われわれが弟を殺し、その血を隠して何の益があらう。

さあ、われわれは彼をイシマエルびとに売ろう。彼はわれわれの兄弟、われわれの肉身だから、彼に手を下してはならない。」(創世37：26—27)

こうして、彼らは17歳になる弟ヨセフを、エジプトに向かう隊商に売ったのである。エジプト、そこは言葉も習慣も分からない未知の国であった。しかし、主はこの人並優れた若者と共におられた。そのため、ヨセフは一向に落胆した気配を見せなかった。外国人で

しかも奴隷の身でありながら、彼の顔には特別な活気がみなぎっていたに違いない。彼は市場で、王の侍衛長に買われた。それから間もなくして、侍衛長はヨセフが優れた人物であることを認め、彼に家を管理させるようになった。また、侍衛長の第一のしもべとして、彼は侍衛長の持ち物すべてをつかさどった。侍衛長は、ヨセフに全幅の信頼を寄せ、財産や収入をすべてヨセフの手にゆだねたのであった。

ヨセフは主の助けを得て高い地位に就いた。しかし彼の容姿がよかったことで、ひとつの問題が起こった。侍衛長の妻が、この若者に言い寄ったのである。ある日、ヨセフが家でひとり働いていると、彼女は部屋に入って来て、彼の上着をつかんだ。ヨセフは義しい若者であったので、そこにははならないと感じ、上着を残して外に逃れた。侍衛長の妻は、上着を手にしたままそこにたたずんだ。やがて侍衛長が帰宅すると、彼女はヨセフが自分に言っけてきたと偽った。すると、侍衛長は激しく怒って、ヨセフを獄屋に入れてしまった。こうして再び、ヨセフは若い身の上で窮地に陥ってしまった。しかも、今度は獄屋の中に。

しかしヨセフは簡単には屈しなかった。獄屋の中で、彼は最高の囚人になろうと努力した。そして、次第に獄屋番に気に入られる者となった。聖典には、このことが次のように記されている。「獄屋番は獄屋におけるすべての囚人をヨセフの手にゆだねたので、彼はそこですべての事をおこなった。」(創世39：22) こうして皆さん御存知のように、ヨセフは囚人の中で最も高い地位に就き、すべての囚人を治めるようになった。ヨセフは、苦難の中で最善を尽くし、最高の囚人となったのであった。

ヨセフが獄屋に入れられてからしばらくすると、王の給仕役の長と料理役の長が投獄された。ヨセフは間もなく彼らと親しくなった。ある時、このふたりは夢を見た。ヨセフは義

しい人として信用されていたので、ふたりは夢の解き明かしを彼に頼んだ。事実、ヨセフは夢の解き明かしができたのであった。ヨセフはひとりに向かって獄屋から出ることができずに死ぬと告げ、もうひとりに向かっては、すぐにパロに仕える職に戻るであろうと告げた。そして、ヨセフは前の地位に戻されると告げた男に、パロに彼のことを話して獄屋から出られるよう取り計ってほしいと頼んだ。というのも、彼は囚人として最善を尽くしていたからである。

給仕役の長は、王に仕える高い地位に戻されると、獄屋の中にいるヨセフのことはすっかり忘れてしまった。そして、2年が過ぎた。ある日、王は夢を見た。けれどもどの賢者もその夢を解き明かせなかった。その時、給仕役の長はヨセフのことを思い出して、獄屋の中に夢の解き明かしができる者がいると王に話した。パロは人を遣わしてヨセフを呼んだ。ヨセフは、主から靈感を受けて王の夢を見事に解き明かした。そのために王は非常に感激して、ヨセフを獄屋から出し、自分に仕えさせた。こうしてまた、ヨセフはその優れた人格を認められて、パロの次に権威ある者としてエジプト全国をつかさどることになった。(創世40—41参照)

ヨセフが王のために仕え、尽くすのを見て、パロは家来たちに言った。「われわれは神の霊をもつこのような人を、ほかに見だし得ようか。」(創世41:38) パロは、ヨセフが確かに主によって導かれていることを認めて、ヨセフに次のように言った。「神がこれを皆あなたに示された。あなたのようにさとく賢い者はない。」(創世41:39)

イエス・キリストの福音という道路標識に従って道を歩み、主を信頼する時に、福音の影響力はその行動だけでなく、本人の姿そのものに明らかな変化を与える。そこには、永遠の魂から放たれる特別な光と活気がある。輝き、光、喜び、幸福、平安、純潔、満足、活気、情熱といった言葉はすべてそれを表わ

しているといってもよいであろう。

ブリガム・ヤングはかつて次のように言った。「この世において神の王国について知る機会を得て、同時に神の愛の内にある者は、地上で最も幸福な者である。……

まことの聖徒で、悲しみに沈む者はかつてなく、また現在もない。生命の泉が枯れている人、すなわち永遠の生命の原則を理解していない人は悲しむべき人々である。生命の言葉を私たちの内に宿し、永遠の生命と栄光を待ち望む希望の光を内に燃え立たせ、利己的な思いをすべて燃やし尽くすならば、私たちは決して暗闇の中を歩くようなことはなく、疑いや恐れとは無縁の者となるのである。……

悪魔は私たちのこのような状態を怒っている。これは真実である。悪魔は、人々を悲しませることができないことを腹立たしく思っている。……

真の幸福はどこにあるのだろうか。神のみもと以外、どこにもあり得ない。神聖な宗教心を抱くことによって、私たちは、朝に、昼に、夕べに幸福になることができる。なぜなら、愛と一致の精神が私たちと共にあるからである。また私たちは神のみたまを享受し、すべての善なるものの源である神にあって喜びを得る。

罪の赦しを得るためのバプテマスと按手礼を受けた後、神の愛を心に感じたすべての末日聖徒は、喜びと幸福と慰めに満ちている自分を発見することだろう。苦しい時、間違いを犯す時も、貧しい時があるかも知れない。また、捕われの身になることさえ余儀無くされる時があるかも知れない。しかし、そういう時にも喜びの表情を失わない。これは、私たちが実際に経験しており、すべての末日聖徒が証する通りである。

真に幸福な人とは、男女を問わず神の御子の福音を享受している者、また神の祝福に感謝することを知っている者である。」(Discourses of Brigham Young 「ブリガム・ヤング説教集」 pp. 235—36)

もしこれが事実であるとすれば、これこそこの地上で見いだすことのできる最も素晴らしい幸福の源ではないだろうか。ここで、最近の例を御紹介しよう。

「1953年の夏、16歳の私は、バージニア州アピンドンにあるバーター劇場で、女優を志願して養成を受けていました。劇団の主役を務めていたのは、ニューヨークで開かれた選考会で最優秀賞を得た赤毛の美しい女性でした。恐らく芸名だったのでしょうか。名前をジューン・モンカーと言いました。私は彼女と同じ部屋になりました。毎朝私が目を覚ますと、ジューンはいつもベッドに座って本を読んでいた。どんな時間に目を覚まして、私の目に映る光景はいつも同じでした。このような日々が4ヵ月も続きました。

彼女が『モルモン』であるというニュースは、瞬間に私たちの間に広がりました。道徳というものがとかくないがしろにされる環境の中で、彼女は白雪のように清らかでした。お酒もタバコも口にしない彼女は、演技の上でもその姿勢をくずしませんでした。もちろん私室に男性を入れるようなことはありません。彼女はすべての人を愛していました。『スター』であるにもかかわらず、とても穏やかで親切でした。彼女は毎朝読書にふけていました。

彼女は自分の信じている宗教について一言も私に話しませんでしたし、私も尋ねませんでした。けれども、彼女は私にとって決して忘れ得ぬ人でした。

何年かたって私は結婚し、2児の母となりました。そしてしばらくすると、私たち夫婦は、自分たちの生活の中に霊性が欠けていることに気付くようになりました。宗教講座を受けたり、いろいろな教会へ行ったりしましたが、それでも私たちの心は満たされませんでした。

そのような折に、私はジューンのことを思い出しました。人の話では、彼女は『モルモン』ということでした。それまで私たちは『モ

ルモン』とは何かまったく知りませんでした。また、歴史の授業で学んだという記憶もありません。そこで私はアラバマ州オベリカにある公立図書館に行き、やっとの思いで捜し出した『モルモン経』を借りました。見ると、『モルモン経』の裏表紙に伝道本部の所在地一覧表が載っていました。そこで私は一番近いジョージア州の伝道本部に手紙を書き、教会では改宗者を受け入れるかどうかを尋ねました。こうして、私たちの家族にとって大切な日々が訪れたのでした。

現在私たち夫婦の親族には、合わせて37人の末日聖徒がいます。また霊界でも、大勢の親族が同じ機会にあずかっています。ひとりの女性の模範が私の心に決して消えない刻印を押したからでした。このことをその女性にお伝えしたくて八方手を尽くしましたが、捜し出せませんでした。」

私たちはどこに人の目があり、その人々が私たちから何を学んでいるか知るすべはありません。しかし、このことをよく心に留めて生活する必要があることを、私は自分の体験から知りました。

(『模範による伝道』聖徒の道、1978年9月号、p. 12)

世の人々は、永遠の魂からイエス・キリストの福音の光を放つ人々の模範を何と必要としていることだろう。また、義しい生活が永遠の喜びをもたらすということ、何と広く示さなければならないことだろう。

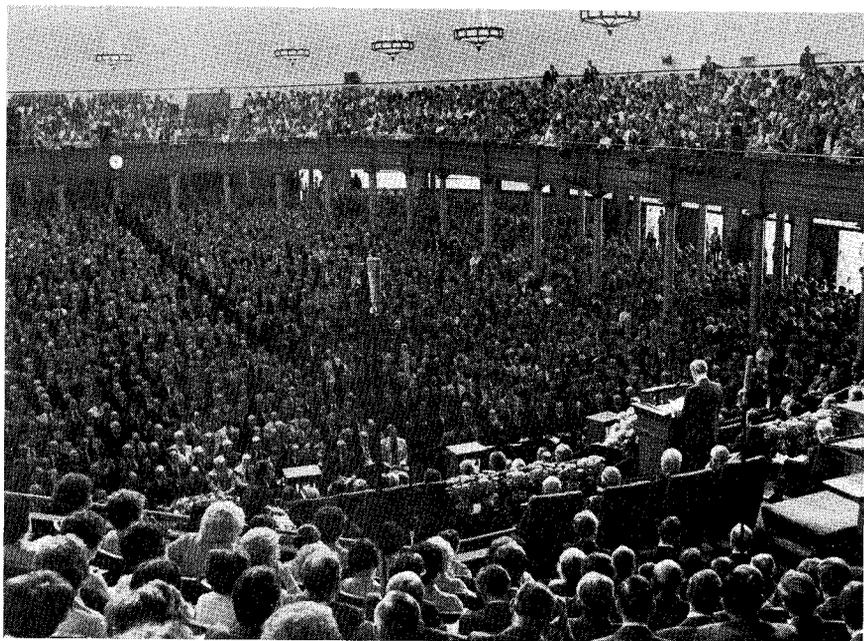
私たちの主なる救い主の福音にあずかっている皆さんに願う。標識のように立って、より幸福で満たされた人生を求めている人々にその道を告げ知らせてあげてほしい。あらゆる賜の中で最も大いなるこの賜をまだ見いだしていない方々に申し上げたい。私たちの中に加わって、より良い人生を築いていただきたい。救い主の教えに従って生活するならば、私たちは苦難の世に光を投じることができであろう。

私たちは、主を信頼して善を行ない、イエ

ス・キリストの福音の示す模範に従って生活する時に、かつてのヨセフのように、「われわれは神の霊をもつこのような人を、ほかに見いだし得ようか」(創世41:38)と言われることだろう。このような者となるよう、へり

くだってお祈り申し上げる。

神は生きておられ、イエスはキリストである。この教会は主の教会である。これらのことを、心からへりくだり、イエス・キリストのみ名により証申し上げる。アーメン。



大会の光景

真理とは何か

七十人第一定員会会員

ジョン・H・バンデンバーク



福音には、科学、歴史、哲学、論理学および論証可能な事実に関するあらゆる真理が含まれている。これは啓示によって導かれる宗教の中にある

私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの贖いと復活を記念する最大の行事が行なわれてから丁度一週間が過ぎた。大勢の人々が特別の礼拝行事に出席し、讃美歌や説教に耳を傾けて、イエス・キリストの復活を祝った。

その奇跡を思い起こし熟考する時に、私の心に、ユダヤ人がイエスを捕えて裁判の席に引き出した時のある出来事が浮かんでくる。

聖典には次のように記されている。

「さて、ピラトはまた官邸にはいり、イエス呼び出して言った、『あなたは、ユダヤ人の王であるか』。

イエスは答えられた、『あなたがそう言うのは、自分の考えからか。それともほかの人々が、わたしのことをあなたにそう言ったのか』。

ピラトは答えた、『わたしはユダヤ人なのか。あなたの同族や祭司長たちが、あなたをわたしに引き渡したのだ。あなたは、いったい、

何をしたのか』。

イエスは答えられた、『わたしの国はこの世のものではない。もしわたしの国がこの世のものであれば、わたしに従っている者たちは、わたしをユダヤ人に渡さないように戦ったであろう。しかし事実、わたしの国はこの世のものではない』。

そこでピラトはイエスに言った、『それでは、あなたは王なのだな』。イエスは答えられた、『あなたの言うとおり、わたしは王である。わたしは真理についてあかしをするために生れ、また、そのためにこの世にきたのである。だれでも真理につく者は、わたしの声に耳を傾ける』。

ピラトはイエスに言った、『真理とは何か』。こう言って、彼はまたユダヤ人の所に出て行き、彼らに言った、『わたしには、この人になんの罪も見い出せない』。(ヨハネ18:33-38)

しかし、ピラトと、イエスを訴えた者たちの間で、イエスを十字架につけることについてさらにやり取りが行なわれた。

「真理とは何か。」ピラトはこのように問うとイエスの返答を聞かずにそこを立ち去った。どうしてであろうか。彼のこの態度から、他の多くの人々と同じように、ピラトも真理を恐れていたのではないかと想像する人もいる。真理を直視することを望まず、真理を知ることによって要求される試練や責任を引き受けたくないという気持ちがあったのではないかと。

イエスは、「だれでも真理につく者は、わたしの声に耳を傾ける」と言われた。「真理につく者」とは、心から真理を求める人のことである。真理は人生における最も重要な要素であり、全人類は真理を求める者でなければならない。

ある著者は、この考えを次のような言葉で表現している。「自らに判断を下し得る唯一のものなる真理は、かく教える——真理の追求（これは真理に対して恋愛をしかけること、すなわち求愛である）と、真理の認識（これ

は真理の享受である)の三つは、人間最高の幸福である、と。」(フランシス・ベーコン『真理について』「ベーコン隨筆集」岩波文庫、神吉三郎訳)

また、古代の詩人は次のようにも記している。「岸边に立って、海に揺られている船を眺めるのは楽しい。城の窓に寄って、戦いとその様々の冒険を眼下に見下ろすのは快い。しかし、いかなる愉快も真理という優越位置——これは、よそからうかがわれぬ高地で、空気は清く澄んでいる——に立って、眼下の谷に起こる誤謬や錯乱や、霧や嵐を見下ろす快さには比すべくもない。なお、この際の光景は、常に同情の目を持って見らるべきもので、高慢やうぬぼれを持ってこれを眺めてはならない。まことに、人の心が仁愛において動き、摂理に安んじ、真理の不動なる軸の上に回転するならば、これこそ地上の天国である。」

(同上)

これは、先にイエスが言われた、「わたしは真理についてあかしをするために……この世にきたのである」(ヨハネ18:37)という言葉の思い起こさせる。

真理とは知識である。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることです。」(ヨハネ17:3)このように定義付けられた真理は、イエス・キリストの福音の中にある。

救い主は、この世で導きと恵みを施す業に従事しておられた時に、謙遜でしかも誠実な人々を使徒に選んで教会を組織された。イエスは、彼らと共に暮らし、彼らと共に旅をし、彼らを教えられた。また、彼らの前で数々の奇跡を行なわれた。そして、彼らを聖任し、権威と権能を授けられた。このようにしてイエスは、彼らが世に出て行って福音を宣べ伝えることができるように準備をされたのである。

イエスが、彼らと共に旅をされた時のことである。「イエスがピリポ・カイザリアの地方

に行かれたとき、弟子たちに尋ねて言われた、『人々は人の子をだれと言っているか』。

彼らは言った、『ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています。しかし、ほかの人たちは、エリヤだと言い、また、エレミヤあるいは預言者のひとりだ、と言っている者もあります』。

そこでイエスは彼らに言われた、『それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか』。

シモン・ペテロが答えて言った、『あなたこそ、生ける神の子キリストです』。

すると、イエスは彼にむかって言われた、『バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。』

そこで、わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない。」(マタイ16:13-18)

啓示の岩は、キリストの教会の基である。啓示の原則は、生ける教会に必要な欠くべからざるものであり、神が予言者を通して子供たちを導く時には常に用いられるものである。末日聖徒イエス・キリスト教会は、神聖な啓示の権威と権能の下に回復された。

19世紀の初め、ジョセフ・スミスという名の誠実な少年が真理を探し求めていた。彼はヤコブの手紙〔これは、「離散している十二部族」(ヤコブ1:1)に宛てて書かれたものである〕の中に、次のような力強い言葉を見いだしたのであった。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」

ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。疑う人は、風の吹くままに揺れ動く海の波に似ている。

そういう人は、主から何かをいただけるもののように思うべきではない。」(ヤコブ1:5-7)

天から真理への招きを受けたジョセフ・スミスは、心から祈りを捧げ、御父と御子が別々の御方であることを知り、救い主からみ教えを受けたのであった。

イエスは、ジョセフの問いに答えて、地上に存在する教会はいずれも誤っており、「彼らは唇もてわれに近づけど、その心はわれに遠ざかれり。彼らは人の誠命を教えとして教え神を敬う様をすれども神の力を否む」(ジョセフ・スミス2:19)と言われた。

その後、神は、ジョセフ・スミスを通して神の真実の教会を地上に回復するために、彼にさらに指示を与えられた。

「まことに主なる神は、そのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされない。」(アモス3:7)

また、1841年、すなわち教会が回復され組織されてから11年後に、ジョセフ・スミスは教会の信条を簡単に説明するよう依頼を受けた。これは、信仰箇条として知られている。

この信仰箇条第8条と9条には、神からの啓示に関する私たちの信条が記されている。

「われらは、正確に翻訳されたる限り、聖書は神の御言葉なりと信ず。またモルモン経(英文)も神の御言葉なりと信ず。

われらは、すべて神のこれまでに啓示したまいしこと、すべて今啓示したもうことを信じ、なお今より後、神の王国につきて多くの偉大にして重要なことを啓示したもうことを信ず。」

聖書は、この世に住む神の子供たちに導きと恵みを施すために、神から予言者に啓示されたメッセージを収録したものであり、私たちの宗教書の基をなすものである。聖書は、正しい手順を経てこの世にもたらされ、現在の世にあって大きな価値を持つものである。その中には、人々が知らなければならぬ沢山の事柄が記されている。もしもこの記録がなかったならば、私たちは一体どのようにしてイエスのことを知り得ただろうか。

ヨハネの言葉を考えてみよう。

「初めに言^{ことば}があった。言は神と共にあった言は神であった。

この言は初めに神と共にあった。

すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。

この言に命があった。そしてこの命は人の光であった。……

彼は世にいた。そして、世は彼によってできたのであるが、世は彼を知らずにいた。」(ヨハネ1:1-4, 10)

イエスは、この世と、この世に属するすべてのものの創造主である。イエスは、予言者にみこころを啓示し、すべての福音の神権時代を導いてこられたエホバである。

しかしながら、聖書には、今までに与えられたすべての啓示が記されている訳ではない。

現代の啓示により、予言者ジョセフ・スミスを通してモルモン経は世に出された。モルモン経は、イエス・キリストのことを証言する新たな書物であり、イエス・キリストの福音が古代アメリカ大陸の原住民に宣べ伝えられたことと、イエス・キリストが昇天後アメリカ大陸を訪れたもうたことを明らかにするものである。これらの原住民は、かつてイエスの言われた、主の羊群に属する「他の羊」(ヨハネ10:16, IIIニーフアイ15:21参照)である。彼らも、イスラエルの血筋を引く者だからである。

また私たちは、近代の啓示によって、アダムにも福音が与えられていたことを知っている。聖典に、次のように示されている。「アダムとその妻イヴ主の御名を呼びたるに、……声聞えて彼らに語りたまえるが、その御顔は見えざりき。そは彼ら主の居りたもう所より締め出されればなり。

主、彼らに誠命を下して置^{おき}いけるは、主なる汝らの神を礼拝し、主に供物としてその羊の群の中の初子^{はつご}を捧ぐべしと。アダムは主の誠命によく従いぬ。

多くの日を経て、主の天使一人アダムに現

われて言いけるは、汝^{なんぢ}何故に主に犠牲^{いけにえ}を捧ぐるやと。アダム彼に言いけるは、われその故を知らず、ただ主の誠命に従うのみ。

ここに天使語りて言いけるは、この犠牲を捧ぐることは、御父の生みたもう恩恵と真理に満てるただ独りの御子が犠牲となりたもうことのひながたなり。

この故に、汝の為すすべてを御子の御名によりて為せ。また汝悔い改めて今よりいつまでも御子の御名によりて神を呼ぶべし。

その日、父と御子の証を為したもう聖霊アダムに下りて宣いけるは、われは太初より、また今よりとこしえに、父の生みたまえる独子なり。汝墮ちしが故に贖^{はじめ}われることを得ん。贖われんと欲するありとあらゆるすべての人類もまた然りと。」(モーセ5：4-9)

また、エノクについても多くのことが明らかにされている。聖書では、この偉大な予言者に関してほんの少ししか知らされていない。しかし末日の啓示は、民の中における彼の働きについて多くのことを告げている。エノクは次のように述べている。「われと共に語りたまひしその主は誠に天の神なり。そはわが神にしてまた汝らの神なれば……」(モーセ6：43)と。こうして主は、完全な救いの計画、すなわちイエス・キリストの福音を、父祖アダムに宣べられたままに、エノクにも明らかにしたもうた。

さらに私たちは、ノアについても多くのことを知っている。「主はノアをその神権に按手聖任したまい、出で行きて、エノクに教えられし如く人の子らに主の福音を宣べよ、と命じたまえり。

ノア……その教えを説くことをつづけて曰く、聴けよ、わが言^{ことば}に心を留めよ。

信じて汝らの罪を悔い改め、誠にわれらの先祖の如く神の子イエス・キリストの御名によりてバプテスマを受けよ。さらば聖霊を受けて、あらゆること汝らに明らかにせらるべし。もし汝らこれを為さざれば、洪水汝らの上に来らん、と。これらの言にもかかわらず

彼ら聴かざりき。」(モーセ8：19, 23-24)

そして、アブラハムについても沢山の事柄が明らかにされている。エホバは、アブラハムに次のように言われた。「わが名はエホバなり。われは始めより終りを知る。これを以て、わが手汝を覆^{おほ}わん。

われ汝を大いなる国民となし……汝は汝の末の子孫にとり祝福の基となりて、汝の子孫は万国の民にこの導きと教えを施す職と神権とを携えて行かん。」(アブラハム2：8-9)

主はまた、人類の前世における状態を示現によってアブラハムに明らかにされた。「さて、主はわれ……に、この世に先だちて組織されたる英智たちを見せたまいたりき。而して、これらすべてのものの中には、高貴にして偉大なるもの多くありたり。

神、これらの霊を善しと見たまい、……而して、神われに言いたまいけるは、アブラハムよ、汝はこれらの者の一人なり。汝は生れざる前に選ばれたり、と。」(アブラハム3：22-23)

近代の啓示をすべてよく吟味してみるならば、現代こそ、パウロがエペソ人に語ったまさにその時代であることを知るに違いない。

「それは、時の満ちるに及んで実現されるご計画にほかならない。それによって、神は天にあるもの地にあるものを、ことごとく、キリストにあつて一つに帰せしめようとされたのである。」(エペソ1：10)

福音は、イエスが人々の罪の犠牲となって御自身を捧げなければならなかったことを教えている。それは、全人類が贖われるためである。またイエスとその教えを信じ、戒めに従い、イエスのみ声に耳を傾ける者に救いを得させるためである。あらゆる真理に耳を傾け、それを学び、それに従うこと、これは一生の仕事である。福音が永遠に及ぶものだからである。

神の啓示を信じることに、次のように言われている。「真理の源である神と神から与えられる啓示を信じるという宗教上の宣言

は、宇宙に真理が遍在するという考えを受け入れるものである。これらの真理には、すでに明らかにされているものもあれば、まだ明らかにされていないものもある。物質的な発見や進歩の面で、人の霊に悟りを与えたもう全能者の靈感を通してすでに知らされている真理もあれば、まだ知らされていないものもある。また、はっきりとした形を持つものもあれば、肉眼では見えないものもある。

そこには、科学、歴史、哲学、論理学および論証可能な事実に関するあらゆる真理が含まれている。これは啓示によって導かれる宗教の中にあり、天の支配の下にすべてを統治する法と秩序の制度である。まさにこれこそ、主イエス・キリストの福音である。」(ジェー

ムズ・H・アンダーソン、*God's Covenant Race*「神の誓約の民」p.132)

私たちは、この説教壇から語られる真理について考えるようすべての人々に呼びかけるものである。いにしへの詩人は、次のように語った。「聞き慣れないからと言って、いかなる意見も拒んではならない。まず、厳密に調べてみよ。そして、もしそれが偽りであれば退け、真実であれば受け入れよ。」

すべての人々が、祈りをもってこれを行なって下さるよう願っている。

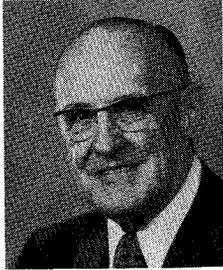
私は、啓示と祈りが永遠の生命を得るために確かに欠かせないものであるということを実証する。これらのことを、イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。



十二使徒評議員会会長エズラ・タフト・ベンソン長老(左)と
十二使徒評議員会会員マーク・E・ピーターセン長老

結婚生活を 実りあるものとする

七十人第一定員会会員
O・レスリー・ストーン



結婚生活を幸福で実りあるものとするこ
とは何にも増して大切である

きょう私は、おもに結婚して間もない夫婦と、近々結婚を予定している人々を対象にお話したい。しかし、結婚して久しい夫婦や結婚がまだ先の人々など、恐らくすべての人のためになると思う。きょうは、結婚生活を実りあるものにする方法についてお話したい。

天父は私たち全員を愛し、私たちが幸せになることを望んでおられる。聖典には、「人類が現世に在るのは幸福を得んためである」（II ニーファイ 2 : 25）とある。キンボール大管長は、幸福の代価は戒めを守ることであると語った（*Faith Precedes the Miracle* 「奇跡に先駆ける信仰」 p.126 参照）。結婚生活を幸福で実りあるものとする、これは何にも増して大切である。

結婚生活を幸福で実りあるものとするために大切なのが、神殿で結婚することである。この世限りの結婚をしている方々に申し上げたい。神殿に行き、この世においても永遠に

わたっても有効な家族との結び固めを受けて、主が備えて下さっている祝福をすべて受けていただきたい。聖なる神殿の儀式を受けることを、結婚生活を実りあるものとするための第一の目標としていただきたい。

天父は私たちがこの世へ来ることを許すに当たって、私たちに、自分で物事の決定ができるように自由意志を与えて下さった。また、義しく生活できるように指針をも与えて下さった。

天父はまた、深い知恵をもって私たちに多くの問題を与えられる。問題に立ち向かって解決法を見いだすことによって、私たちが知識と力量を得て人格を伸ばし、悪を克服できるようになることを御存知だからである。このことが現世だけでなく来世でも私たちのために役立つことを、天父は知っておられるからである。

それゆえ私たちは、結婚生活に伴う諸問題を成長と進歩の機会とみなすべきである。問題を上手に切り抜ける時に、夫婦間に、また家庭に、平安と愛と落ち着きが生まれる。

夫婦がまず行なわなければならないことのひとつは、互いの間に良い関係を築き、それを維持することである。愛すべき恋人でありたいと思うならば、そのための努力が要る。伴侶を幸せにするためにできる限りのことをするように、私は皆さんにお願いしたい。互いに親切に、思いやりを持つように。問題が生じたら穏やかに話し合い、速やかに不一致を解消しなさい。かつてゴードン・B・ヒンクレー長老は、平和な家庭の声は静かな声であると述べた（『永遠の結婚へのおや石』「聖徒の道」1971年10月号 p.305 参照）。マッケイ大管長は、家庭では決して怒鳴りあってはならない、怒鳴ったりわめいたりしてよいのは火事の時だけであると語っている。

（*Stepping Stones to an Abundant Life* 「豊かな生活への踏み石」 p.294）。

伴侶がどうして自分と同じように物事を考え、同じような結論を引き出さないのかと、

理解に苦しむことがよくあるものである。人の考え方や理解力はそれぞれに違い、意見を異にすることが多い。したがって、夫婦がひとつとなつて幸福を得るためには、その相違を早く調整することが必要である。

結婚生活を実りあるものとするためには、夫婦が互いに相手から何を期待されているかを認識することが大切である。通常、夫は家族のかせぎ手であり、一生懸命に働いて、家族の経済を支えるために力を尽くそうと考えている。家族の経済についてよく話し合つて、家族全体のために優先順位を付けるとよい。

妻は主婦である。家を清潔にきちんと整えておくのは妻の責任である。自分の身なりに無頓着であったり、家事がおろそかであったりということが離婚の原因になる場合がある。自分の身なりをよく整えて身ぎれいにすること、家をきちんと整頓することの大切さは、幾ら強調してもしすぎることはないと思う。

結婚当初、健康の許す範囲で一時妻が家庭以外の仕事に就くことがよくある。その場合、夫は家事を手伝うべきである。心から妻を愛しているならば、夫は健康を害うほど妻を働かせたくないと思うことだろう。また、できる限りのことをして妻を手伝いたいと思うはずである。

私は結婚して間もない頃、妻に頼まれて皿洗いやベッド作りやその他の雑事を手伝ったものである。そして今は、私が妻に皿洗いやベッド作りやその他の雑事の手伝いを頼んでいる。要するに、一緒に働き、助け合うことが大切なのである。

夫婦が互いに愛し合っていることを、模範によってみんなに示してほしい。いつでも、思いやりを示していただきたい。兄弟たち、あなたの奥さんあるいは恋人のために車のドアを開けてあげ、建物を出入りする折にはドアを開けて女性を先に通していただきたい。また、女性を先に着席させてから自分が座るようにしていただきたい。

時々、女性の方でそのような礼を尽くす時

間を与えないことがある。そこで姉妹たちには、時間の余裕を与えるようお願いしたい。何度か手を借りずに車から飛び出せば、逆に、男性から彼のために車のドアを開けるように期待されるようになるかもしれない。姉妹たちは、夫の自分への接し方を左右するのは自分自身であるということを中心に留めておくとうい。

金銭管理は非常に大切である。この点について役立つと思われる4つの指針をご紹介します。

1. 必ず什分の一を納めること。この戒めに従う人々に主が約束しておられる大きな祝福を受けられるようにしておく。主は聖典の中で次のように言っておられる。

「わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさいと、万軍の主は言われる。」(マラキ3:10) 私はこれが確かであることを証する。

2. 総収入から幾らかを取りのけること。貯金をしていただきたい。主の分を納めた後に、収入の1割以上を目標にして貯金するとよい。

ブリガム・ヤング大管長はかつて次のように語った。「金持ちになりたければ、貯金をしなさい。愚者でも金はかせげる。しかし、金を貯めて自分を益するために使う人は賢人である。」(Discourses of Brigham Young「ブリガム・ヤング説教集」p.292)

3. クレジットカードや分割払いの買い物をやめること。「ひとまず品物を、支払いはあとで」という勧誘が多いが、これは手元にお金がなくてもぜいたく品を手に入れることが簡単にできると心をそそのものである。私は、まず貯金をして、それから買うことをお勧めしたい。高い金利を払わずに済むし、経済的負担を負わなくてよいからである。

故J・ルーベン・クラーク副管長はこう助言している。「伝染病を避けるのと同じように、

借金を避けよう。今借金があるなら、それを返済しよう。きょうでできなければ、明日返済しよう。厳密に収入の範囲内で生活し、幾分かを貯蓄しよう。」(Conference Report「大会報告」1937年4月p.26)

4. 収入と支出の予算を立て、収入以上の生活はしないこと。収入以上の生活をしていれば、借金が返せないどころか、自分の「欲求」を抑えることも難しくなる。

特に若い夫婦は物事に優先順位を付けるようにすべきである。その際、あなたにとって家族が一番大切なことをいつも忘れずにいるように。次が教会の責任であり、それから生活の糧を得る仕事である。

救い主が弟子たちに語った次の勧告を思い出しいただきたい。「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」(マタイ6:33)

このことは真実である。ここに、あらゆる分野で成功するための道が示されている。

時間は、私たちの最も価値ある所有物のひとつである。したがって、それを賢明に使っていただきたい。最も大切なものを大して重要でないものと取り代えることのないように気を付けていただきたい。

絶えず自分の進歩を評価すること。私たちは義しい生活をして自分の創造された目的を達成するために、常に過去を反省し、現在の自分の状態を考え、将来の目標を定めるようにする必要がある。これなくしては、目的達成はほとんど望めない。

私の声を聞くすべての方々に、良き人々と交わるようにお勧めしたい。どのような人々と交際するかによってあなたの人生の成否は決まるであろう。また、彼らの行動や理想が善かれ悪しかれあなたの生活や行ないに深く影響することだろう。良き人々と交わるようにして、悪魔の領土に足を踏み入れないようにしていただきたい。

次に、あらゆることに正直であること。配

偶者に、子供に、自分自身に、隣人に、正直であっていただきたい。正直とは、うそや欺瞞や不正や盗みに手を染めず、なすべき務めを果たすことである。

正直とは、一日の仕事を立派に果たすことでもある。仕事を怠けるのは、雇い主の時間を盗むことになる。

職場は信頼の置ける正直な人を求めている。それは、いつの時代でも同じである。

正直で信頼できる人というあなたの評判を大切に守っていただきたい。それは、最も貴重な財産になり得るからである。

親になったならば、子供を教育する責任を自覚していただきたい。そのことが、聖典にはっきりと書かれている。教義と聖約68章25節に次のようにある。「また、シオンまたは組織せられたるシオンのステーキ部内にて子供を有する両親あらば、その子供八才の時、悔改め、生ける神の子キリストの信仰、バプテスマと按手による聖霊の賜などの教義を教えて理解せしめざれば、罪その両親の頭に留るべし。」

ここで、罪は日曜学校の教師や初等協会の教師の頭にとどまると言われていないことに気を付けていただきたい。罪は両親の頭にとどまるのである。

実りある結婚生活を望むならば、両親はいつも家庭の責任と子供の養育を心に掛けて生活しなければならぬ。「いかなる成功も家庭の失敗を償うことはできない。」(Conference Report「大会報告」1964年4月p.5)これは、故デビッド・O・マッケイ大管長の言葉である。

愛を家庭の中に、また、生活のいろいろな分野に反映させていただきたい。子供たちや親戚や友人や知人にも愛を示していただきたい。

主は私たちに、「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」(マタイ22:39)と、互いに愛し合うよう命じられた。けんか、口論、あら捜しは何としても避けなくてはならない。ニーファイ第三書11章29—30節で、主は次の意味深い言葉を述べられた。

「争いを好む心ある者はわれに属く者にあらずして悪魔に属くものなり。悪魔は争いを生む親にして、人々の心を煽動して互いに怒り争わしむる者なり。

見よ、人々の心を煽動して互いに怒り争わしむるときはわが教義にあらず。わが教義はかくの如き怒りと争いとを止めよと言うものなり。」

また、モーサヤ書4章14節には、親は子供の行動に責任があると書かれている。

「またお前たちは、自分の子供らを飢えさせたりはだかのまま置いたりはしないであろう。またお前たちは自分の子供らが神の法律に背き互いに争ったり戦ったりして、私たちの先祖が言った悪魔すなわちあらゆる義しきの敵であって罪の頭である悪魔に仕えることを許さず……」

最も大切で忘れてならないことのひとつは、朝に夕にひざまずいて家族の祈りを捧げることである。交代で、天父に受けた祝福を感謝し、必要なことを願うようにしよう。天父はいつも私たちの祈りに答えて下さる。願った通りの期待した答えでない時もあるだろうが、天父の答えは必ず私たちに祝福をもたらす。私たちの祈りにどのような答えが適当か、主

は私たちよりもよく御存知である。

また、毎日少しの時間を、聖典と一緒に学び、考える時間に当てていただきたい。聖典には、人生の諸問題に対する解答がある。

最後に、教会と密接な関係を保つようにお勧めしたい。集会に出席し、神権の召しを全力を尽くして遂行していただきたい。妻は教会の役職に励む夫を支え、夫は教会の召しに携わる妻を支持してほしい。しばしば神殿に行き、そこで感じるみたまを家庭に持ち帰っていただきたい。主の家で交わした誓約、これから交わす誓約を心から守っていただきたい。

キンボール大管長は、ブリガム・ヤング大学のファイアサイドで次のように語った。「もしも夫婦が、結婚は美しく、和合一致があり、幸せで、永遠に続くはずのものであり、そうでなければならず、そうなるだろうと心に堅く思うならば、必ずやそうなることだろう。」

(*Marriage is Honorable*「誉れある結婚」年度講話、1974年p.257)

結婚生活を今も永世にも実りあるものにしようとする皆さんの努力に対して、天父の祝福が豊かにあるように、イエス・キリストのみ名によってへりくだり祈る。アーメン。



タバナクルのオルガニスト、ロバート・カンディック

信じない者にならないで

十二使徒評議員会会長
ゴードン・B・ヒンクレー



この世においても永遠の世においても最も大いなる御方、神の御子イエス・キリストを信じていただきたい

兄 姉弟妹、今大会は私にとってひとつの重要な記念日である。私が初めて教会幹部としてこの壇上から話したのが、今から丁度20年前である。1958年のその日曜日の朝、私は身に余る召しに恐れを抱いていた。

あれから20年経ち、40回の大会を経験した今も、私の気持ちは変わらない。そこで、心配が靈感に取って代わるよう、聖きみたまの導きを祈り求めている。私は過去のことをうんぬんするのはあまり好きではないが、教会の進歩の跡を見るために、その1958年の大会で紹介された統計を調べてみた。当時報告された教会員数は150万を少し越える程度であった。それが昨日の発表によれば教会員数はおよそ400万で、わずか20年間に約166パーセントの増加を見ている。1958年にはステーク部が273、ワード部と支部がおよそ2,500であり、昨日聞いた数字では昨年度末にステーク部が885である。また、先週の木曜日までに

設立と設立承認を含めて、ステーク部数は937に達している。現在ではワード部と独立支部がおよそ7,500で、これは20年前の3倍にあたる。

わずかこれだけの数字からでも、過去20年という短い年月に私個人が見た素晴らしい教会の発展を十分に説明することができる。しかし私はこれを自慢するつもりは毛頭ない。むしろ、感謝している。なぜなら、これらの数字の背後に、末日聖徒イエス・キリスト教会に加わることによって豊かな生活を営み、家庭の平和と愛を増し、神の永遠の計画における自分の立場をよく知るに至った様々な国の男女や子供たちを見ることができるからである。

教会がこのように目覚ましい発展を遂げているのは、聖きみたまの力によって生けるキリストとキリストのまことの福音の回復に対する証を得た大勢の人々が、勇気をもって人人に福音を説き、また信仰をもって福音に耳を傾けてきたからである。

先週の日曜日に、キリスト教徒は、主が死からよみがえった後初めにマグダラのマリヤに現われ、次いで使徒たちに姿を現わされたその復活を記念して復活祭を祝った。主が10人の使徒に現われたもうた時、トマスはその場に居合わせなかった。

「ほかの弟子たちが、彼に『わたしたちは主にお目にかかった』と言うと、トマスは彼らに言った、『わたしは、その手に釘あとを見、わたしの指をその釘あとにさし入れ、また、わたしの手をそのわきにさし入れてみなければ、決して信じない。』（ヨハネ20：25）

皆さんは、人々がトマスのように言うのを聞いたことがないであろうか。「実際の証拠を見せて下さい。この目に、耳に、手に証明してみせなければ私は信じません」と。これは私たちが現代に聞く言葉である。懷疑者トマスは、まるで愛や信仰、さては電気という物理現象まで必ず証明できるかのように考えて、物理的に証明、立証できるもの以外

は受けつけないという、どの時代にもいる人間の典型であった。

前の話にかえるが、それから8日後に使徒たちがまた集まっていた。その時はトマスも一緒であった。「戸はみな閉ざされていたが、イエスがはいってこられ、中に立って『安かれ』と言われた。」

イエスはトマスに向かって言われた。「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手をのばしてわたしのわきにさし入れてみなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」

トマスは驚き震え、イエスに言った。「わが主よ、わが神よ。」

「イエスは彼に言われた、『あなたはわたしを見たので信じたのか。見ないで信ずる者は、さいわいである。』」（ヨハネ20：26—29）

私の話を聞いておられる皆さんの中で疑いを持っている方々がいれば、主が両手の釘跡に触れているトマスに言われた言葉を繰り返して申し上げたい。「信じない者にならないで、信じる者になりなさい」と。この世においても永遠の世においても最も大なる御方、神の御子イエス・キリストを信じていただきたい。世界が創造される前にさかのぼるその類ない命を信じていただきたい。キリストが私たちの住むこの地球の創造主であることを信じていただきたい。イエスは旧約聖書のエホバであり、新約聖書のメシヤであり、ひとたび死んだ後復活し、この西大陸を訪れて民を教え、この最後の福音の神権時代を開かれたこと、そして生ける神の生ける御子、私たちの救い主、贖い主として今も生きておられることを信じていただきたい。

ヨハネは創造について、「すべてのものは、これ（言、すなわちイエス・キリスト）によってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった」（ヨハネ1：3）と述べている。

夜、星を仰いで歩く人、野山に春の息吹を感じる人は、創造に神のみ手があったことを

疑えるであろうか。地球の美しさに気付く人は詩篇作者の言葉に共感を覚えるであろう。

「もろもろの天は神の栄光をあらわし、大空はみ手のわざをしめす。この日は言葉をかの日につたえ、この夜は知識をかの夜につげる。」

（詩篇19：1—2）

地上のあらゆる美は、主なる創造主のみ業を、死すべき状態から不死不滅の状態となってトマスを信じさせるために彼に触れさせたあの手のみ業を表わしている。

信じない者にならないで、エホバを信じる者になっていただきたい。シナイ山の雷鳴の中で、「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない」（出エジプト20：3）と、その指をもって石の板に書かれたエホバを。人間関係を統べるあらゆる善なる律法の基礎である十戒は、エホバの神聖な力をもってなる所産である。人間と社会の保護を求めて定められた膨大な法体系を見れば、その根源の全知がエホバからイスラエルの指導者モーセに与えられたあの簡潔な永遠の宣言にあることがすぐに分かることだろう。

アブラハム、イサク、ヤコブの神、すなわち古代の予言者たちが聖霊によって感じるままに語るその靈感の源であった御方を信じていただきたい。予言者たちはエホバに代わって、王を非難し、国民をこらしめた。また、聖見者として約束されたメシヤの来臨を予見し、啓示の力によりこう述べた。「それゆえ、主はみずから一つのしるしをあなたがたに与えられる。見よ、おとめがみごもって男の子を産む。その名はインマヌエルとなえられる。」（イザヤ7：14）

「その上に主の霊がとどまる。これは知恵と悟りの霊、深慮と才能の霊、主を知る知識と主を恐れる霊である。」（イザヤ11：2）

「まつりごとはその肩にあり、その名は、『靈妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君』となえられる。」（イザヤ9：6）

宿屋に空部屋がないために、誕生後飼葉おけの中に寝かされたのがその御方であること

を、疑わないで信じていただきたい。その出来事を示現の中で見たひとりの予言者に、天使が「神のいつくしみ深いことを知っているか」（Iニ一ファイ11：16）と尋ねている。私は、なぜ大いなるエホバが人間の中に、しかもきらわれていた民の中に従属者の身分で生まれ、誕生後飼葉おけに寝かさなければならなかったのか、その訳を完全に理解している人はいないと思う。しかし、イエスの生誕の時には天使たちが声を合わせて主の栄光を賛美した。また羊飼いたちがイエスを拝するのために来た。東方には新しい星が輝き、賢人たちが黄金、乳香、没薬を献上するためにはるばる旅をしてやって来た。生まれて間もない王に贈り物を捧げ、幼子の小さな手に触れた彼らの畏敬と驚嘆が想像される。

子言を知っていた大王ヘロデはそのみ手を恐れて幼子イエスを滅ぼそうと企てた。そして、罪なき者の大虐殺でヘロデの国とヘロデの頭は血に染まった。

バプテスマのヨハネが啓示の力によって、イエスのことを「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」（ヨハネ1：29）と述べたことを信じていただきたい。また、ヨルダン川で天から「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」（マタイ3：17）と全能者のみ声があったことを信じていただきたい。

主が奇跡の人であったことを信じ、また知っていただきたい。大いなるエホバとして世界を創造し、世界を治めた主は、地球の諸成分と生命の諸機能を理解しておられた。そして、水をぶどう酒に変えたカナの出来事を初めとして、足のたたない人を歩かせ、盲人の目を開き、死人を生き返らせるなど、数々の不思議なみ業を行ないたもうた。イエスは、神の御子として自らに具わった權威により病人を癒されたのである。

主は重荷を負うた当時の人々にとっても、また主を真心から信じた後世の人々にとっても慰め主であった。主は私たちに向かってこう言われた。

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」（マタイ11：28—30）

私はある日、故国から亡命してきたひとりの友人に会った。彼は国が滅びて抑留されていた。妻子は逃れることができたが、彼は妻子との音信が途絶えたまま3年以上も捕虜になっていた。食物も乏しい陰うつな生活環境の下で、事態の好転する見込みはなかった。

私は「暗い毎日で何があなたの支えでしたか」と尋ねた。

彼はこう答えた。「信仰です。主イエス・キリストを信ずる信仰です。重荷を主にゆだねると、とても心が軽くなったように感じました。」

ある時、主はサマリヤを旅していて疲れ、のどの渇きを覚えられた。そこでヤコブの井戸の傍らで休み、水を汲みに来た女に1杯の水を求めたもうた。主はそれに続く会話で、主のみ教えの中に救いの力があることを語り、こう言われた。「この水を飲む者はだれでも、またかわくであろう。」

しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう。」（ヨハネ4：13—14）

イエスが命と死をつかさどる主であることを疑わないで信じていただきたい。悲しみ嘆くマルタに向かって、イエスは御自分に永遠の力があることを説き、こう言われた。「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。」

また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。」（ヨハネ11：25—26）
愛する人を失った人々に、これ以上の慰め

の言葉があるだろうか。主がこの言葉を語られた時も、ラザロが呼ばれて墓から出て来た時も、トマスはその場にいた。しかしそれでもトマスは、十字架の恐るべき死からよみがえる力が主御自身の内にあることを疑い、手の傷跡に触れるまでは信じないと仲間の使徒たちに言い張ったのである。「信じない者にならないで、信じる者になりなさい」(ヨハネ20:27)とイエスが叱責されたのも無理からぬことである。

私たちも、比類ない生命と力が主にあることをトマスのように忘れがちである。その証拠を記しているのは旧世界の聖書だけではない。ユダヤ人と異邦人とにイエスがキリストであることを確信させるため、神の能力と賜によって世に出た新世界の聖典がある。そこには美しい言葉と力強いみたまで福音が説かれている。

イエスはまだこの世でみ業に携わっておられた時に、当時直接に教え導いておられた羊たちとは別の群れがまだあると言い、彼らも主の声を聞き、「そして、ついに一つの群れ、ひとりの羊飼となるであろう」(ヨハネ10:16)と告げられた。

主の復活の後しばらくして、この西大陸のどこかにあったバウンテフルの地に集まっていた民に、天から声があった。それは神のみ声で、民にこう告げていた。

「わが喜ぶ愛子を見よ。われはこれに由りてすでにわが名の栄光を示しぬ。わが愛子に聞け。」

「……天から一人の男の方が降りたもうのが見えた。このお方は白い衣を召して、降ってきて群衆の中に立ちたもうた。」そして民にこう言われた。

「見よ、われはイエス・キリストなり。子言者らがこの世に来ると証をしたるその者なり。」(Ⅲニーファイ11:7-8, 10)

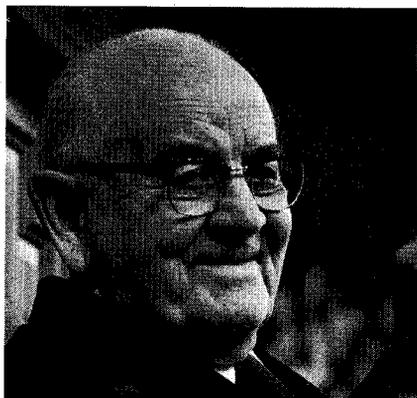
イエスが、トマスにしたと同じように民を招いて手と脇腹とに触れさせると、民は驚いて叫んだ。「ホザナよ。いと高き神の御名を讃

美す。」(Ⅲニーファイ11:17)

民は疑わないで信じた。そして、復活された主に対するこの素晴らしい証を読んだ数百万の人々も、現在それを信じている。もしもこの第5の福音書について聞いたことがなく、今それを知りたいと思う方がいれば、是非とも連絡いただきたい。私はそれをあなたにお送りしよう。それを祈りの気持ちをもって読むならば、この驚くべきキリストの新たな証言が真実であることを、あなたは必ずや知ることだろう。

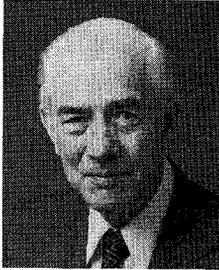
さらにまた、もうひとつの証言がある。ヨルダン川や変貌の山、またバウンテフルの地で神のみ声がイエスを聖なる御子と告げられたように、この福音の神権時代の幕明けにも神のみ声が下されたことである。栄えある示現の中で永遠の父なる神と御子イエス・キリストはひとりの青年に姿を現わしたもうた。その後、その青年は死より復活された主の子言者として語り、十字架上で死なれた主を証して自らも殉教した。

数々の証拠と聖霊の力によって胸に刻まれた確信をもって、私たちは、真心と愛のこもった言葉に主イエス・キリストについての自分の証を付け加え、叫ぶのである。神の生ける御子、私たちの救い主、贖い主なる主を「信じない者とならないで、信じる者になりなさい」と。主の聖なるみ名、イエス・キリストのみ名によって謙遜に祈り、証申し上げる。アーメン。



まだ見ていない事実を 確認すること

十二使徒評議員会会員
マーク・E・ピーターセン



モルモン経は、不死不滅と、死者の復活と、神と御子イエス・キリストの存在を証する

◆ なおモルモン経に挑戦状を突き付けてくる人々がいる。彼らはこの神聖な書物の信憑性を疑い、私たちに聖書以外の聖典を持つ権利のあることに不信を抱いている。

私たち末日聖徒には、聖書のほかに3つの聖典がある。それらは、心を開いて読むすべての人にイエスが私たちの救い主であり、贖い主であることを告げる、特別な書物である。私たちは、この苦難と疑惑の時代に、キリストに対する証言が増えたことを感謝すべきではないだろうか。

神のみ言葉のすべてが聖書に網羅されると教えられてきた人々は、どうしてそのほかに聖典があるのかと私たちに尋ねる。彼らは、聖書が他の聖典の現われる備えをするものであること、またそれを世に現わすために予言者を送るという、主が古代に定められた方式を聖書が示していることを知らないのである。

予言者たちに下される啓示は、その時代の歴史と共に記録され、聖文となった。そして、新しい予言者が記録する度に、それは既存の聖文に加えられた。このようにして聖なるみ言葉の記録は増え続けた。その結果、これらの多くの記録が現在聖書として知られている1冊の本にまとめられることになったのである。

この方式は旧約の時代、新約の時代を問わず、主の予言者が地上にいる限り続いていた。したがって、聖書に神のみ言葉のすべてが網羅されているとは考えられない。なぜなら、主はそれぞれの時代に新しい予言者を送っては彼らに新たな啓示を下したまい、それが次に新しい聖典となって加えられてきたからである。それが、族長の時代から黙示者ヨハネの時代に至るまでの主の定められた方式であった。

初期のキリスト教会にも予言者がいた。そして、私たちすべての者が信仰の一致に到達するまで教会に予言者がいるというのが主のみこころであった。ところが、そのことを認めようとしぬ人々がいる。

今日、キリスト教徒の間には、一致に代わって何があるだろうか。分裂である。それこそ、キリスト教の予言者がいまだに必要なことの大きな証拠である。

パウロがこの原則をエペソ人に説いたことをご記憶であろう。パウロは、教会の土台は使徒と予言者であり、イエス・キリストが隅のかしら石であると言った。(エペソ2:20)

次いでパウロは教会の組織を説明し、救い主が教会の役職者として、「ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった」と語った。そして、その目的は、「聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、教会の「からだを建てさせる」ためであると述べた。(エペソ4:12)

教会員が完全を目指して努力するのをやめてよい時代、教会の活動が不要な時代、教会員が教えや指導を必要としない時代が、はた

して来るものだろうか。

パウロは、私たちが完全な人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るために、教会には教え、指導する役員たちが必要であると語った。私たちがだれひとり完全な人になっていないことは天が御存知である。

ではそのほかに、教会にまだ役員が必要なのは理由は何であろうか。パウロは、「わたしたちはもはや子供ではないので……様々な教の風に吹きまわされたり、もてあそばれたりすることが」(エペソ 4:14)ないように私たちを守る者として役員がいると語っている。

教会の役員は、狂信者や分派グループや誤った人間の哲学などの偽りの教えから皆さんを守ってくれる。

そのため、イエス・キリスト教会は、天の絶えざる導きを受ける、生ける使徒と予言者によって常に導かれなければならないのである。彼らは聖見者、啓示を受ける者としていつまでも教会に存続するであろう。

そしてその務めに携わりながら、彼らは主の方式に添って、その時代になかった新しく追加される聖文を世に明らかにするのである。

初期のキリスト教会の予言者たちは、過去幾世紀にもわたって旧約聖書の予言者が行なってきたと同じ方法で、その時代のみ業を進めた。それはなぜであろうか。アモスが述べている通り、主は予言者を通じてのみ導かれる(アモス 3:7 参照)ので、彼らもその聖なる方法に従ったからである。

予言者がいない時代は神の導きがなく、神の導きを受けない民は闇の中を歩かなければならなかった。

民を導くために神から選ばれた生ける予言者、その時代に応じた啓示を神から受ける人々、新たな聖文となるみ言葉を記録する人々がいることこそ、真の教会の確かなしである。

その予言者たちの働きから新たに追加される聖文が生まれることこそ、真の教会の確かなしである。神が定めたもうたこの確実

な方式は、時の初めから、神の民に明らかにされてきた。

主御自身、聖書以外にもっと聖典が出ると予言された。しかし、ある人々が聖書以外の聖典を拒否し、受け入れることに反対するという事も承知しておられた。主はこう言っておられる。

「多くの異邦人『聖書が聖書か。われらはすでに聖書を持てり。このほかには聖書あるべからず』と言うべし。……

国民は一つより多くあるを知らずや。汝らの神にして主なるわれが万人を造りしを知らずや。またわれが海の島々に住む者のことを忘れざるを知らずや。またわれが上は天に於て支配し、下は地に於て支配し、わが言葉を世界万国の人々に示すことを知らざるか。

それ故に、わが言葉が更に多く与えらるればと言って不平を言うは何ごととなりや。二つの国の人が証拠を示すは、われが神なることと、われが一つの国の人を今一つの国の人と同じに思うこととを汝らに証明するなり。汝らはこれを知らざるか。われはこの国民に語ると同じ言葉をかの国民にも語る。故にこの二つの国民一つに合さる時には、二つの国民の証拠もまた一つに合さるべし。

われがこのようにするわけは、われは昨日も今日もいつまでも同じにして、わがこころのままにわが言葉を宣べ伝えることを多くの人々に証明せんとするためなり。それ故に汝らはわが一度言葉を宣べ伝えたるにより、二度は宣べ伝えることを得ずと思うべからず。そはわが業の今なお完成せざるのみならず、人間の終りの時になるも、またそれより進みて限りなき未来になりても完成せざるべからざればなり。

それ故に、汝らはすでに聖書を持てる故わが言葉の全部がそれに含まれたりと思うべきにあらざ。またわれがその聖書以外に多くのことを書かしめしことなしと思うべきにあらざ。

われは東西南北および海の島々にある一切の人々に、われがそれらの人々に語る言葉を

書き記せと言う。そは、われはその書き記さるる諸々の書に従い、その中に記さることによりてあらゆる人をその為したる行いに応じて裁判せんとすればなり。

見よ、われユダヤ人に語らばユダヤ人はそれを書き記し、ニーファイ人に語らばニーファイ人はそれを書き記し、われがすでにほかの所へつれ出したるイスラエルの家に属するほかの支族に語らばかれらはそれを書き記し、また世界各国の民にみな語らばかれらはみなそれを書き記すべし。

かくのごとくにして、ユダヤ人はついにニーファイ人の書きし言葉を得、ニーファイ人はユダヤ人の書きし言葉を得、ニーファイ人とユダヤ人とはイスラエルの家の中の失われたる支族の書きし言葉を得、イスラエルの家の中の失われたる支族は、ニーファイ人の言葉もユダヤ人の言葉も得べし。

しかしてイスラエルの家に縁あるわが民は自らの所有する地に集り、わが言葉もまた集りて一つ所にあるべし。それ故にわれはわが言葉とイスラエルの家に縁あるわが民とに背く者たちに、われが神なることとわれがアブラハムにいつまでもその子孫のことを忘れずと誓約を立てたることを知らしめんとす。」

(II ニーファイ 29 : 3, 7—14)

こう言われたのは主である。

私たちは当然のことながら、他のキリスト教徒と同じように、聖書を聖典としている。しかしまた、古代アメリカの民の受けた啓示や歴史が記された、現在モルモン経と呼ばれているニーファイ人の書物も聖典としている。そのモルモン経とは何であろうか。

使徒パウロは、ある時、信仰とはまだ見ていない事実を確認することであると定義した。モルモン経は、まだ見ていないこととすでに見ていることの両方の確実な証拠である。

これは手に取って読むことのできる本である。目に見える物である。したがって、存在しないと切り切ることにはできない。批評家も一蹴はできない。モルモン経はすでに出版さ

れており、手で触れることのできる形のある実体なのだから。

私たちはその本を手を持つことができる。贈り物にすることができる。郵送もできる。その気になれば、海に捨てることもできるし、火で焼くこともできる。また、みたまの光と靈感を求めて研究することも私たちにはできるのである。

この本は普通のインクを使い、製紙工場できた紙に、町の印刷所で印刷機を使って刷られた実在の書物である。すなわち、モルモン経は聖書や他の本と同じ実体のあるものである。実体のあるものを存在しないと言える人はいない。言い逃れをして済ませることはできない。

このモルモン経はどこから来たのであろうか。

モルモンの予言者ジョセフ・スミスに手渡す目的をもってこの地上を訪れた神の天使からである。

しかし、この文明の時代に天使を信じる人がいるだろうか。

もしもあなたが聖書を信じるならば、天使を信じるはずである。さらに、聖書を読めば、末の日のある定められた時に、ある人に、ある書物を授けるため、天使がこの世を訪れるはずであると明瞭に書かれていることに気付くであろう。

聖句はその人を評して無学の人と呼んでいる。予言者イザヤがそう語るのに何か不思議があるだろうか。天使は実際にその定められた時に、無学な人、ジョセフ・スミスを訪れたのである。そしてその後、ジョセフは神の力によって一冊の書物を翻訳し、それをモルモン経として世に出した。

この本の出所については、ジョセフ・スミスが語っている以外に納得のいく説明はない。

批評家たちは100年間にわたって様々な説明を試みてきたが、いずれも惨めに失敗を喫しただけである。

この話にいう天使とはだれであろうか。その名をモロナイという。この天使モロナイが

モルモン経をもたらしただけで、その書物は世に出され、同時に、実際に神の天使たちがいることと、さらにそのひとりがジョセフ・スミスに現われて、この書物を渡したことが明らかになったのである。

では、モロナイとはだれだろうか。今から1,500年程前に古代アメリカに住んでいた予言者である。

モロナイは現代に現われるに先立って、死からよみがえったはずである。私たちの宗教は、死からよみがえった天使たちに負うところが実に多い。不死不滅の体を持つ天使が実際に手で触れることのできるモルモン経を近代の人に与えたという事実から、不死不滅の状態が現実を得られるということが分かる。

モロナイは死からよみがえって、文字通り実体を有する存在となった。彼は重い金版を両手に持った。縦横高さが18センチ、18センチ、20センチ、重さが13キロないし22キロもある金版であった。それをモロナイは両手に抱え、指でページをめくったのである。その手は復活した骨肉の手であった。

このように、触知し得る実体を持つこのモルモン経は、死者の復活をも証拠立てるものである。

モロナイが金版をジョセフ・スミスに渡してから、近代の12人の人がその金版を実際に見て、手で触れたことを思い出してみよう。そのうちの8人は、われわれは目で見、手で持ち挙げてみて、かのスミスがわれわれに話した版をもっていることを確に知った(モルモン経「八人の見証者の証言」と述べている。

彼らは自分の手で金版に触った。モロナイもそうである。

彼らはページを1枚1枚繰った。モロナイもそのようにした。

彼らは版に刻まれた文字に触ってみたが、その一部は1,500年前にモロナイが刻んだ文字であった。

このように、現在出版されているモルモン経は、不死不滅と、死者の復活と、神と御子

イエス・キリストの実在を証するものである。

私たちはこの疑惑と批判の多い現代にあって、まだ見ない事実に対する物的証拠のあることを感謝すべきではないだろうか。モルモン経をその証拠として受け入れようではないか。

私たちにモルモン経が与えられた主な理由は、すべてのことはふたりか3人の証人の証言によって確定するという教えがあるからである(IIコリント13:1参照)。私たちには聖書がある。また、モルモン経もある。遠く離れた古代のふたつの民から出たふたつの声、すなわちふたつの聖典が、どちらも主イエス・キリストの神性を証しているのである。

さらに、私たちにはもう2冊の聖典があり、合わせて4冊である。それは予言者ジョセフ・スミスを通して啓示として与えられた近代の聖典である。これらの聖典も、イエスがキリストであり、救い主、創造主、約束されたメシヤであることを宣言している。

心の迷いを解き、思想を正す真理が再び人類に与えられたと言って多くの人々が対立する主張を掲げて、世の中は混乱している。しかしながら、その方法はただひとつ、新たな啓示によるしかないのである。しかも新しい啓示を受けるには、アモスが主は予言者を通じてでなければ何事をもなされないと述べたように、啓示を受ける予言者が必要である。(アモス3:7参照)

新しい啓示の必要な時に、どのキリスト教会にも予言者はいなかった。そこで神は、啓示を受け、モルモン経を出版し、すべての国々に真の福音を宣べ伝える新しい予言者を起こされたのである。

その予言者はだれだろうか。ジョセフ・スミスがその人である。彼は末の日に神より召された聖見者である。彼は近代の啓示を受ける者、全能の神の指示の下にモルモン経を翻訳、出版する者であった。

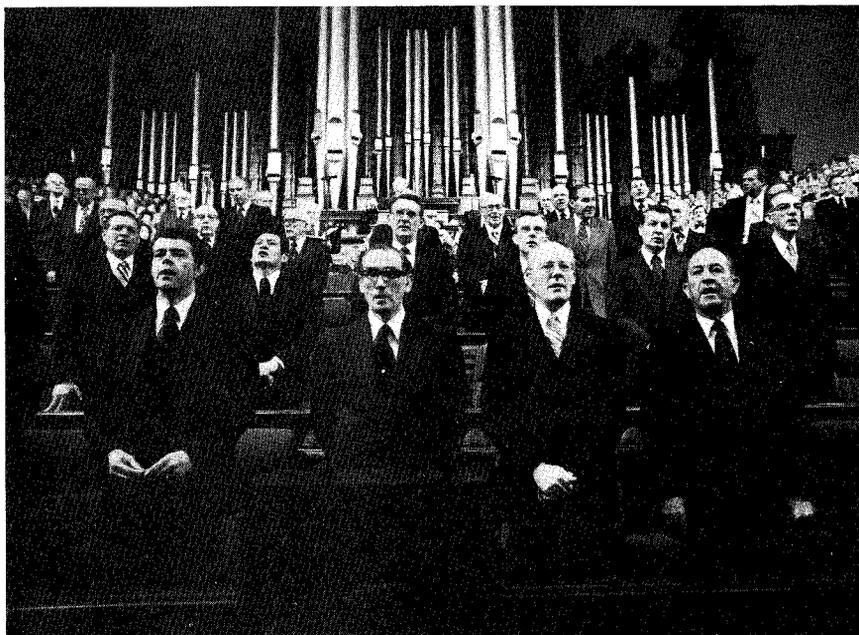
彼は神から選ばれた予言者であったばかりでなく、手を按くことによって、彼の仕事を引き継ぐ他の予言者たちを任命することがで

きたのである。

その他の予言者たちとは私たちのことである。私たちはイエス・キリストの神聖な権威をいただいている。そして、イエス・キリストのみ名によって語り、そのみ言葉を宣言す

る。私たちの証は真実である。

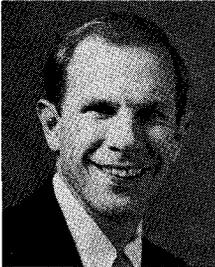
私たちはこのことを、全身全霊をこめて厳かに証する。イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。



新しく召された七十人第一定員会会員前列左よりロナルド・E・ポールマン、
デリック・A・カスバート、ロバート・L・バックマン、レックス・C・リープの各長老

自分の霊の指導者に 求めなさい

七十人第一定員会会員
ジーン・R・クック



この教会に与えられている素晴らしい祝福のひとつは、すべての人に霊の指導者がいるということである

私は数ヵ月前、アンデス山脈の上空を飛んでいた飛行機の中で、隣席の人に自分が南米に住んでいる事情を話す機会を得た。

その人は教会のことや、教会の教え、私の教会幹部としての役割などを知った後で、こう言った。「あなたはそのキンボールさんに全生涯をあずけて、ここにいなさいと言われればいつまでも、この国にいるつもりですか。どうしてですか。私にはとてもできませんね。」私はそれに対して、「彼がただの人でしたら私だっでできなかったと思いますよ」と答え、それから予言者の本当の役割を証して、「主のためなら何でもするつもりです」と言った。

また数年前に、教会員でない友人を教会幹部の話が聞ける集會に誘ったことがある。その時、私は前もって、彼が主に油注がれた人であることを話しておいた。集会后、彼は、「あの方は普通の人と変わりませんね」と感想をもらしたが、きっと彼は神に召された教

会幹部のしるしとして、天使を見たり、異言の賜を感じたりというようなことを期待していたのだと思う。

もし私たちが時の絶頂に神の御子イエス・キリストを目のあたりにしていたらどうだろうか。どんなに大勢の人がイエスを見誤ることだろう。私はこのように考えることがよくある。現にほとんどの人はイエスをただの人としか見ていない。そして、本当のイエスを知ることができたのは、霊の識別力を具えたごく少数の人だけであった。もし五感によってのみ判断するとしたら、霊の世界の真理を認めることは決してできないであろう。兄弟姉妹、皆さんはこの大会で話をした立派な兄弟たちの霊的な勧告をお聞きになったであろうか。本当にお聞きだろうか。皆さんは彼らの勧告、同様に地元の指導者の勧告に進んで聞き従おうと思いだらうか。

主が彼らを御覧になる同じような目で自分の指導者を霊的に見る、というこの大切な事柄について、皆さんはどうであろうか。この問いへの答えは、ヨシュアに対する忠実なイスラエル人の答えのようであればならない。

「彼らはヨシュアに答えた、『あなたがわれわれに命じられたことをみな行います。あなたがつかわされる所へは、どこへでも行きます。』

われわれはすべてのことをモーセに聞き従ったように、あなたに聞き従います。」(ヨシュア1:16-17)

私はしばらく以前に、ある人からこう尋ねられたことがある。「教会幹部は遠い^①辺りな地域の状況を本当に知っていらっしゃるのですか。私には、いろいろと細かな問題を彼らは御存じないのではないかと感じられてなりません。」また別の善良な姉妹はこのように言った。「もしも監督が扶助協会の問題を御存じでしたら、もっと違うようになさるはずです。ワード部をどのように導くか私たちももっと話し合って私たちの意見を取り入れようとし^②ないのは困ったことです。」また、こう言う人

もある。「支部長は私と物の見方が違うので、支部長には相談しません。性格が余りに違い過ぎるんです。私たちは同じ立場に立てないんです。」

兄弟姉妹の皆さん、教会幹部やステーク部長、監督、神権定員会の指導者たちは、管理の原則と本当に大切な事柄に関する状況をよく把握しており、その他のことはいずれ時が来れば解決されるということを知っている。この教会は主の教会である。神権の系統を通して、主の啓示によって導かれている教会である。私たちは奇跡の神を信じている。神は神権指導者を通じて絶えず霊的な奇跡を現わして下さる。

ステーク部長、監督、会長は、靈感によって物事の最終決定を下す以前に、自分を補佐する人々やその他の人から助言を受けるようにするとよい。しかしながら当教会では、全員の意見を集め、それぞれの意見を比べ、総意をまとめ、それから多数決で決めるといった全員参加の指導方法は採っていない。若干の例外はあろうが、世間一般ではこの多数決の方式を採っている。また、他の多くの宗派が最善の方法としてこれを採用している。問題を論じ、意見を交換し、経験を語り合い、知られる限りの情報をもとに最善の結論を得ようとするのがこの方式である。

末日聖徒イエス・キリスト教会では、すべての指導者が自分の管理下にある人々を神の啓示に従って指導する。ところが、管理の権能を持たない人に助言を求める人が実に多い。また、助言を受けようとせずに、逆に与えようとする人が実に多い。確かに人の経験を聞くことによって、特定の事柄に関する理解を増すことは可能である。しかし、自分に任されている管理の責任について啓示を受けたいと願うならば、主はそれをあなたに与えて下さるはずである。啓示は主との直接の交流によって来るか、あるいはあなたの直接の神権指導者を通じて来るであろう。

この教会に与えられている素晴らしい祝福

のひとつは、すべての人に自分を導く霊の指導者がいるということである。父親に例を取れば、妻と子供は家長を家庭における霊の指導者として彼に相談できる。問題がもっと大きい場合、妻と子供は監督か支部長に相談する。彼らは、夫が神権に関わる問題を神権定員会指導者に相談するように、家庭の問題のことで定員会指導者の所へ行ったりはしない。夫婦間の問題がある場合は、ふたりで、ワード部の管理大祭司として、また監督として夫と妻の両方を管理する監督の所へ行くはずである。また、監督から指示がない限り、それ以上の助言を他に求めてはならない。

主はみたまの賜を列挙した後で、あなたの監督、あるいはあなたを管理する神権指導者について次のように勧告しておられる。「およそ、教会の監督および神が聖職に按手任命したもうて教会守護の職に就かせたまひ、また教会の長老たらしめたもう如き者は、すべてこれらの賜を見分くる力を与えらるべきなり。そは汝らのうち、神より賜を受けたりと称するも実は然かあらざる者なからんためなり。」(教義と聖約46:27) 管理神権指導者に識別の賜が授けられていることは明らかである。

時折、あなたの地元の神権指導者があなたと見解をまったく異にする場合がある。しかし、その不一致は計画を実施する方法に関するものであって、福音の原則に関する不一致ではない。あなたの指導者には独自の個性で独自の経験をもって働く権利があるのである。実際問題として、それがあなたの行なう方法とは細かい点で幾らか違うことだろう。しかしそれでも、正しいみたまをもった神権指導者からの勧告は力ある主の勧告である。

私たちは試しの時代に生きている。理解しがたい勧告を指導者から与えられた時は、心の中でこう言おう。「父よ、私は言われたことを信じます。私がふさわしい代価を払い終えましたら、ふさわしい時に、どうかその理由をお教え下さい」と。

あなたが神権指導者の言葉を信じるのは、

みたまによる賜である。私には、彼らがこう言うのが聞こえる気がする。「私を信じて下さい。ここから見ると、あなたのいる場所からは見えないものがはっきり見えます。私を信頼して下さい。私には丘の向こうまでよく見えるのです。」賢明な両親や神権指導者に聞き従う人は、彼らが安物の近視用眼鏡ではなく、永遠を見通すことのできる目をもって助言していることを知るであろう。そして、自分であらゆることを経験してみても善悪を知るのではなく、ほかの人の霊的な眼を通して事の善悪を知ることができるのである。

最後に忘れないでいただきたいことであるが、私たちは教会で盲従を望んではいない。各人が自分で、指導者から受ける勧告が主か

らのものであることを知っていただきたいのである。自分の受けた勧告が間違いのないものであるかどうか主に問う権利と特権が皆さんにはある。忍耐強く、主を待ち望む者は、神権指導者が義しい勧告を与えて、自分に安全な道を歩ませてくれることをやがて知るのであろう。

私たち一人一人がさらに謙遜になって勧告を受け入れ、従おうとする望みを持てるように。また、神に助言を与えようとする事なく、神に、また同様に神よりの靈感を受けた神権指導者に助言を求めて下さるように。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



大会の光景

成功の詩

七十人第一定員会会員
スターリング・W・シル



私たちが神のような思い、日の光栄の思
いを抱けば、日の光栄の心が育つ

以前に、私はニューヨークの精神科医スマ
イリー・ブランドン博士の著書『詩の効
能』(Healing Power of Poetry)という非常に
ためになる本を読んだ。ブランドン博士はそ
の本の中で、過去40年間精神的な問題や障害
を克服するためにどのような方法を患者に用
いてきたかを紹介している。その全部が詩の
形を取っているわけではなく、有名な聖句や
散文や讃美歌も使われている。

この精神科医の治療法は、薬よりも本に病
気を治す力があるということで、薬局ではな
く本屋に処方箋を書く医師にもたとえられる
と思う。母親は子供のけがを愛情のこもった
愛撫でいやす。

私はそのようなことを思い巡らしながら、
イエスが「医者よ、自分自身をいやせ」(ルカ
4:23)と言われた時のイエスの気持ちを考
えてみた。また、主は具体的な治療法を与え
るために、エマ・スミスにいつも心の中で歌

う靈感に満ちた讃美歌集を編集するようと
命じられたのであろう。

先日、私は図書館へ行って、今手にしてい
るこの小さな本を借りてきた。エマ・スミス
が私たちのために選んだ90曲を載せた讃美歌
集である。(A Collection of Sacred Hymns,
for the Church of the Latter Day Saints

「末日聖徒教会用聖讃美歌集」オハイオ州カ
ートランド、1835年発行) 私たちは一人一人
興味が違えば、必要とするものも違う。した
がって、それぞれ自分で讃美歌集を作り、そ
れを完全に覚え込んで自分のものにして、成
長の糧、救いの力とし、いやしの効能を最大
限に生かしてほしいと思う。

ハーバード大の優れた心理学者ウィリアム・
ジェームズ教授(1842—1910)はある時、「あ
なたはどのような方法で自分の心を創造した
いですか。その方法は一般に可能ですか」と
問い、さらに次のように語った。心は受け入
れるものによって創造される。心も染物師の
手と同じように、手にしたもので染まると。
手に紫の染料をしみ込ませたスポンジを持て
ば手は紫に染まる。手と心に信仰と熱意の大
いなる思想を持てば、それによって全人格が
変わるのである。

否定的なことを考えれば、否定的な心が育
つ。墮落した思いを抱けば、墮落した心が育
つ。またその一方で、神のような思い、日の
光栄の思いを抱けば、日の光栄の心が育ち、
次のようにうたったエドワード・ダイヤーの
瞑想通りとなる

わが心は われには王国
内なる歓喜を われは知る
あまたの至福に まさる喜び
地がその種類に従い生ずるもの
(My Mind to Me a Kingdom Is, Poet's
Gold 『わが心はわれには王国』「詩人の
宝玉」デビッド・ロス編, p. 41)

愛する人の葬儀で靈感に満ちた音楽を聴き、

神聖な祈りを耳にし、遺族を慰め、自分も大いなる信仰に慰めを得る時、私たちの神性は啓発される。先日、私のオフィスに夫婦が見えて、目の前で何の前ぶれもなく死んで行った3歳の幼い娘さんの話をされた。その両親が失意の底にあったことは無論である。どんなに泣いても苦しきは去らず、だれかと話して気持ちをほぐしたいと思ったという。思いやりを込めてその悲しみを聞いてあげれば、気持ちが軽くなることはだれでも分かる。その時私の心に、その昔私の愛する7歳の妹がジフテリアで亡くなるのをベッドの傍らで見取った経験がよみがえってきた。

その3歳の少女の母親は、かわいい娘が人生もつばみのうちに死んでしまったことを、これ以上つらいことはないと感じていた。私には彼女の苦しさがよく分かった。しかし、最後に私は、「ジョーンズ姉妹、さしでがましいようですが、もっとつらいことがあると思いますよ」と言った。すると彼女は「もっとつらいことって一体何ですか」と言った。そこで私は、ジェームズ・ウィコム・ライリーの『残されし人』という詩を暗唱した。これは子を失くした人の死別ではなく、子のいない人の不幸をうたったものである。子供に死なれた友人に悲しみを込めてこう語りかけるのである。

嘆き悲しんでいる君のそばに
座っていいかい。
ねえ、亡くす子供さえいないわたしだ、
その子のことは何も知らないが、
小さなその子のために、
わたしにも涙を流させてほしい。

ゆっくりほどく小さな両腕（それをまぶたに描かせてほしい）
その重みが首をつたい、君は両の手に口づけする、
その腕、その手をわたしは知らない。
（それを思って わたしにも涙を流させてほしい。）

（空虚な心から言えると思う）
涙のはざまに 慰めがあるのだと。
ねえ、君。
ああ、悲しさは 君より深い、
亡くす子供さえいないわたしだ。

（*The Complete Poetical Works of James Whitcomb Riley*「ジェームズ・ウィコム・ライリー全詩集」p.444）

私はこの感動的なライリー氏の詩を非常に感謝している。私は彼に教えられて、先立たれた人々にとって慰めとなる言葉をまとめた本を自分で作ってみた。

また、勇気をうたった詩もある。スポーツ記者のグラントランド・ライス氏は、長年、国内各地で催される様々な競技会を訪れて、どのような特質を持つ選手がチャンピオンになるか研究を続けた。そして、人々のためになればと、人を偉大にする特質について700編もの詩を書いた。そのひとつが、『勇氣』という詩である。

わたしは死に臨む時、笑顔でこう言える
ようでありたい、
今残してゆくものは最後のひと息、さあ、
息とだえよと。
死がわたしに残すものはちりか夢か、
果てしない夜を星くずが流れる中を、
魂はさまよう。
しかし彼はこううたった。

わたしはこういう人生を見詰めた。
闘争か競争か、青空か鉛の空か、望みの
ままに来たらせよ。
わたしは耐え得る限り、憎悪の非難に立
ち向かおう。
運命の鋼のこぶしも、わたしをとどめる
ことはできない。

詩人は、私たちの心を高める点では、予言

者に次ぐと言われている。エライザ・R・スノーが予言者として支持を受けたという話は聞かないが、彼女はあの「高きに栄えて」という詩を書いた。この素晴らしい讚美歌の歌詞も、ただ目を通すだけで、暗唱し愛唱することはあまりない。もしもすべての人が最も自分の胸を打つ信仰の詩を90編選んだならば、一体どのようなことが起こるか考えてみていただきたい。今ここで、私が「高きに栄えて」を歌うのには抵抗を感じる方も、信仰と礼拝の素晴らしいその歌詞を暗唱するのは許して下さることと思う。スノー姉妹はこううたった。

高きに栄えて 住めるわが父
いつ、かえり行きて み顔を見るや
わが霊かつては みそばに住みて
幼きそのとき 育てられしか

深きみむねにて われ世に降だし
友と生れとの 思い出とめぬ
「汝は旅人」と ささやきありて
さらに高き世に 在りしをさとる

み父と呼ぶべく “みたま”にならう
地の鍵受くまで 理を知らざりし
み親は一人か 深く思えば
永遠の真理は告ぐ 天に母ありと

この身を横たえ 世を去るときに
父母と高きにて われは会えるや
仰せのみわがみな 成しとげしとき
受け入れみそばに 住ませたまえ
(讚美歌140番)

予言者の文章の中さえ、これにまさる慰めの言葉はあまりない。

私たちが愛の詩を沢山暗唱したら、毎日の生活がどのようになるか、想像してみたい。国会図書館には「信仰と自由の詩」というコーナーがある。主はこう言われた。

「すべて心の歌は、われの喜びなり。然り、義しき者の歌はわれに対する祈りなり。彼らの頭に祝福を与えてその応えとなさん。」
(教義と聖約25:12)

私は毎朝1時間ほど事務所まで歩くが、その間自分の思いを高める事柄をあれこれと考える。時々祈りを捧げることもあるが、そのひとつがこれである。

おお神よ、あなたの世界が見せてくれる美しいひとつひとつの風景を感謝します。太陽の輝く空と大気と光、
おお神よ、私は生きていることを感謝します。

人生をあなたに捧げます。
日が生まれるごとに、
私の魂は喜びの翼に乗って飛び立ちます。
朝のあることを感謝します。

無言の愛を投じる朝、
それが過ぎ行くたびにふくらんで、
神へのまことの働きとなりますように。
(作者不詳)

私は成功をうたった詩も、熱意の詩も、勤勉の詩も、進歩の詩も集めている。ある人がこううたった。

地上の生きとし生けるものに、
いつの日か 死はやって来る。
(人はみな善きもの、大いなるものに、
おのが人生を捧げるがよい。)

先祖のなきがらのため、
神々の神殿のため、
恐れ多い争いにもたじろがない、
人にとってこれより大いなる死はあろうか。
(ホレーショ、*“Stanza XXV II of a Lay Made in '392" Lays of Ancient Rome*

『392年の叙情詩スタンザ XXVII』「古代ローマの叙情詩」トーマス・バビントン・マコーレー編, p.12)

私たちは年を取るにつれて新たな問題に直面すると思うが、私は『たゆまず行け』という詩に語られた思いをもって自分の励みにしたいと思っている。

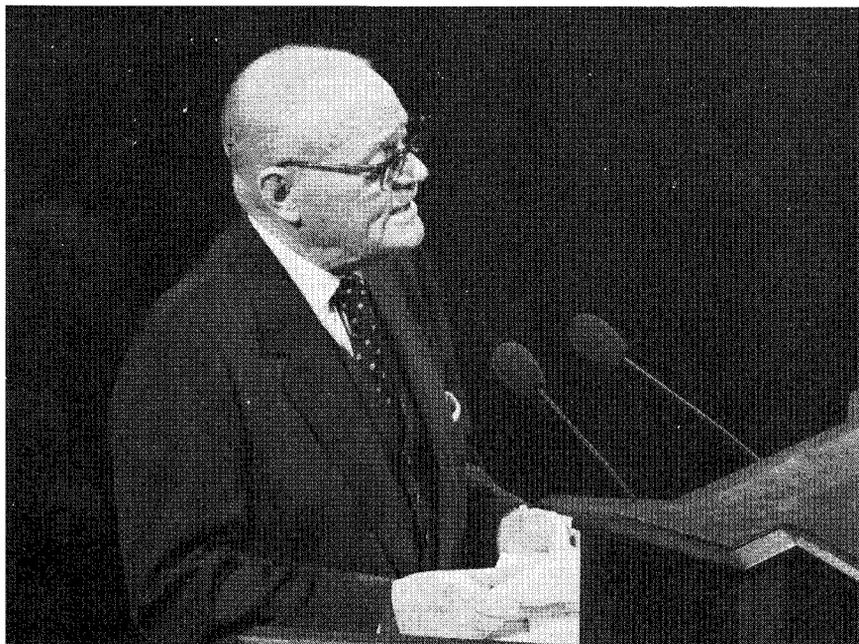
将来のはっきり見えないこともあろう。
どのようになるか分からなければ、
たゆまず行け、老いし人よ、
たゆまず行け。
おのが使命に誇りを抱け、
はつらつとして日々を迎え、
持てるものをすべて注げよ——
だからこそ、あなたはあるのだ。
戦いを立派に戦いぬけ。
終りまで誠実に。
そして世を去るときに、
こう叫ぶのだ、

たゆまず行け、わが魂、たゆまず行け、と。
(ロバート・サービス “*Carry On*”
Masterpieces of Religious Verse 『たゆまず行け』「宗教詩傑作集」ジェームズ・D・モリソン編, pp.307—8)

愛する人を慰め、励ます祈りとしてよくうたわれた、昔のアイルランドの詩を引用して、皆さんへの私の祝福とし、感謝としたい。

道よまっすぐあなたに向かえ。
風よいつもあなたの背を吹け。
あなたの顔を太陽が照らし、
雨よ畑にやさしく降れ。
今もとこしえも、神あなたを抱きたまえ。
み手のくぼみにいつくしみたまえ。

常にそのようであることを、イエス・キリストのみ名によって心から祈る。アーメン。



マリオン・G・ロムニー第二副管長

努めて善き業に従い

七十人第一定会員会
ジョセフ・アンダーソン



善を行なうことの報いは、この世で喜びと幸福、大いなる来世で永遠の生命を得ることである

主 は私たちにこう言われた。「人は努めて善き業に従い、多くの事をその自由意志によりて為し、多くの正しき事を為し遂げよ。

そは人自らの中に自由の意志ありて己の事を自ら為す者なればなり。従って人善を為さば決してその報いを失わざらん。」(教義と聖約58：27—28)

この引用句は教会員だけでなく、非教会員にも当てはまる。あらゆる男女には善をなす力がある。そのためにまずなくてはならないのが、正しく生きようとする望みと決意である。私たちはいかなる時にも善くない業に従ってはならない。悪いことや善事に反することに従う教会員は、バプテスマの水の中で自分の身に引き受けた責任を果たしていないことになる。教会員でなくても、世の中では実に多くの人が善き業に従い、多くの義を生み出そうと努めている。人類の進歩に努める人、神への信仰と義しい生活を送ることの大

切さを教える人々は、善き業に携わる人であり、決して報いを失わないであらう。

主の用意しておられる祝福を得るには、主イエス・キリストを信じる信仰を持たなければならない。真実の生ける神についての知識を得なければならない。過去の罪を悔い改め、間違った認識を改めなければならない。そして神のみ前にへりくだり、神と誓約を交わし、その誓約を守ることが必要である。

清廉の士である故ジョージ・アルバート・スミス大管長は、次のようなことをよく言っていた。私たちは教会外の友人たちに、彼らの宗教や生活の中で真理にかんたったものがあればそれを捨てるようにとは言わない。すでに持っている善なるものに福音の永遠の真理を加えてほしい、そうすれば、これまでにない喜びと幸福を得るであろう、と。(Sharing the Gospel with Others「福音を人々に分かちつ」プレストン・ニブレー編、pp.12—13)

キリストの福音は、目に見えるもの、見えないものを問わず、すべての真理を包含している。赦されない罪を犯していない限り、どんな人でも罪を悔い改めることが可能である。そして、ただ主の戒めを守ろうと決意し、謙遜になって主の助けと導きを求めるだけで、義しい生活のもたらす恵みにあずかることができるのである。

人間には本来善を行ないたいという心があり、善いことをしている時に幸福感があると、私は思う。罪悪は決して幸福を生じたことがない。罪は人と神との間を鉄のカーテンで隔てるものである。主は私たちに次のように言っていて、正しい道を示された。「何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりによせよ。」(マタイ7：12、ルカ6：31参照)主は私たちのためにならない戒めや、心の喜びと幸福をもたらさない戒めを決して与えたまわない。私たちには主の助けが必要である。そして、私たちが助けを求め、主の備えられた道を歩むならば、主は必ず私たちを助けて下さるのである。

福音を宣べ伝えるため世に出て行く教会の若い宣教師たちは、人々に祝福をもたらす主の務めに携わってきたという幸福感を抱いて帰還する。主が彼らと共におられた。そして、彼らは主のみたまに導かれ、世俗の生活ではなく清い生活をしてきたからである。

私たちは主の受難を思い、戒めを守るという誓約を思い起こして、常に主のみたまを受けられるように聖餐をいただく。主のみたまは悪いことをせよとは勧めず、善いことを行なうように私たちを励ます。私たちはその勧めと導きに従う時に、主に近づき、善い行ないをして、肉欲を克服できるようになる。主のみたまを伴侶とする人は幸せな人である。そのような人は思慮深く誠実な家族の族長であり、導き手であり、また良き隣人である。さらに近隣の人々に良い影響を及ぼすことができる。

私たちの歌う讚美歌は、生活に良い影響を与える。タバナクル合唱団の音楽は、聴く人の信仰を高め、心を豊かにする。この合唱団がこの教会の讚美歌の歌詞とメロディー、また靈感を受けた作曲家の手になる作品の歌詞とメロディーを歌う時、その精神は聴き手と歌手の双方に主に仕えたいという望みを抱かせる。私たちが集会で歌う霊的な讚美歌は、主に捧げる喜びの歌であり、祈りである。

「平和、平和」と叫ぶだけでは、平和は訪れない。現代は試しの時代である。しかし、主の側に立つならば、私たちは恐れる必要はない。また、主は再臨を延ばされるだろうと考えて、備えをするのを引き延ばすことは賢明ではない。その日、その時、月も年も私たちは知らないが、その大いなる出来事が近いことを告げるしるしはすでに数々現われているからである。

私たちはその日のためにどのような用意をしたらよいのだろうか。主の戒めを守ること、多くの義を生み出そうと善き業に励むこと、隣人に警告すること、子供たちに真の教えを教え、義の道へ導くことである。

主は教会員にこう言われた。「汝らの証詞の後より民の上に怒りと憤りと来る。」(教義と聖約88:88)

興味あるもの、貴重なもの、大切なものを手にしている時、それを愛する人々にも分け与えたいと思うのは人の常である。私たちは最も貴く、世界中で一番大切な主イエス・キリストの福音を持っている。私たちは主の福音を愛し、天父の子供たちを愛している。したがって私たちは福音を彼らに分かちたいと願っている。福音は彼らに喜びと幸せをもたらすからである。福音を受け入れ、守る者には、救いと主の王国への昇栄が待っている。

このキリストの教会は、分かち合う教会である。私たちには、人を救い、神の知識を与え、主の大いなる目的の達成を手伝うために全力を尽くす責任がある。福音に述べられているままに主の教えを実践すること、これこそが世を救うことのできるただひとつの方法である。幸福を得るためには、物質よりも霊的なものをもっと必要である。福音の原則はこの世で喜びと幸福、また来るべき世で永遠の喜びを人にもたらすというはっきりした目的のもとに与えられたものである。

神に仕え、神の戒めを守りたいという気持ちを隣人に起こさせることに私たちが大きな関心を抱いているのはなぜであろうか。それは彼らが神の子だからである。彼らは私たちの兄弟姉妹なのである。

十二使徒定員会の一員であった故ジェームズ・E・タルメージ長老は、次のような靈感に満ちた言葉を残している。

「荘厳、壮麗なこの果てしない世界にいる人間は何者なのだろうか。それに答えて申し上げる。現在まだ全貌を現わしてはいないが、人は神の目から見ると宇宙のどの星よりも太陽よりも優れて大いなる貴い存在である。星や太陽は人のために造られたものである。それらは神のみ手になる業であって、人は神の子である。この世界では、人はわずかなものしか支配を許されていないが、やがて多く

のものを管理するようになることだろう。

……地球や宇宙の創造は理解し得ないほどに雄大である。しかし、それも究極の目的を実現するために必要な手段にすぎないのである。創造主は告げておられる。

『見よ、これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり』（モーセ1：39）と。』（“The Earth to Be Redeemed” Sunday Night Talks by Radio 『贖わるべき地球』「日曜日の夜のラジオ講話」 pp.357—58）

軽率に行動する時に自分の身に招く悲惨と厳しい責任とを考えてみていただきたい。例えば、人命を損なうとどのような悲惨と責任を招くだろうか。その罰は永遠である。チャールズ・キングズレーはこう言った。「人はいかなる発明をもってしても、神のごとく善良に、神のごとく義しく、神のごとく神聖になるという普遍の課題を決して免除されることはない。」

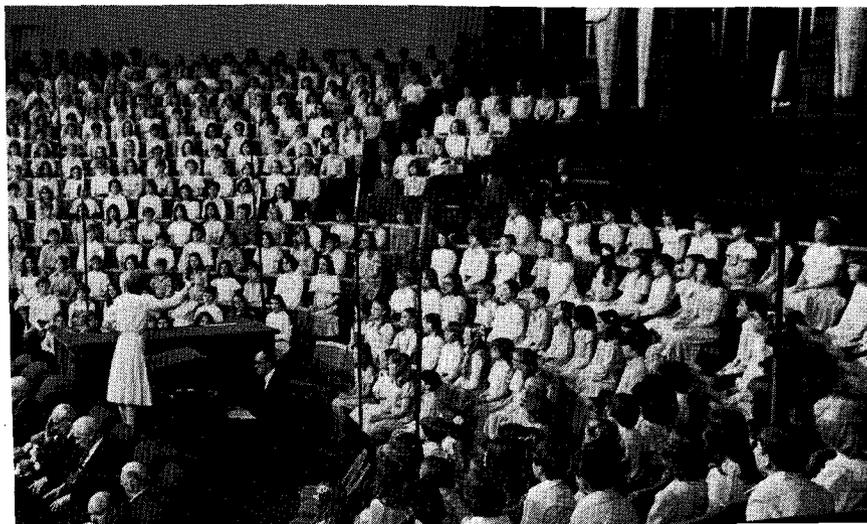
私たちの救い主は、大いなる贖いの犠牲と大いなる愛とあわれみによって、全人類が無条件に墓から出で来ることができるように、不死不滅の扉を開いて下さった。もしも主が私たちの救いのために御自分の命を捨てて下さらなかったならば、死は間違いなく痛いとげを持ち、墓が恐ろしい勝利を収めたことだ

ろう。そして人に祝福はなく、不死不滅と永遠の生命を得る機会は取り去られていたことだろう。

ところで、永遠の生命とは何であろうか。不死不滅と永遠の生命は同義語だと考える人があるかもしれない。確かに不死不滅は永遠の生命の一部である。しかし、私たちが本当の意味で永遠の生命を受けるには、主が啓示された生命と救いの計画であるイエス・キリストの福音に従順でなければならない。それによってのみ、私たちは日の光栄の王国に住みたもう天父のみ前において昇栄と永遠の生命の報いを得ることができるのである。

善を行なうことの報いは、この世で喜びと幸福、大いなる来世で永遠の生命を得ることである。そして、善を行なうとは、主から与えられた戒めを守ることである。福音は人生のまことの道であり、世の光である主なる救い主のみ教えである。それに反するものは暗闇であり、後悔である。

私は、これが主のみ業であること、イエス・キリストの福音が鍵と権能と権威を伴って地上に回復されたこと、人に不死不滅と永遠の生命をもたらすことが主のみ業であり栄光であることを証する。イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。



救い主は何をするよう 私に望んで おられるだろうか

七十人第一定員会会員
デリック・A・カスバート



回復された福音を証する新たに召された 教会幹部

愛する兄弟姉妹の皆さん、私の心は今、愛と感謝の気持ちで一杯です。皆さんは今の私の気持ちをお分かりいただけることと思います。皆さんが愛と信仰と祈りをもって支持の拳手をして下さったことを、私は心の底から感謝しています。

私たちは福音に従って生活できるということを非常に感謝しています。もう何年も前のことですが、若い宣教師たちが私たちにこの偉大なみ業について教えて下さいました。私たちは今、伝道の業に携わることによって、そのような彼らの働きに多少なりとも報いているのではないかと感じています。宣教師がわが家を訪れ、ドアをたたいたのは、1950年の夏も終わりの頃でした。そしてこの日に、私たちは完全な福音に対する眼を開かれたのでした。

私はこれまで、多くの宣教師が同僚に対して感謝を述べるのを耳にしてきました。私も

この場をお借りして私の素晴らしい同僚に感謝したいと思います。献身的な妻であり、子供たちの良き母である私の永遠の伴侶に感謝したいと思います。彼女は私がよく仕えることができるようにいつも助けてくれました。私はまた、素晴らしい子供たちに感謝しています。教会の教えを受けて成長した彼らの幾人かは、すでに神殿で結婚をし、各々の家庭を持っています。これらのことはすべて、宣教師がわが家を訪れてくれたお陰です。私は、神聖な神殿の儀式を通して家族がひとつとなり、永遠に至ることを知っています。

福音を聞き、受け入れる時に、何と大いなる祝福がもたらされることでしょうか。私はすべての人々が宣教師の言葉に耳を傾けるようにと心から願っています。教会員は自宅に友人を招いて彼らと共に宣教師の伝える福音のメッセージに耳を傾けるように、また福音を受け入れることができないでいる人々は福音のメッセージに心を開くことができるように心から祈っています。

イエス・キリストの完全な福音が、この末日に回復されました。私はこれが真実であることを知っています。私たちはこの福音から大きな幸せを得ています。また、意義ある祈りを捧げることを学び、家庭の祈り、夫婦の祈り、秘かな祈り、さらに心の思いを主に打ちあけて導きを求めることについても学びました。このような永遠の祝福に私たちの感謝は尽きません。

私は愛する父なる神に感謝しています。天父は私たちが再びもとに戻れるように、私たちの導き手として独り子イエス・キリストをこの世に遣わして下さいました。私は主イエス・キリストが生きておられることを証します。キリストはこの地上で生活し、完全な模範を示し、私たちに生きる道を教えて下さいました。そこで私たちは常にこう自問します。(私は毎日幾度となく自問します。)**「救い主は何をするよう私に望んでおられるだろうか。救い主ならどうされるだろうか。」**と。救

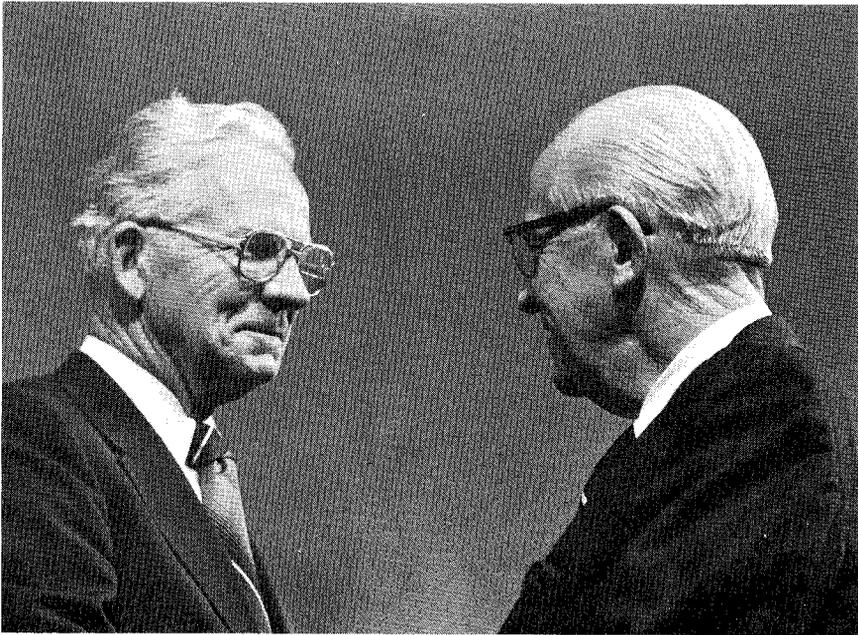
い主は神の御子だからこそ成し得る、この上ない犠牲を払い、無限の贖罪を成し遂げて下さいました。私は、救い主が生きておられることと、主がこの末の日に完全な福音を回復されたことを知っています。救い主はまた御自身の教会と救いに関わる儀式も回復されました。

主はさらに人々が栄えある再臨に備えることができるように、神権の権能を回復されました。主は現在も偉大な予言者スペンサー・W・キンボール大管長を通して、私たちに語り、御自分のみこころを明らかにしておられます。キンボール大管長は偉大な信仰と行ないを現わし、奇跡をもたらし、国々の門戸を開いておられます。私たちはキンボール大管長のために祈っています。また、閉ざされた

国々の門戸が開かれるよう祈っています。

私たちはまた伝道が成功するように祈ると共に、この素晴らしい末日のみ業に携わることができることを心から感謝しています。私たちは主の予言者の素晴らしい永遠の伴侶であるキンボール姉妹を心から愛し、彼女のために祈っています。

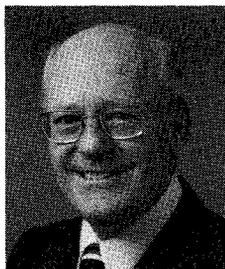
私たちはここにおられる立派な兄弟たちを心から愛し、支持できることを感謝しています。また、彼らの力強い支えのあることを感じ、感謝の気持ちで一杯です。私が家族共々決意を新たにして生命ある限り主に仕え、予言者に従う時に、私の杯はあふれるに違いありません（詩編23：5参照）。これらのことを主イエス・キリストの聖なるみ名により申し上げます。アーメン。



十二使徒評議委員会会員マービン・J・アシュトン長老（左）と
十二使徒評議委員会会長エズラ・タフト・ベンソン長老

私の心に 刻み込まれている 貴いもの

七十人第一定員会会員
ロバート・L・バックマン



私の心に刻み込まれている貴いものはあまねく、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることに由来しています

私が生まれて3カ月の時、ソルトレークス
テーキ部ではこのタバナクルで盛大な演
劇を催しました。その時、私の母がイエスの
母マリアの役、そして私は幼子キリストの役
を演じるという栄誉にあずかりました。当時
の私は、現在よりもずっと安らかな気持ちで
あったに違いありません。なにしろ、一言も
話さずに済んだのですから。いずれにしまし
ても、その日から今日に至るまで、主はその
み手をもって私を守り導いて下さいました。
自分の弱点を克服する力を与えて下さったこ
ともたびたびです。

私はそのような数々の経験を経て現在まで
成長して参りました。そして様々な経験をす
る度に、私はこう自問しました。「なぜ、主は
私にこれほど豊かな成長と進歩の機会を与え
て下さるのだろうか。主はなぜこのように奉仕
の機会を備えて下さるのだろうか」と。事実私
は豊かで幸せな人生を過ごしてきました。そ

のことを心から主に感謝しています。

私の周囲には、常に、私を成長させ、より
良い人間へと私を進歩させてくれる人々がい
ました。自分の弱点を克服できるように私を
支えてくれたこともたびたびです。また特に
私は両親から、何よりもまず主を求めること
を念頭に置いて生活するようにと、揺りかご
の時代から教えられてきました。愛する妻は
常に誠実で、私がいかなる召しに召されても
支持してくれました。また7人の娘は私を絶
対的に信頼してくれています。娘の伴侶もそ
れぞれ主の宮居で交わした誓約に忠実です。
さらにかわいい小さな孫たちは私を喜ばせて
くれます。

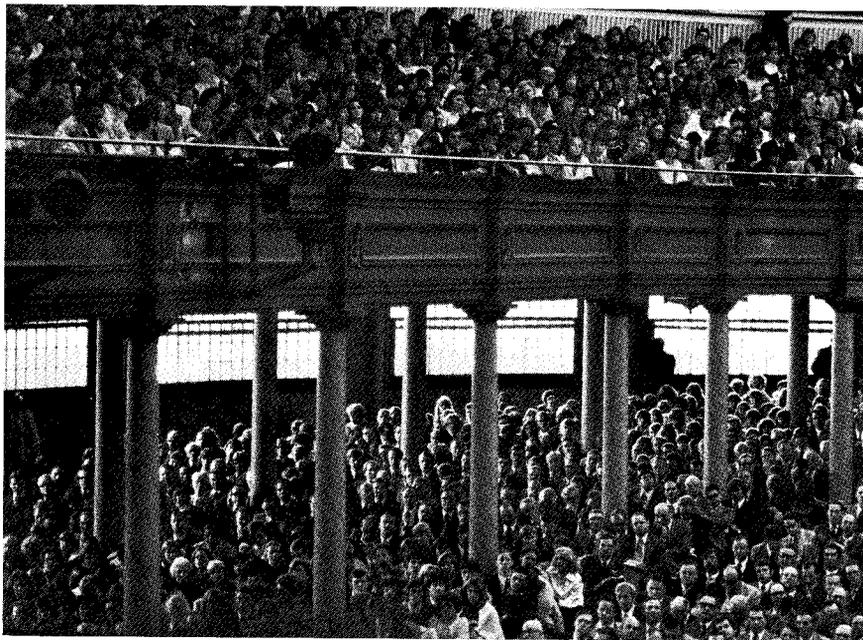
先週の金曜日に開かれたセミナーで、ベン
ソン会長は、私たちの最も大いなる誉れは神
の教会の会員となり、キリストが私たち一人
一人の救い主であることを認め、聖なる神権
を受け、永遠の家族の一員となることである
と話されました。今の私はこれらすべてに恵
まれています。これは何にも勝る栄誉であり、
祝福です。私はまた、この度与えられた神聖
な召しを心から感謝しています。

私がかれまでに受けたすべての祝福と、私
の心に刻み込まれている貴いものはあまねく
次に申し上げる事柄に由来しています。すな
わち、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員
となって、主を愛し、神聖な福音に対する証
を持ち、奉仕の機会に真心から応えたことよ
るのです。私はこのことを愛する兄弟姉妹
の前に確信を持って申し上げます。

私は自分の全生涯を捧げて主にお仕えする
機会をいただき心からうれしく思います。私
は無条件に自分の生命と全財産を主の足下に
差し出す覚悟です。キンボール大管長ならび
に教会幹部の皆さん、私たち夫婦は、皆さん
が望まれるところならどこへでも出向き、皆
さんの要望に何なりとお応えする準備はすで
にできています。私たちはただ主のみ手にあ
ってよき器となって働くことだけを願ってい
ます。そして神の王国を築き、主の民を清め

るという重大な責任を負っている皆さんのお手伝いをしたいと思います。また、キリストがすべての栄光のうちに再臨して全世界を統治される日のための備えをしたいと思います。その日サタンは縛られて、すべての人々はそのひざをかがめ、ことごとくの舌はキリスト

こそ世の救い主であると告白するに違いありません。こうしてキリストはとこしえに王として統治されるのです。これらのことをイエス・キリストのみ名により証します。アーメン。



大会の光景

召しに応える

七十人第一定員会会員
レックス・C・リーブ



私の心は満たされ、霊はぬかずき、魂は感謝の気持ちで一杯です

私の心はあふれるばかりに満たされ、霊はぬかずき、魂は感謝の気持ちで一杯です。かつて監督として支持された時に、私は、能力もないのに奉仕の機会を与えられたという印象を強く受けました。それはまるで、だれかが私のために買ってくれた切符を持って列車に乗り込もうとしているかのようでした。私の前を歩いている多くの人々は、この王国を打ち建てるために自分の生命をも投げ出しているのです。

私は優しい母に感謝しています。立派な父にも感謝しています。ただこうして私に与えられたこの召しを父に理解してもらえないのが残念です。また、素晴らしい妻にも感謝しています。彼女とともにいると、私はいつももっと立派になりたいと思います。7人の愛する子供たちと、5人の義理の息子、娘、それに多くの孫たちにも感謝しています。彼らはいつも私を支持してくれます。これは本当

にありがたいことです。何年もの間その言動に触れ、敬服してきた教会の指導者や友人、また素晴らしい教会員など、その他多くの方に感謝の言葉をお伝えしたいと思います。

私は末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることを感謝しています。神は生きておられます。そして私たちに語り、私たちの言葉に耳を傾けて下さいます。私はこれらのことを全身で感じています。神は私たちを愛しておられます。

私は伝道地で働く機会があったことを感謝しています。イエス・キリストの教会が真実であるという証拠がほかになくても、青少年や素晴らしい新会員の生活に起こっている事柄を見るだけで、この教会が真実であることを十分に知ることができます。

私は自分の持てるものすべてを捧げることを主のみ前に心新たに決意致しました。また、この場に御列席の愛する教会幹部の方々の要請には何でも応える所存であることを皆さんの前で約束致します。私たちは30年の間キンボール大管長を通していろいろ恵みをいただいきました。キンボール大管長は私たちが生活する上で巨人のような存在でした。キンボール大管長はいつも私たちを愛して下さいしています。私は今、皆さんの愛を感じています。人々の愛を感じることができることを私は心から感謝しています。また350万に及ぶ人々が私たちのために祈って下さることを知り、感謝に絶えません。

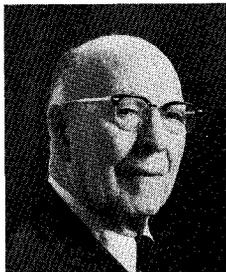
私は神が生きておられることを証します。私は生命のある限り、またそれ以上に自分にできることは何でもさせていただくことを皆さんに約束致します。これらのことを主イエス・キリストのみ名によって申し上げます。アーメン。

☆

☆

キリストの再臨

十二使徒評議員会会員
リグランド・リチャーズ



予言は、将来の出来事を知る最も確実な方法である。……私たちの行なうのはただそれを理解することだけである

私は皆さんとともに、新たに召された教会幹部に歓迎の気持ちと愛を表明したい。と同時に、私が教会幹部のひとりとして支持されて以来40年間経験してきたと同じ喜びと幸せを、この奉仕の中から得ていただきたいと心から願っている。

1週間前にすべてのキリスト教徒が、地球の創造以来最大とは言わないまでも最も大いなる出来事のひとつと見なされている、生ける神の御子イエス・キリストの復活を祝った。私はきょう、その出来事についてお話ししたい。使徒たちは、十字架に掛られて死んだ御子を墓に葬っていたので、女たちからキリストの復活を知らされた時に、それを作り話のように感じた。しかしそれも無理からぬことである。またイエスは復活後、エマオへ向かうふたりの弟子に姿を現わしたもうた。(しかし彼らは「目がさえぎられて」同行者がイエスであると認めることができなかつた〔ルカ24:

16〕。その時イエスは、彼らが御自分のことと御自分の生涯や十字架の死について話し合っているのを耳にし、ふたりが予言者たちの言葉をまったく理解していないのを知って、こう言われた。「ああ、愚かで心のおいのため、予言者たちが説いたすべての事を信じられない者たちよ。」(ルカ24:25)それから、モーセや予言者たちのことから始めて、御自身について予言者が証しているすべてのことを説き明かし、十字架につけてから衣服をくじで分けるといった細かい事柄まで数々のことを語られた。

ペテロはこう言っている。

「こうして、預言の言葉は、わたしたちにいっそう確実なものになった。あなたがたも、夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照すまで、この預言の言葉を暗やみに輝くともしびとして、それに目をとめているがよい。

聖書の預言はすべて、自分勝手に解釈すべきでないことを、まず第一に知るべきである。

なぜなら、預言は決して人間の意志から出たものではなく、人々が聖霊に感じ、神によって語ったものだからである。」(IIペテロ1:19—21)

イザヤが主は終わりのことを初めから告げておられると言っているように(イザヤ46:10参照)、予言は将来の出来事を知る最も確実な方法であるとすれば、私たちの行なうのはただそれを理解することだけである。また、イエスが御自分の生涯について述べた聖典の言葉を理解していない人々をそのように裁断されたことを考えてみると、イエスの再臨について述べた聖なる予言者たちの言葉の価値を認めない人々のことを、イエスはどのように感じられるだろうか。そこで、私は予言者たちがすでに語っている事柄について少しお話ししたいと思う。

まず、ペンテコステの日の後に、キリストを死に追いやった人々に対して語ったペテロの言葉が思い出される。

「だから、自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。

それは、主のみ前から慰めの時がきて、あなたがたのためにあらかじめ定めてあったキリストなるイエスを、神がつかわして下さるためである。

このイエスは、神が聖なる預言者たちの口をとおして、昔から預言しておられた万物更新の時まで、天にとどめておかれねばならなかった。」(使徒3：19—21)

この教会は、聖なる予言者たちが告げた万物の更新を信じる唯一の教会であると思う。他の教会は改革を信じている。しかも人の知恵による改革を。万物の更新は永遠の父なる神から来る。万物の更新なくしては救い主の再臨を待ち望むことができないというのが、末日聖徒イエス・キリスト教会の説くメッセージである。

ここで、時間がないので、その聖なる予言者たちの中からひとりだけを挙げて、彼の予言についてお話したい。きょうの話の題に選んだのは、旧約聖書に記録されている最後の予言者マラキが語るキリストの再臨の前兆についてである。

主はマラキを通じて、来臨の道を備える使者を送り、そして速やかに神殿に来ると言われた。しかしその来臨の日にはだれが耐え得よう。主は金をふきわける者の火のようであり、布さらしの灰汁のようだからである(マラキ3：1—2参照)。これが一度目の降臨のことでないことは明白である。主が力と大いなる栄光とをもって聖なる天使たちとともに来られる時、悪人は岩に向かって、「さあ、われわれをおおって、……(主から)かくまってくれ」(黙示6：16)と叫ぶであろう。

また、イエスが弟子たちに、神殿は壊されて、ひとつの石も他の石の上に残ることはないと言われたことを覚えておいでであろう。弟子たちは、「どうぞお話しください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。あなたがま

たおいでになる時や、世の終りには、どんな前兆がありますか」(マタイ24：3)と聞いた。するとイエスは、戦争と戦争の噂、ききん、疫病、地震があり、国は国に敵対して立ち上がる、そして「この御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう」(マタイ24：14)と言われた。

また主は、人の子の来る時代はノアの時代のものであるとも言われた。人々は飲み食いし、めとり嫁ぎして、主の再臨はまだないと言うが、主は夜来る盗人のように降臨されるであろう。主は、畑にふたりの人がいたらひとりを取られ、ひとりが残されると言われた。ふたりの女がうすをひいていると、ひとりを取られ、ひとりが残されると言われた。(マタイ24：37—41)これはみな、救い主が再臨に先立つるしをさして語られたことである。

マラキは遣わされる使者を見た。ところで、主が使者を遣わす時、その使者は必ず予言者である。イエスは、時の絶頂に主の降臨の道を備える使者として遣わされたバプテスマのヨハネについて証をされた。イスラエルにバプテスマのヨハネよりも大いなる予言者はいないと言われた(ルカ7：28参照)。予言者アモスはこう言っている。「まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされない。」(アモス3：7)そうであるとすれば、回復を受けとめる予言者なしに、世の初めから聖なるすべての予言者たちの口を通して言われていたとペテロの言う万物の回復があるだろうか。この予言者こそ、ほかならぬジョセフ・スミスである。彼は、天父と御子の権能と聖なる導きと指示の下に、この大いなる教会、末日聖徒イエス・キリスト教会を組織したのであった。

末日における救い主の再臨の備えに関してマラキ書に記されている2番目のことは、イスラエルの全家が主から離れていて、彼らはどうしたら立ち返ることができるか知りがた

ということである。主は、それを什分の一と捧げ物によってであると、次のように言われた。「あなたがたすべての国民は、わたしの物を盗んでいるからである。わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさい……。」(マラキ3:8-10)これは何という招きであろうか。主は末日のイスラエルに、再臨の備えとして、什分の一と捧げ物(献金)を納めることで主に立ち返るように呼び掛けておられる。またそれに加えて、食い減ぼす者を彼らのためにおさえて、彼らの作物が熟する前に落ちないようにしよう、万人は彼らを祝福された者と呼ぶ、と言われた。(マラキ3:11-12参照)

私たちは祝福された民である。主はこれまで私たちを祝福してこられた。教会の開拓者たちは、文明社会を追われ、1,600キロの道のりを旅してこの荒野にたどり着いた。イザヤはかつて、主が荒野をバラのごとく花咲かせるのを見た(イザヤ35:1参照)。砂漠に川が流れ、高い所から流れ下ってこの地を豊かにうるおすのを見た(イザヤ41:18参照)。それはなぜであろうか。聖徒たちがこの地に集まって、主の約束を成就するためである。イエスが言われたこの福音が全世界に宣べ伝えられるのは、主の子らの働きによるのである。当時から末日聖徒の宣教師が大勢世界各地に出掛けて行き、現在は25,000人ほどの宣教師が、救い主の再臨の準備のひとつの段階として回復された福音を宣べ伝えている。主が福音を全世界に宣べ伝えなければならぬと言われたからである。

またそれ以外にも、地上に神の王国を建てるために、数多くの礼拝の場所、この町で皆さんが目にする数々の美しい建物を建てるなど、費用のかかる仕事はまだほかにも沢山あった。これらはみな、主が御自分の民を真実祝福しておられるからできたことである。聖なる

神殿の建物は、計画中のものも含めて全部で20ある。私たちは神殿を建てる全世界でただひとつの民である。また、たとえ神殿を建てる民がほかにもいたとしても、その目的のわかる人はいないであろう。

そこでもうひとつ、マラキの見たことが思い出される。マラキはこう言った。

「見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。

彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである。」(マラキ4:5-6)

マラキはエライジャの訪れとともに何を見たか、ここで考えてみていただきたい。エライジャの訪れがなければどうなるだろうか。主は、全地がごとごとく荒れすたれると言っておられる。(教義と聖約2:3参照)この教会以外の世の人々の中で、エライジャの使命が何であったかを知っている人はだれもいないと思う。1836年4月3日、カートランド神殿で、エライジャがジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリのもとを訪れなかったとしたら、私たちもその使命を知らないままであったに違いない。しかしそれが現実に起きて、エライジャからこの神権時代の鍵を与えられた結果、私たちは聖なる神殿を次々建てているのである。また、私たちは糸図探求の価値を理解している。そこで、この市に糸図図書館を建て、ロッキー山中に大規模な地下室を造った。それ自体ひとつの奇跡である。このようなものは世界にふたつとない。これも、主が来て全地を呪いをもって撃たれることがないように、エライジャの使命を成就するためである。

私たちは、古代と近代の聖典を学んで予言者たちの言葉を理解するようにと勧められている。「予言の言葉は私たちにいつそう確実なものになった。あなたがたも……それに目を

とめているがよい」(Ⅱペテロ1:19)というペテロの言葉を心に留めていただきたい。これが永遠の父なる神のみ業であることを証したい。

私は主イエス・キリストの使徒としてここに立ち、これまで述べたマラキの予言が、福音の回復により、予言者ジョセフ・スミスやこの教会の長として彼を継いだ代々の聖なる予言者たちの手によって成就されてきたこと

を証する。また、現在の予言者、スペンサー・W・キンボール大管長の手によっても成就されつつある。私はキンボール大管長と教会幹部の兄弟たち全員を心から尊敬している。私はこの証を皆さんに述べ、神が私たちに、主の王国の備えの責任を果たす信仰と力を与えて下さるよう祈る次第である。主イエス・キリストのみ名により、アーメン。

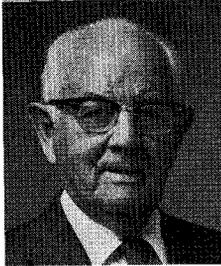


左より十二使徒評議員会会員のデビッド・B・ヘイト、L・トム・ペリー、ブルース・R・マッコスキー、マービン・J・アシュントンの各長老

予言者の声を聴け

大管長

スペンサー・W・キンボール



勧告を自分に与えられたものであるとみなそうではないか。その言葉に従おうではないか。私たちの永遠の生命はそれにかかっているのだから

愛 する兄弟姉妹、このようにリグランド・リチャーズ兄弟の麗しい証を聞くことができ、実にうれしく思う。また、それぞれに心の思いを語った七十人第一定員会の新しい4人の兄弟たち、満ち足りた人生のことを語ったほかの兄弟たちの話をも聞く機会もいただいた。

まず初めに、神の靈感によって組織された教会の初等協会に特別の賛辞を呈したい。ヘス監督が大管長会の承認を受けて、ユタ州ファーマントンでオーレリア・スペンサー・ロジャーズ姉妹を召して最初の初等協会を組織したのは、今から丁度100年前であった。当初100余人から始まったこの集いは、今や数百万の人々の生活に影響を及ぼす世界的な組織となっている。初等協会の献身的な役員教師の教えから良い影響を受けなかったという人は、私の声の届く範囲内にひとりもないと、

私は確信している。私はこの1カ月間に沢山の誕生カードをいただいた。そしてその多くは初等協会の子供たちの手作りのカードであった。初等協会の謙遜な教師たちは、言葉と模範によって、感受性豊かな形成期にある素晴らしい子供たちの心の中に救い主や教会や教会指導者たちへの愛を植え付けて下さっている。

初等協会は、少年少女が将来父親、母親、シオンの民という大きな責任を担えるように、その準備を手伝っている。「徳高きこと、好ましきこと、よき聞えあること、あるいは褒むべきこと」(信仰箇条第13条)が初等協会^で教えられる。主が末日聖徒イエス・キリスト教会の初等協会を、他のすべての組織と同様に祝福し、栄えさせたまわんことを。

私は、少年時代に父に連れられてアリゾナからこのタバナクルにやって来て、総大会に出席したことを覚えている。教会幹部の話を聞いて私の胸は高鳴った。私はジョセフ・F・スミス大管長から現在に至るまでのすべての大管長の話を聴いた。そして、彼らの言葉に感動し、少年のように真剣になって彼らの警告に従ったものである。モルモン経や聖書の予言者たちとまったく同じように、彼らも神の予言者である。私の記憶には、彼らが不明瞭な話し方をしたり、彼らの忠告が無意味に感じられたりということは一度もない。

過去にこれら神の使者たちを追放しようとして様々な口実が用いられた。出身地が名もない土地だからといって拒まれたこともある。「ナザレから、なんのよいものが出ようか。」(ヨハネ1:46)イエス御自身、「この人は大工の子ではないか」(マタイ13:55)と言われたことがある。聖なる予言者を拒否する一番手取り早い方法は、たとえ偽りであっても何らかの手段を用いて、人物そのものを抹殺して口を封じる口実を見つけることである。過去に、能弁でなく、口が重い予言者たちは無力と評価された。パウロがメッセージを述べた時、その言葉に耳を傾けようとせず、

姿かたちを見くだし、語ることも大したこと
はないだろうとたかをくくった人々がいた。
恐らく彼らは、パウロを、彼の述べる真理で
はなく、話し方や音声で判断したのであろう。

予言者の声を聴く者が、初めは予言者を侮り、
そのために予言者を受け入れようとしな
かったのが、結果的に予言者たちを受け入れ
なかったためにますます侮るようになってしま
っていることに驚かされる。予言者を拒む
理由として、ほかにこれ以上のものが考えら
れるだろうか。世のわずらいは実に多く、善
良この上ない人々までがこの世のことに心を
遣いすぎて真理の道から離れてゆく。それは
丁度、小さい時からあらゆる戒めを守ってい
ながら、「持っているものをみな売り払って、
貧しい人々に分けてやりなさい」(ルカ18:22)
というイエスの最後の指示に従えなかったあ
の青年のようである。聖書には、「青年は悲し
みながら立ち去った。たくさんの資産を持っ
ていたからである」(マタイ19:22)と書かれ
ている。

時に人々は、世の誉れや世事に心を向け過
ぎて、最も大切な教えを学ぶことができずに
いる。明らかな真理が、大して重要ではない
人間の哲学のせいで拒否されることがある。
これも予言者を拒むもうひとつの理由である。

拒絶する口実が様々ある一方で、その原因
といったものもあり、それを無視することは
できない。世の事柄に対する執着や世の誉れ、
過分に望むこと、これらはすべて、他の人々
を率いようとする少数の説得力ある人々によ
り感化を及ぼされて民の間に広がるものであ
る。パウロは、ユダヤ人の中に心ある指導者
がまったくいなかったために苦勞した。イエ
スはつまずきの石と見なされ、ギリシャ人の
間ではキリスト教は愚かな宗教と見なされた。

聖なる予言者たちは世の間違ったすう勢に
従うことを拒んだばかりでなく、その誤りを
指摘した。したがって、人々が予言者たちに
必ずしも無関心でいらなかったこともうな
ずける。こうして、自分の住む社会の悪弊を

否定したために人々から拒まれた予言者たち
は多い。

民は実にたわいない口実で予言者を拒んで
いる。物事をあいまいにせず筋を通そうと
する時には苦難が付き物であるが、神はしば
しばそのみ業をあいまいにせず明るみに出
そうとしておられる。主御自身がそう言っ
ておられる(教義と聖約1:30参照)。キリスト
教はローマからガリラヤへ広まったのではな
い。その逆である。また、現代の道はパリか
らパルマイラではなく、パルマイラからパリ
に続いている。何かが今私たちの中にあるか
らとって、私たちがずっとその何かの中に
いたということにはならない。毎日美術館や
画廊のそばを車で通っていても、内部につい
ては何も知ることができない。

予言者を個人的によく知っている人が予言
者を拒む理由としてあげるのに、彼がだれそ
れの息子あるいは隣人だからというのがある。
予言者は人々の中から選ばれるのであって、
どこか別の惑星から送られてくるといった夢
のような出来事ではない。

ダビデは8人兄弟の末であった。長兄は、
ゴリアテがイスラエルの兵士たちを罵倒する
場に姿を見せたダビデの厚顔ぶりを怒った。
ダビデに憤慨した人々は、生ける神の軍勢に
戦いを挑む巨人ゴリアテに対するダビデの純
粋な憤りに気がつかなかった。(Iサムエル17
:28—32参照)

ダビデは一介の田舎少年で最初は無視でき
たが、後に至って無視できない人物となった。
名声に欠けるという理由で予言者たちを拒む
人々がいる。このことについて、拒絶するこ
との本当の意味を知っていたパウロは、神の
み業に関連して私たちにこう警告している。
「兄弟たちよ。あなたがたが召された時のこ
とを考えてみるがよい。人間的には、知恵の
ある者が多くはなく、権力のある者も多くは
なく、身分の高い者も多くはない。」(Iコ
リント1:26)

主は聖典の多くの箇所、世間から侮られ、

弱いとされる人々によってみ業を進めると語っておられる。聖なる予言者たちが拒まれるのはもちろん民の心がかたくななせいであるが、民はその社会によって形成されるのである。しかも、かたくなになるのが急な時でさえも、それに気づかないことがある。例えば、わずか20年前に、現代社会のおびただしい墮胎数を予知できた人がはたしていただろうか。悪魔の退場した教えはどれもそうだが、墮胎は肉欲の心を喜ばせる。

予言者たちは肉欲の心に衝撃を与える手段を備えている。聖なる予言者は苛酷で、「それについてはすでに言ったはずです」という記録作りに熱心だと、間違っただけで受け取られている。しかし、私の知る限り、予言者たちは最も愛情豊かな人々である。彼らの愛が深く、誠実であるために、人の気に入られようとするよりもむしろ主のみこころをはっきりと告げようとするのである。思いやりがあるがゆえに、無情とも思えることを言えるのである。私は、予言者たちが声望を求めなかったことを心から感謝している。

予言者が担う責任がいかに危険で、現実を受け入れられ難いかを教えてくれるのが、歩けば3日もかかる途方もない広さの大都市ニネベで警告を発するよう召されたヨナの話である。(ヨナ3:3参照)また、日中は民に警告し、夜中はほら穴に隠れたイテルの話を読めば、憎悪で迎える町に日毎出て行ったイテルの度量に驚かすにはいられない。(イテル13章参照)若い頃に召されたエノクの話もある。エノクは自分を人からみくびられる若さで、口も重いと述べているが、愛と思いやりによって義務を果たした彼は大成功をおさめた。(モーセ6章参照)予言者といえども肉体の助けを免れるわけではない。そのことを考えると、私は昔から現在に至るまでのこのような人々の心の広さにただただ敬服するばかりである。彼らは心のわずらいをすべて主にゆだねたのである。

神の聖なる予言者たちの証は聖典に書かれ

ているが、彼らは主の予言者であるがゆえに証を血で記すこともあった。彼らは時の初めから終わりに至るまでのことを告げた。予言者は常に世の悪とはかかわりを持たず、欺瞞は欺瞞、横領は横領、不義は不義と叫ぶ神から遣わされた監査人である。

今、この総大会を閉じるにあたって、これまでに語られたことに注意を払おうではないか。語られた勧告が自分に与えられたものであるとみなそうではないか。予言者、聖見者として支持した人々と、その他の幹部の兄弟たちの言葉に従おうではないか。私たちの永遠の生命はそれにかかっているからである。

さらに、このように困難な時代に生きる私たち全体にとって、私の懸念している事柄を少しお話しさせていただきたいと思う。国際機関誌(訳者注:日本では「聖徒の道」)に掲載される教会の総大会の説教を是非読んでいただきたい。

どうかこれまでに与えられた勧告に従い、個人の日記を付けていただきたい。覚えの書を記す人々は、日常生活にあって主を常に忘れない人々である。日記は自分の受けている祝福を数え上げ、その祝福を子孫に伝え残す手段である。

また、この春という季節は、自宅の庭や隣近所の庭を美しく彩る草花と同時に、食料の一部を自給するための菜園作りの大切さをお願い出させてくれる。自宅でとれたトマトがたとえ高いものについてたとしても、そうすることによって満足が得られ、ある意味で無情とも思える刈り入れの律法をつぶさに知る機会とすることができる。私たちは自分の播くものを刈り取るのである。耕し、播き、刈るその畑がどんなに狭かろうとも、それは私たちの始祖の場合と同様に、人を自然と親しい者にしてくれる。

昔から受け継がれてきた道徳基準がゆるめられていくのを見て、礼節の低下を感じない人がはたしているだろうか。私の少年時代には、子供も大人も全員が実によく働いた。私

たちはアリゾナ砂漠を開墾してきたが、その時もっと賢かったならば、同時に自分自身をも開墾していることに気がついたことであろう。草取りや荒地の開墾や水路掘りは荒涼たる環境を整備する仕事であるが、それは荒削りな人間性も整備してくれる。現代にありがちな労働に対する蔑視は、恐らくは景観ではなく、人間そのものに粗野と野蛮が再来することのしるしではないだろうか。誠実な労働が生み出す自尊と威厳は、幸福に欠くべからざるものである。他方、暇は怠惰に流されがちである。

良い模範となつてしかるべき多くの人が良くない模範となっているのを見て、嘆かない人がはたしているだろうか。結婚を愚弄し、独身時代の純潔を時代遅れと言う人々の中には、新しい流行を追い、他人にまでそれを押しつけようとしている者が多い。彼らには、最後に深い孤独に行きつくその途方もない自己中心主義が見えないのであろうか。快樂に押し流されて、本当の喜びから次第に遠ざかっているのが見えないのであろうか。自分たちの行なっていることが、ついにはどんな快樂をもってしても取り返せないうつろな空しさを生み出すことを知らないのであろうか。刈り入れの律法は廃されていらないのである。

人間の肉欲はひとたび家庭生活や宗教による抑制を失うと、実に恐ろしいことに大きな力を秘めた欲望のなだれと化してしまう。同性愛でも背徳でも、麻薬でも墮胎でも、ひとつが山を転げ始めると、ほかのものも転がり出す。抑制の必要な欲求であったのが、抑制を失ってしまったのである。こうして悲惨がいまわしい記念碑を打ち立て始める。

退廃は非常に力があり、独断的で、自由とは相いれない。寛容と容認の土壌で育つ退廃主義は、やがて他のものをみな駆逐する。そしてついには、ある予言者が語ったように、「救う手だてがまったくない」状態に行きつくのである。そのような時には、アルマが彼の時代の悪に対して自分の純粋な証を述べた時の

ように、神の予言者たちが声を大にして呼び始める。(アルマ4：19参照)そのような状況の下では、それ以外に方法がないからである。

この国の一部の地方では、墮胎数が出生数を上回り、庶子の数が嫡出子をしのぐという。このような状態で、神の裁きはいつまでとどめられようか。流行と称して正式な結婚をせずに同棲する人々がいるという。そのように神の戒めを踏みにじっているのは、自分が何者であるかを知ること、真の帰属感を持つこともできないということが、なぜわからないのであろうか。片親に育てられる子供の割合が増えているというが、刈り入れの律法が働く時に一体どのような結果を招くであろうか。良くないことは良くない。世の風潮だからといって、神の律法に反することが正しいわけではない。

下品な言葉遣いが多くなっていることから、私たちはペテロが言う「非道の者どもの放縦な行いによってなやまされていた」(Ⅱペテロ2：7)ロトの気持ちができるような気がする。神のみこころに従わない人だとしても、下品で不敬な会話で知的な発育の障害を招き、意志の疎通の能力を次第に低下させているのはどういうわけであろうか。言葉は音楽のようなものである。どちらも美と幅と質が大切であり、貧弱な調子の繰り返しでは程度が落ちてゆく。

罪は、それに手を染める人々を自由にするどころか、群衆に降伏する白旗である。人間の肉欲に対する無条件降伏であり、現世と来世における美と喜びを拒むものである。罪はそのように悲しみを招くものである。したがって、義人は「それについてはすでに言ったはずですよ」という態度をことさらにとったりはしない。義人は愛のゆえに、世の中の悲惨な状態がもっと少なく、幸福がもっと増すように、もっと証を述べていたらよかったものを、と心から思うのである。

救いの計画を知っている私たちは、隣人を愛しているので、福音を宣べ伝えることに切

迫感を感じているのである。私たちは、世に証を伝えるひとつの方法として義しい生活を送り、また謙遜に、しかし率直に語り、イエス・キリストの福音を絶えざる道しるべとして思慮深く立派に人々を先導することができるよう、神の助けを願うものである。

閉会の前にひと言申し添えたい。新たに召された4人の指導者たちの証は、実に靈感あふれる証であった。彼らが口々に、「私は持てるすべてを聖壇に捧げました。主と主の僕たちの用に供するためです」と語るのを聴きながら、この教会に、シオンに、教会で育

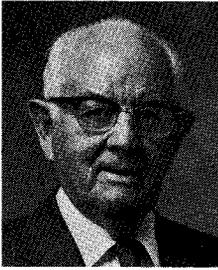
っている若者たちの間に、いまだ信仰が健在なことを知ってうれしく思った。これで話を終えたいと思うが、ひと言、兄弟姉妹、帰路につく皆さんに主の祝福があるように。平安が皆さんにあるように。皆さんの家が、福音のすべてを擁する真実の末日聖徒の家庭となるように。私は教会幹部のひとりが語った通り、世界最大の事業であるこの大いなるみ業が神により開始されたものであることを証する。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



心の清い者となる

大管長

スパンサー・W・キンボール



末日のシオンを築くことをひとつの大きな目的として働く

愛する兄弟姉妹、何と麗しい集いであろう。皆さんの顔の輝きと、このテンプルスクエアの自然の美しさに、私の心は、主の祝福に対する感謝の気持ちで一杯である。私は、大会に集う私たち全員の行ない、語る事柄に、感謝の念が満ちるように願っている。主は、主を愛し、主に仕える人々に祝福を与えるのを喜びとされるからである。(教義と聖約76:5)

私は主の助けをいただいて、皆さんが指導者として、また教会員として決して忘れてはならない幾つかの真理と義務を、ここで皆さんに再確認したいと思う。また、それらのことを思い起こすと共に、犠牲と奉獻とによってシオンが打ち建てられることをお話ししたいと思います。

まず初めに、監督の皆さんに申し上げたい。福祉援助を受けた人々には、自分の尊厳と独立心を維持し、教会の福祉活動から恩恵を受

けながらも引き続き聖きみたまを享受することができるように、労働あるいは奉仕の機会を与えることが絶対に必要である。ところが私たちは往々にして、教会の福祉援助が靈に関わるものであるということを忘れがちである。これらの靈的な根は、福祉活動に施しの考えが入るのをそのままにしておく、やがて枯れてしまうであろう。援助を受ける人は皆、何かができる。この点について教会の秩序に従い、受ける人々すべてに自らを捧げる機会を得させようではないか。

私たちは、この主の方法によって貧しい人を助けるようにし、世の方法を断固拒むようにしよう。また、政府の福祉改正論や数限りない問題を耳にする時、お互いの重荷を負い合い、それぞれの必要に応じて援助を与えるという誓約を交わしたことを思い出そうではないか。福祉活動の専門家であるロムニー副管長は、数年前に、次のような素晴らしい助言を与えている。

「現代社会には主の計画を模した様々な事業が横溢している。こうした社会にある私たちは、惑わされて、貧しい人々や乏しい人々に対する責任を政府その他公的機関に転嫁してその義務から免れ得るといった間違いに陥ってはならない。私たちは自ら進んであふれる愛を隣人に示さなくては、モルモンが語った愛すなわち『キリストの純粋な愛』(モロナイ7:47)をはぐくんでゆくことができないのである。そしてこの『キリストの純粋な愛』は、私たちが永遠の生命を得るために是非とも身に付けなければならないものである。」
(Conference Report「大会報告」1972年10月, p.115)

私たちはこの件についていかなる「説」にも惑わされてはならない。私はここで、政府やその他の救済を受ける個人に関する教会の方針として、次のような原則の宣言があることを強調したい。

「各会員の靈的、社会的、情緒的、肉体的、経済的福祉を図る責任は、まず本人にある。

次いで家族、第3番目に教会にある。教会員は、能力の及ぶ限り、自立を図るよう主より命じられている。(教義と聖約78：13—14参照)

肉体や情緒面の能力がありながら、自分自身あるいは家族の福祉を図る責任を第三者に転嫁しようとする者は、決して本当の末日聖徒ではない。本当の末日聖徒は、主の靈感の下に自ら最善を尽くして働く。本人と家族の霊的、物質的な必要を満たすために、能力の及ぶ限り働くことだろう。(創世3：19、Iテモテ5：8、ピリピ2：12参照)

教会員各人は、主のみたまの導きを受け、これらの原則を応用することによって、どのような援助を受けるか、政府からか、それとも他の機関からかを自ら決定しなければならない。こうする時に、自立心、自尊心、尊敬、独立独行の精神が養われ、自由意志が保たれることだろう。」(管理監督会の声明、*Ensign*「エンサイン」1978年3月号、p.20)

この声明は、独立独行の必要性を告げている。いかなる理論も、弁明も、合理化も、決して独立独行の基本的な必要性を変えることはないであろう。それは次のような理由による。

「あらゆる真理は、神の置きたまひし範囲に於て独立し……すべての英智もまた然り。然らずば、存在なるものは無し。」(教義と聖約93：30)「ここに人の自由意志あり」(教義と聖約93：31)と、主は述べておられる。したがってこの自由意志には個人の責任が伴う。そしてこの自由意志があればこそ、私たちは栄光の位に昇ることもできれば、墮落して罪の宣告を受ける可能性もある。私たちは個人として、また集団として、いつまでも独立独行の精神を保ちたいものである。これこそ、私たちの受け継ぎであり、義務である。

教会が個人と家族の備えを強調している背景には、この独立独行の原則があるのである。そして現在、この個人と家族の備えのそれぞれの分野に見られる成果には、目を見張るものがある。しかしそれでもなお、備えのある生活をするようにという勧告に聞き従う必要

のある家族は数多い。春の訪れと共に、皆さん方全員が庭に出て、この夏の収穫を楽しめるように準備をしていただきたい。私たちが願っているのは、皆さんがこれを家族の仕事とし、小さな子供たちも含めて、全員が何らかの仕事を分担することである。そのようにすれば、作物の収穫は別にして、畑仕事から非常に多くの事柄を学び取り、収穫することができるであろう。私たちはまた、一年分の食糧、衣類、また可能であれば燃料と貯金を持つよう皆さんにお勧めしたい。さらに、適切な食物を取り、健康を維持する習慣に気を配って、人生の数々のチャレンジに応えられる肉体的な能力を保つようにお勧めしたい。定例会や扶助協会の集会で、個人と家族の備えに関する原則と実施方法を教えるようにしていただきたいと思う。

すべての聖徒は、毎月断食をし、断食献金を惜しみなく納め、与える立場に立った時に得られる祝福を思い起こすようにしていただきたい。できれば、抜いた食事の何倍にも相当する献金をするようにする。

この原則のもつ精神に従って生活する時、約束を伴うこの原則は、与える者にも受ける者にも大きな祝福をもたらす。断食の律法を守る人は、放縦と利己心を克服する力の源を見いだすことだろう。そのことについて語ったビクター・L・ブラウン監督の、前回の大会における福祉部会の話の思い出していただきたい。(「聖徒の道」1978年2月号に掲載されている)

さて、兄弟姉妹の皆さん、ここで現在のわずらいを一時忘れて、福祉事業に関する非常に大切な将来の展望をお話したいと思う。長年の間、私たちは、末日のシオンを築くことをひとつの大きな目的として働き、希望を持ち、このみ業に励むよう教えられてきた。そのシオンとは、愛と一致と平安のあるシオン、主の子供たちがひとつとなっているシオンである。

私たちの将来の状態と、私たちの努力のも

たらず結果がどうなるかは、現在の福祉事業に対する自分の義務を理解し、それを果たす時に、ビジョンとして心の中にはっきりと浮かんでくるにちがいない。このことは、教会のすべての活動についても言える。主は、教義と聖約58章の中で、この末日のシオンの状態を一部私たちに明らかにしておられる。

「汝らは今後来らんとする事などに関する汝らの神のみこころ、および多くの艱難の後に続いて来るべき栄光に就きては、現在肉眼を以てこれを見ることを得ず。

多くの艱難の後に祝福は来る。この故に汝らが大いなる栄えの冠を受くべき日は来るなり。而してその時は未だ来らずといえども近きにあり。……

見よ、誠にわれ汝らに告ぐ、この目的のためにわれ汝らを遣わせるなり。そはすなわち汝ら従順ならんがため、またこの後来らんとすることの証をなす心構えをなさんためなり。

また、汝ら基を開きかつ神のシオンの在るべき地の証をなす光栄を賜わらんためなり。

その後わが能力の日これに次で来る。その時貧しき者、足なえたる者、目見えざる者、耳聞えざる者などみな子羊の婚礼に來りて、やがて来るべき大いなる日のために備えられたる主の晩餐にあずからん。

見よ、これらのことは主なるわれこれを語れり。」(教義と聖約58：3—4, 6—7, 11—12)

やがてこの日が来ることだろう。私たちはその日のために働いているのである。このことを考える時に、皆さんは王国の大いなる聖きみ業の内において、自分の本分を尽くし、歩みを速めなければという気持ちにならないだろうか。私はそのように感じている。私はこのことから、シオンを打ち建てるみ業において自分の本分を尽くそうとする時に、自分と家族に与えられる数多くの奉仕と犠牲の機会を心から喜んでいる。

この神権時代の初期に、民は、シオンの完全な経済計画、すなわち協同制度に従って生

活することができなかった。主は民の罪惡を見て、次のように戒めの言葉を残しておられる。

「されど見よ。彼らはわが彼らに要求したるところにおとなしく従うことを覺らずしてあらゆる惡に満ち、彼らの中の貧しくして苦しめる者たちに聖徒たるにふさわしく物資を領たず。

日の榮の王国の律法の要求する和合一致に従いて一致協力せず。

およそ日の榮の王国の律法の諸原則によらずんば、シオンを建つること能わず。これによりて建てずば、シオンをわれに受け入ることかなわざるなり。」(教義と聖約105：3—5)

さらに主は、シオンの贖われる前に、私たちが従順を学び、人格的に高められる必要があると勧告しておられる。(教義と聖約105：9—10参照)

この同じ啓示の少し後の方で、主はシオンの律法を繰り返し述べると共に約束を与えておられる。

「シオンとシオンの律法に関しわが与えたるこれらの誠命は、シオンの贖われし後にこれを遂行して成就すべし。

およそ彼ら受くるところの助言を守らば、多くの日を経てシオンに就けるすべての事を成就すべき権能を受けん。」(教義と聖約105：34, 37)

「シオンに就けるすべての事を成就」するために必要な時間は、私たち次第であり、私たちがどのように生活するかにかかっている。なぜならば、シオンの設立は「各人の心の中に始まる」(*Journal of Discourses* 「説教集」9：283)からである。予言者たちは、私たちが教訓を学ぶのにはかなりの時間がかかることを知っていた。1863年に、プリガム・ヤング大管長は次のように語っている。

「もしも民が自分の義務を怠り、神から与えられた聖なる戒めに背を向け、富を追い求め、神の王国の利益をないがしろにするならば、私たちはもっと長くこの地に居ることになるだろう。恐らく、私たちが予想している

期間よりもはるかに長く居ることだろう。」

(*Journal of Discourses* 「説教集」11:102)

不幸にも私たちは、シオンの価値をまったく信じようとしない世界に住んでいる。パピロンはいつの時代にもシオンを理解しない。主は現代のことを予言者モルモンに明らかにされ、モルモンはモルモン経に次のように記録している。

「見よ、私はあなたたちが今日の前にあるかのように話しているが、本当はあなたたちはまだ生れないのである。しかし、イエス・キリストが前以てあなたたちを私に見せたもうたのであなたたちの行いが今私に解るのである。……

ごらん、あなたたちは金銭と自分の財産と自分の華やかな衣と自分の教会の華やかな飾り物とを、貧しい人々、病気の人々および悩んでいる人々よりも愛するのである。」(モルモン8:35, 37)

このような状態は、主が誓約の民を通して打ち建てようとしておられるシオンとは、著しい対象をなす。シオンは心の清き者の中のみ築かれるのであって、どん欲な目をもって駆け回る民とは無縁である。欲のない、清い民のみがシオンに住む。外見の清い民ではなく、心の清い民である。シオンはこの世に築かれるが、この世からは築かれない。また、世俗の安堵感にまぎらわされないし、物質主義によって力を失うこともない。シオンは低い秩序に属するものではない。精神を高め、心を清くする、高い秩序に属するものである。

「隣人の利益を図り、誠心誠意神の栄光を顕すためにすべての事を為す」人はみな、シオンである(教義と聖約82:19)。私は、シオンは心の清い人々、シオンのために働く人々によってのみ建てられると理解している。なぜならば、「シオンで働く者はシオンのために働くべきである。もしも金銭のために働くならば亡びるであろう」(IIニーファイ26:31)とあるからである。

心の中にこのビジョンを持つことは非常に

大切であるが、単にシオンを定義づけ、言葉で述べるだけでは、シオンを実現することはできない。教会員一人一人が日々絶えず努力を重ねることによってのみ可能である。したがって、どのように苦しくても、また犠牲を要求されても、私たちはそれを行わなければならない。「実行」、これは私の大好きな言葉である。再びシオンを築くために、私たちが行なわなければならない3つの基本的な事柄がある。私たちはシオンのために働こうとするならば、これら3つの事柄を行なうことを決意しなければならない。ここで、その3つの基本事項を提案したい。

まず第一に、私たちは魂を迷わせ、心をいしくさせ、暗くする自己本意な考え方を捨てるようにしなければならない。ロムニー副管長は最近、文明の悲劇が循環すること、権力と富を求める人によってその循環が進行されることを述べている。カインを「利を得んがために」(モーセ5:50)弟を殺した最初の殺人者としたのは、これではなかっただろうか。また、すべての人は「各々の器量に応じて栄え、各々の力量に従って勝つと言うことを教え、また人のすることは何をしても罪にはならないと説いた。」(アルマ30:17)反キリスト者の精神は、これではないだろうか。民を滅亡へ導いた精神としてニーファイが指摘したのは、これではなかっただろうか。

「このような悪事が国民の中に起ったのは、すなわちサタンが民の心を煽動してあらゆる悪事をさせ、高ぶらせ、その心を誘って権力と威勢と財産とこの世の空しいものを貪らせることに非常に力があつたからである。」(IIIニーファイ6:15)

彼らのたどったような滅亡を避けるためには、彼らを堕落させた事柄から、私たちの身を守ることである。主は私たちの先祖に「汝の持つ財産を」^贖「賣らないようにと告げておられる。(教義と聖約19:26)

さらに主は、組織されてまだ日の浅い教会に対して次のように勧告された。

「見よ、主なるわれは、カートランドの教会に在る多くの者を喜ばず。

それは彼らは、彼らの罪と悲しき行いと、心の高ぶりと貪欲と、すべての憎むべき事などを棄てず、またわれの嘗て彼らに与えたる智慧と、永遠の生命の言葉に従わざればなり。」(教義と聖約98：19-20) 私たちの家庭、職業、教会の事柄から利己心を一掃する責任が私たちにはある。私は、福祉事業の公平化を図ること、あるいは倉庫に貯える日用品の生産割り当ての均等化を図ることに困難を覚えているステーキ部、ワード部があると聞いて心配している。そのようなことがあつてはならない。そのような事態があれば今日解決しようではないか。

第2に、私たちは完全な協力体制を敷き、互いに調和を保って働くようにしなければならない。決意をひとつにし、行動に一致がなければならない。主は、「ことごとくの者、兄弟を己が身の如くに」(教義と聖約38：24)思うようにと聖徒たちに告げた後、大会に出席した教会員に、互いに協力し合うようにという指示を与え、次のような力強い言葉をもってその指示を結ばれた。

「見よ、こは一つの比喩を以て汝らに語るころなれど、正にわれ在るが如く真なり。われ汝らに向いて言わん、汝らひとつとなれ。もしひとつとならずば、汝らはわがものにあらず。」(教義と聖約38：27)

もしも私たちが主のみたまの導きの下に自分の務めを一生懸命に果たすならば、私たちの行なうすべての事柄に、この一致と協力の精神が保たれることだろう。さらに、私たちがそれを行なう時にどうなるか、予言者ジョセフ・スミスは次のように語っている。「個人の努力や計画からは決して得られない、物質的、霊的な最大の祝福が、必ず忠実さと一致した努力によつてもたらされる。」(*Teachings of the Prophet Joseph Smith* 「予言者ジョセフ・スミスの教え」 p.183) 福祉事業以上に、協力と一致した努力を必要とする教会の

活動はまずないと言ってよいだろう。失職した定員会会員のために就職先を見付けること、生産事業に精出すこと、デゼルト産業で率先して奉仕すること、家庭に里子を迎え入れること、これらの福祉活動は個人としてよく果たせても、会員同士の協力が相互の関心がなければ、倉庫資源制度を完全に成功させることはできないのである。

第3に、私たちは祭壇を築いて、主によって求められるものは何でも犠牲として捧げなければならない。そのためにはまず、「真にへりくだりたる心と悔いる精神」(教義と聖約59：8)を捧げる必要がある。次いで、自分に託された務めと召しに最善を尽くす。そして、自分の義務を理解し、それを完全に果たす。最後に、指導者から要請された時、そしてみたまのささやきに促された時に、自分の時間と才能と財産を奉獻する。私たちは、福祉部門のみならず、教会においても、自分の持つすべての能力、義なる望み、思慮に富んだ行動力を発揮することができる。ボランティア、父親、ホームティーチャー、監督、隣人、あるいは訪問教師、母親、主婦、友人、そのいずれであっても自分のすべてを捧げる機会が豊富にある。私たちは犠牲を捧げる時に、犠牲が天の祝福をもたらすことを知る。そして最後に、それが決して犠牲でないことを理解するのである。

兄弟姉妹の皆さん、このことを行なう人は、やがて「すべてにまさる愛」の衣を自分がまとっていることを知るであろう。

「この愛はキリストの純粋な愛であつて永遠につづくものである。従つて終りの日にこのような愛を持っている人はさいわいである。」(モロナイ7：47)

この愛の絆によつて結ばれ、この末日のシオンを築き上げ、神の王国を出て行かせて天の王国を来らせるために、心を完全にひとつにして祈らうではないか。イエス・キリストのみ名によつて祈り、証する。アーメン。

倉庫資源制度

管理監督会第二副監督

J・リチャード・クラーク



雇用サービス、監督の倉庫、生産事業、末日聖徒社会福祉、デゼルト産業、断食献金、その他の福祉援助手段——これらは倉庫資源制度を構成する

監督には、「弱きを扶け、垂れたる腕を挙げ、かよわきひざを強」くする（教義と聖約81：5）という、大きな喜びを生み出す機会が与えられている。また監督は、ワード部の父として、人生のあらゆる問題に援助を与える。

- ・失業中の父親に——仕事
- ・火事で家財を失った家族に——家具や衣料品
- ・トウモロコシの収穫の機会を感謝して受ける人——有意義な労働
- ・未婚の母——新しい家庭と優しい両親
- ・情緒不安定の夫婦——熟練した治療専門家
- ・働く意志がありながら仕事に恵まれない人——労働を通しての尊厳

すべての監督は、悩みに打ちひしがれている会員の物質面の必要を満たすことが、神性の輝きを与えてその会員を目覚めさせるのに

役立つということを承知している。救い主は私たちに、主にとってすべての事柄は霊にかかわることであると言っておられる。そして、B・H・ロバーツ長老は、霊にかかわる事柄は物質にかかわる事柄と結び付いて初めて大きな霊の成長を見ると述べている。私たちの住むこの物質の世界では、いつも現実には肉体にかかわる大きな問題がある。これらの問題を教会員が解決することができるように、主は教会に対して、必要な手段を備えるよう命じてこられた。かつてある人が、マッケイ大管長に次のように言ったことがある。「もしもあなたの教会が唯一まことの教会であるならば、霊的にも、物質的にも、社会的にも、人類にかかわるすべての問題に答えられるはずです」と。兄弟姉妹の皆さん、私たちにはその答えがある。

キリストの真実の弟子たちは、これまでいつの時代にも、高い霊性を得た時に、貧しい人々の世話をしてきた。アルマの時代には次のようであった。

「各々みなその財産の多い少いに応じて、貧乏な者や病気にかかっている者や苦しんでいる者たちに施しをした。……

そして、このように栄えていたとき、かれらは着る物のない者、飢えている者、渴いている者、病気をしている者、栄養の足らない者などを追い払わず……」（アルマ1：27、30）

この神権時代に、主は次のように宣言を下しておられる。

「われこの地方の教会員に一つの誠命を下さる。すなわちこの教会員の中、ある人々は任命を受く……任命されたる人々は貧しき人々乏しき人々に心を留めて、その苦しまざるよう救助を施すべし。」（教義と聖約38：34—35）

その時から現在まで、主は忍耐強く、私たちがこの世の救いを左右する原則を学ぶに任せてこられた。1930年代のあの厳しい経済不況は、教会に、啓示された原則に従い、神権者が貧しい教会員に援助を与える公式の計

画を發展させる道を開いたのである。福祉計画の基本が定められたのは、1933年である。その時に、ステーキ部長と監督は、会員の必要を調査するように依頼を受けた。しかし、事の複雑さから、計画の検討には3年の歳月を要した。

そして、1936年10月に、大管長会は公式に福祉計画に着手した。その時、次に引用する声明を出している。

「私たちの第一の目的は、可能な限り、いまわしい怠惰や施しのもたらす悪弊を除去し、独立心、勤勉、儉約、自尊心を再び私たちの間に確立する体制を築くことである。教会の目的は、人々の自立を助けることにある。勤労が再び教会員の生活を貫く原則にならなければならない。」(Conference Report「大会報告」1936年10月、p.3)

多分私と同様、皆さんもこの宣言を何度も耳にしてきたことと思う。しかし、私たち個人の努力を組織を通じて結集しなければならないということまででは、考えていないことと思う。単に衣料品や食料品を供給するだけでなく、次の大管長の声明にあるような、バランスのとれた、完全な組織が必要である。

「人は独立独行、創造性に富んだ活動、誉れある労働、奉仕によって永遠の存在として築き上げなければならない。長期的展望をもった福祉計画の目的は、その設立当初から、教会員すなわち与える者と受ける者の双方の人格を築くことであった。」

福祉制度はその後漸次發展し、充実に、現在「倉庫資源制度」と呼ばれるに至っている。この制度は、愛の労働、自立、奉仕、管理、奉獻という福祉活動の6つの基本原則を土台として打ち建てられている。監督はこの制度を用いて必要な援助を与え、私たち各会員はこの制度に援助手段すなわち資源を供給する。

監督は決して自分ひとりの力でその務めを果たすのではない。聖徒たちの奉獻に感謝しつつ、この偉大な資源制度を通して必要な援

助と奉仕を広範囲に与えるのである。現在、教会員の多くは、倉庫と言うと、食料品や衣料品を監督の供給指示書に従って支給する監督の倉庫のみを心に描く。しかしながら、教会員の必要とするものが多くなった現在、倉庫資源制度には以下のものが幅広く含まれるようになった。

- ・雇用サービス
- ・監督の倉庫
- ・生産事業
- ・末日聖徒社会福祉
- ・デゼレト産業
- ・断食献金とその他の福祉援助手段

現在監督は、援助の必要な会員に衣食住および医療、雇用、養子と里子の世話、情緒面に問題のある人のための専門的な治療等の援助を提供することができる。

福祉計画の「創始者たち」は、この制度の目覚ましい發展に胸を高鳴らせているにちがいない。暗闇の中でも将来を見詰め、確かな道へと民を導いてくれる人々のいることを主に感謝しようではないか。心にビジョンを持ち、物事の完全な姿を見ることのできる予言者がいることを主に感謝しようではないか。ロムニー副管長はかつて、ブリガム・ヤング大管長の言葉を引用し、この能力のことを次のように語った。

「だれでもシオンの情景を心に描いた人は、サタンが縛られた後のシオンの美と栄光を見たことだろう。……平原を横切る牛の群れやあちらこちらのぬかるみ、牛の群れの暴走、人々の諸悪は、その情景の中になかった。

むしろシオンの美と栄光を見て、この死すべき生涯につきものの苦難、悲しみ、失望を乗り越えたいという気概を持ち、そのための備えをし、また啓示されたままに主の栄光を享受する準備をした。」

ロムニー副管長は、最後にこう語っている。

「私たちは、福祉プログラムのビジョンを抱いている。シオンの贖いと新エルサレムの建設、協同制度の開始、福千年の到来につい

て大きなビジョンを抱いている。しかし、これらのビジョンが具体化する前に、私たちは長いてこぼこ道を歩かなければならない。」

(特別福祉集会における説教、1949年4月5日、p. 13)

1942年に、J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長は、次のようなビジョンを抱いていた。

「福祉計画は、協同制度ではないし、そのように意図されたものでないことは、私たちが皆語ってきたことである。しかし、終局において、教会福祉プログラムが完全な形で運用されたならば、主が定めたもうた完全な経済制度の偉大な基礎の確立はあまり遠くないといえる。」(Conference Report「大会報告」1942年10月、p. 57)

クラーク副管長が36年前にこの声明を出して以来、福祉計画は着実に発展してきた。昨年の10月の大会において、キンボール大管長は次のようなチャレンジを私たちに与え、私たちの気持ちを駆り立てて下さった。

「私はこの福祉部会で何をお話しようかと考えていた時、……1936年10月にこの偉大な福祉事業が再び確立されて、すでに1世代を経過していることに気付いた。そして、この事業を指導した偉大な人々のことが次々に心に浮かんできた。……

こうして、彼らが福祉活動に対してなした貢献と、この分野における教会の急速な進歩を考えていた時、はたと次のような疑問にぶつかった。今日の私たち、もっと具体的に言うならば、地区、ステーク部、ワード部の指導者は、前の世代の人々と同じように福祉の原則を理解し、福祉活動に対して同じように心血を注いでいるだろうか、と。」(「聖徒の道」1978年2月号、p. 116)

私はこの世代の人々がこのチャレンジを受け入れ、現在福祉活動の分野で「歩みを速め」ていると確信している。私たちは、福祉活動の面ですでに新しい時代に入っており、以下に挙げる5つの活動分野における発展を見て

いる。

第1に、生産、処理、分配の能率をさらに高めるための制度内のより良い相互調整と協力。すなわち、雇用担当の神権指導者は、地元の福祉活動雇用センターと緊密な協力体制を組む必要がある。さらに言うならば、農場あるいは末日聖徒社会福祉事務所、デゼレト産業その他において聖徒たちがボランティアとして働く、その活動をさらに有効に活用するということである。

第2に、倉庫資源制度が完全な組織として運用され、私たちがその制度の発展の管理とバランスをよく取れるようにするより良い計画。優れた計画と的確な判断は、制度のあらゆる要素を確立し、維持するのに妥協の入り込む余地を少なくするであろう。

第3に、福祉運営のあらゆる面における有効な管理。過去40年間の福祉活動を教師として、私たちは基本原則を学び、訓練を受けてきた。私たちは、最新の技術と管理運営法を用いて、これまでにない豊かな生産と効果を上げることができる。

第4に、王国への献身と奉獻の度合。ホームティーチャーと訪問教師は、監督の代理として、貧しい人や困っている人を見いだすことにもっと力を入れなければならない。私たちは豊かな時に、余剰のお金を惜しみなく捧げ、資源制度の中の断食献金援助ができるようにすることが大切である。私たちが納める献金額は、断食した2食分に相当する金額に制限されない。私たちの予言者は、できれば2食分の10倍以上を納めるように勧めている。豊かな人はワード部やステーク部外にも目を向けるべきである。私たちは、断食献金を納めることによって、監督を通して援助の必要な人に愛を表わしているのである。これは主の方法である。そして、与える者と受ける者の双方が、この方法によって究極の救いを得ることができるのである。

最後は、霊性である。救い主との関係が密になり、日々の生活でみたまを感じる事が

多くなっている。私たちの予言者の勧告にあるように、「この世のものに打ち勝つことにより、救い主に近づき、霊的にさらに多くのことを成し遂げていただきたい。」（「聖徒の道」1978年2月号，p. 121）

兄弟姉妹の皆さん、私は、私たちが現在迎えているこの福祉活動の新時代が主のみこころ通りに進んでいることを、心から信じている。現在、すべてではないにしても、私たちが知覚している必要は十分満たされていると思う。ハロルド・B・リー大管長は、福祉活動について語った最後の講演で、次のように述べている。

「この福祉プログラムが設けられている目的を知っている人はひとりもない。しかし、十分な準備が整う前に本当の目的が明らかにされるであろう。そしてその時が来れば、教会のすべての援助者や人にそれを満たすチャレンジが与えられるであろう。」（教会職員クリスマスプログラム，1973年）

危険な時代が私たちを待っている。裁きが邪悪な人々に下されるであろう。聖徒たちは、聖なる予言者たちによって宣言されたもろもろの災いから救われるよう、正義の原則に従って生活しなければならない。私たちの主なる救い主が帰って来られる前に、多くのことが起こるであろう。私たちは主の再臨の日がいつなのか、詳しくは知らない。ブルース・R・マッコンキー長老は次のように言っている。

「主の再臨の正確な時は故意に明らかにされなかった。したがって、後代の人々は、あたかもそれが自分たちの存命中にあるかのごとくに、そのための備えをしなければならないのである。」（*Doctrinal New Testament Commentary* 「新約聖書教義注解」第1巻，p. 675）予言されている出来事と福祉計画を関連づけて語ることは、必ずある種の危険が伴う。というのは、推測で結論を下す人々がいるためである。しかし、主は私たちが自らを備えることができるように予言を下しておられる。そして、「もし汝らに備えあらば怖ることな

からん」（教義と聖約38：30）と言っておられる。

倉庫資源制度は、私たちが備え、愛、奉仕、犠牲、奉獻の原則を応用できるようにするものである。シオンをしっかりと築き上げるものは、これらの原則、これらの業をおいてほかにないのである。私は証申し上げる。私たちは現在、将来共に数々の困難な問題に直面するであろうが、この教会は神の王国である。このみ業は神のみ業であり、私たちは神の民である。そして、私たちは主を通して究極の勝利を得ることだろう。私はこれらのことをイエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。



大会訪問者

年老いる時に

扶助協会中央管理会会長
バーバラ・B・スミス



私たちはみな、老年期に対して備えをしなければならぬ。また、すでに年老いている人々のために何かをしなければならぬ

「日」は昇り、日は沈む。すみやかに飛び去る歳月よ……」（「屋根の上のバイオリン弾き」1964年より）

心に強く訴えるものを持つこの歌詞は、「屋根の上のバイオリン弾き」に登場する夫婦のように「年を取ることを忘れていたふたりの友人のことを思い出させます。御主人は63歳、奥さんは55歳でした。ふたりとも健康で、幸せで、楽しく働いていました。

ある日、突然に御主人は仕事を辞めるように言いわたされました。そして退職した月曜日の朝のことです。御主人は奥さんが仕事に出かける支度をしている姿を見ながら、自分はこれから何もすることなく家にいなければならないのだと思いました。御主人には、仕事も、趣味も、特別な関心事も、将来の計画もありませんでした。

その朝、奥さんをドアのところまで見送りながら、御主人は心の中で、「私はこれからど

うなるのだ。何をすればいいのだ」と叫びました。

仕事に生きがいを見いだしてきたのに、ある日突然高齢失業者の仲間入りをするようになったこの人に、この先一体どんな仕事があるというのでしょうか。自分で新しい人生を見付けるか、それとも無気力に生きて世を去るか、自分自身で決めなければなりません。悲しいことに、その方は間もなく亡くなってしまいました。

現在、私の友人たちの人生ではこのような危機は避けられないと言う人々がいます。それが正しいことはもちろんです。年を取るということは自然の摂理なのですから。

N・エルドン・タナー副管長は次のように言われました。「人はみないつかは年を取るということを認識しなければならない。……その時のために私たちはみな準備をしなければならない。」（“Preparing for Old Age” *Ensign* 『老年の備え』「エンサイン」1976年12月号、p. 4）

老年期にどのような生活を送るかは、いろいろな環境や要素によって異なります。しかし、老年期の準備をしておくことと、老年期を楽しく過ごすこととの間には、密接な関係があります。教義と聖約には、「もし汝らに備えあらば怖ることなからん」（教義と聖約38：30）とあります。

その備えについて、少し提案したいと思います。

まず、私たちは今からでも老年期に対する前向きな心構えを持つことができます。お年寄の知恵と経験と価値を大切にしましょう。家族の絆を強め、幼児、青少年、大人、さらに老人も含めた家族の各世代それぞれの価値を認識しましょう。

よく計画すれば、お年寄の世話をすることは、愛を知ることのできる、報いの大きな経験となります。お年寄を敬い、また老年期に対する備えをする必要があることを子供たちに教える一番良い方法は、家族や親戚のお年

寄の世話を手伝わせることです。

次に、収入の範囲内で生活し、収入の道が絶えた時のために貯蓄するようにして、経済的に備えることです。

第3に、生涯他の人々の役に立てるように奉仕することを習慣としましょう。老年期には奉仕の時間が沢山取れます。それまで生活や育児のために使われていた時間が、教会や地域社会での奉仕を通じて人々のために使えるようになります。

また、時間を制約されていた仕事から解放された後は、新しい技能を身に付けて人生を豊かにすることができます。一生学び続けることが大切です。

最後に、健康の習慣は老年に至って大きな報いを与えてくれます。知恵の言葉を守り、毎日バランスの取れた食事をし、歯を清潔に保ち、体重に気を配り、十分な睡眠と休養を取り、適度な運動をし、健康な生活を保証してくれる医学の助けを得る時に、健康な体が保たれるのです。

定年退職をした人は、「これで自分の務めは終わった。これからはほかの人の出番だ」と感じるかもしれません。しかし、老人病学者や老人関係の仕事に従事している人々の話によると、退職で老化の速まることがあるそうです。

私のマーサ伯母は95歳に手が届くという年齢ですが、どなたでも一度伯母と競争してみたいくらいです。伯母はいつでも何かすることを見付け出します。市民集会に出ますし、教会のレッスンの割り当てを勉強してクラスでは活発に、意見を述べます。必要な時には、率先して奉仕に出掛けます。彼女が温いスープを持って来てくれた時には本当にありがたかったという話を、私は何回も聞いています。うれしいのはスープでしょうか、それとも愛のこもった心遣いでしょうか。

彼女は家庭訪問を担当している地域の姉妹たちの所を、いつも月の上旬に訪問します。また彼女は神殿に行けば、一度に2回か3回

のセッションを受けます。系図記録はいつも最新の状態にあり、家事や庭仕事もよく手伝います。

中でも、彼女の一番の喜びは伝道だと思います。75歳の時に南カリフォルニアに伝道に出てから、彼女は福音を伝える機会を一度も見逃したことがないのではないかと思うほどです。彼女は人々を愛し、人々から愛されています。そして、人生を感謝し、充実した毎日を送っています。

神権指導者と扶助協会指導者は、マーサ伯母のように、老年に有益な奉仕のできる人々がいることを知っていただきたいと思います。お年寄りに向くとされている従来の仕事のほかに、子供たちの祖父母代りをすることや、棒編み、かぎ針編み、園芸、パン作り、キルティング、その他若い女性たちの勉強したい技術を小クラスで教えることはいかがでしょう。目の悪い人々のために朗読奉仕をすることや、家族の歴史やワード部の歴史をまとめること、困っている人々へ手紙を書くこと、読み書きを勉強したい人々に教えることもできます。

提供できる時間と技術のある人々に、素晴らしい奉仕の世界が広がってゆくことでしょう。

これまで私は独立しているお年寄のことを話してきましたが、ひとりで生活できないお年寄も大勢いらっしゃいます。寝たきりであったり、体の自由がきかなかったり、そういう人々をなおざりにしてはなりません。自宅にいて毎日食事を運んでもらい、家事や買物や治療に気を配ってもらい、電話で様子を聞いてくれるので十分だという人がいる一方、24時間の看護が必要な人もいます。また、愛情こめてお年寄の世話をしている人々にも、また世話を受けているお年寄にも、もっと人人の助けが必要なことがあります。

扶助協会指導者と神権指導者は、そのような家族やお年寄に特別な注意を払って下さい。人の手を借りているお年寄には、やさしい友人や家庭訪問教師、ホームティーチャーの

親切と心配りが必要です。ちょうど若い母親に育児から解放される時間が必要なように、忙しい主婦には、休まないお年寄の世話を休む時間が少しでも必要なことでしょう。扶助協会の慈善奉仕がそのために役立つことでしょう。

施設での医療や検査が必要なお年寄もおいででしょうから、必要であれば、扶助協会と神権指導者は適当な施設を決めるのを手伝うようにして下さい。

お年寄が医療施設に入った後は、家族と教会員が定期的に訪問し、愛を示して、積極的に関心を寄せることを続けて下さい。そのような施設にいる姉妹たちには、訪問教師の訪問と、施設で開く特別な扶助協会集会在が励みになることでしょうか。

老年期は「すみやかに飛び去る歲月よ」と歌われているように必ずやって来ます。この老年期が自分に訪れた時、私たちは信仰と備えから生まれた勇気をもってその時を迎える必要があります。自分自身や家族のために働くことのほかに、私たちの携わっているみ業の主であるキリストの愛の精神をもってお年寄に接したいものです。

詩篇作者の次のような叫びが、私たちの胸にいつまでも宿っていますように。

「わたしが年老いた時、わたしを見離さないでください。

わたしが力衰えた時、わたしを見捨てないで下さい。」(詩篇71：9)

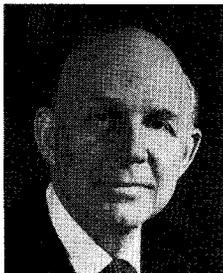
心からイエス・キリストのみ名によりお祈り申し上げます。アーメン。



段上を下りられるスペンサー・W・キンボール大管長

福祉活動は あなたから

七十人第一定員会会長
A・セオドア・タトル



現代の私たちは40年以上も前から勧告を受けてきた。この勧告に従うことはもはや任意ではなく、絶対に行なわなければならないことである

かつて南米の熱帯ジャングルで、木に逆さまにぶら下がっている褐色がかかった灰色の小動物を見たことがある。前足の割合には後足が短い動物で、動きが非常に鈍くて、生きているのか死んでいるのか判別しにくかった。その動物の名はナマケモノである。ナマケモノ、すなわち怠惰という言葉は聖典にたびたび出てくる。主は、ナマケモノ、つまり行動の遅い人を叱責しておられる。

1930年代に福祉計画が始まった時、その目的は怠惰をもたらす悪弊を除去し、自尊心を取りもどし、民の自立を助けることにあった。しかし、この主の経済機構の基本原則はもつと前から予言者ジョセフに啓示されていた。以来数々の事業が進められてきたが、そのほとんどは、この福祉プログラムがさらに必要となる時のために私たちを備えさせるものであった。この間に多くの大切な原則が語られているので、それを簡単に振り返ってみたい。

グラント大管長は次のように述べた。「教会には祝福が必要である。……それを受ける唯一の方法は……その祝福をもたらす律法を守ることである。教会員の福祉を図る基本的な律法は断食献金である。断食献金を納めることを強調したい訳は、それを納めることによってもたらされる祝福が私たちに必要だからである。」

クラーク副管長はこう勧めている。「収入の範囲内で生活しなさい。借金を返済し、借金しないようにしなさい。不慮の事態に直面することが将来あるであろう。その日に備えて貯金をしなさい。儉約、勤勉、質素を習慣としなさい。」(Conference Report「大会報告」1937年10月, p. 107)

「すべての家族の長に、手元に十分な食糧と衣料品と、できれば燃料をも、最低1年分確保させなさい。……土地を持っている人には菜園作りをさせなさい。農地を持っている人には耕作をさせなさい。」(Conference Report「大会報告」p. 26)

「お金は食べられないし、衣服にもならない。燃料にもならなければ、雨風をしのぐ屋根としても使えない。現在は、いかにお金を持っていても、自分たちの必要とする物を十分に確保できない時代である。……確実に入手できるのは自分が作るものだけである。」

「私たちは容易なことを好む心を追放しなければならぬ。生活から怠惰の悪弊を排除しなければならぬ。神は、人間は額に汗してパンを得よと命じられた。それがこの世界の律法である。」(Conference Report「大会報告」1937年4月, p. 26)

「私たちの多くはまた自制力を働かせず、貯金はおろか作るものすべてを消費するのをやめようとせず、割賦による借金を繰り返し返している。」(Conference Report「大会報告」1948年4月, p. 117)

姉妹たちは、クラーク副管長の次の言葉を喜ばしく聞くことだろう。「扶助協会なしでやって行けると考える監督が教会にいるとし

たら、それは自分の仕事をまだ知らない人である。扶助協会なしでやって行っている人がいるならば、それは自分の仕事をしていない人である。」(Conference Report「大会報告」1948年4月, p. 177)

(ついでながら、大会出席者は是非とも扶助協会ビルを訪れて、家庭貯蔵や非常時の備えに関する展示を御覧いただきたい。)

ハロルド・B・リー長老は次のように語った。「神権者と女性の両方で昇栄が実現する。同様に、福祉にも神権者と女性の協力が必要である。そのチームワークがなければ、私たちが福祉計画の中で行なっていることは決して成就しないであろう。」(ハロルド・B・リー、福祉農業集会における説教より、1971年10月2日)

「教会福祉プログラムはあなたから始まるということを忘れていただきたい。教会福祉プログラムは個々の教会員から始まるものである。……福祉プログラムを家庭で活発に推し進めるには、まずあなた自身が行動を起こすことである。プログラムはそこから始まって定員会に広がり、チームワークをもたらして、……目覚ましい成果が上がるのである。」(ハロルド・B・リー、福祉農業集会における説教より、1969年4月5日)

「これらの基本を理解できるように主の助けのあらんことを。また、……王国建設のために……私たちが自分自身と自分の所有物をすべて捧げる完全な奉獻を達成できるよう…主の導きのあらんことを。そうする時にこそ私たちは日の光栄の王国における昇栄にあずかるに必要な信仰を伸ばすことができるのである。」(ハロルド・B・リー、福祉農業集会における説教より、1968年10月5日)

ロムニー副管長はかつて次のように述べた。「歴史と予言と、また良識とが証明しているように、しっかりした考えを持たない導き手の計画した方針に従って、国家的な規模で福祉計画を実施する文明は決して長続きしないであろう。

バビロンは滅び、その滅びははなはだしいであろう。(教義と聖約1:16参照)

しかし失望しないでいただきたい。シオンはバビロンと共に滅びることはない。シオンは神が指示されたように、神と隣人に対する愛、労働、労働への意欲、この原則の上に建てられるからである。……

私たちは、シオンの建設の備えをする時に、教会福祉活動の根底をなしているふたつの原則、すなわち、神と隣人に対する愛、労働と労働に対する意欲、この原則を忘れてはならない。」(Conference Report「大会報告」1976年4月, p. 169)

ロムニー副管長はまた別の折にこう語っている。「教会福祉活動に従事するようになった当初から、私は、私たちがこの福祉活動で行なっていることは、協同制度の下で要求される奉獻の律法と管理の職を再び確立するための準備であると確信してきた。私たちがこの活動の目標を常に覚えるなら、この偉大な業に対する証を失うことは決してないであろう。」(「聖徒の道」1977年10月号, p. 529)

兄弟の皆さん、アルマが指導者に与えた大切な忠告に耳を傾けていただきたい。「またアルマは、自分が教えたことと、聖い予言者らが言ったことのほかは何ごととも教えてはならないとこの祭司たちに命じた。」(モーサヤ18:19) 私たちも同様にこの責任を負っている。

かつてタナー副管長が語ったように、ロムニー副管長は今日の教会の福祉プログラムに最も精通した権威者である。そのロムニー副管長がここ数年繰り返し説いているのが、福祉プログラムの基本原則である。

福祉プログラムの子防面は、定員会の指導者がその原則を勉強し、教え、実践することによって実現できるし、またそうしなければならない。その子防の働きに加えて、社会復帰の仕事がある。援助を受けて生計を立てている人を、自立できる教会員にもどすことである。これは、ヒンクレイ長老が昨年の半期総大会で述べたように、神権定員会の仕事であ

る。定員会は、そのように弱くなっている教会員を手助けしなければならない。

また同様に、アロン神権定員会指導者には（もちろん監督会も含むが）、50万人に及ぶ青年男女に福祉の原則を教える責任がある。

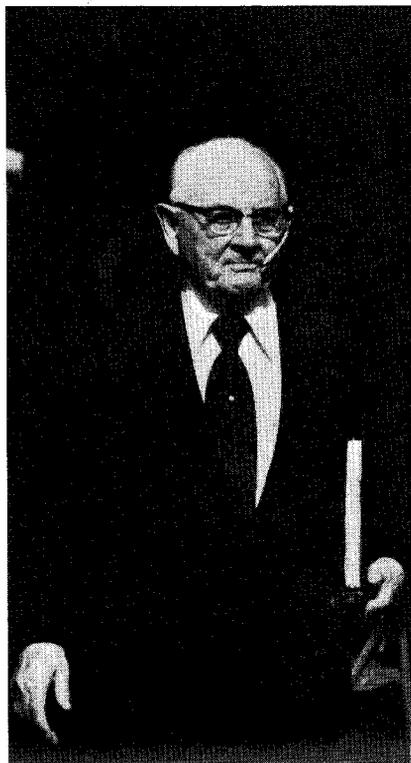
若い人々が「何をすればよいのだろう」と言うのをよく耳にする。断食献金を集める執事の仕事のほかに、福祉活動には素晴らしい機会が数々用意されている。兄弟の皆さん、「アロン神権定員会ガイドブック」や「活動の手引き」に提案されている素晴らしい活動をプログラムに取り入れるようにしていただきたい。食糧貯蔵、水の貯蔵、燃料の貯蔵、新聞紙の薪作り、家財の点検、たい肥の作り方、屋外の貯蔵庫作り、果樹の刈り込み、買い物の仕方、バランスのとれた食事、料理コンテスト、家の掃除、コードとプラグの修理および蛇口の取り替え、屋内の塗装、家屋のペンキ塗り、家事の技術の披露など若者たちが家庭貯蔵や福祉活動に参加するための楽しくて有益な方法が沢山紹介されている。

また、それぞれおもしろくてしかも役に立つ計画が提案されている。

兄弟姉妹の皆さん、以上述べたのが福祉活動の原則である。これらの原則は真理にかなっており、皆さんはこれらの原則に従うことができる。ここで皆さんに注意申し上げたい。というよりは、警告をしたい。「怠惰」という言葉は聖典に25回も出てくる。そして大概は行動を起こすのが遅い人をとがめてこの言葉が使われている。ジャングルの木にぶら下がったナマケモノを見ていると、実にゆっくりとした動作で葉っぱをちぎり、のろのろと元の場所に戻り、それからその葉っぱをゆっくりと口に運んだ。見ていた私たちは、「じれったい」、「いらいらする」、「いらだつ」という言葉の意味を悟ったような気がした。救い主が「怠惰」という言葉を使っておられることから、怠けて行動を起こすのが遅い人のことを主がいかに不快に思い、じれったがっておられるかその気持ちが分かるようである。兄

弟姉妹、現代の私たちは40年以上も前から勧告を受けてきた。福祉活動の原則を学び、教え、実践することはもはや任意ではなく、絶対に行なわなければならないことである。

この業は神の業であり、私たちに救いと昇栄を得させるものである。昇栄はこの律法に従うことによってもたらされる。私たちが一致してこのチャレンジに応えることができるように、イエス・キリストのみ名によりへりくだり祈る次第である。アーメン。



スペンサー・W・キンボール大管長

愛の入江

管理監督

ビクター・L・ブラウン



デゼルト産業に対する支援の要請

今朝私は、この福祉部会ではほとんど話されないが、その組織と活動を通じて受ける者と与える者の全員を救い主に近づける、福祉活動の一部門についてお話したい。私たちはこれを「愛の入江」と呼ぶことができるであろう。そこは特別な人々のための特別な港であり、この港に入る人は恐らくここを以下に述べるような場所と感ずることだろう。

人が自尊心を取り戻すことのできる場、
訓練、技術、才能がなくてもそれがハンディとみなされない場、
心身の障害にかかわりなく、愛に満ちた世話を受ける場、
たとえどんなに小さくても何かの貢献をすることで、自分は必要だ、自分には価値がある、大切だと感ずる場、
毎日が朝の祈りで始まる場。

特別な人々のためのこの港は、デゼルト産業である。デゼルト産業は、救い主のみ教え

の精神を集約した福祉活動の最も素晴らしい一分野である。何がそのように素晴らしいかといえば、そこで奉仕する人々の生活にこのデゼルト産業が及ぼす影響である。何人かの人々を御紹介したい。

〔フィルムが映写される〕

恐らく、この人々がなぜこのように素晴らしいのか、そのわけを理解していただけたことと思う。その信仰と自立と決意は、万人のかがり火であり教訓である。このデゼルト産業で働く人々のことを、もう少し詳しくお話してみたいと思う。ある父親は息子についてこう語っている。

「私たちの家庭で一番の祝福といえば、3人息子のうちの長男のことで。今、31歳ですが、誕生の時に障害を受けました。脳の障害のために筋肉がうまく動かず、話すこともできない状態です。でも知能は全く正常です。

あの子は人格的には非常に素晴らしいものをえています。マイクは何でも承知していて、冗談をよく解します。そして、何をしてもらっても感謝し、決して不平を言いません。また、善悪をはっきりと見きわめて、いつも善い側に立ちます。何より、私がこの教会に入れたのはあの子のお陰なのです。私はあの子のために祈ることから、祈りについてたくさんのお話を学びました。

私たちの地区のデゼルト産業店が完成した時に、監督が、多分マイクはそこで働けるだろうと言って下さいました。私も妻も、マイクをどこかに連れて行ってひとりきりにするなど、とても考えられなかったのですが、監督やステーク部長とお話したあとで、やってみようと思えました。

それは私たち夫婦にとってもマイクにとっても初めての一大事でした。マイクの最初の仕事は靴染めでしたが、靴よりも自分の方が染まるという具合でした。次の仕事は皿洗いでした。けれども、きつとたくさんのお皿を割ったのでしょう。マイクは布切れの仕分けの仕事に変えられました。それで、今は時給

80セントでボタンはずしの仕事をしています。ボタンに80セントもの価値があるでしょうか。普通で、1時間のボタンはずし作業に80セントも出すでしょうか。デゼレト産業の主眼は、自分も人の役に立つという幸せな気持ちを感じてもらふことなのです。

霊的な経験をしたらければ、デゼレト産業に立ち寄って、そこで働く人々と接し、彼らが互いにどのように愛と関心を寄せ合っているか、どんなに幸せそうに働いているかを是非見て下さい。」

個々の価値観に目覚めることが、デゼレト産業のあらゆる活動の根底にある。それは、メサ・デゼレト産業のテーマソングによく表われている。朝の祈りが終わって解散する前に、従業員全員で、「呼ばせてほしい。あなたをいとしい人と」と歌う。彼らが手を取り合って持ち場に戻って行く時、そこに深い愛が感じられる。

マレー・デゼレト産業のマネージャー、ジム・クレグ兄弟は、知恵遅れの若い女性が歌を発表するというので、息子のワード部の聖餐会に出席した。そして聖餐会の最後に、蒙古症の姉妹の美しい独唱があった。クレグ兄弟は、その若い女性がマレー・デゼレト産業の合唱団に入っていたので歌えることは知っていた。しかし、デゼレト産業で働く70歳の老人が歌の才能を認めて彼女に働き掛けていたことは少しも知らなかった。

彼女は立ち上がって歌を歌おうとした時に、会衆の中にクレグ兄弟がいるのに気付き、声高に、「あの人が私たちのデゼレト産業のマネージャーです。その後ろの方です！」と叫んだ。そして、デゼレト産業は世界中で一番素晴らしい場所ですと、人々に話し始めた。

彼女が歌う「わたしは神の子」の歌を聴きながら、みんなはデゼレト産業が世界一素晴らしい所であることをみじんも疑わなかった。

そのデゼレト産業が設立されたのは、1938年5月である。当時の大管長会より設立条項の大要が示され、持てる者が持たない人々の

ために衣料品、家具、器具などの余剰物をデゼレト産業に寄付し、失職者を雇って更正の仕事を行ない、良い品質の品を格安に生産する道が開かれたのである。

雇用がデゼレト産業の主要な目的のように思われるかもしれないが、実はそれは仕事に従事する人々に祝福をもたらすという目的を達する手段に過ぎないのである。また、祝福はここで働く人々だけでなく、物品を寄付する人々にも及ぶ。デゼレト産業は、修理、更生する品物を惜しみなく寄付する人々があつてこそ、存在するのである。

当然のことながら、第2段階はその更生品を売って循環の円滑化を図ることである。

40年前に始まったこのデゼレト産業の現状に皆さんは興味をお持ちであろう。1978年3月1日現在、デゼレト産業の店と付属工場は22あり、1,700名の障害者が働いている。そして、総売上げの約6割が従業員の給与にあてられている。現在はユタ州、アイダホ州、アリゾナ州、カリフォルニア州にユニットがあり、近々オレゴン、コロラド、ネバダの各州に開店する予定である。

きょう、デゼレト産業についてお話を目的はふたつある。ひとつは、デゼレト産業を訪れた人々は自分のワード部や支部の会員たちに、デゼレト産業へ物品を寄付するように、あるいは後援者になってこのプログラムを支援するように勧めてほしいということであり、もうひとつは、デゼレト産業を持たない地域の指導者たちはワード部や支部の実情を分析し、地域にデゼレト産業を設置する時期であるかどうかを検討してみしてほしいということである。もしその時期であると判断したら、神権の系統を通じてこの本部の福祉事業部に連絡していただきたい。

私たちは、会員数の問題から現時点ではこのプログラムを導入することが不可能な地域が多いことを承知している。しかしながら、完全なプログラムが可能になる以前から、ここで述べた原則を上手に工夫して人々に祝福

を及ぼすことはできないことではないと思う。

話を終える前に、あとひとつ御紹介したいことがある。それは、来る日も来る日も療養所でじっとすわって床ばかり見つめて暮らしていたひとりの年取った兄弟のことである。ある日、彼を愛していて、デゼルト産業のことも知っていたある人が、彼にデゼルト産業の仕事を紹介した。現場主任は彼に押しはうきを持たせて、一緒に廊下の端までそれを押し、次にホールを通過して反対側の端までほうきを押して、それから向きを変えてもう一度戻って来た。彼はこれだけの仕事を何度も繰り返した。

そうするうちに、彼は何かに関心を持ち始め、目を床から離すようになった。壁を見、窓を見るようになった。それが続くうちに、人間らしい感情が次第に豊かになり、ほどなくして別の仕事が割り当てられた。そして、彼はその仕事を立派になし遂げた。その結果、彼は自分に対する自信と価値観を取り戻し、他の人々の監督をできるまでになったのである。

主がこれらの特別な素晴らしい人々を祝福し、また私たちを指導者として祝福して下さい、この福祉活動プログラムを通じて彼らが祝福を得られるように、イエス・キリストのみ名によりお祈りする。アーメン。



タバナクルの開場を待つ聖徒たち

主の方法によって 情緒面の問題を 解決する

十二使徒評議員会会員
ボイド・K・バックナー



監督室に限らず、自分の家庭に、情緒面の自立のよりどころを持つ必要がある

教会の監督は、衣食住の問題よりも、情緒面の問題で教会員にカウンセリングを行なうことが年々ふえてきている。

そこで私はきょう、情緒面の問題を主の方法によって解決するというテーマでお話したい。

幸いなことに、物的福祉の原則が情緒面の問題にも応用できる。

教会が設立された2年後に、主は次のような啓示を下された。「怠惰なる者は悔い改めて行いを改むるにあらざれば、教会の中にて地位を与えらるることなし。」(教義と聖約75:29)

「福祉の手引き」には次のように記されている。「能力の限り自立することを教会員に努めて教え、勧めるべきである。真実の末日聖徒は……自立の責任を自分から避けることはしない。全能者の靈感と自らの労働によって、できる限り生活必需品を自給するであろう。」

(1952年版 p. 2)

末日聖徒に、生活必需品の自給を図ることと、それができない人々のために福祉援助を手伝うことの必要性を教えることについては、かなりの成功をおさめている。

例えば自分自身で生計を維持できない教会員は、まず自分の家族に援助を求め、家族が援助できなければ、次に教会に求める。

しかし私たちは監督とステーク部長に、十分に注意を払って福祉プログラムの乱用は避けるよう勧告したい。

つまり、働く能力がありながら自立を図ろうとしない人々には、怠惰な者は働く者のパンを食してはならないという主のみ言葉を適用しなければならない。(教義と聖約42:42参照)

自立については単純なルールがあるが、次の格言はその見本とも言えるであろう。「食べ尽くし、使い古し、それで間に合わせよ。さもなくなしですませること。」

教会福祉プログラムが1936年に初めて発表された時、大管長会は次のように語った。

「私たちの第一の目的は、可能な限り、いまわしい怠惰や施しのもたらす悪弊を除去し、独立心、勤勉、儉約、自尊心を再び私たちの間に確立する体制を築くことである。教会の目的は、人々の自立を助けることにある。」
(Conference Report「大会報告」1936年10月、p. 3)

時折、福祉プログラムを見て、教会に心を引かれる人々がいる。彼らには、物質的な保証しか目に入らないのである。

彼らに対する私たちの返答はこうである。「はい、それでは教会にお入り下さい。私たちはできる限りの援助をします。それと同時に、あなたにもほかの人々への援助をお願いします。」

すると驚いたことに、バプテスマを受ける熱意がそれでさめてしまうことがある。

これは安易な施しの制度ではない。自立の制度である。外部から援助する前に、本人と家族の状況をすべて詳細に調べる必要がある。

教会福祉から受ける援助に対して精一杯労

働による返済をするよう教会員に求める監督は、不親切でも冷酷でもない。

また、教会から援助を受ける教会員は、もしも最善を尽くしているならば、後ろめたさを露ほども感じる必要はない。

ロムニー副管長は次のように強調している。「これ以外の体制によって世話することは、益よりもむしろ害の方が大きい。

自立を妨げることは教会福祉の目的ではない。」(Conference Report「大会報告」1974年10月 p. 166)

自立の原則は幸せな生活を送る基本となるものである。ところが私たちは、往々にしてこれを無視していることが多い。また私は、自立の原則が、霊的面、情緒面にもあてはまるということを申し上げたい。

私たちは1年分の食糧、衣料品、また可能であれば燃料をも、家庭に貯蔵するように教えられている。教会堂に貯蔵庫を作るように言われたことは一度もない。したがって、危急の時に教会に行っても物資は得られない。

その同じ原則を、靈感や啓示、問題の解決、助言や指導にあてはめられないであろうか。

私たちは監督室に限らず、自分の家庭に、そのよりどころを持つ必要がある。そうしなければ、教会があらゆる必需品を提供しなければならないのと同じように、今度は霊的にひっ迫してくる。

これを無視すると、これまで長年物質面で避けようとしてきた災いを、情緒面で(とりもなおさず霊的面で)引き起こしてしまう恐れがある。

ごく普通の風邪がどんな病気よりも人の体力を消耗させるのに似て、現在教会内に霊的な力を消耗させる「勧告病」が流行し始めているように思える。

これは大した病気ではないと考える人もいるだろう。ところが事は重大である。

私たちは監督に福祉援助の乱用を避けるように忠告しているが、監督の中には、教会員が自力で問題を解決すべきであることを見過

ごしにして、助言や忠告を次々に与える人がいる。

それが慢性病になることも多い。そうすると、際限なく助言を求めるが、受けた助言には従わないということが起こり得る。

ときどき、私は面接で次のように問う。

「あなたは助言を受けるために私の所へ来られたわけです。一緒に問題をよく検討した後、私の助言に従う気持ちがおありですか。」

相手は私のこの言葉に必ずと言ってよいほど驚く。そのように考えたことがなかったからである。それから、助言に従おうと決心するのが普通である。

そうした後は、彼らに自立の方法を教えることは容易である。またもっと大切なのがほかの人を助ける方法を教えることである。それが最高の治療法である。

比喩的になるが、大勢の監督が机の隅に、情緒面の救助を求める請願書の山を抱えている。

だれかが問題を持ってやって来ると、その監督は残念ながら何の質問もせず、自分がその教会員に何をしているのかじっくりと考えることもなしにそれを受け入れる。

私たちは、教会の中でカウンセリングを求める人々が大量にいる状態を非常に憂えている。教会員が次第に依頼心を増してきているからである。

私たちは、情緒面の独立と個人の自立の原則を同時に強調することなく、カウンセリングの網を張りめぐらしてはならない。

もしも情緒面の自立と霊的な自立ができなくなれば、物質的に依存しているのと同じく、いやそれ以上に弱くなってしまふ可能性がある。

また、注意していないと、個人の啓示を受ける力をも失ってしまうであろう。主がオリヴァ・カウドリに言われたことは、私たち全員にとっても意味が深い。

「見よ、汝はまだ悟らず。汝はひたすらわれに願ひし時はこれを与えらるるならんと思えり。

されど見よ、われ汝に告ぐ、汝心の中によ

く思い計り、その後願うこともし正しからば
汝願わざるべからず。願うこと正しからば、
その時われ汝の心を内に燃やさん。これによ
りて汝にその正しきを感じしむ。

されどもし願うところ正しからずば、かか
る感なくして汝の心は次第に鈍くなり、そは
ついに悪の悪たるを忘れしむるに至らん。故
にわが与うるにあらざれば、聖きことを汝録
すを得ず。」(教義と聖約9：7—9)

霊的な独立と自立は教会を支える力である。
それを奪われた教会員は、どうして自分で啓
示を受けることができるだろうか。祈りの答
えを得ることができるだろうか。確信を得る
ことができるだろうか。

助言を求めて来る人々に、まず自分自身と
家族で最善を尽くすように求める監督は、非
情な監督ではない。

監督の皆さん、あなたの机に積んである「情
緒の請願書」に気をつけなさい。個人の力を
分析しないでそれを受け取ってはならない。

問題の解決には正しい手順を踏むように教
会員に教えなさい。

ある人々は、友人や隣人に、あるいはいろ
いろな人に助言を求めて、自分で最適と考
える結論をそこから引き出している。しかしそ
れは誤りである。

ある人はまず心理学者か専門のカウンセラ
ー、あるいは、直接教会幹部の所へ行こうと
する。

そうすることが必要な問題もあるだろうが、
その前に自分自身で考え、次いで家族、さら
に地域の指導者に相談するようにすべきである。

こうして最善を尽くした後ならば、福祉援
助を受けるのを何もためらう必要のないこ
とはすでに述べた通りである。

この原則は情緒面の援助にも同様にあては
まる。

根の深い情緒問題で家族や監督やステー
キ部長の手にあまることもあると思われる。教
会はそのように深刻な問題を抱えた人のため
に、教会員の多い地域にカウンセリング機関

を設けてきた。(ただし、正規の系路を通じた
人のみを対象としている)

その中には、地域や州や国から認可を得る
必要のある事業も含まれる。それには次のも
のがある。

養子縁組

未婚の母の世話

里子の世話

インディアン学生里親プログラム

1977年7月に、大管長会は神権指導者に、
公的な認可を必要とする奉仕活動に関する注
意と指示の通達を出している。

ではここで、「疾病」に対する奉仕の原則を
振り返ってみたい。

「疾病」に対する奉仕活動は、(これも正規
の系路を通じてのみであるが) 次の3段階が
ある。

第1. 相談 神権指導者は末日聖徒社会福
祉機関の担当者に、深刻な問題を抱えた教会
員について相談する。普通は教会員と会うの
は神権指導者だけである。

第2. 評価 神権指導者と教会員は一緒に
末日聖徒社会福祉機関の担当者に会って問題
の評価を行なう。普通は1回である。その後
神権指導者がその教会員の援助を続ける。

困難な問題の場合に、治療を施す。教会員
は末日聖徒社会福祉機関の担当者と会ってカ
ウンセリングを受ける。できれば監督も立ち
会う。監督はそれ以後も援助を続ける。

監督とステーク部長は、地域内で問題を解
決することにより、自立の模範を示すことが
できる。しかし結局、問題を解決するのは教
会員自身である。

監督の皆さん、あなたは決して自分の責任
をほかの人に譲ってはならない。専門家にも、
また教会社会福祉機関の職員にさえも譲って
はならない。彼らは最初にあなたにそのこと
を告げるであろう。

あなたには、人を慰め、清め、いやす、他
の人々には与えられていない力がある。

時折、赦しを必要とする教会員がいる。そ

して、あなたにはそれを与える鍵がある。

専門家の助けが必要であると思われる場合にも、よく注意していただきたい。

カウンセリングの分野では、靈的に有害な技術が使われることがある。したがって、教会員をほかの人の手にゆだねる時には、それらの技術を使わせないようにしなければならない。問題は主の方法で解決していただきたい。

カウンセラーの中には、情緒的、靈的に健全であるのに、それを深く掘り下げようとするとする人々がある。話を引き出し、分析しようとするのである。浄化法（抑圧された感情をはき出させる精神療法）はある程度なら問題ないが、過度になると逆効果である。物事を元に収めることは、ばらばらにするようには簡単にゆかないものである。心の中に深く立ち入り、問題を徹底的に聞き出すようなことをすると、自分が避けようとしている事柄そのものに対して無感覚になってしまう傾向がある。

このように言う親がいるであろう。「では、みんな、パパとママが出かけている間、何をしてもいいけれど、椅子を持ってきて台所に行って2番目の棚のお菓子の箱を取って、豆の袋を開けて、豆粒を鼻に詰め込んだりはしないことよ。わかったわね。」

ここに教訓がある。

さて、監督がこう言うのももっともである。「一体どのようにすれば、監督の仕事をしなから、必要な人にカウンセリングができるだろうか。」

あるステーク部長が私にこう語った。「監督にはカウンセリングのできる時間がありません。荷を背負わせて、監督の首をしめているようなものです。」

これには幾らか真実の面もあろうが、むしろ自分で自分の首をしめていることの方が多いと思う。

監督の行なっていることを調べてみると、ほとんどの監督が直接プログラムの運営にあたり、もったいない時間の過ごし方をしている。

ワード部の監督は、すべてのプログラムに

口を出すようなことをせずに管理役員として振る舞えばもっと効果的な働きができるはずである。

監督は集会や教育活動その他、プログラムの運営に時間を使い過ぎている。

監督の皆さん、プログラムの運営は副監督や神権指導者、補助組織の指導者に任せていただきたい。例えば、雇用問題はホームティーチャーや定員会指導者で解決できる。

彼らを信頼し、任せていただきたい。そうすれば最も大切な事柄に時間を使えるようになる。本当に必要な人に、主の方法によってカウンセリングを行なうことが大切である。

最近地方のユニット宛にふたつの指示が出された。ひとつは、神権個人面接の数を3分の2少なくするという通知である。

またもうひとつは、管理集会を週ごと、月ごとから、月ごと、四半期ごとに変更するという通知である。

私たちは神権の糸路を通して求められる援助が途中で解決されるように願っている。

しかし、監督である皆さんには責任がある。あなたの仕事のうちの管理と教育面を能率化を図り、教会員にカウンセリングを行なう時間を生み出すようにしていただきたい。

監督の皆さん、家庭管理の責任は父親にあることを常に覚えていただきたい。

ときどき、全くの善意からなのであるが、子供にも父親にもあまりに多くを要求し過ぎて、それができないことがある。

監督の皆さん、もし自分の息子にカウンセリングが必要であれば、それが自分の第一の責任であり、ほかの人のことはその次である。

自分の息子にレクリエーションが必要であれば、まず自分の息子にその機会を与えること、人のことはその次である。また自分の息子に矯正が必要であれば、それが自分の第一の責任であり、人のことはその次である。自分が父親として失格であれば、自分をまず立て直すこと、子供のことはその次である。

わが子を教育するという仕事をあまりに早

く投げ出さないように。

子供の相談相手になってどんな問題でも解決することを、あまりに早くあきらめないように、真剣に取り組んでいただきたい。それはあなた自身の務めである。

私たちは、悪魔が人々に目先の満足を追い求めさせる時代に生きている。問題の安易な解決を初め、何でも簡単なことを求める風潮がある。何とかしていつでも安易に快適な生活を送りたいという思想を吹き込まれ、そうでないと不安になる人々がいる。だれもが安易にカウンセリングや精神分析や薬物に頼りすぎる。

人生は試しの期間である。不安も失意も落胆も失敗も、ある程度は正常である。

本当に苦しい日があっても、それがしばらく続いても、しっかり立ってそれを直視するように、教会員に教えていただきたい。そうすれば事は解決するであろう。

苦闘の人生には大きな目的がある。

「教訓」と題する次の詩には大きな意味がある。

悩み、憂うるわが子よ、
わたしはこの部屋を通して
あなたのところへすぐにも行ける。
わたしは歩く方法をもう知っている。
だから、おまえがわたしのところへ歩いてきてほしい。

さあ、おいで、ほら、わかるかい
ああ、覚えておくがいい、簡単な教訓だ、
わが子よ、いつの日か

おまえがこぶしを固め、叫ぶとき、
涙を流して

「おお、助けて下さい、神よ、……
どうか」と叫ぶとき、

聞かぬ方がいい、ほら、聞こえるだろう、
静かな声が。

「助けよう、子よ、助けよう。

しかし、
神性をめざして努める者はわたしではない、

それはあなた自身なのだ。」

(キャロル・リン・ピアソン “The Lesson”
『教訓』 *Beginnings* 「はじまり」 p. 18)

監督の皆さん、あなたのところへ来る人は皆神の子供である。彼らに主の方法によってカウンセリングを行なうようにしていただきたい。自分でよく考え、それから問題について祈るように教えていただきたい。

聖典を読むことには心を落ち着かせる効果があるということを知っていていただきたい。今度聖典を読む時に、状態がどれほど落ち着くか気をつけ、それによる平安を感じていただきたい。

では最後にモルモン経からの記録を見てみよう。予言者アルマは、監督である皆さんがその責任にあって経験する以上の大きな問題に直面していた。彼は皆さんと同じように確信が持てず、モーサヤのところへ行行った。

しかし、モーサヤは賢明にもその問題をアルマにつき返している。モルモン経には次のように記されている。

「……『われはこれを裁判しない、汝の手にわたして裁判をさせる』と言ったので、

アルマは再びその心を苦しめ、この事件をさばく時に神の御前に過ちを犯すことを恐れて、神の御前に行ってこの事件を処理する方法を神に伺った。

アルマはその全身全霊をかたむけて神に乞いねがったので、主の御声が聞えてアルマに言いたもうた。」(モーサヤ26:12—14)

監督の皆さん、主はあなたにもみ声をかけて下さる。それを聴く特権があなたにあるからである。私はそのことを証する。なぜなら、私は主が生きておられることを知っているからである。イスラエルの判士として靈感を受ける監督の皆さんと、皆さんのところへ来る人々を神が祝福したもうて、主の方法にかなったカウンセリングができるように。

イエス・キリストのみ名により申し上げる。
アーメン

私たちは 主の管理人

第一副管長

N・エルドン・タナー



管理の職の原則に従う時、最良の成果が
得られます

愛する兄弟姉妹、この集会は非常に有益で、主のみたまが私たちと共にあります。キンボール大管長のお陰で私の証が強められ、神の王国を建設するためにさらに努力し、働こうという決意を新たにすることを、大管長に知っていただきたいと思います。

私は、何人の人が、またどのような人が出席しておられるか、この会に出席するたびにいつも知りたいと思います。初めてここに出席された監督は、どうかお立ち下さい。ありがとうございます。では、初めて出席されたワード部扶助協会会長はお立ち下さい。ありがとうございます。同じく初めて出席されたステーキ部扶助協会会長はお立ち下さい。ありがとうございます。次に、初めて出席されたステーキ部長はお立ち下さい。ありがとうございます。キンボール大管長、御覧のように新しい方々が大勢出席しておられます。ですから、これらの方々が自分の務めを知る

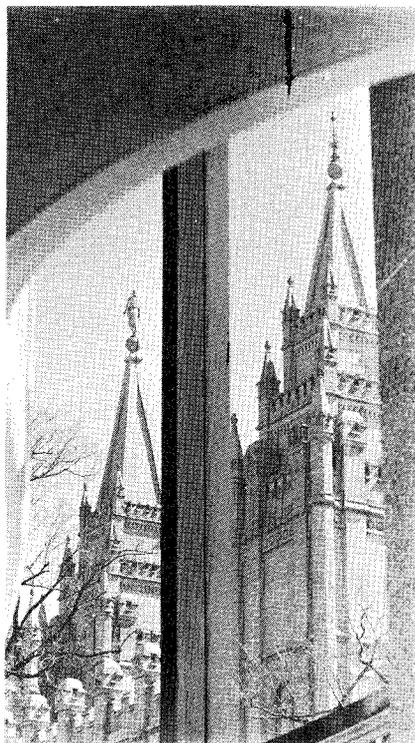
ことができるように、半年ごとにこのような集会を開くことが大切だと思います。

今朝、私たちはこのみ業を推し進めて行くために必要な心構えを学びました。何を、どのようにすべきかを教えられました。今私は、この会を終えた後も主のみたまが私たちと共にあって、私たちが教えられた通りのことを行ない、そのことによって主から喜んでいただけるようにと願い、祈っています。

この教会がイエス・キリストの教会であることを皆さんに証したいと思います。もう一度申し上げます。この教会はイエス・キリストの教会です。これは主の御計画であり、皆さんは主の管理人です。私たちは主の管理人であり、管理人としての責任を主に負っています。

私はブリガム・ヤング大学のモンテ・L・ビーン生命科学博物館の開館式に出席しましたが、その時、ビーン兄弟は次のように述べました。「私たちの所有するものはすべて主のものであります。私たちは主の管理人であって、主が私に望まれること、あるいは教会の指導者が私に望むことは何であっても、私にはそれを捧げる用意があります。」自分の管理すべきもの、自分の所有物のすべてが主のものであることを知ったならば、私たちは何という立派な精神を持つようになることでしょう。私たちにはそれを主のみこころに従って管理する責任があるのです。

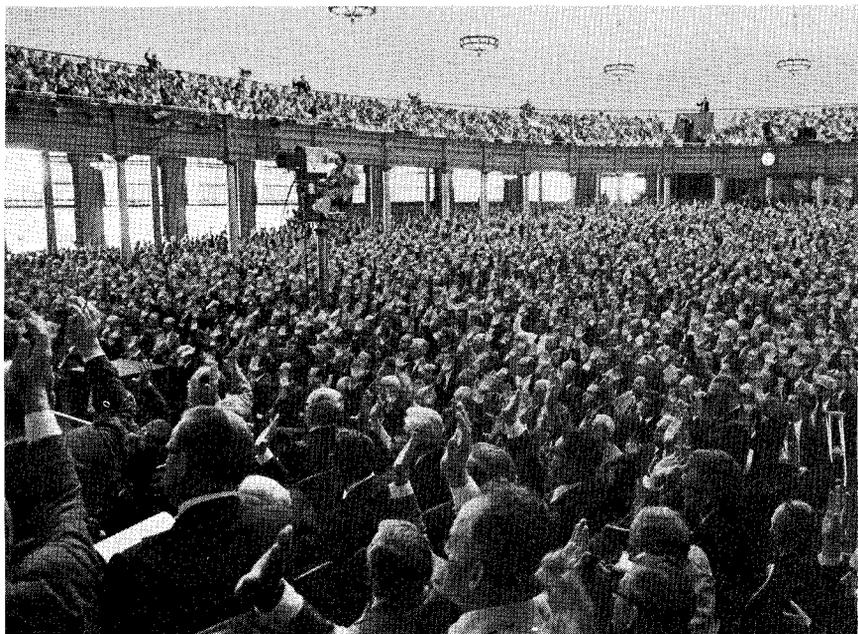
管理の職の原則に従う時に、最良の成果が得られます。これは過去、現在、未来、いつの時代にも必ずそうです。キンボール大管長が前回の福祉部会で次のように言われたことの真意はそれであると思います。「兄弟姉妹の皆様、……この偉大な業を推進するよう私は切にお勧めしたい。現状は私たちにとっても主にとっても満足すべきものではないということを、全体として、また個人として認識するかどうかが、私たちの今後を大きく左右する。」(『福祉活動：福音の実践』「聖徒の道」1978年2月号、p.120)



兄弟姉妹、私たちがこの大いなる福祉活動で主を代表し、このように行なえるようへりくだってお祈りします。私は、これが主のみ業であることを皆さんに証します。このみ業を推し進めるのは私たちの責任です。私たちは自分の義務をどのように果たしているかに従って祝福されるのです。義務を立派に果たせるように、イエス・キリストのみ名により、謹んでお祈りします。アーメン。

◀タバナクルから眺めたソルトレーク神殿

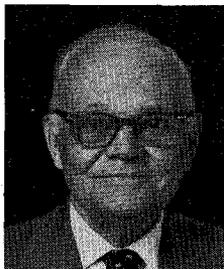
▼大会の光景



愛の尊い律法

第二副管長

マリオン・G・ロムニー



私たちは全体として、また個人として、貧しい人、乏しい人、飢えた人、病人、着る物のない人、獄にいる人をどれだけ世話しているのだろうか

兄 弟姉妹の皆さん、私にとってこの会は非常に有益であった。これに勝る福祉部会を私は思い出せない。私は中央福祉活動委員会と管理監督会、教会福祉部による福祉活動の働きを心から感謝している。

時間の関係上、用意した話から一部だけをお話することにする。しかし、きょうここで今までに話されたことを実践するならば、それだけでも十分であると思う。そのことを考えると、今朝ここで過ごした時間は非常に価値がある。

さて、私は「尊い律法」というテーマで話を準備してきた。使徒ヤコブはそれについて次のように述べている。「もしあなたがたが、『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』という聖書の言葉に従って、このきわめて尊い律法を守るならば、それは良いことである。」(ヤコブ2:8) 私たちはこの律法を心に留めてすべての福祉活動を行わなければ

ならない。自分を愛するように隣人を愛さなければならない。救い主はこの律法を、神を愛することのすぐ次に置かれた。

「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。……

自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。」(マタイ22:37, 39)

私たちが断食献金を納める時も、この尊い律法を念頭に置いてそれを行なうべきである。主のみもとへ来て次のように言う人々のことについてイザヤは、どのように言ったか、御存じであろう。

「われわれが断食したのに、なぜ、ごらんにならないのか。」

それに対して主は、私が命じた断食を守らないからであると答えたもうた。あなたはこうべを葦のように伏せ、荒布と灰とをその下に敷くが、飢えた者にあなたのパンを分け与えず、貧しい者をあなたの家に入れず、裸の者に着せない。あなたが叫ぶとき、「わたしはここにおる」と言う。主はこのように言われた。(イザヤ58:3-9参照)

貧しい人や障害のある人、私たちの援助が必要な人を世話することは、自分を愛するように隣人を愛するという尊い律法を成就するための絶対条件であり、大きな目的である。祈りについてのアミュレクは力強い説教を御存じであろう。アミュレクは其中で、祈るように、しかも朝に夕に昼に祈るように告げ、またどこでどのように何を祈るべきかについても民に教えた。彼は具体的にそれを語ったあとで、こう言っている。「たとえこれらのことをみな行っても、もしも貧しい者や着る物のない者の願いをことわり、病んでいる者、あるいは悩んでいる者を見舞わず、持物があがりながらその幾分を貧しい者に施さないならば、あなたたちの祈りは空しくなってその効果はなく、またあなたたちは神の言葉を否定する偽善者のようになるであろう。」(アルマ34:17-28参照)

私は、「自分を愛するようにあなたの隣り人

を愛せよ」という尊い律法に対する私たちの理解が現在深まりつつあると思う。イエスがこの世の務めを終える前に使徒たちに次のように告げられたことは御存じであろう。

「人の子が栄光の中にすべての御使たちを従えて来るとき、彼はその栄光の座につくであろう。

そして、すべての国民をその前に集めて、羊飼いが羊とやぎとを分けるように、彼らをより分け、

羊を右に、やぎを左におくであろう。

そのとき、王は右にいる人々に言うであろう、『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。

あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、

裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである。』

そのとき、正しい者たちは答えて言うであろう、『主よ、いつ、わたしたちは、あなたが空腹であるのを見て食物をめぐみ、かわいているのを見て飲ませましたか。

いつあなたが旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せましたか。

また、いつあなたが病気をし、獄にいるのを見て、あなたの所に参りましたか。』

すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。』(マタイ 25:31-40)

私はこの福音が真実であることを知っている。福音が真実であることに、私は一点の疑いも持っていない。福音の原則を疑問に感じたことは一度もない。1930年代に示された福祉プログラムが主の靈感によるものであったことを、私は知っている。主はgrant大管長に靈感を与え、J・ルーベン・クラーク・ジュニアという立派な副管長とその他の人々

を助け手として、このプログラムに着手させたもうた。そして今私たちは、そのプログラムに従い、自分を愛するように隣りを愛する精神をもって主の王国を見守る義務を負っているのである。

そのように行なうならば、私たちは予想以上に早く訪れる試練の時代にも、しっかり耐え抜くことができるであろう。この世の民は将来、苦境と苦悩に直面し、主のプログラムに立ち返る以外に問題解決の道を見いだせなくなる時を迎えるであろう。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



十二使徒評議員会会員
トーマス・S・モンソン

これは、3月31日、教会本部ビルで行なわれた地区代表セミナーで、キンボール大管長が語った説教を編集したものである。

家庭で福音を実践する

大管長
スペンサー・W・キンボール



「私たちの成功は、個人的にも教会全体としても、家庭で福音を実践することにどの程度忠実に取り組んでいるかによって決まる」

愛 する兄弟の皆さん、私は、新しい地区代表の名前が発表されたことと共に、世界各地に多くの立派な兄弟たちがいるのを知って心からうれしく思う。兄弟たちがこの職にあって主に仕えることを快く引き受けて下さり、感謝に堪えない。

政治に関する事柄

最初に、教会員は政治に関する事柄にどの程度関与したらよいかについて少し申し上げたい。

この問題について話さなければならない程差し迫った事態に直面しているわけではないが、地区代表、大管長会、十二使徒として、

教会また教会員が政治にどのような態度を取るべきかについて共に話し合いたいと思う。1968年9月、大管長会は教会員に「地域社会の一員として、また一国民としての自覚を持つよう」強調し、次のような勧告を発している。

「教会が世界的な規模に発展しその責任が大きくなるにつれて、教会が教会員の住む様々な地域社会の数多くの問題を含んだ多種複雑な事柄すべてに、適切な指示を与えようとすることは得策ではなくなった。かと言って、教会員各個人が地域社会における公民としての責任を果たさなくてよいというわけではない。

私たちは教会員に、地域社会を取り巻く様々な問題の解決策を見いだすに当たって、公民としての自らの義務を果たし、責任を引き受けるよう強く勧めるものである。

私たちの使命が拡大するにつれ、教会員は、実際的な問題を無視できなくなってきた。靈性を育むことのできる環境に住むにはそれらを解決しなければならないのである。

これらの実際的な問題を解決するには、私たちと信仰を異にする人々とも協力する必要がある。教会の標準にかなっている事柄に対しては、協力し、率先して取り組み、献身するのを怠らないようにすべきである。

もちろん教会員個人が、教会を代表することはない。しかし、イエス・キリストの福音の原則を指針として、努めて善き業に従うべきである。(教義と聖約58：27参照)

大管長会と十二使徒評議員会は、1968年のこの重要な声明を再び繰り返したいと思う。この声明は賢明な指針であると思う。教会員はこれに従って、公民としての義務を果たしていただきたい。末日聖徒イエス・キリスト教会は、教会としての公式の立場を表明しなければならない事柄以外、組織としてその立場を言明することはしない。

このようにしなければ、教会は数々の問題に縛られて身動きできなくなってしまう、主

の回復された福音を世の人々に教えるという教会の本来の使命を果たせなくなってしまうことだろう。

教会員が自らの責任を自覚し、賢明に行動して下さるよう心から願っている。

地区代表の皆さんにお願いしたい。教会員が一公民として対応するのがふさわしい事柄を教会にすべて委ねることのないよう、担当地区のステーキ部長とその他の指導者に指示していただきたい。また、神権指導者と会員に、個々の問題について教会の立場を表明するよう求める依頼に教会が応じない理由を説明していただきたい。話題になっている問題は非常に価値のあるものであるかもしれない。しかし、すでに述べた理由により、教会員が一公民として関与することは大切であるが、教会が組織として働きかけることはしない。

大会

私たちは、主を礼拝し、キリストのみ言葉にあずかり、信仰と証を強めるために、たびたび大会を開いている。そのような大会として、ワード部大会、ステーキ部大会、地域大会、総大会がある。

ここ数年、私たちが催した大会で最も靈感あふれる大会として心に残っているものの中に、合衆国外で開かれた地域大会がある。したがって私たちは、1979年から合衆国内でも数カ所で地域大会を開くことを計画している。それによって、もっと多くの教会員が教会幹部に会い、話を聴けるようになることだろう。十二使徒評議員会から2名と、その他に何人かの幹部がそれぞれの大会に出席する予定である。

また私たちは、教会員の時間、交通手段、費用といった負担を軽減するために、1979年から、各ステーキ部で開かれるステーキ部大会を年2回の開催とすることに決定した。このうち1回は教会幹部が出席し、もう1回は地区代表が出席する。これにより、ステーキ部長やその他の地元の指導者は時間の余裕が

でき、聖徒を全き者とする業を今以上に推し進めることができるものと思う。

簡易化

兄弟姉妹、「簡易化」を怠惰のスローガン、あるいは怠惰を助長するものとしないうでいただきたい。私たちが望んでいるのは、教会員のためのプログラムを行なうことであって、プログラムに教会員が振り回されることではない。また神権指導者は、教会員に何が必要かを、祈りの気持ちを持ってよく考え、彼らの基本的な必要を満たすように努めていただきたい。教会のプログラムは、そのための大きな力となるであろう。特に、地元の実情をよく把握する神権指導者は、どうすればそれを最もよく適用できるかを知ることができるであろう。中央管理会や中央委員会に求めても、教会員に何が期待されているかを知ることにはできない。これらの管理会や委員会が各地に直接プログラムを浸透させるという時代はすでに過ぎ去ったのである。

教会には、中央の指導者と地元の指導者を結ぶ組織系統は幾つもない。基本となる組織の系路がただひとつあるだけである。それは神権の系路であり、大管長会と十二使徒会から始まって、ゾーンアドバイザー、地域担当教会幹部、地区代表、ステーク部長、監督へと通じる。本部の各組織は神権の系路上にある人々をできる限り支援し、援助を与えるが、しかし神権の系路上にある皆さんにはこれまで以上の責任を引き受けよう願ひしなければならぬ。というのは、このような簡易化を図ることによって、特定の人々にさらに負担が掛かるようになると思われるからである。

監督は、各組織の予算以上にワード部運営基金から出費しないよう注意を払っていただきたい。同様に、監督は、教会の活動に費やす時間についてもよく調整を図る責任がある。いずれの場合も、常にバランスのとれた計画を立てるようにしなければならない。

地域の実情に応じた教会活動が行なえることで、皆さんは時間をさらに有効に使って聖徒たちのために働くことができるようになる。努めて従うことと、どうでもよい仕事で忙しいこととは違う。基礎的なものを推し進めることと、「乳」が必要な教会員に「肉」を押し付けることとは違う。

教会は教会員に対して、昇栄の備えができるよう、数々の原則とプログラムと神権を提供する責任を負っている。私たちの成功は、個人的にも教会全体としても、家庭で福音を実践することによつて決まるのである。私たちは、自らの責任と、家庭と家族の役割をはっきりと認識する時、神権定員会と補助組織、ひいてはワード部とステーク部の存在する目的が、家庭で福音を実践できるように教会員を助けることであるということが分かるであろう。大切なのはプログラムではなく人であること、そして教会のプログラムは常に家族を援助するものであって、福音を中心とした家族の活動を妨げるものでは決してないことが分かるであろう。

教会員は個人と家族の備えをして、自分の家族や他の人々を主の方法によって物質的にも霊的にも助け、強められるようにしなければならない。また、自分だけでなく亡き親族も神殿の祝福が受けられるよう準備しなければならない。さらに、人々に福音を伝えることが必要である。そのためには、模範を示す、友達になる、証を述べる、伝道に出る、息子に伝道の備えをさせる、宣教師に経済的な援助を与えるなど、いろいろなことができる。また、教会員はそれぞれ才能を伸ばし、良い文学に親しみ、優れた文化を学び、地域社会や国の行事を知って、ふさわしいものに参加する必要がある。

これらのことはすべて、立派な家庭環境があつてこそ最もよく達成できることが分かるだろう。定員会指導者は次のように自問していただきたい。定員会会員が最も大切な神権

の召し、すなわち家庭における夫および父親としての責任を全力を尽くして遂行できるように助けるにはどのようにすればよいだろうか。神権者が愛と思いやりのある雰囲気の下で、妻を敬い、妻の相談相手となって彼女が伴侶としての役割をよく果たせるよう助けるために、どのような援助ができるだろうか。また監督やステークホルダーも、定員会指導者と共に、両親が子供たちと一緒に聖典を学び、定期的に行なう有意義な家庭の夕べから十分な祝福を受けられるようにするためにはどのような助けを与えればよいか、考える必要がある。

扶助協会指導者と教師は次のことを自問していただきたい。妻であり母親である姉妹に、母親の務めが神聖で価値のあることを理解させるにはどうすればよいだろうか。家庭を愛と学びの場、安住と向上の場とさせるには、どのようにすればよいだろうか。また、夫がいつも家庭にいない女性や、夫に先立たれた女性が一家の導き手としての役割を果たせるようにするには、どのようにすればよいだろうか。

補助組織の青少年担当指導者と教師はこう自問していただきたい。両親を愛し、両親の言葉に従い、家族の責任を助ける青少年を育てるためには、どのような援助をしたらよいだろうか。家族の絆を強め、責任を果たすのに支障をきたすことなく、また、家族の活動を行なう時間の余裕を残しながら集会や活動を計画するにはどのようにすればよいだろうか。

神権プログラムも補助組織のプログラムもすべて、家庭で福音を実践することをはっきりと打ち出し、家族と家庭に焦点を当てないような活動は控えていただきたい。

現在、ひとり暮らしの教会員や、福音の原則を十分に理解していない家族と生活を共にしている教会員が多い。そのような人は、家庭の夕べグループに所属したり、独身成人活動に参加したりして、家庭の意義を学ぶようにしていただきたい。また、絶えず両親や兄

弟姉妹、その他の親族との絆を強めるよう努力していただきたい。

地元の教会指導者の配慮によって家族が一緒に過ごせる時間ができたならば、両親にも子供たちにも「家庭に帰るように」と、私たちは呼びかけたい。親はクラブの集いやボウリング、球戯場、宴会、つき合いなどに当てる時間を最小限にし、子供たちと多くの時間を過ごすようにすべきである。また若い男性、女性は、学校やその他の活動に当てる時間と、家族の活動に当てる時間のバランスをとらなければならない。

家族全員が、家庭をかけがえのない所、会話と学習の場、互いに愛とよりどころと感謝と励ましを見いだせる所とするために、協力しなければならない。

繰り返し申し上げたい。私たちの成功は、個人的にも教会全体としても、家庭で福音を実践することにどの程度忠実に取り組んでいるかによって決まる。

系図

福音を実践する上で大切なひとつの事柄は、系図と神殿活動に取り組むことである。霊界には、私たちが熱心に働くのを待ちかねている男女の霊が大勢いるということを、私たちはよく知っている。これは主が私たちに課せられた重大かつ避けることのできない責任である。万一これを怠れば、罪ありとされるであろう。

私たちは系図部に、系図の手続きを簡易化しよう要請した。その結果、人名抄出プログラムが発案された。私たちはそれを慎重に検討した後、それを承認した。教会員は、地元の機関でマイクロフィルムから人名を抄出する系図プログラムに、2マイル行く精神で取り組んでいただきたい。このプログラムは、神殿の業を進めるのに、また死者のための儀式を早く行なうのに大きな力となるであろう。

私たちはこれによって、教会員が系図と神殿活動に対する責任をさらによく果たせるも

のと確信している。

伝道

私たちは、時の初めから伝道活動に携わってきた大勢の宣教師に、心から感謝の意を表したい。これらの人々は約6千年にわたって福音を伝えてきた。今日まで宣教師は同僚と共に延べ50万年伝道してきたことになる。この間に様々なことが起きている。アダムとイヴがエデンの園に住み、カインが弟アベルの命を奪い、ノアが洪水から家族を守り、文明がミシシッピーからアララテ山に移った。また、アブラハムがエジプト人に天文学を教え、モーセがイスラエルの民を導いて紅海を渡った。リーハイが家族を約束の地に導き、コロンブスがアメリカ大陸を発見した。そしてアメリカ独立戦争が起り、自由が与えられた。さらに、予言者ジョセフ・スミスが福音を回復した。その福音を携えた宣教師たちは大勢の人々を教会に導き、かつて、10万人のスカンジナビア人、ブリトン人、ドイツ人が286せきの船でシオンに向かった。彼らは大西洋を渡ってミシシッピー川の河口に到着し、さらにその川を上ってセントジョセフに出た。そこから荷車、後に汽車を使ってシオンにやってきた。また、現在宣教師は、毎年16万ないし17万人の人々にバプテスマを施している。このように教会の発展には目を見張るものがある。6人から始まった教会が、現在会員数400万にまで成長している。宣教師ひとり当たりの1年間の費用がおよそ1,872ドルとすると、現在彼らは5,000万ドルを費やして奉仕をしていることになる。このほかにも伝道活動を行なうのに諸経費がかかっている。私たちは彼らのこのような働きを誇りに感じている。合衆国以外の国からも4,000名近い若者が伝道の召しに応えている。

私たちは主の靈感によって語る事ができるように、幅広くかつ深い知識を得るよう常に努めなければならない。主は予言者ジョセフ・スミスを通して、福音を宣べ伝える責任

が私たちにあると告げておられるからである。

主は言われた。「わが言^{ことば}を宣べんと求むることなかれ。然らずしてまずわが言を得んことを求めよ。然る後、汝の舌ゆるまり、それより汝願わばわれわが『みたま』とわが言とを与えん。すなわち人々を説得する神の能力^{ちから}を与うべし。」(教義と聖約11:21)

したがって、私たちは福音を宣べ伝える国の民の言葉で福音を学ぶようにしている。

現在外国語を話す宣教師の大多数は、そのために熱心に勉強している。

「その日、イエス・キリストを啓示するために彼らの上に注がる『慰め主』の施したもうによりてこの能力を授けられた者たちの口より、あらゆる人々は己が国語と己が言葉にて完全なる福音を聞かん。」(教義と聖約90:11)

「誠に主の声はすべての人々に及ぶものなれば、一人ものがる者なし。目として見ざるはなく、耳として聞かざるはなく、心として刺し貫かれざるはなし。……

その時主の腕^{かみ}現われて、主の声もまた主の僕らの声も聞かんとせず、予言者にして使徒なる者たちの言にも耳傾けんとせざる者のその民の中より絶たるべき日来るなり。……

されどこは、あらゆる人々主なる神すなわち世の救い主の名によりて語らんため……」(教義と聖約1:2, 14, 20)

王や統治者、有力者、要人と言えども、この福音に聞き従うことを免れ得ないということに注意していただきたい。私たちはそのような人にも福音を宣べ伝えている。また、彼らへの伝道には特に力を注いでいる。

「目覚めよ、世の王たちよ。来れ、来れ。須らく汝らの金と銀とを持ちてわが民を助けに來れ。シオンの娘の家に來れ。」(教義と聖約124:11)

もし200万の家族とその子供たちが毎日朝晩心を合わせて祈るならば、祈りにいつも耳を傾けておられる主は、その祈りに必ずや応えて下さるであろう。私たちは、世界の国々の指導者が心を和らげ、宣教師を受け入れて、

平安と愛と喜びと主を知る知識がその国民に与えられるよう、国々のために祈っている。

私たちは現在デビッド・M・ケネディー長老に、新しい伝道部を開設する準備をする特別顧問として働いていただいている。ケネディー長老は、合衆国の閣僚その他の経歴があることで世界各国に知人がいる。そのため、この責任はまことにふさわしいと思う。私たちは、国際伝道部部長のジェームズ・E・ファウスト長老の助けをも得て、国々の門戸を開きたいと望んでいる。

王や国の指導者の方々に、門を開いて下さるようにと申し上げたい。私たちの宣教師は、あなたの国に祝福をもたらす力強い大使である。彼らはあなたの国に平安と喜び、幸福をもたらし、人々の心を満たすことだろう。それゆえ、門を開いていただきたい。

「かくの如くして、福音は最初より説き始められて、神の御前より遣わされし聖き天使たちにより、神自らの声により、また聖霊の賜によりて宣べられたり。

かくの如くして、一つの聖き儀式により、説かれたる福音により、またその福音のこの世の終りまで世にあるべしと宣べられたる神の御旨によりて、よろずの物すべてアダムに授けられたり。されば誠に伴くばの如くなりき。アーメン。」(モーセ5：58—59)

25,000人を越える宣教師たちは、伝道活動を始めると間もなく、福音が自分たちの証によって伝えられることを知る。このことについて主は教義と聖約62：3で、次のように説明している。

「さりながら汝らは幸福なり。汝らの為したる証は、天使らの見るために天に録されたればなり。天使らは汝らに就きて悦び汝らの罪赦さる。」

最近私のところに、ある姉妹からかなりの額の小切手が届いた。その姉妹には息子がいて、伝道資金をこつこつ貯蓄していた。ところが彼は高速道路で事故に遭い、他界してしまったのである。

「私には、息子が伝道のためにこつこつ貯蓄したこのお金を使う権利はないと思います。息子と主人が亡くなってから3年になります。当時息子は17歳でした。本当に恐ろしい事故でした。……鹿狩りに行く途中、大型タンクローリーが猛スピードで突っ込んできて、ふたりの乗った車に激突したのです……。」

これこそ、私欲のない、愛の模範である。同じように、1830年以来現在まで約25万人の宣教師が、私欲を捨てて自らの時間を伝道活動に捧げて来た。

私はまた、教会員に感謝している。数多くの責任以外に、伝道の歩みを速めるという要請にも快く応じて下さったことを心から感謝申し上げたい。現在、教会には156の伝道部がある。これはかつてない数字である。私たちが皆さんの働きに心から感謝していることを知っていただきたいと思う。この世におけるみ業は今や驚くべき勢いで進んでいる。その勢いを保ち、さらに拍車をかけていただきたい。

現在19歳で、伝道に出られる年齢の少年が38,000名いる。しかし実際には一部の人しか伝道に出ていない。また、準備をすれば3年以内に伝道に出られる祭司が114,000名、さらに、現在14、15歳で、4、5年のうちに伝道に出る準備をしている教師が83,000名、6、7年後に宣教師となるために貯蓄している12、13歳の執事が78,000名いる。

前にも引用したことがあるが、祝福師のサミュエル・クラリッジ兄弟から受けた私の祝福を一部紹介したいと思う。

「あなたは多くの民に、特にレーマン人に福音を宣べ伝えるであろう。主はあなたに言語の賜と、その民に福音の原則をごくわかりやすく説く力を授けて下さるであろう。あなたはいつの日か彼らが組織立てられ、この民を囲むとりでとして立つのを目にするであろう。また、神のみ使いがあなたを囲み、苦しい試練の場に立たされた時に、何をすべきかを教えてくれるであろう。また、敵の怒りが

この民に向けられる時が来るであろうが、あなたは他の人々と共にそれに立ち向かい、敵の中に混乱と災いをもたらす力を得るであろう。スペンサー兄弟、私はあなたに告げる。あなたは若い時から成功し、襲いかかるあらゆる罪と誘惑から守られ、あなたの天父のみまえに手が清く、心のいさぎよい者として立つことだろう。」

私はこのことについて、レーマン人のプログラムに深い関心を寄せているボイド・K・パッカー長老と話合った時、教会には50万近いレーマン人がいることを知った。アメリカに316,000人、それに海の島々に94,000人いる。これを聞いた時に、み業が進んでいるのを知り本当にうれしく思った。

大勢の会員からクリスマスカードと写真をいただいた。その写真を見ればおわかりになるが、宣教師の中にレーマン人が非常に多い。立派な若い男女が大勢いる。伝道部から写真を添付したカードをたくさんいただいたが、それにはどれもレーマン人の宣教師が写っている。すべての写真にである。ここにその幾つかがあるので御覧いただきたい。私はレーマン人の宣教師がごく少数であった頃のことを思い出す。レーマン人の宣教師は5本の指で数えられる程度しかいなかったし、レーマン人の会員も極めて少なかった。

しかし、世の中が変わり、状態も変わった。主は今やこのみ業を祝福しておられる。主に不可能なことがあるだろうか。皆さんは、年老いたアブラハムとサラが、子供に恵まれ、彼らの子孫が海の真砂のように増すであろうという約束を受けた時のことを覚えておいでだろう。やがてこれらの民がすべて教会の管理下に導かれ、私たちがそのことで大きな喜びを得る時が来ることだろう。

私たちは今年、現在の少ない宣教師によって、通常の状態では167,939名にバプテスマを施した。宣教師の数が倍になれば、改宗者も当然増えるであろう。そのほかに、主は伝道活動をさらに成功させるために様々な方法を

用意して下さるであろう。

私は、このみ業が勢いを増して進んでいること、そして多くの働き手がいれば多くの国々でみ業の進むことを確信している。ウィルフォード・ウッドラフ大管長はかつて次のように語った。「この教会は南北アメリカに満ち、さらに世界に満ちるであろう。」(*The Discourses of Wilford Woodruff* 「ウィルフォード・ウッドラフ説教集」 pp. 144—45 参照)

また、ブリガム・ヤング大管長はこう述べた。「シオンはやがて全地に及ぶであろう。そして、地上でシオンの中に含まれない所は一角もないであろう。」(*Discourses of Brigham Young* 「ブリガム・ヤング説教集」 p. 120)

兄弟の皆さん、私はこの世で皆さんと共にこの大なる目的の達成に努めることができ、喜びに堪えない。また、いつも変わることなく主に仕えてくれる副管長と十二使徒評議員会の兄弟たちに感謝申し上げます。私たちは毎週神殿で集会を開いている。神殿で主のみ業に携わる時、私たちは真剣である。私たちは、世の人々に福音を伝え、教化し、教える新しい方法と手段を見いだそうと常に努めている。

ここで、福音に対する証を述べさせていただきたい。私は主がこのみ業の発展を望んでおられることを知っている。私たちもそれを望んでいる。私たちはみ業の発展に努めている。しかも、かつて一度も行なったことのない方法でそれを行なおうとしている。兄弟姉妹が手がけようとしている方法に主の祝福があるように。近い将来皆さんが携わることになるみ業に対して、よく準備ができるように。皆さんに神の祝福と平安があるように。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

☆ ☆

新しい教会幹部の紹介

七十人第一定員会会員

ロナルド・E・
ポールマン

「主人は福音の教義クラスの素晴らしい教師です。毎週日曜日にレッスンを教えられなくなったら、何人もの人がきつとがっかりすると思いますわ」と、クレア・ポールマン姉妹は冗談半分に語る。

このたび七十人第一定員会会員に支持されたロナルド・E・ポールマン長老は、教会で様々な職を歴任してきた。副監督を1年、高等評議員を1年、監督を2年、副ステークス長を7年、さらに8年間にわたって日曜学校教師を務めてきた。

「私は教えることが大好きです。特に聖典を使って教えることが好きです。福音の教義クラスは、教会の奉仕の場として理想的です」と熱っぽく語る。

ポールマン長老は、カリフォルニアのコンソリデイトッド・フライトウェイ社で副社長兼秘書の職にあった。日曜学校教師の責任を楽しんでいたポールマン長老の会社に、突然電話がかかってきた。

「仕事で交流のあったN・エルドン・タナー副管長からの電話で、キンボール大管長が私と個人的にお会いしたいということでした。2、3日中の私の予定を尋ねられたので、私は『キンボール大管長のためでしたら、いくらでも都合つけます』と答えました。」

キンボール大管長から面接を受けた後、というより親しく語り合った後、タナー副管長が入って来て、カリフォルニアにいる夫人に

電話して、この召しに対する考えをうかがうようにと勧めた。キンボール大管長もそうするのが一番いいことだと言われ、「私の電話を使って下さい。私たちは席をはずしますから」と言って外に出た。

「私は家に電話をかけ、妻と数分話しました。電話の途中でドアが静かに開き、キンボール大管長が顔を出されてこう言うのです。『ロン、ごゆっくりどうぞ。私たちのことは気にさせないように。私たちは外で待っていますから。』そして静かにドアが締められました。私はこのような心遣いに深く感動しました。大管長の物腰はおだやかで、やさしく、思いやりにあふれていました。」

ポールマン姉妹はこれをどう受け止めたのだろうか。「まごついてしまいました。」しかし、10年間癌と闘った経験をもつポールマン姉妹は、主を信頼することの意味を知っている。現在ふたりには4人の子供と3人の孫がいる。

ポールマン長老は1955年にユタ大学法学部を卒業後、1965年にハーバード大学大学院の商業管理科を卒業した。

ポールマン長老は、夫人と共に、地域社会の行事に活発に参加している。サンフランシスコ・シンフォニー協会、カルフォルニアの国民クラブ、世界貿易クラブの会員であり、全国有価証券業者協会仲裁会議の一員でもある。

ポールマン姉妹はBYUを卒業後、スタンフォード研究所のコンサルタントを務め、5年間サンタクララ郡の「病気回復」運動のリーダーとして働いた。また、過去10年間、癌患者の良きカウンセラーであった。

1929年5月10日生まれの活発な教会員であるポールマン長老は、伝道に出ることを心か

七十人第一定員会会員

デリック・A・ カスバート



ポールマン長老ご夫妻

ら願い、オランダ伝道部に召された時に喜んでその召しに従った。しかし当時の彼の証は、福音に対するより、教会員から得た証の方が強かった。これがある日曜日まで続いた。その日彼は病気で、同僚が大会に出かけている間ずっと床についていたという。

「その日、朝早くからある思いが心の中で次第に強くなるのを感じました。私が悩んでいるあらゆる事柄を解決する鍵は、イエス・キリストが神の御子かどうかということにあるという思いでした。私は新約聖書を読み、ときどき、ベッドから抜け出してはひざまずき、今読んでいる事柄が確かに真実かどうか示して下さるよう天父にお願いしました。こうして、四福音書を読みながら一日中祈ったことで、みじんの疑いもなく、イエスがキリストであることがわかりました。それ以来、疑いの心を起こしたことは一度もありません。そして、イエスが私の救い主であるという岩のような土台の上に、他のすべてのことは築かれてきました。

この3月、デリック・A・カスバート伝道部長と夫人のミュリエル姉妹は、スコットランド・エジンバラ伝道部での責任もあとわずかであることを感じていた。7月に、3年間にわたる伝道部長としての責任を解任されることになっていた。

ふたりは、解任されても伝道中に学んだことを生かして、英国の聖徒たちの役に立てるようにと祈っていた。

そしてその祈りは思いがけない方法で答えられた。英国ノッティンガム出身のカスバート長老は、年次総大会で七十人第一定員会会員として支持されたのである。英国諸島から初めて教会幹部に召されたカスバート長老は、生涯伝道の業に携わるようになったのである。

カスバート長老は、バプテスマを受けて以来27年間、いろいろな召しを果たしてきた。しかし、カスバート夫妻にとり、全時間を主のみ業に捧げるのはこれが初めてではない。

教会員になって2年ほどしてから、自動車による訪問が始まった。車を持っていなかったからである。土曜日の朝の出勤には、教会の視覚教材や資料を携えて汽車に乗ったものである。そして仕事を終えてからまた汽車に乗り、伝道部管理会員の責任を果たすため、英国の各所を訪れたのだった。副伝道部長に召されてからは、帰宅するのがいつも日曜日の夜だった。

カスバート姉妹と子供たちはバスに乗って教会に行く。教会堂と言っても、古い家を礼拝堂として改装したにすぎない。バスを乗り換えるために400メートルほど走らなければならない。そのため、時にはバスに乗り遅れ

ることもあったと言う。

カスバート長老は宣教師や教師として働いただけでなく、副地方部長や副伝道部長の責任も務めた。また改宗して10年後にレスターステーキ部の部長に召された。後に、英国ミッチャムのデゼレト・エンタープライズ社販売店のマネージャーとなった。これはヨーロッパにおける最初の教会企業である。カスバート長老夫妻はその間2年間、ロンドンに住んだ。販売店の経営が軌道に乗ると、長老はまた以前の化学会社に戻った。その後、昇進して、家族は再びサットン・コールドフィールドに移った。

スペンサー・W・キンボール大管長からバーミンガムステーキ部の部長に任命され、1970年に地区代表の召しの手紙を受けるまで、この地で働いた。

カスバート長老が英国セラニーズ社の宣伝部長となった時、家族はノッチンガムに戻り、1975年に伝道部長に召されるまでそこに住んだ。

3月の中頃、キンボール大管長がスコットランドのカスバート家に電話をし、七十人部一定員会の召しのことを話すと、カスバート家では家族会議が開かれたという。

カスバート家では、教会のあらゆる責任を果たす際に、家族を第一にしていた。彼らは教会に入る時、子供たちを教会の中で育て、ひとりも離れる者がないようにしようと決心したのだった。親のどちらかが集会に出かける時は、他のひとりが家に残って子供の面倒を見る。子供が小さい頃、カスバート長老は姉妹が扶助協会に出かけている間、子供たちを風呂に入れ、寝かせつけたという。

今では、夫妻が教会の責任で外出する時には、年上の子供たちが小さい子供の面倒を見ることができるようになった。カスバート夫妻の孫は9人である。

カスバート夫妻は幼なじみで、1945年に結婚した。しかし結婚後間もなく、カスバート長老は極東の英国空軍に所属し、2年間家を



カスバート長老ご夫妻

留守にした。この間、カスバート姉妹は毎日少なくとも1通手紙を書いたそうである。彼がラングーンから香港に転任になった時など、姉妹からの手紙が63通も届いたという。

英国国教会の活発な会員であったふたりのもとを宣教師が訪れたのが、1950年のことである。

当時、3人の長老——ひとりはその日たまたま一緒に伝道していた地方部の指導者——は、その地域で求道者を見つけることができなかった。肩をがっくり落としてひとりが言った。「では、これで引きあげましょう。」するともうひとりが答えた。「いや、あと一軒だけ訪問してこの地域での伝道をやめることにしましょう。」

この「あと一軒」の家が、言うまでもなくカスバート家だったのである。

☆

☆

七十人第一定会員

ロバート・リグランド・ バックマン

バックマン長老の全身から温かさが発散されている。バックマン長老は人の話にいんぎんに耳を傾け、誠実な話し方をする人である。ロバート・L・バックマン長老の証や家族についての話を聞く人は、彼の育った環境が恵まれないものであったことなど決して想像がつかないであろう。

彼は、父親のリグランド・P・バックマン兄弟が伝道部長であったため、10代のほとんどを南アフリカで過ごし、ソルトレークに戻ってきたのは、高等学校の時であった。彼はそれまで通っていたのが男子校だったことで、女学生の前ではいつも赤面したという。「ダンスもできなければ、アメリカのスポーツもできませんでした。車の運転もだめです。人生で最もみじめな時代でした。」

北部諸州伝道部に召されたことによって、「私の人生は変わりました。その地での伝道を通して、私は自分が神の子であり、素晴らしい潜在力があるということを確認しました。」

もうひとつの大切な経験は、第二次世界大戦の時に陸軍に籍を置いたことである。基礎訓練を受けるために入隊すると、同じ隊に5人の帰還宣教師がおり、そのうちのひとりとは1年半の間一緒に働いた愛する同僚であった。

軍隊時代のハイライトは、マニラ東部の戦闘地区において、「グループのないグループリーダー」として復活祭の行事を計画準備したことである。「私たちはだれが来てくれるかわかりませんでした。しかし、トラックが到着すると、50人程の人が集まりました。彼らは戦闘服姿でしたが、ライフル銃を組んで立てると、建物の中に入りました。その建物は前

に爆撃を受けていました。また私たちがそこにいる間に戦闘司令所も攻撃されましたが、私たちは少しも心配しませんでした。私たちはヘルメットを腰掛け代わりにして腰をおろし、弾薬箱を聖餐台とし、食器を使って聖餐を執行しました。そこにはみたまがとどまっていた。」

戦争後、ふたりの子供をかかえたバックマン長老は、法学部の学生として、まず学業に専念することにした。しかし、授業を受ける最初の日、学校に向かうバスの中で監督と出会い、バスを下りる時には新たに執事定員会アドバイザーの責任に召されていたという。そのほかに、バックマン長老は、北西諸州伝道部部长、中央アロン神権MIA会長をも務めた。また、神殿での結び固めを行なう権能も与えられている。「私は、私の下で働いてくれた大勢の宣教師や3人の娘の結び固めを行ないました。永遠に結び固められることは、人がこの世で得ることのできる最も栄えある体験であると思います。」

最近の責任としては、サクラメントおよびサクラメントノース地区の地区代表、次いでコットンウッドおよびマレー地区、また大会



バックマン長老ご夫妻

の前日に新設されたホラデー地区の地区代表がある。ホラデー地区の地区代表としての責任は、24時間とたたないうちに解任された。これは記録上最も短期の召しであろう。

キンボール大管長の事務所から電話があった時、バックマン長老は夫人に「大変な電話をまた受けたよ」と語り、3週間、眠られない毎日を過ごしたという。そして約束の日、ふたりは、伝道部長の時の楽しい思い出を胸に、また伝道の召しが与えられるのではないかという「希望」を抱いて大管長の事務所を訪れた。

「とても素晴らしい経験でした。キンボール大管長の面接の後、私はどこへでも行く覚悟ができました」と、バックマン長老は語る。長老と夫人のバージニア姉妹は、これと同じように心温まる経験を、7人の娘たちとその夫にこの召しについて知らせた時にも味わった。「みんな涙を浮かべて喜んでくれました」と長老は穏やかに述べ、てれくさそうに笑った。「こうなると思っていたと言う子供もいました。本当にいい子たちです。」家族間のつながりが強いのは、バックマン家の伝統である。バックマン長老は父親と一緒に法律事務所働いている。「毎朝事務所に出勤してくる父の姿を見ることは、私にとって楽しみです。父と一緒にいられることがうれしいのです。」

4人の娘さん、ジュディス・マーシュ、ボニー・プライス、パトリシア・コックス、それにまだ親元にいるバーバラはソルトレークに住んでいる。ほかにルイズ・チェケッツはベアリバー・シティー、レベッカ・チャンプニズはサンディー、バージニア・バックマンはメリーランド州ベセスダに住んでいる。

1922年3月22日にソルトレーク・シティーに生まれたバックマン長老は、かつて2期にわたってユタ州下院議員を務めた経験を持つ。

七十人第一定員会会員

レックス・C・リーブ

数年前、ジェシー・エバンズ・スミス姉妹はアイスクリームが切れたので、乳製品会社の役員であるレックス・リーブ兄弟に電話をかけた。すると彼は、スミス姉妹と夫のジョセフ・フィールディング・スミス大管長のところに半ガロン入りのアイスクリームを2箱持って来て、しばらく話をして帰った。彼はこの恵まれた機会に感謝した。「聖地にいるような気持ちでした。」

その彼が今教会幹部となり、教会の指導者たちと席を同じくすることになったのである。4月の年次総大会の土曜日の午前の集会で、リーブ長老は七十人第一定員会会員として支持された。

リーブ長老は、総大会の数日前、スペンサー・W・キンボール大管長から電話を受けた



リーブ長老ご夫妻

時、カリフォルニア州アナハイム伝道部の部長であった。キンボール大管長はリーブ長老とフィリス・メイ・ニールセン・リーブ夫人に会い、召しのことを話した。

「キンボール大管長が私たちの生活に恵みをもたらして下さったのは、これが初めてではありません。30年前にステーク部の副ステーク部長に任命していただきました」とリーブ長老は言う。その後リーブ長老は、ステーク部長、ステーク部祝福師、地区代表、伝道部長を歴任した。教会での責任を通じて、長老は6人の大管長を知っている。この6人の大管長の影響を大きく受けたと言っても言い過ぎではないと思いますと、リーブ長老は語る。

リーブ夫妻は、デビッド・O・マッケイ大管長の「コートシップと結婚」に関する夕方のクラスをとったことで、結婚前から、マッケイ大管長と親しかった。そのため、大管長はふたりの結婚式の司式を引き受けてくれたという。

「大管長から幸福を得る方法、幸福な生活を送る秘訣を教えてくださいました」とリーブ長老は語る。

「マッケイ大管長から教えていただいたことのひとつに、誤解したままで一日を終えないようにということです。私たちはそのことを実行してきました。また、毎朝毎晩一緒に祈りました。」

リーブ夫妻が初めて出会ったのは、ソルトレーク・シティーで催されたミューチャルダンスパーティーであった。「私は彼女に初めて会った時に、彼女こそ自分の伴侶になる人だとわかりました」と長老は言う。こうしてふたりは、1年間デートをした後に結婚した。「私たちは有意義なコートシップをしました。一緒にモルモン経を学び、散歩し、マッケイ大管長のクラスに出席しました。」

ふたりは結婚前から、できるだけ多くの子供をもうけ、主と主のみ業を第一に置くことを決心していた。

この決意は、何度か苦難に見舞われた時にも彼らの支えとなった。彼らは危く長男のレックス・C・リーブ・ジュニアを失うところだった。しかし彼は現在、オーレム工科大学の理事を務めている。

長女のレベッカ・アンは16年前、ニューメキシコ州で伝道中、交通事故に遭い、体が麻痺してしまった。「彼女は靈感を与えてくれます」とリーブ長老は言う。「辛くあたるということはまったくありません。彼女は電動式の車椅子に乗って、人々を激励する数多くの話をしています。」

「私たちは祝福されてきました」とリーブ長老は言い、子供たち全員功績をうれしそうに数え上げる。アリゾナ州フェニックスにいるロジャー・ウォーン・リーブ、ブリガム・ヤング大学の法学部に在学中のデビッド・A・リーブ、リックスカレッジで教鞭をとっている娘のジョアン・リーブ、ほかにふたりの娘がいる。ひとりユタ州オーク・シティーのガーヌ(ベニス)・フィンリンソン夫人、もうひとは、ミズーリ州モネットのレイン(バーバラ)・ニールソン夫人である。そして孫は現在23人を数える。

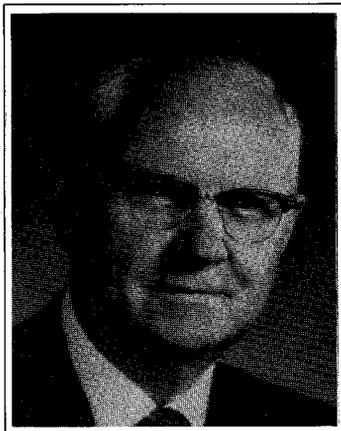
またリーブ長老は、先祖が開拓者であることを誇らしく語る。その中には西部に向かう途中で葬られた者もある。

「長いこと私は人が買ってくれた切符で旅をしていたような気がします」と先祖に対する賛辞をこめて語る。「これから先の業は大変なものでしょうが、働かせていただけることを感謝しています。主の助けがあれば何でもできますが、そうでなければ何もすることができません。」

☆

☆

デルバート・L・ステイプラー長老 逝去される



去る8月19日、十二使徒評議員会会員のデルバート・L・ステイプラー長老は、自宅付近を散策中に体の不調を訴え、直ちにユタ大学医療センターに担ぎ込まれた。しかし、午後0時10分、心臓の機能が停止し、この世を去った。享年81歳で、長老はこの日まで、28年間、十二使徒評議員会会員として務めたことになる。

葬儀は8月22日の正午からソルトレーク・シティのタバナクルで催され、大管長会による追悼の辞と、エズラ・タフト・ベンソン会長とマーク・E・ピーターセン長老による祈りが捧げられた。また、タバナクル合唱団が、ステイプラー長老作詞の感動深い讃美歌「神は愛なり」をはじめ、数曲を歌った。葬儀には、大管長会のほかに、故人の妻エセル姉妹と家族、ならびに教会の責任を受けて不在の人を除くすべての教会幹部が列席した。

席上、大管長会は、次のような言葉をもってステイプラー長老の遺徳をしのんだ。

「ステイプラー長老は、神と人ともに誠実に仕えることを目指し、豊かな人生を送られました。故人が家族や教会にとどまらず、全世界に残されたものは、全人類の真の羊飼い、贖い主は私たちの主なるイエス・キリスト唯お一人であるという厳かな証であります。デルバート・L・ステイプラー長老の生涯は、永遠の真理に対する誓約そのものでした。…故人は、その言葉と行ないによって、この世に住むすべての人々に、自由と公正、尊敬と美徳、誠実と愛を与え、人生を実りあるものへと導く永遠の原則を教えられました。」

棺の付添人は十二使徒評議員会が務め、葬儀の模様は、ステイプラー長老の出身地、アリゾナ州に中継放送された。

ステイプラー長老は、1896年12月11日、ア

リゾナ州メサで生まれた。そして、幼少の頃から父の農場の仕事を手伝い、労働の価値を学んだ。

長老は、1915年にメサ高等学校を卒業すると間もなく、チャールズ・A・カリス部長(後に十二使徒評議員会会員に召された)の管理する南部諸州伝道部で宣教師として働く召しを受けた。

この2年間の召しを終えて戻った後、ステイプラー長老は幼な友達のエセル・バーデット・デービスと、1918年1月14日に、ソルトレーク神殿で結婚した。その後、長老は合衆国海兵隊に入隊し、第一次世界大戦終決時まで、8ヵ月間愛する妻と別れてカリフォルニア州メア島で補充兵として過ごした。

除隊後、長老は教会でステーク部MIAの役員に召され、ステーク部YMMIAのスカウト隊長と管理会長を兼務した。こうして、ステイプラー長老とスカウティングの付き合いが何年も続くことになった。そして、1957年に地区のスカウトでは最も名誉あるシルバー・アンテロープ賞を授与され、1961年には全米スカウト会議の最高賞であるシルバー・バッファロー賞、さらに1971年には50年功労賞を授与された。

また、公民としても積極的に働いた長老は、1921年から1924年まで、2期にわたってメサ市議会議員を務めた。そのほか、コロラド川からアリゾナ州に取水する事業に携わった中央アリゾナ事業推進委員会の一員でもあった。

教会では、1926年にマリコパステーク部の高等評議員に召された。

その後、メサからフェニックスに引っ越してからステーク部の責任を受け、1938年にフェニックスステーク部が設立された時に、第一副ステーク部長に召された。長老はこの職にあつて10年間奉仕し、その間、副ステーク部長としてアリゾナ地区福祉プログラムの責任者を務めた。その後1947年12月5日に、フェニックスステーク部の部長に召された。

さらに3年後、教会の総大会に出席するためにソルトレーク・シティーを訪れた折、ステイプラー長老は十二使徒評議員会会員に召されたのであった。

1974年、記者のインタビューを受けたステイプラー長老は、当時を回想し、次のように述べた。「私は自分が使徒に召されて十二使徒会の空席を埋めることになるだろうという気持ちを非常に強く感じました。……そのような思いが心に湧かんできたことで、とても戸惑いました。そこで、教会幹部に召されないようにしようということで、無意識のうちに、そこを立ち去ろうとしたのです。

ところが、(ユタホテルの)エレベーターを降りた所で、ジョージ・アルバート・スミス大管長にお会いしてしまいました。」

こうして、スミス大管長から、ユタホテルのロビーでその召しを受けることになったのである。

その後28年間、ステイプラー長老はこの世における責任を数々果たしてこられた。そして、その務めを終えて、去る8月24日、大勢の人々の見守る中でメサ墓地に静かに埋葬されたのであった。

地区代表セミナーの ハイライト

副主幹

マービン・K・ガードナー

「私たちの成功は、個人的にも教会全体としても、家庭で福音を実践することにどの程度忠実に取り組んでいるかによって決まる。」
スペンサー・W・キンボール大管長は、3月31日金曜日の地区代表セミナーの冒頭でこう語った。

「神権プログラムも補助組織のプログラムもすべて、家庭で福音を実践することをはっきりと打ち出し、家族と家庭に焦点を当てないような活動は控えていただきたい。」

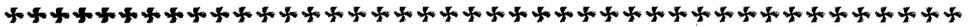
34名の新たに召された兄弟たちを含めて、183名の地区代表は「教会員のためのプログラムであって、プログラムに教会員が振り回されることではない」というキンボール大管長の言葉に聞き入っていた。過去11年間、大会に先立って地区代表セミナーが催されてきたが、今回のセミナーでも予言者の言葉はひとときわ脚光を浴びるものである。

キンボール大管長から「人名抄出」プログ

ラムを実施するとの発表があった。このプログラムによって、教会員は「2マイル行く精神で系図に取り組み……神殿の業……また死者のための儀式を早める」ことができることだろう。さらに、合衆国内における地域大会が計画されていること、ステーキ部大会が年4回から2回に減ることについても発表があった。そのほか、一市民として地域社会の行事にも参加するよう、また伝道の業が全世界に広がるように絶えず祈るよう勧告が与えられた。

キンボール大管長のほかに数人の教会幹部が、「メルケゼデク神権定員会を通して、個人と家族を強める」というテーマに添って、活発化に対する定員会の役割について話をした。

「最近出席した土曜日の夜のステーキ部大会で、ひとりの青年の話を聞いた」と、ゴードン・B・ヒンクレー長老は話した。その青



年はつい最近再び活発になった会員で、彼は次のように語った。「教会を離れる人は、最初教会を捨てるつもりはありません。ただ出席するのをやめるだけです。ところがいったんそうすると、自分の力で教会に戻ることが難しくなってしまいます。」

ヒンクレー長老は「自分の力で戻る」ことの難しさを強調した。

「定員会は、教会の兄弟たちが互いに強め合うことのできる交わりの場と雰囲気を見いだせるよう、適切な兄弟愛を与える主の組織である。定員会は、現在活発な人々をさらに活発にして信仰を強めると同時に、私たちと共にいない大勢の会員を再び活発にするためにも、最も効果的な働きかけのできる機関である。」

年齢が近く、同じことに興味を抱いている人以上に、フェローシップするのに適した人がいるだろうか。長い間不活発であった多くの人が、教会に戻りたいと思いつつも、どうすればよいかをすすべを知らずにいる。」

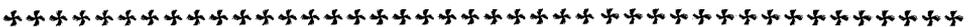
これについて七十人第一定員会のロバート・D・ヘイルズ長老は、定員会は会員が家庭で福音を実践できるよう助けるためにある、と述べている。ホームティーチングは、父親が福音の原則を家族に教えるのを助け、また福音に添った生活をするよう促すひとつの手段である。

しかし、家族全員が末日聖徒という家庭の会員は50パーセントにすぎない。4人に1人は家族でひとり教会員という状態であり、一部教会員という家庭の会員も4人に1人いる。

したがって、「定員会は家族だけでなく、個人の再活発化、教育、霊的成長に対しても責任を負う。」

また、十二使徒評議員会のマーク・E・ピーターセン長老も、個人に関心を向けることの大切さを強調した。「私たちの行なうこと、教えること、プログラムはすべて、教会員個人を益するものでなければならない。私たちが救おうとしているのは個人である。したがって、彼らの胸を打ち、立ち直らせなければならない。……各個人を未発達ながら神となる素質を具えた者として見なければならない。そして、そのような個人に対する私たちの責任、個人を救うこと、完全になれるよう助けること、神のようになれるよう助けること、これらのことについて考えてみる必要がある。」

さらに地区代表は、スカウティングプログラムの各地域における実施状況を知るようにという指示を受けた。エズラ・タフト・ベンソン長老は次のように述べている。「これはしてもよければしなくてもよいという任意のプログラムではない。……スカウティングの試行期間はもはや過ぎた。これは経済的にも、社会的にも、霊的にも健全なプログラムである。人格と霊性を養い、公民とし、指導者としてよく責任を果たせるよう訓練するものである。スカウティングは少年に自立を教える。これは危急な時代に備える靈感されたプログラムである。そして今がその時代である。スカウティングに参加しているすべての少年は、この素晴らしいプログラムから恵みと祝福を得ることだろう。」



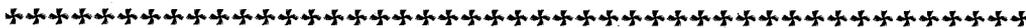


セミナーを閉じるに当たって、ベンソン会長はこう結んでいる。「すべての人が得ることのできる最高の誉れは、キリストの真の教会の会員になり、神が生きてましますという証とこの偉大なみ業に対する証を持ち、神の聖なる神権を授かり、永遠の家族としての祝福を受けることである。」

セミナーの中で、ベンソン会長は以下の通り34名の新しい地区代表を発表した。ワシントン州オリンピアのハーバート・スプリングー・アンダーソン、ハワイ州ホノルルのジョン・ネルソン・ベアード、ワシントン州モーゼズレイクのサーン・ジェームズ・ベイカー、テキサス州ラマークのマーテル・A・ベルナップ、サウスカロライナ州コロンビアのウィリアム・セオドア・ブラネン、ユタ州プロボのリチャード・アンブローズ・コール、オレゴン州ジョーゼフのロバート・フォーブズ・クライド、ワシントン州シアトルのデビッド・オリン・ダンス、アイダホ州ブラックフットのケイス・M・エリソン、カリフォルニア州サンホセのケネス・デビッド・フォルジャー、オクラホマ州ノーマンのハイマン・アルドリッジ・ギレスピ、ケンタッキー州ルイスビルのヘンリー・ハーベイ・グリフィス、アイダホ州ポカテロのボイド・フランク・ヘンダーソン、テキサス州ダラスのアイバン・レズリー・ホブソン・ジュニア、ユタ州ローガンのルイス・ブレント・ホガン、ユタ州ソルトレーク・シティーのリチャード・C・ハウ、ユタ州ソルトレーク・シティーのマルカム・セス・ジェプセン、イリノイ州エバンス

トンのジョン・ダロルド・ジョンソン、アイダホ州ブラックフットのアラン・フランクリン・ラーセン、ユタ州ハイラムのガース・ロレイン・リー、コロラド州クレードのルイス・レイ・リビングストン、モンタナ州ミズーラのマーリン・ウェイン・ビンセント・ロフグレン、合衆国領サモアのファエシー・P・マイロ、ユタ州ソルトレーク・シティーのウィリアム・ジェームズ・モーティマー、ニューメキシコ州アルバカーキのライル・ケイ・ポーター、カリフォルニア州ベーカーズフィールドのメルビン・ブレント・リチャーズ、スイス、バースフェルデンのハンス・リンガー、カリフォルニア州サンタアナのアレン・クレアー・ロウザ、ニュージャージー州チャタムのJ・ロレンゾ・スミス、ユタ州バーナルのグレイド・ミルトン・ソワーズ、メキシコ、コアウィラのトマス・パールデイス、フロリダ州ジャクソンビルのルイス・ブレイン・ボーウォーラー、フロリダ州ライトハウスポイントのロバート・ミッチェル・ウインストン、コロラド州フォートコリンズのタイラー・アンダーソン・ウーリー。

また、以下の10名の地区代表が解任された。アントニオ・C・カマーゴ、マービン・R・カーティス、クラーク・M・ウッド、ラルフ・B・レイク、ジョーゼフ・A・クジャー、アントン・K・ロムニー、マーク・B・ウィード、リグランド・R・カーティス、ジョージ・R・ヒル、ジョージ・I・キャノン。



日本札幌ステークス部 組織される

8月13日(日)午後6時30分より、十二使徒評議員会会員ブルース・R・マッコンキー長老の管理の下で地方部特別大会が開かれ、北の地、北海道に日本で7番目のステークスが組織されました。

マッコンキー長老は、この大会で、日本人の教会を確立するよう会員を励ますと共に、力強く、「この地に多くのステークスが組織され、神殿が建つであろう」と予言されました。

また次の兄弟たちがそれぞれの尊い職に召されました。

新しいステークス部長会



第一副ステークス部長
本村宏文



ステークス部長
渡沼誠二



第二副ステークス部長
当真健二

高等評議員
安田琢三
大田原雅稔
北山明
藤田烈
佐藤良三
横山正
菊地敏
倉見光男
横井秀二
渡辺恒孝
高杉保夫
近藤巨

ステークス部幹部書記 原田盛行
ステークス部書記 西島吉春

管轄ユニット：

札幌第1ワード部 (高丸孝一監督)
第2ワード部 (山田靖彦監督)
第3ワード部 (佐藤義紀監督)
第4ワード部 (河田勝夫監督)
第5ワード部 (児玉資雄監督)
旭川ワード部 (平岩範夫監督)

敬称略

新しく召された ステーキ部役員

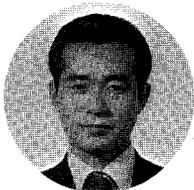
前列左より西島(書記), 泉谷(書記補助), 本村, 湯沼, 当真, 北山, 渡辺, 近藤, 後列左より倉見, 原田, 横山, 横井, 安田, 藤田, 佐藤, 大田原, 菊地兄弟



日本大阪北ステーキ部, ステーキ部長会替わる

去る8月6日(日)十二使徒評議員会会員ブルース・R・マッコンキー長老の管理の下に催された大阪北ステーキ部大会で、ステーキ部の神尾昇兄弟が解任され、新たに中村晴兆兄弟がステーキ部長に召されました。

他に新しく召されたステーキ部の役員は以下の通りです。



ステーキ部長
中村晴兆



第一副ステーキ部長
長浜修



第二副ステーキ部長
川口高司

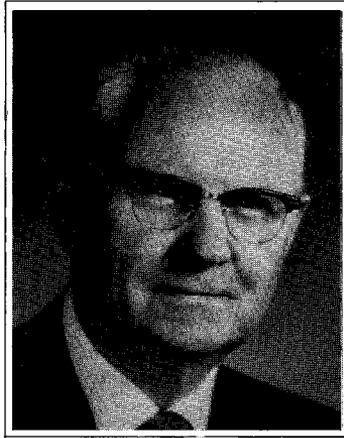
高等評議員

山内	威彦
山川	悦申
中川	一茂
守谷	歓二
講崎	元清
原田	明
山縣	正史
岩間	邦美
戸田	喜代志
半田	泰章
的場	茂
坂本	泰造
宮川	靖弘

高等評議員代理

(敬称略)

デルバート・L・ステイプラー長老 逝去される



去る8月19日、十二使徒評議員会会員のデルバート・L・ステイプラー長老は、自宅付近を散策中に体の不調を訴え、直ちにユタ大学医療センターに担ぎ込まれた。しかし、午後0時10分、心臓の機能が停止し、この世を去った。享年81歳で、長老はこの日まで、28年間、十二使徒評議員会会員として務めたことになる。

葬儀は8月22日の正午からソルトレーク・シティーのタバナクルで催され、大管長会による追悼の辞と、エズラ・タフト・ベンソン会長とマーク・E・ピーターセン長老による祈りが捧げられた。また、タバナクル合唱団が、ステイプラー長老作詞の感動深い讃美歌「神は愛なり」をはじめ、数曲を歌った。葬儀には、大管長会のほかに、故人の妻エセル姉妹と家族、ならびに教会の責任を受けて不在の人を除くすべての教会幹部が列席した。

席上、大管長会は、次のような言葉をもってステイプラー長老の遺徳をしのんだ。

「ステイプラー長老は、神と人との誠実に仕えることを目指し、豊かな人生を送られました。故人が家族や教会にとどまらず、全世界に残されたものは、全人類の真の羊飼い、贖い主は私たちの主なるイエス・キリスト唯お一人であるという厳かな証であります。デルバート・L・ステイプラー長老の生涯は、永遠の真理に対する誓約そのものでした。…故人は、その言葉と行ないによって、この世に住むすべての人々に、自由と公正、尊敬と美德、誠実と愛を与え、人生を実りあるものへと導く永遠の原則を教えられました。」

棺の付添人は十二使徒評議員会が務め、葬儀の模様は、ステイプラー長老の出身地、アリゾナ州に中継放送された。

ステイプラー長老は、1896年12月11日、ア

リゾナ州メサで生まれた。そして、幼少の頃から父の農場の仕事を手伝い、労働の価値を学んだ。

長老は、1915年にメサ高等学校を卒業すると間もなく、チャールズ・A・カリス部長(後に十二使徒評議員会会員に召された)の管理する南部諸州伝道部で宣教師として働く召しを受けた。

この2年間の召しを終えて戻った後、ステイプラー長老は幼な友達のエセル・バーデット・デービスと、1918年1月14日に、ソルトレーク神殿で結婚した。その後、長老は合衆国海兵隊に入隊し、第一次世界大戦終決時まで、8ヵ月間愛する妻と別れてカリフォルニア州メア島で補充兵として過ごした。

除隊後、長老は教会でステーク部MIAの役員に召され、ステーク部YMMIAのスカウト隊長と管理会長を兼務した。こうして、ステイプラー長老とスカウティングの付き合いが何年も続くことになった。そして、1957年に地区のスカウトでは最も名誉あるシルバー・アンテロープ賞を授与され、1961年には全米スカウト会議の最高賞であるシルバー・バッファロー賞、さらに1971年には50年功労賞を授与された。

また、公民としても積極的に働いた長老は、1921年から1924年まで、2期にわたってメサ市議会議員を務めた。そのほか、コロラド川からアリゾナ州に取水する事業に携わった中央アリゾナ事業推進委員会の一員でもあった。

教会では、1926年にマリコパステーク部の高等評議員に召された。

その後、メサからフェニックスに引っ越してからステーク部の責任を受け、1938年にフェニックスステーク部が設立された時に、第一副ステーク部長に召された。長老はこの職にあって10年間奉仕し、その間、副ステーク部長としてアリゾナ地区福祉プログラムの責任者を務めた。その後1947年12月5日に、フェニックスステーク部の部長に召された。

さらに3年後、教会の総大会に出席するためにソルトレーク・シティを訪れた折、ステイプラー長老は十二使徒評議員会会員に召されたのであった。

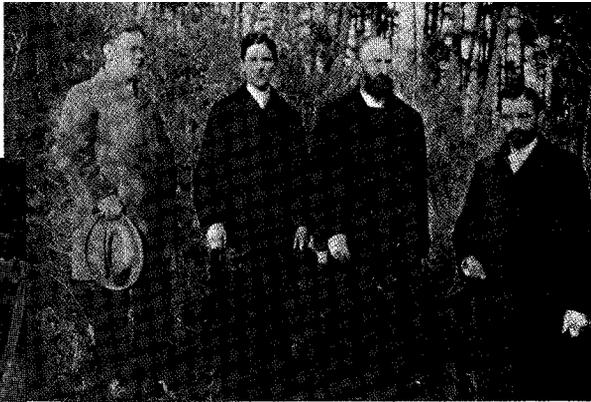
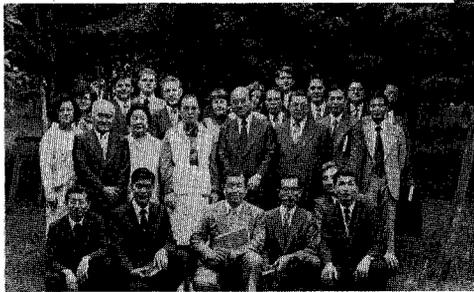
1974年、記者のインタビューを受けたステイプラー長老は、当時を回想し、次のように述べた。「私は自分が使徒に召されて十二使徒会の空席を埋めることになるだろうという気持ちを非常に強く感じました。……そのような思いが心に湧かんできたことで、とても戸惑いました。そこで、教会幹部に召されないようにしようということで、無意識のうちに、そこを立ち去ろうとしたのです。

ところが、(ユタホテルの)エレベーターを降りた所で、ジョージ・アルバート・スミス大管長にお会いしてしまいました。」

こうして、スミス大管長から、ユタホテルのロビーでその召しを受けることになったのである。

その後28年間、ステイプラー長老はこの世における責任を数々果たしてこられた。そして、その務めを終えて、去る8月24日、大勢の人々の見守る中でメサ墓地に静かに埋葬されたのであった。

日本の地、再奉献される



▲左よりエンサイン、テイラー、グラント、ケルチ長老
▲再び日本の地を奉献するために集まった兄弟姉妹

1901年9月1日の断食日曜日、日本を訪れた最初の宣教師ヒーバー・J・グラント長老（当時十二使徒定員会会長）と3人の同僚は、横浜の森に入った。そして、讃美歌「感謝を神に捧げん」を歌った後、彼らは順番に祈った。その後、讃美歌「恐れず来たれ聖徒」を歌った。そして、「……すべては善し」の歌声が止むと、ヒーバー・J・グラント長老は祈りを捧げ、日本の地を福音を宣べ伝える地として奉献した。一行のひとり、アルマ・O・テイラー長老はこの時の様子を次のように記している。

「彼の舌はゆるまり、みたまが力強く彼の上にとどまった。私たちは神の天使が近くにおられることをひしひしと感じた。私たちの心は、彼の唇からもれる言葉に、熱く燃えていたからである。私はかつてこのような平安に満ちた力を経験したことはなかったし、これ程力強い祈りを聞いたこともなかった。祈りの一言一句が骨の髄までしみわり、私は喜びの余り感涙にむせんだ。」

奉献の祈りが終わると、もう一度讃美歌を歌った。次いで、グラント長老は、使徒オルソン・ハイドがパレスチナの地を奉献した時の祈禱文を読んだ。

この歴史の出来事から77年経過した去る9月1日、七十人第一定員会会員菊地良彦長老を中心に、日本を担当する地区代表、ステーキ部長、伝道部長が、再び日本の地を奉献するため、横浜の森に集まった。水不足の大地に恵みをもたらす雨に洗われた森の中から、

「時過ぎて、福音広める時は残り少し。されば急ぎ宣べ伝えよ……」と讃美歌が流れ始めたのは、77年前と同じ11時を少しまわった頃であった。福岡伝道部の山田五郎伝道部長が祈った後、数人が証を述べた。その後、神権者一同輪になってひざまずき、菊地良彦長老が再奉献の祈りを捧げた。

菊地長老は、天父に呼び掛けた後、み恵みを数え上げ、感謝を捧げた。1820年早春、天父と御子がジョセフ・スミスに福音の回復を告げられたこと、神権の回復、生ける予言者スペンサー・W・キンボール大管長のこと、主のみ業が全世界に確立されようとしていることなど、豊かな祝福に感謝した。続いて、77年前に最初の宣教師たちが嘆願したように、この日本の地における福音の伝道が早まり、やがて完成される主の宮居で多くの人々が永遠の喜びを享受できるように、また日本の国民が神の息子、娘であることに目覚め、イスラエルの枝となるために働くことができるよう、みたまの導きを祈り求めた。北の端から南の端までこの地が祝福されるよう、また各地で献身する主の僕らに力を与えたもうて、主の再臨への備えが進むよう請い求めた。真理に目覚めた若者が、神の使いとして自らを捧げるように、また彼らの宣べるメッセージから、多くの人々が群れをなして主のみもとに帰ってくるように、主の奇跡を切に祈り求めた。

再奉献の祈りの後、「主のみたまは火のごと燃え」を歌い、仙台伝道部のクワック伝道部長の祈りで再奉献の集いを終えた。

聖徒の道

1978年10月20日（毎月1回20日発行）第22巻第10号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可

新編聖徒の道

第10号

付録 聖徒の道

